

# 徳島の剣道

特報

1. とちぎ国体ベスト4
2. 《ふるさとトーク》辰巳晃子
3. 《特別寄稿》高校選抜大会優勝 岩原千佳 松山若樹  
居合道範士 原田 勝 杖道範士 黒郷源慈

第39号



徳島新聞社提供（令和4年10月6日朝刊）

## 徳島県剣道連盟



快挙!! 国体成年男子 ベスト4!!



## 令和4年(2022)はこんな年でした

徳島新聞 12/27・28より

### 2022年 十大ニュース

国内

- ① 安倍元首相が撃たれ死亡、国葬実施に反対も
- ② 歴史的な円安、物価高が暮らし直撃
- ③ 東京五輪汚職で元理事ら逮捕
- ④ 旧統一教会に初の質問権行使、被害者救済法が成立
- ⑤ 知床観光船事故、乗客乗員26人が死亡・行方不明
- ⑥ コロナ第7波で過去最多感染者、緩和も進む
- ⑦ 岸田内閣の閣僚辞任相次ぐ、支持率低迷
- ⑧ ヤクルト村上、ロッテ佐々木朗が最年少で大記録
- ⑨ 改正民法を施行、18歳から成人に
- ⑩ 安全保障関連3文書を改定、防衛費を増額

次点 沖縄復帰50年、辺野古移設反対の現職知事再選

番外 サッカーW杯、日本がドイツ、スペイン破りベスト16

### 2022年 十大ニュース

国際

- ① ロシアがウクライナ侵攻、核威嚇で緊張
- ② ウクライナ侵攻で燃料価格高騰、食料危機も
- ③ 中国共産党の習近平総書記が異例の3期目に
- ④ 北朝鮮ミサイル発射相次ぐ、核実験準備も
- ⑤ 英国のエリザベス女王死去
- ⑥ ソウル・梨泰院雑踏事故で158人死亡
- ⑦ FRBが大幅利上げ
- ⑧ 大谷翔平がルール以来の2桁勝利2桁本塁打
- ⑨ コロナ感染累計6億人超、各国緩和傾向
- ⑩ 米中間選挙で民主党善戦

次点 世界人口80億人到達





# コロナ禍において思うこと

徳島県剣道連盟 会長 藤川 和 秋



令和五年一月七日の新聞記事に「コロナ感染累計三千万人」との見出しで、二〇二〇年一月に日本国内で感染者が初めて確認され、約三年で人口の四分の一近くが感染した計算になるとの記事が掲載されました。背景にあるのは、感染力の強いオミクロン株の登場です。まさに新型コロナウイルスの脅威です。徳島県内も全国に比較して感染数は低いものの、同様の傾向を示しています。感染当初、鹿児島国体、三重国体と二年続けて開催が中止となりました。また全日本剣道連盟主催の全日本剣道選手権大会など全国レベルの大会が中止になるなど剣道界にも大きな影響が出ました。しかし、人間社会の対応能力は素晴らしいものがあります。剣道界は医学的見地に立ちコロナに毅然と立ち向かい、今では面マスク、シールドを着用し、コロナ対策を実践しながら剣道の審査そして各種大会等を開催しています。

徳島県剣道連盟も当初、コロナの脅威に怯え審査会、各種大会も開催できませんでしたが、現在は、全日本剣道連盟や徳島県そ

して徳島県スポーツ協会などのご指導を受け、感染対策を徹底しながら審査会、各種大会等が開催できるまでの状態となっています。ここまで来るには、運営する剣道連盟の役員、スタッフが開催に熱い思いを持ち努力してきたほか、各大会の選手、学校関係者そして選手の保護者の皆さまのご理解があってこそ結果であり、あらためて関係者の皆さまには深く感謝を申し上げます。

剣道からはなれた私生活においても数々の試練があったと思います。コロナ感染により大切な人、最愛の人を失った人もいます。逆にコロナの脅威に対し、仲間が支え合って絆が深まった人達もいます。今後、新型コロナウイルス感染が終息する見込みもありません。

コロナ禍での様々な出来事や経験から、人が生きて行くには、お互いが理解し支え合って生きて行くのが最も大切であると痛感させられました。

連盟の皆さま、今後もコロナ感染の厳しい状況が続くと思いますが【交剣知愛】の精神を大切に、剣道だけでなく私生活の場においても修練をして行きましょう。

# 『徳島の剣道 第三十九号』目次

巻頭言……………藤川 和秋……………1

## 《特別Ⅰ》とちぎ国体ベスト四 監督・選手の手記

第七十七回国民体育大会剣道競技大会第四位入賞…福多 雅英……………5

国体四位に入賞して……………玉田 晋作……………9

『全てに感謝』栃木国体……………山室 雅幹……………10

国体リベンジャーズく諦めなければ実を結ぶ…日和田慈海……………11

大会を振り返って……………玉田 赳大……………12

第七十七回国民体育大会に出場して……………美馬 州一……………12

## 《特別Ⅱ》ふるさとトーク

今、思うこと……………辰巳 晃子……………15

## 《特別寄稿(一)》提言

劍居一如……………原田 勝……………17

## 《特別寄稿(二)》高校選抜大会優勝

高校剣道を振り返って……………岩原 千佳……………19

全国大会の舞台を経験して……………松山 若樹……………21

## 顕彰一覧

### 剣道有功賞

剣道有功賞を拝受して今、振り返って思えば！…北條 憲治……………25

### 少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞……………米倉 滋……………27

少年教育奨励賞受章団体表彰……………青木 茂生……………29

### スポーツ功労賞

徳島県スポーツ功労賞を受賞して……………森 将夫……………30

### 生涯スポーツ賞

赤い垂れネーム 生涯スポーツ賞をいただいで…澤井 勝之……………32

令和四年度徳島県中学校剣道優秀選手……………34

令和四年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………35

## 先生を偲ぶ

吉田租先生を偲んで……………福多 雅英……………36

吉田租先生を偲んで……………富田 正……………38

振武館道場 吉田租先生を偲ぶ……………岡田 豊……………42

吉田租先生を偲ぶ……………近藤 亘……………44

磯部健治先生を偲んで……………河野 寿仁……………46

磯部健治君を偲ぶ……………二反田和則……………48

名工 竹刀師 高橋國保先生を偲んで……………三木 毅……………49

竹刀師 高橋國保さんを偲んで……………玉田 晋作……………53

竹刀師・高橋國保師匠を偲んで……………西本 政弘……………55

## 全国講習会報告

令和四年度全剣連中央講習会報告……………富浦 廣志……………57

令和四年度剣道講師要員(試合・審判)四国ブロック研修会報告…福多 雅英……………61

審判法実技における指導内容……………富浦 廣志……………62

新型コロナウイルスが収束するまでの暫定的な試合審判法…富浦 廣志……………66

令和四年度スポーツ庁委託事業「令和の日本型学校体育構築等授業」  
講師オリエンテーション(オンライン会議)を受講して…藤川 和秋……………69

## 剣道に役立つ医学知識

口呼吸を防ぐために呼吸を制する者が人生(剣道)を制する…安田 勝裕……………72

## 各種大会に参加して

第十七回全国都道府県対抗少年剣道優勝大会で学んだこと…水口 新汰……………74

全日本剣道連盟設立七十周年記念……………76

第七十回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場して…福多 雅英……………76

全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して…白木 洋一……………78

第三十一回全国高等学校剣道選抜大会に出場して…上田 宏司……………81

全国高校選抜大会に出場して……………小島 理奈……………82

インターハイに参加して……………富田将太郎……………85

全国高等学校総合体育大会に出場して……………鳥澤 明未……………87

全中に出場して……………平松 政樹……………89



全国中学校剣道大会に出場して……………	柏原 あこ……………	91
初めての全日本女子選手権大会……………	山室 愛子……………	93
「心気力一致の境地」第六十八回全日本東西対抗剣道大会に出場して……………	平野 誠司……………	95
全国教職員大会に参加して……………	森 康二……………	96
全国警察剣道大会を終えて……………	山室 雅幹……………	97
夢の舞台で……………	玉田 超大……………	98
第七十回全国青年大会と交剣知愛……………	澤田 俊介……………	100
青年剣道大会に出場して……………	栗野安香音……………	102
第二十六回徳島健康福祉祭(県ねりんピック)開催状況……………	乾 清孝……………	105
ねりんピックかながわ二〇二二……………	柴田 宗忠……………	107
<b>随 想</b>		
おかげさまで八十路に剣縁五恩に感謝……………	三木 毅……………	109
とある剣士の講演……………	乾 清孝……………	110
剣道に感謝……………	湯城 豊勝……………	114
生徒たちが安心して稽古に取組み、成長していける剣道部……………	山田 浩史……………	115
今日までそして明日から……………	石村 行範……………	119
四国遍路……………	別宮 憲治……………	121
<b>称号・段位合格者</b>		
剣道七段に合格して……………	井川 理之……………	123
剣道七段合格……………	大貝 美治……………	124
七段に昇段して……………	日和田慈海……………	126
剣道七段に合格して……………	大石 真也……………	127
剣道七段に挑戦して……………	島尾 眞且……………	128
剣道七段審査会を終え今思うこと……………	富永ますみ……………	130
剣道七段に合格して……………	船城 明……………	132
感謝の心と六段と……………	塚原 裕美……………	134
剣道六段に挑戦して……………	阿井 恵子……………	136
六段審査に合格して……………	安藝 智子……………	138
六段審査に合格して……………	山本 義征……………	139

六段昇段……………	玉田 超大……………	140
名古屋での六段審査……………	紅露喜代美……………	141
剣道六段に合格して……………	三好 延年……………	142
剣道教士を頂いて……………	丸岡 偉人……………	144
剣道教士に合格して……………	木下 裕康……………	145
錬士号に合格して……………	綾部 文明……………	146
錬士号に合格して……………	松本 憲二……………	147
称号・段位合格者一覧……………		148

\*\*\*\*\*  
居合道部会  
\*\*\*\*\*

《特別寄稿(二)》

居合道について……………	原田 勝……………	154
<b>活動報告</b>		
居合道部会活動報告……………	満壽 良史……………	155

**講習会報告**

第四十九回居合道中央・地区講習会報告……………	坂本 憲一……………	157
-------------------------	------------	-----

**大会・行事所感**

第五十七回全日本居合道大会に出場して……………	徳山 豊……………	159
称号・段位合格者一覧……………		160

**称号・段位合格者**

居合道七段位を拝受して……………	北川裕美子……………	161
居合道四段に合格して……………	安田 勝裕……………	162
居合道三段に合格して……………	西岡 悠天……………	163
居合道、はじめました……………	辻 孝……………	165
居合道初段に合格して……………	大森 春奈……………	167

**随 想**

居合道八段審査をめざして……………	森 将夫……………	168
徳島県の居合道の歩み……………	青木 茂生……………	169

道場紹介

大和錬心館	西本 忠司	172
徹心道場	吉岡 修一	173
大和養心館	原田 勝	175

杖道部会

《特別寄稿(四)》

徳島県剣道連盟杖道部の発足を祝して	黒郷 源慈	178
講習会報告		
令和四年度徳島県剣道連盟杖道講習会を受講して	筒井 勇	180
令和四年度第三十二回杖道中央・地区講習会に参加	青木 茂生	184

大会・行事所感

第九回広島杖道大会に出場して	筒井 勇	186
称号・段位合格者一覧		187

称号・段位合格者

杖道三段に合格して	徳山 豊	188
杖道入門を許可する	清水 俊夫	189
杖道初段に合格して	米倉 武志	191

随 想

杖道との出会いと道のり	武田 修典	192
杖道を始め	山田 師正	193

がんばろう徳島

専門部報告

事業部	佐賀 博史	195
審査部	生田 浩章	198
強化部	白木 洋一	199
少年部	白木 崇	202
女子部	竹内佳代子	203

審判部	富浦 廣志	206
中体連	木下 臣仁	207
高体連専門部	河野 寿仁	209
大学連	木原 資裕	212
高齡剣友会	乾 清孝	213

徳島県剣道稽古場所一覧

居合道 道場案内		219
令和四年度 大会記録		220
徳島新聞に見る戦いの跡		237
令和五年度 昇段審査学科試験問題・解答例		263
令和五年度 徳島県剣道連盟行事予定表		277
令和五年度 審査実施計画表		279
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		281

編集後記

表紙題字

堀江 幸夫

(元徳島県剣道連盟委員長・故人)

さし絵

村嶋 恒徳

(茨城県在住)



## 《特報Ⅰ》

# とちぎ国体ベスト四 監督・選手の手記

## 第七十七回国民体育大会

### 剣道競技大会 第四位入賞

総監督 福 多 雅 英

#### はじめに

栃木県宇都宮市で開催されました第七十七回国民体育大会、成年男子の部におきまして本県チームは、四位に入賞することができました。平成五年に徳島県で開催されました第四十八回大会以来二十九年ぶりの快挙でした。私は総監督として参加させていたいただきましたので本大会につきましてご報告いたします。

国民体育大会は、コロナ禍により二年連続で中止となり三年ぶりに、厳重な感染症拡大防止対策を施しながらの開催となりました。参加者には、スマートフォンのアプリ（グローバルセーフティ）を使って大会二週間前からの健康観察や、大会前後のPCR検査と会場へ入場する日の朝に抗原検査が義務づけられていました。また、チームの試合がない日は会場には入ることができないとい

う徹底ぶりでした。

また、これまでの国体での試合は、団体としての勝敗が決するまでは延長戦を行い個々の対戦における勝敗を決定していましたが、今大会では、試合時間五分で引き分けとなりました。この試合方法の変更は、チームの勝敗を左右する重要なポイントになったように思われます。

四月の県予選会で代表選手が決定され、大会での目標をベスト八入賞として強化稽古をスタートさせましたが、感染症拡大の為、県や教育委員会の感染症防止対策に従い県外遠征の中止、強化稽古会の自粛等で十分な強化ができず、選手個々の取り組みに頼るしかない状況でした。

大会出発の三週間前になりました。当初稽古不足を心配していましたが、各選手は身体の切れも良く、気力も充実していました。各自が大会に向け、県代表選手としての自覚を持って稽古に取り組んできたことがよくわかる状態で頼もしく思いました。

成年男子の試合は、五名による団体戦で実施されます。先鋒が二十四歳以下から大将五十五歳以上と十歳ごとに年齢基準をもうけ、大変幅広い年齢層による選手構成での試合となります。

剣道の団体戦は各自の対戦における勝敗によってチームの勝敗が決まります。別個の独立した対戦ではありませんが、個々の対戦が密接に関連しているように思います。団体戦での試合の流れやチームとしての勢いといったチームワークが、試合者のメンタル

的な働きに影響を及ぼすと考えられます。前の選手が積極的で気力あふれる勇猛果敢な試合をすれば、後に続く選手は勇気づけられ積極的な試合が展開しやすくなる等です。また、後の選手が、安定した勝負強い試合をすれば、次の試合において前の選手は、先の気持ちで思い切った試合が可能になるという相乗効果があるように思われます。

## 試合内容について

十月四日、大会二日目、本県チームは二回戦からの登場で、一回戦で佐賀県に勝った島根県と対戦しました。先鋒・次鋒戦で、常に先・先と正攻法で攻めた試合の内容は決して悪くはありませんでしたが、あと一歩およばず相手にリードを許しました。中堅戦は、今大会の中堅選手では最年長の日和田選手が、勝敗の懸かった大一番で開始早々に一本先取。一本返されませんが終始攻めて、受けになった相手選手が二回の反則を犯しての勝利となり、試合の流れが一気に変わったように思いました。副将山室選手の思い切った面が二本決まり勝負は対に、大将玉田晋作選手が危なげない試合運びで勝利しました。先鋒・次鋒戦を落としましたが、二人の気迫あふれる試合ぶりがそのままチームの勢いになったように思われます。

十月五日、大会三日目、三回戦、ベスト八を懸けて五年前の第七十二回岩手大会の優勝チームである岩手県と対戦しました。先鋒戦から白熱の試合が展開され、先鋒の美馬選手が終始、先を

取って試合を支配していましたが、相面となり惜しくも一本負けとなりました。次鋒・中堅・副将とよく攻めましたが、大接戦の末引き分けとなり、追う立場での大将戦となりました。引き分けでは負けとなる試合で玉田晋作選手が、序盤から積極的に攻め見事に面を二本決めて勝利をもたらしました。二試合連続の逆転勝利で、今大会での目標であった五位入賞以上が確定しました。

準々決勝戦、準決勝進出を懸けて静岡県と対戦しました。先鋒美馬選手は上段の相手によく攻め、良い技も出ていましたが、試合終盤に小手を打たれ敗退、次鋒戦で玉田超大選手が、一本一本の勝負から粘り強く戦い小手を決めて勝利し、試合を互格の展開にすると、中堅日和田選手が引き分けて後につなぎました。副将山室選手は、名選手である吉留八段に臆することなく攻めて面を二本連取、玉田晋作選手は取りに来る相手に対して、落ち着いて返し胴を二本を決めて、三対一で勝利しました。本県チーム、実に二十九年ぶりのベスト四進出となりました。

準決勝は、開催県の栃木県と対戦し健闘するも敗退しました。毎年、国体の剣道競技では開催県が優勝候補に挙げられます。自治体を中心となって選手補強や長期的な徹底した強化に取り組んでいるからで、栃木県チームも初戦から圧倒的な強さで勝ち上がり優勝しました。続く三位決定戦では、来年度国体開催を控えた鹿児島県と対戦、栃木戦同様に本県チームも粘り強く善戦したのですが残念ながら敗退しました。

試合では選手全員が、初戦から三位決定戦まで、先の気持ちで



攻め、全力を尽くして気魄に満ちた立派な試合をしていました。特に準決勝栃木戦での副将山室選手と、三位決定戦鹿児島戦の玉田晋作選手の試合は、先をかけた技前の攻防からの打突が本当に見事でした。

今大会において上位進出の好機を生かすことができたのは、選手の間での長期的な努力によるものであることは言うまでもありませんが、団体戦を勝ち抜く為に気持ちをひとつにしたチームワークの良さが、上位入賞のひとつの要因にもなったように思われます。

この度、総監督として参加させていただきましたが、気魄に満ちた激闘を間近で見ることができ、選手諸君が試合ごとに躍動していく試合ぶりに感動いたしました。また、この素晴らしい快挙に立ち会えたことを幸せに思いました。選手の皆さんに心から感謝申し上げます。

対戦結果は以下の通りです。

二回戦

徳島	3 (7)	対	2 (6)	島根
先鋒 美馬			メ	加藤 ○
次鋒 玉田 起	コ		メ	長岡 ○
中堅 ○日和田	コ	反	ド	原
副将 ○山室	メ	メ		深石
大将 ○玉田 晋	コ	コ	コ	小松

三回戦

徳島	1 (4)	対	1 (3)	岩手
先鋒 美馬			メ	山口 ○
次鋒 玉田 起			引き分け	菅野
中堅 日和田	メ		引き分け	松沢
副将 山室	コ		引き分け	菅崎
大将 ○玉田 晋	メ	メ		安達

準々決勝

徳島	3 (6)	対	1 (2)	静岡
先鋒 美馬			コ	菊池 ○
次鋒 ○玉田 起	ド	コ		長岡
中堅 日和田			引き分け	高坂
副将 ○山室	メ	メ		吉留
大将 ○玉田 晋	ド	ド		高田

準決勝

栃木	4 (8)	対	1 (2)	徳島
先鋒 ○大平	メ	コ		美馬
次鋒 ○市川	メ	コ		玉田 起
中堅 ○鈴木	ド	メ		日和田
副将 藤原			メ	山室 ○
大将 ○大島	メ	コ		玉田 晋

### 三位決定戦

鹿児島 3 (7) 対 1 (4) 徳島

先鋒	○木村	メ	メ	美馬	
次鋒	○浜崎	メ	ド	玉田起	
中堅	森園	メ	引き分け	メ	日和田
副将	○竹中	メ		山室	
大将	浜田	コ	メ	コ	玉田晋○

### おわりに

大会終了後、審判員の先生や他県の先生方から「徳島の選手は基本的に忠実な良い剣道をされますね」「先先と積極的に攻めて良い試合内容でした」等の御好評をいただき、大変うれしく思いました。今大会における選手の活躍によるものではありませんが、選手全員が『徳島育ちの剣士』であります。県内の少年剣道教室や道場の先生方のご指導のもと剣道を始め、中学校・高校においても、多くの先生方のご指導を受けてこられました。

また、長年にわたり実施されてきました徳島県剣道連盟による少年強化訓練、強化稽古会・長期育成強化訓練や各種講習会、中体連・高体連での競技力向上に向けた取り組み等が、栃木国体での好結果につながったと考えられます。

ここ数年、成年男子の全国大会での成績は、国体においては、平成二十七年七十回大会で五位入賞し、七十二回大会ではベスト一六、剣道日本一を決める全日本剣道選手権大会ではこの六年間

で二人の選手がベスト八入りを果たし敢闘賞を受賞、平成三十年第六十六回全日本都道府県対抗剣道大会でも五位に入賞するなど長年にわたる取り組みが、少しずつではありますが、強化の成果として現れてきているように思います。

今日まで、歴代の諸先生方から受け継がれてきました各種の取り組みは、県下全ての指導者や保護者、各支部の先生方の全面的なご協力により、初めてできることであります。

今後も皆様のご協力とご理解をいただき、孟子の『天地人』  
「天の時は地の利に如かず 地の利は人の和に如かず」という『和』の精神をもって、少年剣道から中学校・高校・大学さらには一般まで、継続的かつ連携を深めながら強化を進めることが、本県剣道界が発展・拡充して行く為に必要なことであると思えます。

### 選手の自己紹介と大会での感想

#### 剣歴

- ① 段位
- ② 出身剣道教室・道場、出身中学校、出身高校、出身大学
- ③ 得意技
- ④ 座右の銘
- ⑤ 職業（勤務先）



## 国体四位に入賞して

大将（五十五歳以上） 玉田晋作

- ① 教士八段
- ② 阿南少年剣道教室・阿南中学校・富岡西高校・日本体育大学
- ③ 面すり上げ面
- ④ 座右の銘 『我以外皆我師』
- ⑤ 徳島文理中高教員

この度の国体四位入賞の要因は、福多総監督をはじめメンバー五名のチームワークの賜物であると思います。初戦の二回戦からベスト四までの三試合全てが接戦となりましたが、メンバーがそれぞれの役割を果たし、僅差で制することができました。先鋒と次鋒は、現役選手の代表が出そろう最も厳しいところですが、美馬選手、玉田越選手は果敢に攻める剣道を展開してくれました。勝率は伸ばせませんでしたでしたが、チームに勢いを与えるには十分な試合内容でした。中堅の和田選手は、粘りを発揮して対戦チームの流れを食い止める献身的な働きをしてくれました。副将の山室選手は絶好調で、まさにポイントゲッターとなりました。私は先鋒から副将までの健闘に心えようと、いつも以上の実力を発揮することができました。

国体で徳島県がベスト四に進出したのは、平成五年の「東四国国体」以来です。当時私は二十歳代で、堀江幸夫先生のご指導下、厳しい練習を乗りこえ、競技別総合優勝を獲得することができました。あのとときの感動は今も忘れません。あれから二十九年が過ぎ、現在五十七歳となりました。今回私は国体で入賞するために稽古をしてきたではありません。剣を交え、攻防をし、捨てきった技を試し合うという気持ちで、失礼ながら楽しみながら稽古をしています。長く続けていれば、たまにはいい結果に巡り合えることもあるものだと自分自身でも驚いています。スポーツ庁は国体の目的として「広く国民の間にスポーツを普及し、健康の増進と体力の向上を図り、国民生活を豊かにしようとするものである。」と記しています。私はこれからも楽しく稽古を続け、剣道を愛し、生涯にわたり剣道を継続する人が一人でも多くなるように、普及・発展に寄与したいと考えています。

最後に、これまでご指導いただいた先生方、常日頃より切磋琢磨している剣友の方々、ほぼ毎日のように剣を交えている教え子たち等々、関わっていただいた全ての方々はこの場をお借りして感謝申し上げます。

## 『全てに感謝』 栃木国体

副将（四十五歳から五十四歳） 山 室 雅 幹

① 教士七段

② 藍住剣道スポーツ少年団・藍住中学校・藍住東中学校・城ノ内高等学校・国際武道大学

③ 面・突

④ 座右の銘 『自然体』

⑤ 徳島県警察

栃木県宇都宮市のユウケイ武道館において国民体育大会が開催されました。本大会は、新型コロナウイルスの影響により二年ぶりとなりましたが、たくさんの方々のご尽力で開催されたことに本当に心から感謝しております。

コロナ禍でたくさんさんの試合が中止になり、久しぶりの公式戦ということもあり、国体の会場で早く試合がしたいという気持ちで、本番までが楽しみでした。試合まで移動中の車内では楽しい会話が盛り上がり、試合直前まで、とてもリラックスした状態でした。

全試合、先鋒・次鋒・中堅が、最後まで絶対に諦めないという気持ちで、副将の私に繋いでくれました。私もその気持ちを竹刀に乗せ、大将に繋げる試合ができました。その中でも、特に印象深かった対戦として準々決勝の静岡県の吉留先生、三位決定戦の

鹿児島県の竹中先生との試合でした。先生方には、過去の国体の対戦で負けており、個人的にもリベンジしたいという気持ちがありました。試合で相手に勝てるかどうかは、自分の弱さに勝てるかどうかにかかっていると思います。いかに打ちたい気持ちと打たれたくない気持ちを我慢して、相手と自然体で向き合えるかということが重要になります。

その結果、吉留先生には自然体で自分の剣道を表現することができ、勝ち切ることができました。しかし、竹中先生には打ちたいという気持ちが強くなり、一本を欲しがったところに隙が生じ、構えが崩れたところにメンを奪われてしまいました。今回も竹中先生の壁は高く、再度対戦する機会があれば、自然体で挑みたいと思います。

国体前、徳島県の激励会で目標を聞かれたとき、数年前の和歌山国体のベスト八（第五位）を上回る成績を収めたいと掲げさせて頂きました。今大会ベスト四（第四位）という成績を納めることができたのは、たくさんの方々が応援してくれたこと、また、徳島県剣道連盟強化稽古会において御指導して頂きました先生方のお陰だと、深く感謝しております。

今後とも、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 国体リベンジヤーズ

（諦めなければ実を結ぶ）

中堅（三十五歳から四十四歳） 日和田 慈 海

- ① 錬士七段
- ② 山川修錬館・市場中学校・城ノ内高校・愛知学院大学
- ③ 面
- ④ 座右の銘 『剣禅一如』
- ⑤ 吉野川市役所職員

この度、栃木県で開催された第七十七回国民体育大会に徳島県代表選手として出場させていただき、第四位入賞を果たすことができました。

私には国体で苦い経験がありました。それは、二〇〇三年の静岡国体に先鋒として出場した時、私は全敗を喫しチームも二回戦で敗れてしまいました。それ以来十九年ぶりの出場となる今大会は前回のリベンジを果たすため今まで以上に強い覚悟を決めて臨みました。

今回の徳島県チームでは私は中堅（最年長）。頼もしい若手の先鋒美馬君・次峰玉田君、実力者の副将山室先輩・大将玉田先生といった最高のメンバーでありました。コロナ禍の中で合同稽古などは限られていましたが、監督福多先生のサポートのおかげで

チームワークも高まり、よいコンディションで大会本番を迎えることができました。

国体は何が起きるかわからない独特の雰囲気があります。今回の大会も数々のドラマが生まれ、徳島県チームにおいてはまさにドラマティックな展開であったと思います。

初戦から準々決勝までの試合は接戦の連続で、私も後ろに控える先生方に繋ぐことができたらず勝てると信じ、最後まで諦めず戦い抜きました。そしてついに準決勝で地元栃木県と対戦。思い切って勝負しましたが、ここは栃木県の意地が上回りました。

その後、三位決定戦で次回開催県の鹿児島県に惜しくも敗れましたが、徳島県勢として二十九年ぶりとなる四強。まさにチームワークで勝ち取った歴史の入賞でした。

私は今回の国体で諦めずに努力を続けていれば、いつか実を結ぶ時が来るということを実感いたしました。そしてこの代表チームのメンバーとして戦えたこと、これまでご指導くださった先生方や応援してくれたすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも徳島の剣道発展に貢献していけるよう稽古に励んでいきたいと思えます。

## 大会を振り返って

次鋒（二十五歳から三十四歳） 玉 田 赳 大

- ① 六段
- ② 徳島至誠館・徳島文理中高校・明治大学
- ③ 小手
- ④ 座右の銘『至誠通天』
- ⑤ 徳島県警察

チームとして全員が集まったの練習は決して多くはありませんでしたが一試合ごとに勝利を重ねるたびにチームが団結していったと思います。誰かが負ければ次の選手が勝ちに行くという好循環が生まれ、ほとんどがギリギリの試合でしたが、終わってみれば勝っていたという感じでした。全員が相手を上回る気迫をもって攻めの姿勢を貫いたことがよかったと思います。

成年男子は二十九年ぶりにベスト四に進出できました。そのメンバーの一員になったことは非常に光栄ですし、私自身大きな財産となりました。次に出場する機会があれば、今回以上に活躍し、ベスト四を上回る結果を目指したいと思います。

## 第七十七回国民体育大会に出場して

先鋒（二十四歳以下） 美 馬 州 一

- ① 五段
- ② 北井上剣道教室・徳島中学校・城北高等学校・国士舘大学
- ③ 出頭面
- ④ 座右の銘『不動心』
- ⑤ 徳島県警察

私は、第七十七回国民体育大会剣道大会成年男子に先鋒として出場させていただきました。

大会は栃木県で開催されましたが、国民体育大会に出場することは私自身初めてであり、大会までには数少ない強化練習の中で、チームの輪を深めていきました。

大会の二日前から栃木県入りし、別会場で稽古をした後、本大会会場を見に行きましたが、会場を見た瞬間、「この大舞台で試合ができる喜び」を感じました。さらに、より一層徳島県代表としての自覚が芽生え、全身全霊で立ち向かわなければいけないという気持ちになりました。

大会当日は、程よい緊張感でコンディションも良く、チームの先陣としていい流れを作れるよう、後ろに繋ぐ気持ちで思い切った試合をすることを意識しました。



しかし、大舞台での試合で普段以上に緊張感が走り、できるだけ足を動かして、まず雰囲気は呑まれないようにと思っていました。足が硬直して自分の剣道ができず、先鋒として流れを作るような試合を展開することはできませんでした。それでも、チームが粘って接戦を制し、初戦突破することができました。

二試合目以降は、大会二日目に行われ、徳島県は粘り強い戦法で、順調に勝ち進んでいきました。私自身も、試合を重ねるごとに会場の雰囲気にも慣れ、自分の剣道ができつつありましたが、大舞台での「一本」を取り切る難しさを感じました。

チームとしては、準決勝まで進出し、開催県の栃木県と対戦することができました。やはり地元開催ということもあり、非常に強化を積んできた選手ですので、「負けない」という執念「やスピード・技の精度が、自分自身に比べて一段と差があり、日々の稽古の積み重ねが非常に大切であると痛感しました。

結果としては、三位決定戦で敗れてしまい、四位という結果で初めての国体は終わりましたが、徳島県の剣道界に大いに貢献することができたのではないかと思います。自分自身の結果は、これからの剣道人生において、大きな糧となる反省の多い試合となりましたが、あの大舞台に出場するだけで大きな経験値となりました。他の県の選手も予選を勝ち上がり代表として出場していますので、レベルの高い大会にはなりますが、強い選手は屈することなく立ち向かってくるので、私にはその貪欲さがまだまだ足りないと感じております。

次は、鹿児島国体であり、私が先鋒として出場することができ最後の大会となりますので、今回の悔しさを鹿児島国体で晴らし、またあの大会で飛躍できるように日々精進していきます。





## 特報Ⅱ ふるさとトリーク

### 今、思うこと

奈良県立医科大学准教授・  
元奈良女子大学体育会剣道部監督 辰 巳 晃 子

(旧姓長野・城北高校出身)



私の剣道との出会いは、城北高校旧道場前の薄暗い廊下だった。偶然そこを通りかかった一年生の私は、当時の剣道部顧問であった故竹田昌弘先生に「背高いなあ。剣道してみやんか。かっこええと

思うで」と声をかけられた。今でも思い出せるほどの満面の笑みだった。それまで陸上競技をやっていた私は、室内競技・武道という新境地に少し興味を惹かれた。何より「かっこええ」という言葉に惹かれて誘われるままに道場に入った。竹刀を渡され、大きな鏡の前に立って構えと握り方を教わり、竹田先生の「かっこええなあ」の賛美にすっかり調子に乗って初めての素振りを経験した。一汗かいたので先生に挨拶して退散しようとする、「毎日せんと上手にならんからな。あした〇〇時から稽古や。」と言。そこには先ほどの満面の笑みはなかった。私は思わず「ハイ」と答えてしまい、入部が決まった。きっちりと言にはまったので

ある。

当時の剣道部の三年生には、故櫻井眞次先輩・春田洋先輩(現・徳島市議会議員)という、平成・令和の時代には絶対に存在しないであろう猛者たちが君臨していた。また同期には寺西佳代子(竹内佳代子、現・徳島県剣道連盟女子部常任理事)という絶対エースが存在していた。稽古は厳しかったが部員同士の仲が良く、竹田先生の戦略(陰謀?)でリーチの長い私は初心者から上段の構えを教えられた。いわゆる引き分け要員である。当時は女子の団体戦は三人制だったので、絶対エースの寺西選手がいる私たちのチームは、残りの二人のうち最悪でも一人が引き分けてくれればエースが代表戦で勝つ、という仕組みになっていた。

戦略通り、初心者二名プラス絶対エースのチームは県内大会の優勝を総なめにし、四国大会三位まで経験した(写真・昭和五十三年香川県立丸亀武道館にて)。優勝に慣れてしまった私はそれを自分の実力と勘違いして、大学でも剣道が続けようと剣道部に入部した。

進学した奈良女子大学には剣道同好会がある程度で体育会剣道部はなく、関西学生剣道連盟にも加入していなかった。もちろん指導者もない素人集団であった。それでも私は自信满满で小さな大会に参加したが、付け焼刃の上段は大学剣道の前に木っ端微塵にされ、自分の力量を思い知ることとなった。それから夢中で奈良県剣道連盟の稽古会に参加して基本を学んだ。まさに中段初心者である。当時の奈良県剣道連盟の会長は故西川源内先生

(剣道範士九段)で、稽古会にはいつも大勢が詰めかけ盛況であった。源内先生の奥様が奈良女子大学(旧奈良女子高等師範学校)のご出身だったこともあり、へたくそ!と言われながらも奈良女子大学剣道部は大変可愛がって頂いた。先生から大学剣道部の組織作りをするように助言を頂き、同期と共に奔走した。

卒業後はコーチ、監督を拝命し、平成二十八年に監督を交代するまでの三十一年間、部員と共に汗を流した。まさに半生を費やした訳であるが、本当にあつという間だった。刺激に富んだ時間を過ごしたのでそのように感じるのだと思う。この間に念願の全日本女子学生優勝大会への出場を四度経験する事ができた。剣道セレクションは無く、部員はほぼ初心者(の大学としてはよくやったほうだ)と思う。当然部員の獲得に最も苦労したが、「満面の笑み」と「かっこええ」を駆使してどうにか剣道部を維持する事ができた。竹田先生に感謝である。

私自身剣道はあまり強くなれなかったが、剣道を通じてたくさん(の先生方や同期、後輩たち)に出会う事が出来た。思えば薄暗い廊下で竹田先生に声をかけて頂いて、全てが始まった。偶然の出会いから様々な人との繋がりが生まれていった。今になってみると、全ての出会いは偶然ではなく必然だったと感じる。そして今(の)確信できることは、月並みではあるが、たくさんの人に支えられて今の自分があるという事である。一期一会の出会いを大切にしたいと思うようになったのは、まさに剣道のお陰であると思う。

そして今回はこのようなふるさと徳島とのご縁を頂き、感無量

である。徳島から始まったたくさんさんの「必然の出会い」への感謝を忘れず、少しでも恩返しになるようなことを行っていきたく(と)今、しみじみ思う。末筆ながら、徳島県剣道連盟の益々のご発展を心よりお祈りし、ふるさとトークとさせて頂きます。





# 特別寄稿(一) 提言

## 剣居一如

徳島県剣道連盟顧問 原 田 勝



全日本剣道連盟が制定している剣道の理念は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」——ここに唱われている剣とは日本刀のことであり、剣の理法の修練とは竹刀操法の修練ではなく、

理法に合った日本刀の操法の修練を指すのである。従って、これらを日本剣道形によって修練をする事とされて来た。日本剣道形では安全性の面からも真剣の使用ができないので、全剣連では、いやくも剣道の高段者であれば、これくらいの真剣の操法は習得してほしいとの切なる願いで、全剣連居合十二本を制定した。又それがひいては居合道の発展にもつながる最良の道とされた。

現在全剣連ではこれを振興するために、まず剣道の新八段者の講習会でその説明をし、推進を図っているのが現状であるが、真剣の操法習得にはまだまだ先の遠い事である。剣道を竹刀競技としてとらえ竹刀の操法の修練だけを目指す者は別として、日本古来の伝統文化である武道としての剣道を目指す高段者においては

霊器とまで言われる真剣の一振りぐらいは所持し、それになれ親しむのが望ましいとされている。木刀や竹刀は日本刀の代用品である。従って竹刀を正しく扱う為には、まずその元である日本刀の機能を熟知し、その操法の修練をする事が望ましい。故に居合と剣道は車の両輪であると言われるが、その関係は一つの円の中に収まる。又表裏一体である。居合は歩く事に対して、剣道は走る事にたとえる事が出来る。人は歩く事が出来なければ、走る事は出来ない、即ち、歩く事は元であり、走ることは歩くことが進展したものである。これが居合と剣道の関係にも当てはまる。居合は剣道の元であり、その剣道は居合が進展したものである。それ故に、居合の修業無くしては真の剣理を求める事は不可能に近い。

古来より剣道は居合に始まって、居合に終わると言われるように、剣居は一体で、理法においても疑念の無いところである。剣居は心法において、又、技体の上でも一如のものである。故に剣道を学ぶ者は、居合の技法、体用を修業しなければならず、居合を学ぶ者は剣道の技法、体用の修業をしなければならぬ。居合を学べば、剣道の手の内、刃筋正しい刀の操法、真の残心を会得する事ができる。剣道を学べば、居合の仮想敵に対する間合、打突の機会を会得する事ができる。剣居何れかの修業が欠落しても、広義の剣道の奥義を極める事は出来ない。

このような理合からも剣居一体は明白である。剣理に照らし居合を修業し、居理に照らして剣道の修業をする事が、剣の理法の

修錬には最も望ましいものと思われる。従って剣道人は本数の多い複雑な古流の居合を修錬しなくても、剣道人にも取り組みやすく制定された剣道連盟居合十二本の修錬を行う事が求められる。居合道人には二人で行う古流の組大刀の上に、形だけの日本剣道形では無く、心法、剣理に基づいた日本剣道形の修錬をしなければ真の居合にはならない。従って全剣連居合十二本と日本剣道形十本は剣居共通の事項と思われる。また現在では日本剣道形は三道に於いても修錬する事が望ましいとされている。



## 特別寄稿(二) 高校選抜大会優勝

### 高校剣道を振り返って

八代白百合学園高等学校 岩原 千佳



私は、高校選択に際し、縁あって熊本県八代白百合学園高等学校に進学を決めました。理由は、中学校で達成できなかった「剣道日本一」を高校で達成したいと思ったことと、日本一になるためには親元を離れ、厳しい環境に身を置き取り組みたいと思ったからです。高校での練習は、中学時代をはるかに超える内容でした。また、入学と同時に新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言が発令されました。その結果、たくさんの方に制限を受け、この年のインターハイが中止になるなど波乱の一年となりました。その中でも剣道に対する意識は高く持ち続け、毎日の練習に取り組んできました。

令和三年八月に行われた金沢インターハイでは、二年生で大将として出場しましたが、団体戦決勝において、代表決定戦で私が敗れ準優勝という結果に終わりました。やはり、日本一になるためには、日本一の実力が必要だということ、また剣道以外の勉強

や生活も日本一の取り組みが必要であると改めて感じるようになりました。

令和四年三月に行われた、全国高等学校選抜大会では、初二試合を勝ち上がるも、大将として出場した自分のコンディションは、あまり上がらない状態でした。二日目も思うようにコンディションは上がりませんが、前衛の活躍と大将としてなんとか粘り強く試合ができたおかげで、十六年ぶり五回目の優勝を果たすことができました。優勝した瞬間はとても嬉しかったですし、この学校へ来て良かったと強く思いました。目標であった全国優勝を達成できたのも、毎日手厚いご指導を頂いた先生方、無観客であっても会場まで足を運んで頂いた保護者のみなさんのおかげだと感謝しております。また、寮生活で苦楽を共にし、全部員の団結力が実を結んだ結果だと強く思っています。ただ、この優勝の余韻に浸る間もなく、次の目標は、高知県で行われる四国インターハイ優勝という意識に自然となってきました。

令和四年八月に高知県で行われた、全国高等学校総合体育大会「四国インターハイ」では、個人戦ベスト八、団体戦第三位でした。残念ながら全国選抜大会に続いての連続日本一とはなりませんでしたが、高校生活の集大成として全てを出し切れた大会でもありました。

三年前に自分が決断した進路において、目標が達成できたのは、多くの方にご指導、ご声援頂いたおかげだと思っています。特に、年に数回の帰省ではありますが、徳島のみなさんに温かく声を掛

けて頂き、とても励みになりました。あと、同じ徳島中学校から一緒に進学した松山若樹さんの存在も大きかったです。辛いときもありましたが、松山さんとお互いを励まし合いながらここまで来ることができました。

卒業後は筑波大学へ進学し、次のステップでも日本一を目指し頑張っていきたいと思います。これからも多くの面でご指導いただけますようお願いいたします。





## 全国大会の舞台を経験して

八代白百合学園高等学校 松山若樹



私は、熊本県にある八代白百合学園高等学校へ入学しました。しかし、入学後間もないうちに新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学校は休校となりました。

さらに試合が無くなり、目標まで失いかけた時もありました。そのような時に、仲間達とビデオ通話をしたり、画面越しで一緒にトレーニングをしたりして、自分達で励まし合い、努力してきました。その後は、新型コロナウイルス感染症が収まり、仲間達との練習や他校との練習試合を行うことができるようになりました。その中で、考えて剣道をすることやチームワークの重要性など多くのことを学ぶことができました。しかし、全国高等学校剣道選抜大会が迫っている時に新型コロナウイルス感染症が再拡大し、練習時間の短縮や練習試合の中止など思うように稽古ができない日々が続き、不安は募る一方でした。この不安を解消する為に自主トレーニングを徹底的に行いました。そして迎えた第三十一回全国高等学校剣道選抜大会。

試合当日は自分達の力がどこまで通用するのか不安と期待でいっぱいでした。試合は一回戦から接戦でしたが試合を重ねるごとに自信が付き、思い切ってやりきることができました。決勝戦の対

戦校、明豊高校(大分県)とは練習試合をしていましたが、勝利することは少なく不安もありました。しかし、それ以上に「勝つ」という思いの方が強くありました。チーム全員がこの考えだったからこそ、次鋒戦の一本を繋ぐことができ、優勝することができたと思います。試合後はみんなで笑い合い、泣き合い、最高の時間を過ごすことができました。しかし、この試合からも反省するところや課題が多く残り、まだまだ実力不足だと実感しました。このままでは夏は勝てないとみんなも考えたと思います。私達の目標は「春夏二冠」であったため、負けたチームは必死に努力してくるという監督の言葉を常にも心に置き、夏に向け気持ちをすぐに切り替えて努力しました。一日一日を大切にし、苦しいことも辛いこともチーム全員で乗り越えてきました。そして、インターハイの組み合わせが発表されました。予選リーグは三養基高校(佐賀県)と小牛田農林高校(宮城県)の三校リーグでした。両チームとも強豪校であったのでさらに気が引き締まったと思います。

予選リーグは厳しい戦いでしたが、無事予選を突破することができました。順調に勝ち進み、準決勝進出を決めました。準決勝の相手校は昨年夏のインターハイ決勝で敗れた中村学園女子高校でした。今度こそはと思い、挑みましたが結果は惜敗でした。高校最後の全国大会は三位という悔しい結果に終わってしまいました。

「春夏二冠」という目標を叶えることはできませんでしたが、

ここまで努力することができたのは同じ目標を持った仲間がいたからだと思います。この全国大会の舞台で戦うことができたのは、八代白百合学園の澤田洋一先生や澤田武秀先生の厳しさの中にも優しさのあるご指導のおかげです。小松島少剣クラブの青木先生はじめ、諸先生方、徳島中学校の顧問、兼松先生のご指導がなかったらこの舞台に立つことすら叶わなかったと思います。さらに、今まで支え、応援して下さいました全ての方々に感謝申し上げます。この経験を生かし、高校卒業後は早稲田大学に進学し、頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



## 令和四年度 顕彰一覽

### 剣道有功賞（全日本剣道連盟）

○ 北條 憲 治（徳島県剣道連盟審議員）

平成十一年度から阿南支部長として十年間、平成二十一年度から現在まで十四年間、徳島県剣道連盟審議員として、徳島県における剣道の普及、発展に大きく寄与した。

### 少年剣道教育奨励賞（全日本剣道連盟）

○ 養 武 館（指導者代表 米倉 滋）

平成九年七月から指導者の敷地内に道場を設立し二十五年間にわたり少年剣道を通じ、剣道の普及発展に寄与してきた。優秀な選手を育成し、指導力には素晴らしいものがある。

また、徳島県の道場連盟に加入し、道場生には全国での活躍の場を提供するなど、幅広く活動している。

指導者は、自ら杖道の稽古に励むなど、徳島県剣道連盟の運営や活動にも大きく貢献している。

○ 徳島春風館道場（指導者代表 青木茂生）

昭和六十三年に創設され、三十四年間にわたり剣道を通じて少年の健全育成に尽力してきた。

徳島県西部の過疎地で、道場生が集まらず、閉館の危機もあったが、指導者の熱意と地域に支えられ今日に至っている。生涯剣道の実践、少年の育成に力を注ぎ、剣道の普及発展に尽力している。

### 生涯スポーツ功労者表彰（文部科学省）

○ 西谷 肇 一（徳島県剣道連盟副会長）

多年にわたり、連盟の円滑な運営をはじめ、団体選手の育成強化にも取り組み、連盟の発表に多大な貢献をしている。さらに、徳島県スポーツ協会の理事として、県内スポーツ全般の普及発展および強化育成にも尽力している。

また、生涯スポーツ功労者賞の受賞により徳島県スポーツ協会より感謝状が贈呈された。

### 徳島県スポーツ功労者表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 森 将 夫（徳島県剣道連盟理事）

昭和五十五年ごろから居合道を始め、全国大会等に出場するなど居合道の奨励発展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連盟居合道審査員、居合道理事を務め、徳島県における居合道の普及発展に大きく貢献している。

### 徳島県スポーツ優秀者賞表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 森 康 二（小学校教師）

令和四年八月十一日に開催された第六十四回全国教職員剣道大

会にて、男子個人ベスト八入賞。

連盟の発展に大きく寄与している。

○ 美馬 州一（徳島県警察）

○ 玉田 越大（徳島県警察）

○ 日和田 慈海（吉野川市役所）

○ 山室 雅幹（徳島県警察）

○ 玉田 晋作（徳島文理高等学校（教員））

令和四年第七十七回いちご一会とちぎ国体にて、成年男子四位に入賞した。

○ 鈴 江海音（木頭中学校）

第五十二回全国中学校剣道大会の女子個人戦においてベスト八入賞。敢闘賞を受賞。

### 徳島県生涯スポーツ賞表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 澤 井 勝 之（徳島県中学校外部講師）

県立高等学校の教師として奉職、高校剣道部の顧問として、熱心に指導し、多くの生徒を徳島県代表選手に導き剣道の奨励発展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連盟小松島支部長、段級審査員を務め、生涯スポーツのあるべき姿の模範として、徳島県における剣道の普及発展に大きく貢献している。

さらに、令和元年度から徳島県剣道連盟が毎年発行している「徳島の剣道」誌をすべてデジタル化し、ホームページとして、いつでも、だれでもが閲覧できるようにしたことで、徳島県剣道





## 剣道有功賞

剣道有功賞を拝受して  
今、振り返って思えば！

阿南支部 北 條 憲 治

この度、令和四年度全日本剣道連盟より、剣道有功賞を拝受致しました。これも一重に徳島県剣道連盟の諸先生方、並びに関係各位のご推薦によるものと、心より厚くお礼を申し上げます。昭和四十四年十一月に、二十三歳で母方の祖母の実家へ養子で参りました。一時期剣道から遠退いたこともありましたが、今、振り返って剣道に関わって思い出すことを書いておきます。

### (一) 青竹での素振り (昭和二十八年頃)

日本の国に男子と生まれたら、その体は天皇陛下に捧げる事になるので、強い身体を鍛えなければ！大正三年生れの兵隊生活の長かった父親の「スパルタ」が始まりました。

小学校入学頃より早朝、近くの神社の境内で、青竹素振りが開始されました。小学校の講堂では、春・夏・冬休みに校長先生の指導で、練習がありました。小学四年生で七級となりました。

### (二) 先輩と剣道友好会を設立 (昭和三十三年)

私はその当時 (十三〜二十二歳) まで静岡県在住でした。中学に入学した時、「予科練時代に剣道をやっていた」という先生が体育館に来るのですが、戦争実践形で基本も何もありませんでした。それで、先輩と二人で夜、警察署に通い基本から教わりました。警察署では先生が赤鞘の日本刀を持ってこられ、真剣による指導があり、身の引締る思いで学んだ事は忘れられません。

二年生になった時、一年生が二十名程入部して来たので、剣道部に昇格し、予算も付きました。防具置場は先生達の下駄箱と、階段下の物置 (女子更衣室兼用)、稽古は一年生の基本指導で自分の稽古は、時々高校へ通った程度でした。

市内の大会では常勝でしたが、県大会になると当時、静岡県では御前崎、磐田中学等が強く、私たちはなかなか勝つことができませんでした。昇段試験初段受審では中学生の合格二名だけで、先輩と私の二名合格でした。しかし、高校では剣道部には入部せず、先輩たちに「こっぴどく」叱られました。中学時代に剣道に誘った友人は中学では行なわず、高校から剣道を始めていました。

### (三) 十三年間のブランク (昭和四十八年〜)

#### 竹刀の弾ける音に誘われて

阿南スポーツセンターの床が硬くて、剣道には不向だと言う事で、当時は阿南警察署の道場をお借りしていました。十三年間のブランクがあったものの、なぜか剣道を再開したくなり、警察署

の階段を駆け上り、入会をお願いをすると、快く受入れて頂きました。当時の指導者は、清原栄先生、有賀秀敏先生が中心でした。少年剣道の練習の後、一般の先生方のお稽古では、遠藤先生を初め多くの方々がお見えでした。入会申し込みの帰りに竹刀を買い、道衣袴、防具を注文し、全て揃った時から稽古が始まりました。無論小学生と基本からです。二、三度先生方とのお稽古後「何段ですか。」と問われたので、「中学生の時、初段を授かりました。」と答えると

「次の審査会で二段を受験する様頑張りなさい。」と励ましてくれました。

その後、三十九歳で六段、四十五歳で七段に合格し、全国都道府県優勝大会、国民体育大会、四国四県大会、全国健康福祉大会等、数多くの大会にも参加させていただきました。良き指導者、良き先輩、良き剣友に恵まれたお陰で、有賀先生の後続き、第七代阿南支部長の任を務めさせていただきました。その後、須藤先生へバトンを繋ぎました。

現在七十六歳になり、週一、二回のお稽古を心がけて居ます。健康で剣道の出来る事に喜びを感じています。これも家族の理解と支え、剣を交える剣友、先生先輩達に恵まれた事に感謝、又最後になりますが、健康な体を授けてくれた、今はなき両親に感謝、ありがとうございます。

台掌



## 少年剣道教育奨励賞

### 少年剣道教育奨励賞

養武館 米倉 滋



この度、「養武館」が全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞受賞の栄を賜りました。推薦等にご尽力いただいた本県剣道連盟の方々に厚くお礼を申し上げますと共に、長年にわたり当道場を支えて下さった指導者及び関係者の皆様に感謝を申し上げます。

私は、昭和四十二年の春、中学校入学と同時に剣道部に入部し、剣道を始めから五十五年間剣道と共に人生を歩んでまいりました。

「養武館」は平成九年七月、自宅敷地内において、青少年の健全育成、剣道の普及発展及び自己の修練を目的として設立し、本年で二十五年を迎え指導した道場生は二〇〇名をこえました。

当道場の特徴は、少年剣士の育成にとどまらず、指導者としての範を示すべく、指導者自ら試合に出場すると共に昇段審査に挑戦しました。

その結果、県下社会人剣道大会、清原杯争奪県下剣道大会、遠

藤旗争奪新野少年剣道錬成大会及び阿土少年剣道錬成大会で優勝するなど各種大会で優勝や入賞をすることができました。

又、私自身の昇段審査では、道場開設から八年後の平成十七年十一月、日本で最も難しいと言われている八段昇段審査において合格率〇・八%の難関を突破して合格しました。

町道場に拠点を置き、練習相手にも恵まれていない環境での八段昇段は全国的に希で、後に続く受審者には良い刺激になったことと思います。

どうすれば剣道を正しく継承することができるか、道場生をどのように指導すべきか葛藤しながら二十五年間を過ごしてきましたがいまだ答えができません。教えることは学ぶことでもあり、指導者として日々精進努力し、多くを学び自己を高める必要があります。

柳生新陰流に「今日の我は、昨日の我に勝つべし」との教えがあります。これは剣道が生涯にわたって修練・錬磨する「道」であることを示唆しています。当道場が今後三十周年、四十周年へと続くよう私自身さらなる修練をかさね、少年剣士の育成や剣道の普及発展に尽力してまいりたいと思います。



## 少年教育奨励賞受賞団体表彰

徳島春風館道場 青木茂生



この度は、徳島県剣道連盟のご推薦で栄えある少年教育奨励賞受賞団体表彰を頂き誠に有難うございました。徳島春風館道場は、昭和六十三年四月三十日に設立してから三十五年が過ぎました。少年

剣道の指導は、昭和五十二年から滝下勝先生の研心館道場からありますので四十六年にもなります。その当時研心館道場で指導をした方の子供、また春風館道場で指導をした方の子供、親子二代に渡り今も現在剣道の指導をしておる状況であります。

時々当時のお父さんやお母さんにお会いする時があります。先生お元気ですか？といつもお声をかけて頂きます。誠に有難い事です。おっしゃる言葉が、「子供に剣道を習わせていて大変よかったです。」と話されます。皆、立派な息子さん娘さんになられ我が子も剣道をさせているとのこと。私は、指導方針として「文武両道」を基本方針に掲げ、「三つの誓い」を唱和させております。

一つ「勉強をします」

一つ「剣道をします」

一つ「良い行いをします」

この「三つの誓い」の唱和です。

皆さん方、有名な国立大学を卒業し、立派な社会人に成長されております。今後も剣道を通して少年の健全育成に取り組み、私自身生涯剣道を目指し、指導者として「文武両道」を基本方針に掲げて日々剣道指導を行って参りたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。





## スポーツ功労賞

### 徳島県スポーツ功労賞を受章して

居合道部 森 将 夫



令和五年二月十一日、徳島県剣道連盟の推薦を受け、徳島県スポーツ功労賞（徳島県スポーツ協会）を受賞することができました。この受賞は関係皆様のご支援の賜であります。誠にありがとうございます。

ございました。

昨年十二月中旬に県の剣道連盟の事務局から「先生の居合道の剣歴を教えて欲しい」という連絡がありました。なぜこれまでの私の居合道歴が必要なのかと思いましたが、なぜこれまでの私の居合道歴が必要なのかと思いましたが、なぜこれまでの私の居合道歴を始めて今日までの事は道場長の吉岡修一先生が一番よく知っているの聞いて欲しいと返事をしました。その時は居合道の八段審査挑戦に向けて稽古に励んでいました。しかし、居合道を初めて初段合格からいままでの剣歴は道場長の吉岡修一先生もわからないかと思いい、私自身で私の居合道歴を調べました。そして、それをもって、道場長の吉岡修一先生に報告と確認に行きました。吉岡先生からは「徳島県スポーツ功労賞」の推薦に私の居合道歴

が必要との話をいただきました。

私はこれまであまり剣道に貢献しておりません。剣道には多くの先生方が献身的に剣道に取り組み、多大な功績を残されていますので、それら剣道の先生方がいただけれる賞かと思っております。ただ、剣道連盟は剣道・居合道・杖道の愛好者で組織され、三道の奨励発展をはかり、剣道理念を広く普及させると共に会員相互の親睦と融和をはかることを目的としています。

このなかで居合道は部員も少なくマイナーな部門です。居合道の普及発展の為に「徳島県スポーツ功労賞」への推薦をして、この居合道を知ってもらおう為かと思えました。私は居合道を始めたのは年齢が三十五歳で今現在は七十八歳ですので、四十三年間続けています。剣道の方は幼少の頃から始めて九十歳くらいまで続けている人が多数いると聞いています。それから見ると私は少ない年数かと思えます。

私のような者がこのような賞を受けたことに大変恐縮しています。さて私は現在七段教士として居合道部に在籍をしています。多くの先生方のご指導を受け年齢を重ねて今があります。功労者とは立派な仕事をして苦勞をした人を言います。私はただ永い間に居合道を続けただけです。また、私は居合道の現役を続けている中で一番の高齢であるだけです。この度は、居合道部員を代表して徳島県スポーツ協会功労者賞を受賞したと認識しています。

この三年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の為に施設や活動等に制約がかかり、県内外を問わず各種大会や講習会等が相次い

で中止になるなど、大変な事態となっています。居合道の技の向上に大きな痛手となりその影響を受けています。しかし、この機会に日頃の稽古の在り方を見直し、基本重視の稽古に切り替えて取り組み落ち着いた居合にしたいと思えます。その為にも、自身が健康に留意し、自己研鑽に努めながら、居合道に関わっていきたいと思います。

最後になりますが、これまでのご指導とご助言等を頂きました皆様には心より感謝申し上げます。今後更に居合道の普及発展に精進していくつもりです。



# 生涯スポーツ賞

## 赤い垂れネーム

### 生涯スポーツ賞をいただいて

小松島支部 澤 井 勝 之



昨年、傘寿の祝いとして、県高齢者剣友会より「赤い垂れネーム」をいただきました。「赤いネーム」は稽古をするとき結構目立つので、最初のころは着けるのが恥ずかしい気もしていましたが、今ではすっかり慣れて、八十歳を超えても皆さんと一緒に剣道の稽古ができる、「生涯スポーツ」の証のように思え、稽古時には進んで着用しています。

思えばこの一年間で、「赤い垂れネーム」に続き「剣道有功賞（全日本剣道連盟）」「剣道高齢者賞（全国ねりんピック神奈川大会）」「生涯スポーツ賞（徳島県スポーツ協会）」と、立て続けに身に余る立派な賞をいただきました。いずれの賞も高齢でなければいけない賞と思います。

でも私自身は年齢のことはほとんど気にせず、剣道の稽古をしていました。しかし昨年、全国ねりんピック神奈川大会の開会

式で、全く予想もしていなかった「高齢者賞」を受賞しました。この大会は六十歳以上の高齢が出場資格で、剣道の参加者は二百名を超えていましたが、この賞の受賞者はたった三名でした。そしてまた今回の「生涯スポーツ賞（2）」の受賞者は県で四名だけでした。これらの受賞を通して「ああ自分は随分と年を取っているのだなあ、でも剣道は続けられているのだ」と実感し、健康で、体力の不安もなく、皆様と稽古ができる幸せを改めて感じることができました。

県スポーツ協会の表彰規定に「生涯スポーツ賞（2）」は「永年にわたりスポーツを実践し、現在も活動を継続している満八十歳以上の者で、生涯スポーツのあるべき姿として他の模範になる者」とありますが、私は「他の模範になる者」にはとても該当しません。むしろその逆で、私の剣道の稽古の心構えとしては、宮本武蔵の言葉にある、「我以外皆我師」の精神で常に稽古に臨み、自分以外は皆先生で、年齢、段位にかかわらず、誰と稽古をしてもその相手から何かを学ぶように心がけています。

現在、私の稽古の場所は、「セント剣道稽古会（月）」「徳島支部剣道稽古会（水）」「小松島支部剣道稽古会（木）」「羽ノ浦剣道朝稽古会（土）」「高齢剣稽古会（土）」等が中心で、週三〜四回稽古をしています。どの稽古会でも若い人が真剣に相手をしてくれるのでいつも感謝をしています。また、高齢になりましたが、稽古にあたっては、歳は気にせずに、最初から最後までなるべく休まず、「一生懸命」をモットーに、気を抜かず、集中力を切ら

さず、攻めて！攻めて、なるべく先で打てるように心がけています。

昔、徳島市の旧体育館で剣道の朝稽古があった頃、九十歳を超えた先輩から「七十、八十は鼻たれ小僧、男盛りは百から百から」とよく言われたのを思い出しました。私などまだまだ「鼻たれ小僧」です。今回の受賞を機に、これからも皆さんからいろいろな事をどんどん学び、より以上の精進をしなければと思っています。

今回の受賞につきましては、県剣道連盟、県高齢剣友会はじめ長年に渡りご指導いただいている先生方、稽古相手をしていただいている皆様方のお陰と深く感謝を申し上げます。また、五十二年余の長きにわたり、毎日の三度の食事、健康管理、その他全てにおいて、ぐうたらな私を常に支え、こうして剣道の稽古が出来るのは家内のお陰と思っています。

皆様、ありがとうございます。  
今後とも、変わらぬご指導・ご鞭撻、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。おわり



全国ねんりんピック 剣道神奈川大会



有効賞、高齢者賞、生涯スポーツ賞

## 令和4年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	岩 本 響 輝	那 賀 川
2	大 和 優 星	那 賀 川
3	原 那 由 多	那 賀 川
4	尾 畑 涼 月	那 賀 川
5	平 松 政 樹	那 賀 川
6	多 田 健 人	徳 島
7	入 江 空 男	徳 島
8	富 増 奎 佑	徳 島
9	大 石 一 真	城ノ内
10	宮 田 真 吾	城ノ内
11	四 宮 真 一 郎	鴨島第一
12	佐 藤 倅 輔	鴨島第一
13	井 上 裕 貴	石 井
14	吉 岡 隼	小 松 島
15	米 崎 湧 哉	板 野

No.	女 子	学 校 名
1	山 本 実 加 子	那 賀 川
2	柏 原 あ こ	那 賀 川
3	甘 利 慧	那 賀 川
4	高 嶋 桜 子	那 賀 川
5	上 村 凌 香	小 松 島
6	小 田 有 紗	徳島文理
7	中 村 柑 菜	徳島文理
8	秋 山 鈴 奈	徳島文理
9	山 田 果 梨	鳴門市第一
10	鈴 江 海 音	木 頭
11	佐 藤 千 夏	土 成
12	谷 本 真 智 子	国 府



## 令和4年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名	No.	女 子	学 校 名
1	富 田 将太郎	阿南光	1	嶋 田 優 月	富岡東
2	尾 畑 翔	阿南光	2	小 畠 理 奈	富岡東
3	津 山 裕 也	阿南光	3	谷 村 七 海	富岡東
4	玉 垣 柊 芽	阿南光	4	鳥 澤 明 未	富岡東
5	次 原 涉	阿南光	5	坂 野 陽 菜	富岡東
6	橋 本 青 空	富岡西	6	羽 坂 愛 彩	富岡西
7	三 好 健 太	富岡西	7	森 川 風 花	富岡西
8	岩 谷 愛 夢	富岡西	8	中 尾 匂 香	富岡西
9	谷 川 俊 輔	城 北	9	伊 丹 千 尋	川 島
10	添 木 陽 仁	城 北	10	大 塚 未流依	川 島
11	原 拓 海	城 北	11	兼 松 優 那	川 島
12	茨 木 一 博	城 北	12	田 村 凜 乃	川 島
13	上 元 佑 太	鳴門渦潮	13	坂 東 星 夢	川 島
14	谷 本 英	鳴門渦潮	14	古 川 ちひろ	徳島文理
15	藤 本 豪 太	鳴門渦潮	15	播 磨 昌 美	徳島文理
16	佐 川 申乃輔	鳴門渦潮	16	東 道 仁 美	徳島文理
17	眞 貝 俊 輔	鳴門渦潮	17	金 野 結 月	徳島文理
18	沖 野 友 哉	徳島文理	18	赤 川 真 唯	城 北
19	秋 山 颯 汰	徳島文理	19	篠 原 紗 也	城 北
20	小 田 鳳 哉	徳島文理	20	岩 佐 真夏花	阿南光

# 先生を偲ぶ

## 吉田 租 先生を偲んで

徳島支部 福 多 雅 英

令和四年三月十五日。那賀町の実家から「吉田先生が逝去された」との電話がありました。四月三日生まれの先生は、もうすぐ百歳を迎えられると思っていた矢先の悲報でありましたので、本当に残念に思いました。

また、コロナ禍の為、療養中の先生に、ここ数年はお目にかかることができずになりましたので、もっとお会いしておくべきだったと後悔の念をいただきました。

ご逝去なさって一年が過ぎようとしている現在、先生とのことを回想すると、暖かい春風に包まれたような大変懐かしい気持ちになると同時に感謝の思いで一杯になります。

私の実家は、吉田先生が宮司を務められていました蛭子神社の氏子であり、祖父がかつて先生と職場の同僚であったというご縁で家族ぐるみのお付き合いをいただいております。毎年正月には家族全員で蛭子神社に初詣をした後、神社横の先生のご自宅へ年始のご挨拶に行くのが半世紀以上続く我が家の年中行事でした。

幼少期の頃より先生から、事ある毎に剣道するよう勧められ、新聞紙を丸めた棒で剣道ごっこをしていたいただいたように記憶しています。

町内にあった『振武館道場』は、館長の山家先生が高齢で休館中でしたので、スポーツ少年団でソフトボールや野球をしていましたが、中学校入学と同時に剣道を始めました。当時の驚敷中学校には剣道を指導していただける教員が不在でしたので、町会議員をされていた助岡克則先生と吉田先生からご指導をいただきました。解りやすく丁寧に、基礎基本からご指導いただき、剣道が好きになりました。先生は当時、五十歳を超えていましたが、いつも大きな声で、俊敏な足捌きから矢継ぎ早に技を出して私たちに稽古をつけてくださいました。

高校への入学についても先生から、「武道専門学校ご出身の松本一城先生がおられる」とご自分の出身校でもある富岡西高校で剣道するように勧められました。私が剣道を続けることに当初、親は否定的でしたが、先生のご助言によって、剣道を専門的に学べる大学にも進学することができました。

先生は、聖徳太子の十七条の憲法第一条『以和為貴（和を以て貴しと為す）』から「剣道する者は仲良くせなあかん」とよく言われていました。山家旗大会等での懇親会の最後は、先生の音頭で「お手々つないで」で始まる童謡『靴が鳴る』の合唱でした。おじさんばかりで、手をつなぎ合唱することに多少の抵抗はありましたが、今では良き思い出です。

先生は、徳島県剣道連盟の役員や再開された『振武館道場』の館長として剣道界に多大な貢献をされましたが、剣道関係者だけでなく、地域の人々からも親しまれ尊敬されていました。

吉田租先生は人生の歩き方を示していただいた恩人であり、今の私があるのも先生のおかげです。ご教示していただいた事を胸に精進してまいりたいと思います。心から感謝いたしますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



## 吉田 租 先生を偲んで

鷲敷振武館第三代館長 富 田 正



### 一、吉田先生と振武館

吉田先生は常々、「振武館は昭和二十一年に山家雪藏先生が故郷の旧鷲敷町百合（もまえ）に帰郷され、この地で戦後の

剣道復興への熱い思いに感動した有志や賛同する者が建設し、山家先生に寄贈した」と、そして「全国の道場、どこを探してもこのような例はない」と、先の振武館のことを嬉しそうに話されていました。

昭和三十二年十二月八日「振武館落成式及び祝賀演武大会」が県下各地から多くの剣道関係者等が集い盛大に開催され、その式次第「郎詠（祝歌）」において、先生がその時の心境を次のように詠んでいます。

「諸人のまごころ多に集め 凝り今し建ちたる振武館 はや振武館の床板強く踏みならし 鍛へ磨かむ益荒男の道」

当時、先生は総務委員という立場で振武館建設準備委員会設立から、落成式終了まで中心に関わっており、この祝歌からもこの日を迎えた歓びと、これからこの道場で多くの方と共に一生懸命稽古に励むんだという心意気が伝わってきます。昭和五十一年

一月に、山家先生が逝去されるまで、主任事（食糧営団）に勤めながら、蛭子神社神職を兼ね、振武館で日々の剣道の修練に取り組みました。なお、山家先生が亡くなられた後の振武館は衣料品工場の倉庫として貸し出し、それ以来剣道場として使用されることなく取り壊しとなりました。

昭和五十一年四月には第一回山家旗県下剣道大会が開催されました。この大会は、山家先生の武徳を慕い、丹生谷剣道の隆盛と功績を長く顕彰し剣技と剣心の向上を目的として、山家先生の門下生（吉田租、福田修明、西谷肇一、岩川正毅、野々宮真佐夫、澤井泰佳各先輩方等）の鷲敷在住者が中心となり開催に至りました。私も昭和五十年代後半から役員の一員としてお手伝いすることになりましたが、吉田先生にあっては第一回から四十数年間、ほとんど欠席することなくこの大会に携わってきました。大会を重ねる中で「開催当初は、前日参加の高校生の宿泊所を確保するために、体育館で寝泊まりできるように布団等の準備が大変だった。今、若いもんが頑張ってくれているお陰で、素晴らしい大会になった」と苦勞話を交え、いつもにこしながら私たちを労ってくれていました。しかし、この大会はコロナ禍のため、残念ながらここ数年開催出来ていません。もう少し落ち着いてくれば、吉田先生の追悼大会を兼ね開催しなければと思っています。

平成六年に、旧鷲敷町百合にB&G鷲敷海洋センターが建設され、二階第二体育館が武道場として使用することが出来るようになりました。それまで鷲敷体育館、鷲敷小学校・那賀高校など

を少年剣道教室や一般の稽古会にお借りしていましたが、これを機にこの場所を丹生谷支部驚敷支所の主稽古場としました。そして、平成九年に晴れて新「振武館」の看板を掲げることができました。本来ならば、公共の施設に私設の道場名を掲げることは大変難しいことですが、これには、吉田先生のお力添えなくしては実現出来なかつたと思います。当時の驚敷町長：助岡克則氏（剣道六段）に相談し、これまでの剣道部の功績や剣道による青少年の育成等について説き、看板を掲げることが許可されました。ちなみに、助岡町長さんは山家先生の門下生であり、剣道に対して良き理解者であったことも幸いしたと思います。なお、「振武館」の看板の文字は、元県剣道連盟会長 堀江幸夫先生（範士八段）染筆によるものです。これより正式に吉田先生に振武館第二代館長をお願いし、平成二十六年三月までの長きにわたり努めて頂きました。平成二十六年四月からは、振武館がどこの地域にあるかがよくわかるように「驚敷振武館」と改名して活動を続けていきます。先生には、館長退任後も驚敷振武館顧問として道場に足を運んで頂き、私たちを温かく見守って頂きました。この地で先生に剣道の手ほどきを受け、今も県内外で活躍されている人（現県剣道連盟副会長・西谷肇一先生、前県警察剣道師範・近藤巨先生、現県剣道連盟理事長・福多雅英先生）等、その他多くの方がいます。

## 二、先生の人となり

「お手々つないで 野道をゆけば みんなかわいいことりになって 歌を歌えば靴がなる・・・」この歌は、皆さんがよく知る童謡「靴がなる」の歌詞の一部です。私たち振武館員が親睦会等（最近ではコロナ禍で開催出来ていません）において、吉田先生が参加されたときには必ず歌っていた歌です。宴会終了近くになると、先生が「さあ、歌うぞ！」と言って立ち上がり、参加者全員が手を繋ぎ、輪になって移動しながら歌います。最初の頃は少し照れながらもありませんでしたが、いつからか「振武館の歌」と言い、当たり前のようにならなくなりました。また、山家旗大会前日の親睦会においても時々披露することがあり、町外から参加している先生方にも、手を繋ぎ輪の中に加わって頂いていました。思いのほか好評で大変盛り上がりました。先生がいらない今、先生の発声でこの歌が聞けないのは大変寂しい気がしますが、実はこの歌には先生の熱い思いが込められています。それは、「剣道に関わっている者は、お互いに切磋琢磨しながら、手を繋ぎ、協力し、いつまでも仲良く頑張ってほしい」という思いです。

## 三、先生との本当の出会い

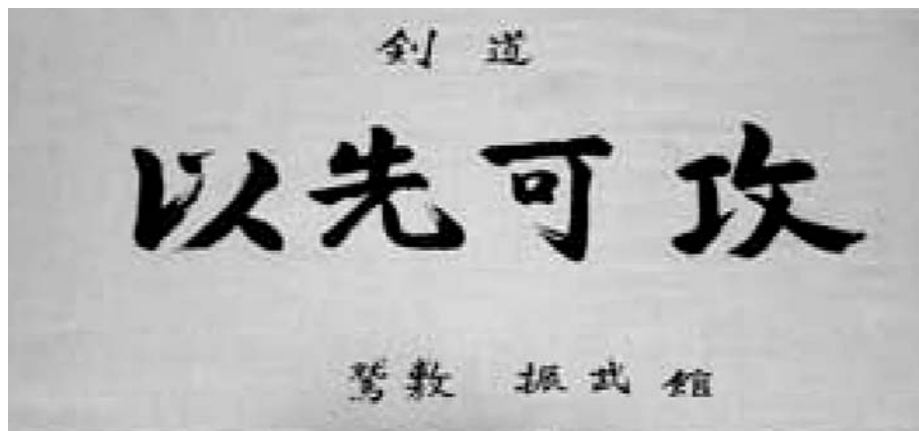
私が先生にご指導を仰ぐようになったのは、昭和五十七年四月から旧驚敷町で生活するようになってからです。と言いうのも、私自身同じ郡内で育ったものの旧驚敷町出身でなかったため、そ



れまでお顔を拝見することはあっても先生と気安くお話することはありませんでした。しかし、旧鷲敷町内で生活するようになってから、いろいろな場面で公私共にお世話になりました。特に昭和六十二年四月に鷲敷中学校に赴任してからは、放課後の部活動に毎日のように来られ、子どもたちの剣技・剣心の成長にお力添えを頂きました。「小手はこのように手首で早く打たなあかん」とよく言葉と動作で示されていたことが印象に残っていますが、それよりも、当時の私は子どもを褒めて伸ばすということがあまり出来ていませんでした。そんな指導力不足の時、側面から先生にフォローして頂いたことが多くあり、子ども以上に私自身が助けられました。本当に感謝しています。また、部活終了後には、私自身の修練のために「気剣体一致の一本が打てるように」と一生懸命稽古をお願いしました。当時、先生はすでに還暦は過ぎていたと思いますが、元気な姿で稽古を受けて頂いたことが懐かしく感じられます。そんな中で「富田君、資格ができたら今のうちに次の段位を受けなさい」「次の機会と想っていたら、その時には、仕事や体調面が原因で受けられないことがある」、つまり「今を大事にしなさい」と言いうことを教えられたように思います。しかしながら、実行ままならず日々反省ばかりです。なお、先生は私が鷲敷中学校に赴任するかなり以前から、外部指導者的立場で鷲敷中学校剣道部を指導されており、また、私が異動した後も、継続して指導を続けられていました。

このように吉田先生は、剣道をこよなく愛し、地域剣道の振興

と発展に尽力され、生涯剣道を貫きました。先生は、私たちにとっていろいろな面で目標となる尊敬できる先生でした。私たちのために温かいご指導ありがとうございました。先生のご冥福を心よりお祈り致します。



吉田先生（自筆による）



吉田先生（発案による）



中央の半袖姿が吉田先生

## 振武館道場 吉田 租先生を偲ぶ



那賀町木頭 岡 田 豊

吉田先生は、那賀町驚敷出身の先生であり、振武館道場創設者のお一人です。

初代館長 範十七段 山家 雪蔵先生

二代 “ 教士七段 吉田 租先生です。

丹生谷剣道が最も隆盛を極めた時期であったと思います。そんな中で、今から五十五年ほど前、私が中学生の頃、木頭から驚敷振武館道場へ夏の合宿に参加させていただきました。その際は山家先生、吉田先生に大変お世話になりました。また振武館道場で初段を受審した事も覚えてます。

私は、高校では一度剣道を離れ、軟式野球をやり、卒業後は地元木頭の郵便局へ勤務する事となり、再び剣道に携わるようになりました。当時は、局の先輩の原田勝先生が少年剣道を指導されていました。私も、そのお手伝いに参加させてもらっていました。が、二年ぐらいたったところに、原田先生が居合道に力を入れるため後を任せられました。それから、剣道の各種大会に参加するようになり、吉田先生にご指導頂くようになりました。丹生谷大会だけでなく、丹生谷総会の際にも稽古をつけて頂きました。また毎年木頭で開催しております、阿土剣道大会にこられた時のご指導

頂いた事を覚えています。本当にお世話になりました。話は変わりますが、ここで木頭の剣道の生い立ちを書かせていただきます。

昭和十四年秋、大澤善二郎先生が木頭和無田の自宅横に「大和塾」を建築して、青少年に剣道、女子に薙刀を教えていましたが、同十八年戦況悪化のため休止しました。戦後剣道の練習が再開され、和無田の八幡神社の境内で始まり、その後、西岡信太さんのご厚意により、木頭で唯一の劇場「木頭会館」を一日おきに貸していただけ十分な練習ができるようになりました。

しかし、会員が増え所狭しとなり、愛好者の三者一致のもとに、昭和三十二年二月より、現、役場木頭支所の場所にて、昼は保育所として、夜は剣道場として使用させていただきました。その後、そこは役場建設の為使用できなくなったことから、昭和三十七年六月、剣道専用道場が大変多くの皆様方のご協力によって建設されることになりました。

その名称を大澤先生の大和塾より二文字いただき大和錬心館と名付け、大澤先生の指導により木頭剣道の全盛時代へと向かいました。

初代館長 範士 七段 大澤善二郎先生

二代 “ 教士 七段 松本英雄先生

三代 “ 錬士 六段 雄西義春先生

四代 “ 教士 七段 松本英雄先生

五代 “ 五段 佐々木武夫先生

六代 “ 六段 松本繁嗣先生

七代 “ 教士 七段 岡田 豊

現在では、木頭学園横にありますが柔剣道場に場所を移し、「大和錬心館」の看板を掲げ日々子供達が剣道の練習をしています。

偉大な諸先生方が築き上げてきた、

丹生谷地域の歴史、伝統を今携わっている者がしっかりと受け止め、

後世に受け継いでいくことが大変重要であると考えています。

丹生谷剣道大会も六十八回を数えています。各支所持ち回りで続ける事ができております事に会員の皆様に厚く御礼申し上げます。次回は木頭でありますのでご協力宜しくお願い致します。

全国的にも剣道人口は減少しており、今木頭では小学生二名、中学生五名で頑張っています。コロナ禍になって三年が経過しますが、いまだ収束する気配が見えてきません。いつ誰がかかってもおかしくない状況ではありますが早い終息を願い、ガイドラインを守りな



がら、今後も先輩方が守り続けてきた伝統の灯を絶やすことなく剣道に取り組んでいきたいと思えます。

吉田先生、安らかにお眠りくださいませ。ありがとうございます。

## 吉田 租 先生を偲ぶ

丹生谷支部 近 藤 亘

人生百年時代。吉田先生は、正にその通りの人生を歩まれました。百歳まであと十九日の白寿であります。

私が先生に最後にお会いしたのは、コロナ禍に入る少し前でした。先生は町内の老人福祉施設に入所されており、私が面会にお伺いするとお元気で、入所者の方々と楽しそうにお話されています。その時は少しお話をして帰りました。その後間もなくコロナ禍となり、面会も叶わなくなってしまいました。

私が剣道を始めたのは、鷲敷中学一年の時です。剣道の手ほどきを宮司の吉田先生をはじめ、農協の組合長、保育所の元園長、自転車の店主、仕出し店の店主といった先生方に受けました。その先生方が入れ替わり立ち替わり来られご指導していただきました。

当時の吉田先生のごことは、はっきりとは思いませんが、一つだけ覚えていることがあります。それは試合の時であったと思います。私の打った面に「あの面はよかったよ。」と、褒めていただいたのです。私も思わず打った面であり、しかも先生に褒めていただき、二重に嬉しかったことを今でも覚えています。

私が県警機動隊で剣道の特練員（剣道特別訓練員）をしていた時に、山家旗大会（山家旗争奪県下剣道大会）の審判を依頼され

るようになりました。山家旗大会は、前日に稽古会と夜の懇親会、大会当日は早朝稽古、その後大会と盛り沢山です。

前日の稽古会に参加すると、いつも吉田先生は温かく迎えてくださいました。稽古をお願いすると、真剣な中にも慈愛に満ちたまなざしでご指導いただきました。夜の懇親会では終わりが近づくと、先生の指揮で童謡の「おててつないで」と全員が歌います。それもみんなで手を繋ぎ、輪になって宴会場をぐるぐる回りながら歌うのです。これが恒例となっていました。

開会式で国歌が流れると、先生の声はひときわ大きく、先生らしいと清々しい気持ちになったものです。山家旗大会は、昭和五十一年から現在まで長く続いています。継続は並大抵のことではありません。これもひとえに先生が影になり日向になってくださったお陰で、準備にあたる皆さんが一致団結できたのではないかと思っています。

私もいつからか先生の「和の心」を大切にされる心の広さと魅力に惹かれ、ご自宅にお邪魔してお話を伺うようになりました。ある時先生は「徳島に八段を十人つくらんといかん」とおっしゃいました。以前、堀江先生、大澤先生の三人で全国講習に参加された際、参加メンバーを見ると八段の先生ばかりで、肩身の狭い思いをされたそうです。徳島にも多くの八段を育成し、活性化させていかなければと強く感じられたそうです。

またある時、日本剣道形の話になりました。「日本剣道形の三本目は素晴らしい。相手を傷つけず、心をもって相手を制してい



る」という趣旨のお話をされました。山家旗大会の記念手ぬぐいには、いつも剣道形が描かれています。私は以前から不思議に思っていたのですが、この話をお聞きして納得致しました。

先生は年齢の違う私にも気さくに接して下さり、いつしか話に夢中になって時間を忘れていることもありました。先生は神職を長く務められ、心が清らかでありました。師を敬い、人には優しく親身に接しておいでました。

軍隊でのお話は少しお伺いした程度ですが、特に戦友には強い思いがおりのようなのでした。戦争体験を通じ、「平和」、「和の心」の大切さを身をもって体験されていると感じた次第です。

先生はお気持ち若く、驚敷の生き字引であり、もっともっとお話を伺いしたかったです、それももう叶いません。

先生、天上からこれまで通り私達を見守っていてください。長い間本当にありがとうございます。

合掌

吉田先生のご長男の道明様からお預かりしました先生のご略歴をもとに「吉田先生経歴」を掲載させていただきます。

## 吉田 租 先生 経歴

大正11年4月3日 驚敷町に誕生

〔剣道称号・段位〕

昭和40年11月22日 教士  
昭和58年5月8日 七段

〔剣道歴〕

昭和9年 旧制富岡中学校（剣道に出会い終生続ける）  
昭和25年 山家雪蔵先生門下生として稽古に励む  
昭和29年 丹生谷支部結成  
昭和51年 山家旗争奪県下剣道大会始まる  
昭和55年 全国高齢者武道大会（第2回大会以来連続13回出場）

昭和52年～昭和53年 徳島県剣道連盟 監事  
昭和60年～平成18年 徳島県剣道連盟 監事  
平成4年 徳島県体育功労者 受賞  
平成14年 全日本剣道連盟「剣道有功賞」受賞

〔職歴〕

昭和22年 食糧営団（後の徳島県食糧卸協同組合）就職  
昭和51年 驚敷町史編纂委員（昭和56年12月完成・出版）  
昭和57年5月 驚敷町監査委員（平成10年まで4期）  
昭和59年 徳島県食糧卸協同組合 退職

令和4年3月15日 99歳（白寿）で帰幽

## 磯部健治先生を偲んで

高体連剣道専門部 河野寿仁

昨年八月、我々徳島県高体連剣道専門部の仲間である磯部健治先生が逝去されました。体調を崩され、療養中だとは聞いていましたが、復帰を心待ちにしていた中で急な訃報に触れ、驚きと無念な気持ちで一杯です。

平成九年、私の勤務していた水産高校に、その春大学を卒業した磯部先生が、寮の舎監として着任されたことが、社会人としての出会いでした。磯部先生とは、中学・高校の入れ替わりの年代で、それまで直接お目にかかったり剣道を拝見したりしたことはほとんどありませんでした。しかし、高校二年生で四国高校選手権で個人優勝、三年生でも準優勝していたことは伺っていましたので、その先生と同じ職場で勤務できること、そして、先生が徳島県の高校教員を目指していることを知り、嬉しく思ったのを覚えております。先生は、初め舎監という仕事に戸惑いもあったようですが、若さと穏やかな人柄で、やんちゃな寮生たちに大変慕われておりました。

先生は、数年の講師経験の後、見事、教員採用試験に合格され、城西高校を初任校として、教員生活をスタートされました。城西高校では、保健体育科教員としてはもちろん、剣道部の指導にも熱心に取り組み、また当時は、城西高校が高校剣道の大会会場

となっていたため、会場準備や大会運営にも随分お世話になったものでした。

その後、徳島商業高校や徳島北高校で勤務され、剣道部の指導にも熱心に当たられました。その頃は、私の勤務校の剣道部とも練習試合をしたり、また合同稽古をする中で磯部先生に技のご指導をお願いしたりもしました。基礎的なことから技のバリエーションなど、名選手の指導は生徒にとって良い刺激になったと思います。また、後輩の教員の学校とも練習試合をしたり、指導の相談に乗ったりと、優しく頼りになる存在であったと伺っています。

また先生は、自身の剣道にも多岐にわたる取組をされていたよう、国際社会人剣道クラブにも所属し、国際交流大会において団体優勝・個人準優勝の成績をおさめるとともに、剣道を通じての国際交流にも貢献されていました。

徳島県高体連剣道専門部では、平成二十七年から二十九年まで副委員長として大会運営や徳島の高校剣道の向上に尽力していただくとともに、徳島代表として四国大会等の審判も何度となくお願いし、快く引き受けていただきました。また、令和三年の石川インターハイで初めての全国審判にご一緒しましたが、堂々たる審判ぶり、これからの徳島を担ってほしい存在として、とても頼もしく思ったものです。全国高体連剣道専門部執行部からも、令和四年の高知インターハイでは中心的役割を期待されておりました。

これからの徳島県を代表して全国で活躍し、徳島県高体連剣道

専門部を牽引していただけるものと思っておりましたので、ご逝去は残念でなりません。磯部先生の遺志の下、我々はこれからも徳島県の高校剣道発展のために頑張ってお参ります。

先生のご冥福をお祈りします。

ありがとうございました。

合掌



## 磯部健治君を偲ぶ

阿南支部 二反田 和 則



季節も残暑過ぎ、秋の気配感じる八月末いつもの様に朝刊を見てみると、磯部健治君の訃報 青天の霹靂で身震いと悲しさで目が潤んでいました。

令和四年一月の南部審査会の審査員で久しぶりに会い。近状を話し合い、徳島北高校の監督として奮起し元気になっている姿が目には浮かび刺激を受けました。

さて、彼との出会いは私が小学校六年時、兄の迎えによく来ていた頃、幼稚園年長で道場を元気よく走り回り磯部茂治先生に、叱られていた頃が懐かしいです。私の卒業と入れ替わりに入部し、先生のお孫さんで、剣道が好きで稽古に励んでおり、誰からも好かれ人気者でした。

そして中学生時から成長著しく県大会で団体優勝、高校生時では、富岡東高校で男子部員少ない中で、県総体個人優勝、四国総体でも個人優勝で大輪を咲かせ、大阪体育大学へ進学、卒業後教員目指し奮闘し、少剣にも稽古参加して頂き後輩を指導、多忙の中教員採用合格で共に喜びを分かち合いました。

また、昇段にも貪欲で、稽古で汗を流し合い苦楽を共に、足腰強化目的に時間見つけては、ランニングで鍛えておりました。

趣味も多彩で色んな事を挑戦しており、特に海外旅行を楽しんでおり、防具持参していたように伺い、海外でも剣を学んでいたようです。

剣風は、正剣で威風堂々としており隙のない立ち姿、技にも卓越しており、特に小学生指導では優しい眼差しで後輩に繰り返し言葉と動きで教えており、茂治先生と似ており重ね合わせて見ておりました。

過去を思い出すと走馬灯の様に、色々な場面が浮かび死を未だに信じられない私がいま、突然ふと現れるのではと・・・。

後輩が亡くなるのが、こんなに辛いとは、健治君から学んだ事を胸に剣を学んでいく事が、一番の供養だと思っております。

「健治ありがとう、安らかに」

合掌

## 名工 竹刀師 高橋國保先生を偲んで

徳島県剣道連盟名誉会長 三木 毅



### 一、はじめに

剣道を愛好する者が最も気にすることとは、自分が把持する竹刀ではないかと思われ。中でも手作り竹刀ともなると竹刀師と自己が一体となる姿が理想である。徳島県内でただお一人存在する竹刀師「高橋國保」先生には、誠に気安くお付き合いをしていただいた。そのことによって、剣士と竹刀師が一体になっていることを目の当たりにすることができた。

四つ割り竹刀は先人が編み出した芸術品である。先生の手作り竹刀はまさしく名工の芸術品である。先生は 令和四年三月二十八日、八十四歳で天に召された。先生と知り合ったのは平成十二年のことであり、二十二年間のお付き合いであった。

先生から竹刀作りを教わり、芸術品である竹刀作りを目の当たりにして、剣道家に寄り添って作業をする姿にも接した。ここに、先生に敬意を捧げつつ偲びます。

### 二、「弟子はとらん」が最初の出会い

平成十二年春、人事異動で阿南警察署に赴任した。管内に竹刀

を手作りしている人がいるということを知ることができた。私は日曜大工が好きで自宅にログハウスを自作して、出来上がって間もない時期であった。使用目的は、普通寺市で学んだ「寿老人の一刀彫り」の工房にするためであったが、竹刀を手作りするのも好都合との閃きで高橋先生宅を訪問した。

竹刀作りの最中であつたが手を休まず次々話を続けてくれた。私の訪問目的は、竹刀作りを教えて欲しいことは察知の上で、「弟子はとらん」と門切りであった。

長話をしているうち、弟子とは言わないが「普通寺市に西本という男が、よく出入りし、竹刀が作れるようになっていいる」という。先生のいう「弟子はとらん」ということについてはこうであった。竹刀作りを習いたという連中が百と来た。私の道具を使い、仕事の邪魔になる上、長続きせず誰一人と残っていないという。西本さんは例外の人という感じの話であった。念のためにと、竹刀作りをお願いしても「ノー」





であった。官舎に帰り、教えを乞う方法を考えた。結論は、道具を作って示すことだとし、再度訪問し、先生の使う道具すべてを画用紙に転写し写真撮影をさせてもらった。

まず、矯木（ためぎ）四本・台の長いカンナ・切り出し刃物・削り台・ナタであった。矯木は樫の木を調達した。台の長いカンナは市販カンナに台を継ぎ足した。切り出しはヤスリを加工した。ナタは自動車のスプリングを焼き戻して削り、今度は焼き入れをした。約一ヶ月を要して作り上げた。自分なりに自慢の品を持参のうえ先生宅を訪問した。

先生は、持参した手作りの道具を手にして「ようできとるなあ」と褒めてくれ、その日のうちに、割竹四本の提供を受け、初削りに挑戦した。うまく削れるはずがなく、その日は割竹を余分に提供してくれて自宅での削り込みの修行となった。官舎の空き部屋にブルーシートを敷き、夜な夜なひたすら粗削りの体験を繰り返した。カセットコンロで竹を温め、矯めを行い真っ直ぐな竹にして削り込みを行った。

日曜大工でカンナの使い方は知っていたので板削りの感覚で竹を削ると、削りすぎて合わし目が合わない経験をしたことを鮮明に記憶している。二年間の赴任中に先生が官舎に何回も足を運んでくれたことは竹刀作りの進歩に生かされた。

### 三、「虎徹」と「辰義」は全国区その訳

高橋先生宅に足を運び、竹刀削りの教示を受けながら、先生か

ら多岐に亘る話を伺った。先生の竹刀名は主として「虎徹」と「辰義」である。

竹刀師は剣道家と一体ということ述べたが、先生宅のファックス記録を拝見しながら、内容の説明を受けると、ファックスには、図面が記されており、柄の部の太さ、長さ、剣先の太さ、重さ、バランス、胴張と直刀の区別などなど、克明な希望が記されている。ファックスの発信元は全国に及んでいる。先生がコッコと剣士との一体感をなし続けてきたからこそ、全国に名が轟き大きな財産になったものである。

先生の竹刀は剣士と一体となって使いやすければかりでなく、とにかく丈夫で長持ちする特徴を持っている。それは竹を切り出すところから始まることを知った。すなわち、竹の吟味から始まっている。

### 四、集団竹切りに挑む

阿南警察署から本部勤務となり、疎遠となった。その二年後に退職し、民間会社へ再就職した。警察勤務と違い、土・日・祭日・年休は確実に勤務のない生活となった。

再就職のご報告を手土産に先生宅を訪問し、諸々の話を何時間もした記憶がある。その話の中で、「気安い連中十人ほどで、竹刀用の竹切りをしよう。北方（きたがた）にいい真竹があるので場所選定をして欲しい」とのことであった。この行事は必ず宿泊行事である。

早速のこと行動開始であったが、原則は、菓子折り程度のお礼で竹を切らせてもらうこと、道路に近い場所が条件である。人脈をたどるのが一番である。竹藪の所有者に近い人脈をたどり、何ヶ所かの竹藪を確認することができた。

その後、相当の回数に亘って竹切りを行った。竹切り現場では竹を割り、裏側に切った人の名前を書き込み現場作業を終え、先生が持ち帰って油抜き・乾燥をした後、個別に竹刀を作ってくれることが常態であった。

竹切りでこんなエピソードを思い出した。ある竹切りの日、食堂で昼食を取ることにした時、各自が好きな品を注文した。食事の中に先生が、次々注文して、追加の品がどんどん運ばれ、うんうん言いながら食べ終わったことがあった。ところが、食べ過ぎて昼からの作業が思うようにならなかったことがあった。お笑いやら感謝やら複雑な気分となったことがあった。

夜は、懇親会で先生の昔ばなし・竹刀作り・県外先生の話・京都演武大会の話など旺盛な記憶力をもって話に花を咲かせてくれた。

## 五、古希の祝い

先生は、平成二十六年二月十一日が七十七歳の古希であった。日頃の感謝を込めて、お礼にと「古希の祝い」として祝賀会をしようとした。先生に話すと即座に「しなくてよい」との返事が返ってきた。ところがある人達が、なにかの形を作って欲しいとの申

し出があり、思案の上「先生を囲む会」という名で会食をするこゝとで先生の納得をいただいた。

平成二十六年九月六日(土) グランドパレスで、「竹刀師 高橋國保先生を囲む会」を開催した。香川県から、西本政弘氏ほか三名、県内から遠藤一美会長ほか三十六名の計四十二名が一同に会した。

先生自身のお人柄や人徳についてはお付き合いしているうちに、先生から、両親・兄弟・生い立ち・若き日の姿・竹刀師となつての歴史などを聞いていたので、皆様にご披露することができた。結果として、先生に喜んでいただいた。

## 六、現代の名工は頑固な職人

私は、手作り竹刀は芸術品と思っている。全国で手作り竹刀師は、十人程度と言われている。近年では四国に高橋先生お一人になつてしまったと言われていた。

県外の剣道家や竹刀師の方々の知り合いから、「高橋先生の竹刀は立派な作品」と評価されていることを耳にしていた。そこで私は先生を「現代の名工」に選出してもらうべくさまざまな方面に先生の存在を宣伝し、社会的評価を高める活動が続けてきた。先生に話をする、断固として「そんな評価はいらん」の一点ばりであった。ある時は奥様同席で話をした時、奥様は「そこまで言ってくれているので、お受けしては」との意見が示された。やつと方向性が見出せたので、新聞にアピールすると、取材を開始し

てくれた。ところが、しばらくすると新聞社から私に電話があり「取材が終わっているのに、断ってきた。」との知らせがあった。うーんと唸るしかなかった。

現代の名工の決定プロセスは、原則として、地方自治体の選定がスタートであることを承知していたので。阿南市に話を通し、手続きを開始してもらった。市上層部の人が先生宅を訪ねてくれた。その人から電話があり「断られた」ということであった。

このよう経緯を述べるのは、私の自慢話としてではないことを是非理解していただきたいのです。何故なら、ある県外の先生から「徳島では、高橋先生を何の評価もしてないのか」と直接聞かされたことがあり、脳裏から離れない言葉となっていたからである。私はどうしても社会的評価を得たいという一念で実現したかったのである。

先生が持ち合わせている自論というのは「剣道界で表に出るのは、剣道家である。竹刀師は剣道の陰で支えている役目である。表にでるべきでない。これを職人という。」との頑固者一徹の論理の持ち主であった。

そこで、先生に「顕彰状」を贈りこれは受け取っていただいた。

## 七、偉業を忘れない

先生が京都から、真竹を求めて阿南市に定住したのは昭和五十年のことであった。それから四十六年間、竹刀師として多くの剣士を育てていただいた。

高校生時代から先生の竹刀を愛用された剣士の皆様は、先生との深い思い出が永遠と生き続けるはずである。剣道を支えることを貫徹した先生に万感の思いを込めて感謝し、ご冥福を祈念したいと存じます。

先生ありがとうございました。



## 竹刀師 高橋國保さんを偲んで

徳島支部 玉田晋作



ばいです。

昭和四十九年、私は阿南少年剣道教室で剣道を始めました。ほぼ同時期の昭和五十年、高橋さんは京都から阿南市見能林町に移って来られました。小学生の頃から現在に至るまで「津ノ峰」「辰義」「虎徹」「辰右エ門」と四十年以上にわたり竹刀を作っていただきました。そして、昔の先生方のことや竹刀や剣道具の話等、色々なお話を伺いました。お伝えしたいことは沢山ありますが、紙面の都合上、次の二つの思い出話を著したいと思えます。

### 一、「辰右エ門」について

私は大学を卒業後、しばらくは胴張型の「辰義」を使い、三十歳を超えた頃からは、直刀型の「虎徹」を作ってもらうようになった。しばらく「虎徹」を使っていたが、ある時期、「虎徹」の表面の竹の皮の部分の両側を削り、竹と竹の間の彫りが深い竹刀が

振りやすいことに気がついた。それからは、彫りが深い「虎徹」を特別に注文していたところ、高橋さんが「竹は表面の皮の部分が重く、そこを削ると重量が大きく落ちるので、彫りが深い竹刀を作るには比重の重い竹を選んで作らなければならない。」と言われた。比重が重いしっかりした竹で作った竹刀であるので、二年から三年使っても全然割れない竹刀であった。高橋さんは、ここにこしながら「竹刀が割れなかったら商売にならん。」と言っていた。後にそれが「辰右エ門」という竹刀になって、全国に回るようになった。高橋さんは以前、「わしが新しい型の竹刀を世に出すと、全国の竹刀業者がその型を真似するようになる。」と話していた。現在、その言葉どおり多くの武道具店で彫りの深い竹刀いわゆる「立面削り竹刀」をよく目にするようになった。

### 二、八段審査の竹刀について

私は幼少の頃より県西部のとある神社をよく参拝している。八段審査に挑戦しはじめてしばらくたった頃、神社の裏山に竹林があったので、宮司さんに「あの竹林の竹を切って、持ち帰り、竹刀にしてもいいですか？」と尋ねたところ、こころよく承諾してくれた。高橋さんにその神社の裏山の竹で竹刀を作って下さいとお願いしたところ、一度見に行ってみようということになり、二人で神社裏の竹林に入った。その竹林は高橋さんがいつも竹刀にしている真竹とは違う種類の竹であったので、作るのに苦労をかけたが、数本の竹刀が出来上がった。その竹刀は普段私が使っ

ている竹刀より少し太く、重かったが、平成二十九年十一月の東京審査にその竹刀で挑戦することにした。ある方から「八段審査は、あの立会の最中、何かが降臨しないと合格しないよ。」と言われたことがある。私が実力以上の力を発揮し八段審査に合格できたのは、その竹刀のお陰であると思っている。

最後に、私の故郷阿南に竹刀作りの第一人者がいたことを誇りに思います。そして、高橋さんの竹刀でこれまで剣道が続けてきたことを幸せに思います。

竹刀師 高橋國保さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。





## 竹刀師・高橋國保師匠を偲んで

香川県善通寺市在住 西 本 政 弘



この文章を書くにあたって、師匠と過ごした日々を思い出し製作過程をメモしたノートや師匠から聞いて作成した家系図とかを改めて見直す良い機会となり、徳島剣道連盟様には大変感謝申し上げます。私が師匠と始めて出会ったのは平成八年九月、竹刀を購入するために訪ねたのが最初の出会いでした。

師匠は竹刀を削っていました。私は初めて見る事ばかりで竹刀造りに大変興味が沸いてきたのを思い出します。

師匠と共にした時間は私にとっては大変貴重であり有難い、そして楽しい時間でした。竹刀造りを習い始めた頃は竹刀造りの技術に関して沢山の時間を掛けて教えて頂きましたが、何年かたってからは、師匠自身の、昭和二十年ごろからだと思いますが、竹刀製作所の四男としての生い立ち、また京都の多数の竹刀職人さんの日常の話がほとんどでした。竹刀製作所として良い時代も厳しい時代も経験し、今となっては、笑い話も沢山あり涙がこみ上げてくる様な話もあり、感銘と教訓を受けました。

話の内容は、本当に日常会話、例えば師匠の師匠に当たる人の大切に飼っていたインコを「踏んじやった」とか竹材を天日干し

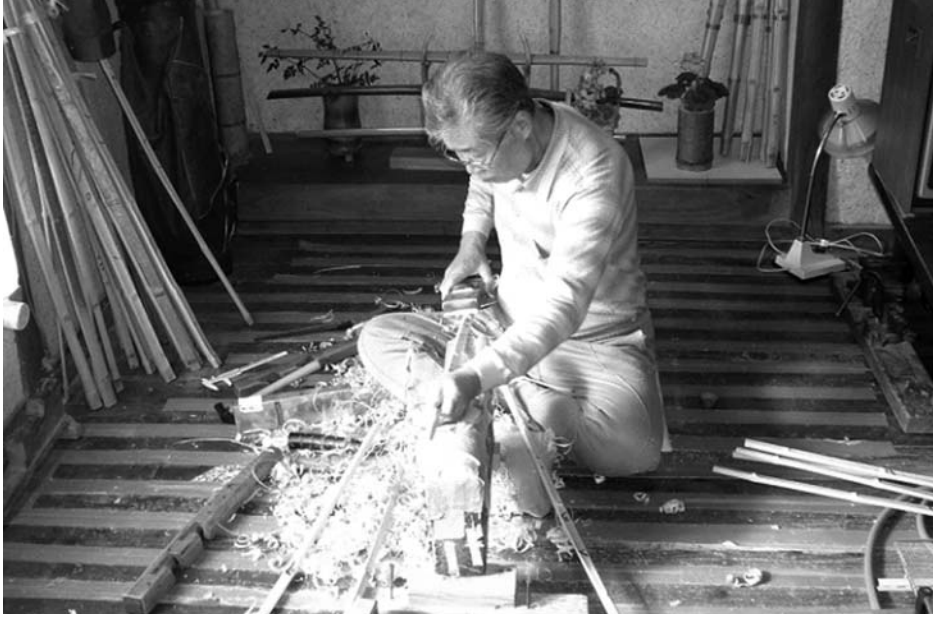
してたら雨が降ってきたので「近所のおばさんに手伝ってもらって必死で取り込んだ」とか、あの職人さんは「屋根に竹材を干していた」とか「あの人の面削りはとにかく早かった」とか、どの話も当時の竹刀製作所の日々の作業の様子が浮かびます、また昭和時代の生活観がなんとなく感じ取れました。私は二十七年間師匠の側において竹刀作りの技術は勿論のこと、人生すべてが竹刀師だったと感じております。

とにかく材料に拘り、良い材料でしか竹刀を製作しませんでした。完成した時は「この竹は苦労したけどいい材料だ」と笑顔でよく言っていました。その反面、竹刀にすることが出来ない軽い竹材を残念そうに、しばらく眺めていました。師匠は竹刀を丁寧に竹材にやさしく、特に「矯めの工程」では無理をしないで製作していたことを思い出します。

私に竹刀造りの一からを惜しみなく伝授して頂き、また根気よく私のことを見守って頂いた気がして成りません。師匠の側で技術を見ながら朝から晩まで一緒に造れた事が有り難く忘れられることが出来ません。

最後に話をしたのは亡くなる五日前でした。電話して「変わりありませんか」と訪ねると元氣そうな声で「今、入院してるんですよ。どこに入院しているのか尋ねると「見舞いには来なくて良いよ、コロナやから」と最後まで相手のことを気遣う愛情があり竹刀造りに信念を持った職人でした。

私の人生において、この師匠と巡り会えて本当に幸福だったと



高橋國保竹刀製作所 竹刀師 高橋國保さんです。

師匠の竹刀を削っている写真です。実際は竹の削り屑がこの3倍ぐらいありますが「写真撮るからちょっと片付けるわ」と言ってこれです。竹刀師は何時も竹の削りクズに埋もれているのです。

感謝しています。亡き師匠の面影を偲び再拝合唱して師匠の御冥福をお祈りいたします。

最後になりますが、師匠の写真と代表する竹刀を掲載します。



高橋國保の竹刀を代表する2銘柄

彫刻刀手彫り 竹刀銘 辰義（胴張） 虎徹（直刀）

# 全国講習会報告

## 令和四年度全剣連中央講習会報告

審判部長 富 浦 廣 志

- ・期 日 令和四年四月二日（土）から四月三日（日）
- ・会 場 神戸市立中央体育館
- ・参加者 都道府県代表者一名、全国組織剣道代表者一名

### 一、ガバナンス（管理体制）・コンプライアンス（法令遵守）の説明

中谷行道 専務理事

ここ数年のスポーツ界でも様々な不祥事が発生している。剣道会でも、もう四年前になるが、居合道の称号段位で金銭授受の事実が発覚して処分されている。居合道だけではなくて、剣道に關しても、体罰とか暴力で報道もされていて、こういったことが続くと、剣道を敬遠する人が増えかねないという危機感を持っている。

人口減少で初段合格者が激減していて、平成元年は初段合格者が六万二千人、平成三十年は三万二千人となっている。

コロナの影響もあって令和二年度は二万三千人に、令和三年度

は三万人に遠く及ばないと考えている。初段合格者数を剣道人口と考えると、激減していると言える。不祥事が発生して剣道を敬遠されると、それに拍車がかかってしまう。

剣道連盟の相談苦情窓口には、平成三十年十一月から令和四年三月までで、九十二件、匿名や実名の訴えがあった。平成三十年が十七件、令和元年度が四十八件。令和二年度と令和三年度がそれぞれ十四件と十三件（コロナの影響もあり）。中でも多いのが暴力・体罰、パワハラ。要は、立場の強いものから、立場の弱い人に対するその事実だと考えられる。

事例としては、道場の威圧的人格否定。突きの指導。先生方ご存じの通り、指導要領の第三章第四節の五番目ですか、向かい突きは、「元に慎むこと」というふうなことが明確に書いてあります。むかえ突きをされたという訴えが来ている。指導の先生方ごさちんと教えるべきであると考ええる。

### 二、新型コロナウイルス感染症対策

宮坂昌之 講師

#### ①どうやって感染するのか

どうやって感染するのかと言うと、もう皆さんよくご存知のように口から出てくる大きな飛沫と、マイクロ飛沫と二種類ある。当初、大きな飛沫だけが問題にされたが、今はマイクロ飛沫、例えば道場の中で、せっかくマスクをして稽古しても、マスクの隙間から出る小さな飛沫。これは、ずっと何十分も漂い続ける。エア

コンだけを回すと、それを全員が吸い込むようになる。神奈川で一度そういう感染が起きた。道場の大部分の人が感染した。窓をや扉を開けずにエアコンだけを回すと、そのマイクロ飛沫を結局全員が吸うことになって感染が広まる。それを防ぐのが、マスクであって、非常に有効ではあるものの完全ではない。

今日のお話でこれが最も大事なことである。感染対策を重ねれば重ねるほど強い効果がでる。例に書いてある数字が必ずしも正しいとは限らないが、例えば、双方がマスクを着用すると感染リスクは十分の一以下になる。それから、双方の対人距離が保てれば感染のリスクが二分の一以下で、室内の送風換気をすれば、またそれが半分。双方がワクチン接種を受ければ、今のオミクロンであっても感染するリスクは五分の一以下に下がる。こういう対策を全部取っている人というのは、このリスクを足し算ではなくて掛け算になるから、 $1/10 \times 1/2 \times 1/2 \times 1/5$ 、すなわち二百分の一。何も対策を講じない人に比べて、これらの対策を全て重ねれば二百分の一になる。

## ② ワクチンの効果

元々はこのワクチンは感染を完全に予防してくれると、当初は期待していた。オミクロンに対しては、なかなかその効果が十分に出ていない。最初三ヶ月から四ヶ月は効くが、五ヶ月六ヶ月で効果が下がってしまう。でも今としては、それよりいい方法がない。

ワクチンの大事な効果がもう一つ、人にうつす効果がぐんと減

る。ワクチンを受けた人は感染をしてもあまり人にうつさない。オミクロンでは若干その作用が弱いが、それでもその効果がある。自分を守るだけではなくて、人に迷惑をかけないということが大切である。

嫌な点は、コロナに罹って、軽くて済んだ場合でも多くの方に後遺症が出ている。アメリカで二十五万人コロナにかかって治った人について、どんな症状が出たか、それから何ヶ月間、何%ぐらい出たかっていうことを調べてみると、六ヶ月たっても酸素吸入を必要とする人が約六割。一般的には何らかの機能低下を示す人が四割。(疲労感、筋力低下が四割、一般的な不安障害三割。集聚力低下が二割。) こういうことが起こっている。やっぱり新型コロナウイルスはただの風邪ではない。イギリスのデータでは、コロナにかからなかった五十歳を過ぎた四百人と、コロナにかかった四百人で調べてみると、かかった方では脳の特定の容積のところが小さくなってきて意思決定がしにくくなる。決断という動作が遅くなる。それから記憶力が落ちるといえることが言われ始めてきた。これらの点は気をつけなければいけない。

## ③ 感染対策

先に言ったように、道場の窓、扉はできるだけ開放することが大事であり、空気が一方向に流れて、回ってはいけない。回ると全員が感染する。ドアや扉を閉めてのエアコン運転というのはダメである。マイクロ飛沫の対応をするには、私達の道場では工業用扇風機というのを使っている。それからマスク着用は必須。マ

スクは大きな飛沫のみならず、マイクロ飛沫、人から来る飛沫はかなり防いでくれる。もちろん隙間から入ってくるはくるのだが。高齢者はシールドをする方が望ましい。シールド自体は、マイクロ飛沫の吸入を防げないが、自分が人に飛ばすのを防ぐ。人に迷惑をかけない。高齢者の場合はウイルスをたくさん出す。シールドで万が一のことを防ぐということは大事なことだ。

接触感染はあんまり神経質にならなくても大丈夫である。心配なのは更衣室である。どこも、更衣室は狭くて換気が悪い。シャワー室、お風呂場もみんな同じである。要注意の場所と考えておく。特にマイクロ飛沫を吸いやすい場所となる。稽古でうつることはほぼない。通風換気がしっかりしてれば大丈夫である。

同じ道場で感染者が出たときに検査をしてください。PCRでも抗原検査でも一緒、見落としが三割ぐらいある。一回陰性と出ても、三割の確率で見落とされている可能性がある。このことも覚えておく。それからもちろん大人数の感染リスクは大きく上がる。道場で使っているのは腰の高さぐらいある工業用の扇風機。それを上方に向けて使う。私達の口から出たマイクロ飛沫は上にたまる傾向があるのでそれを蹴散らしてしまう。そういうふうに一方向に空気が逃げるようにしておけば外に出ていく。次にCO<sub>2</sub>モニター、私達の場合は七百という数字を一つの目安にして、その数字が保たれていれば換気は十分であるということになる。

#### ④まとめ

PCR陽性者のほとんどは感染者である。あなた陰性ですと言われても、三割見落とされている。それから、新型コロナは飛沫を吸い込むことによって広がる。だから、複数での飲食はリスクが高い。メッセンジャーRNAワクチンの最大のメリットは余病の併発を防いでくれる。コロナになると何が起きるかというのと、脳内出血を起こしやすいし、心筋梗塞を起こしやすいようなもの栓を起こしやすくなる。いわゆる生活習慣病で危ないようなもの全部、リスクが五倍から十倍高くなる。オミクロンは軽いウイルスだと言われながら、たくさんの方が亡くなっている。そのほとんどはコロナの直接死じゃない。コロナによって誘発された合併症で亡くなっている。ワクチン反対の方、あるいはこのウイルスがたいしたことないとおっしゃる方は、「コロナで死んでない」という。でも、かかった人にとっては同じ。コロナが原因で、合併症で死ぬのとコロナで直接死ぬのは、帰結は一緒、亡くなるのだから。そういう中ではやっぱり結論としては、やっぱりワクチン接種を進めていくことが一番コロナを防ぐためにはいいだろう。個人個人が「自分が感染者かもしれない」「人にうつしてしまうかもしれない」という当事者意識それが結果的に自分の身を自分で守るといことになる。最後に、ワクチン接種をしたから大丈夫とは限らない。過信をしないこと。デルタ株までのウイルスに感染していても、オミクロンは再感染することもある。それから今すぐにこのウイルスが弱体化するという保証はない。自らが感染者かもしれないと思って対策を立てることが大切である。私だ



け大丈夫ってことは絶対はない。それが周囲への感染対策になる。

### 三、女子委員会の役割・活動

各都道府県におかれまして、できるだけ早く女子委員会あるいはそれに準ずる活動の場を早期に作っていただきたいという願いを込めて女子委員会の活動報告を行います。

#### ① 剣道指導者の育成および指導力の向上

#### ② 審判の育成および審判技能の向上

各委員会の協力を得ながら、連携をとりながら進めている。

#### ③ 本年度の活動

・二月 関東ブロック講習会（コロナ禍により中止）

・各都道府県剣道連盟の女子代表による全国リモート連絡会議

#### ④ その他

・奈良県で行われた、都道府県大会において、子育て中の女性剣道の支援を目的に、保育室の設置を検討した。

・十台程度保育室を設置することができた。（コロナのため不使用）

・他の各種大会での個人戦優勝、団体戦で入賞された選手をインタビュー形式で収録し、全剣連のホームページに掲載した。

・全国リモート会議の様子もホームページに掲載した。

#### ⑤ あとがき

これからも、ホームページ、各種検証を見ていただき、全国の女性剣士の皆さんが勇気と希望を抱き、生涯剣道に結びつけ

られるよう、広報活動の活性化に努めていきたい。

また、今後の全剣連の委員会は、各都道府県の剣道連絡審議会と連携をとりながら、女子剣道や幼少年の剣道の発展を呼びかけるために、何ができるかを検討して実現に向けていきたい。

女子委員会という活動をご理解いただき、今後もご協力ご支援をいただきたい。

### 四、ガイドラインを踏まえた試合・審判の留意点

香田講師（略）

※今年度 香田先生の講習会を2回受けていますので、まとめて

P 62以降に掲載いたします。

## 令和4年度剣道講師要員「試合・審判」四国ブロック研修会 報告

徳島県剣道連盟理事長 福多雅英

日時	令和4年10月8日(土) 自 13時 10月9日(日) 至 12時	場所	徳島県徳島市 徳島県立中央武道館
役員・講師名	役員 … 会長 網代忠宏 常任理事 香田郡秀 地元役員 … 会長 藤川和秋 講師 … 塚本博之 山崎 尚 神崎 浩		
参加者数		27名	
研修項目	要 旨 ・ 所 見		
10月8日開講式	挨拶 全日本剣道連盟 会長 網代忠宏		
13:00~13:10	挨拶 徳島県剣道連盟 会長 藤川和秋		
講話	会長 網代忠宏		
13:10~13:40	審判技能について 技術は目に見えるものである。物事を上手に行うための手段・方法である。能力は目に見えないもので、物事を成し遂げる力である。技術と能力が一つになったものが技能である。技能は稽古や試合を通して培われる。試合の流れと選手の心を読み、位置取り、移動の仕方を工夫する。 宮本武蔵は著書「五輪書」で『観・見』二つの目があり『観の目』を強く、『見の目』を弱くと述べている。目先のことに目を奪われるのではなく、物事を俯瞰して状況全体を見ることの重要性を説いている。剣道においても『観の目』でしっかり見て審判することが求められる。		
講義	香田試合・審判担当常任理事		
13:40~14:15	新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法の解説 全日本剣道連盟試合・審判委員会が令和4年4月3日付で提示した「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」について趣旨と審判員と試合者が共通に理解する主な事項について具体的な説明がなされた。		
休憩	休憩時間を利用して、試合者の準備運動を実施		
14:15~14:30			
審判法実技	全講師により審判法の実技指導		
14:30~16:00	第一試合場 香田常任理事・塚本講師による指導 研修生15名を5組に分け、主審を1試合行い指導を受けた。二回実施した。 第二試合場 山崎講師・神崎講師による指導 研修生12名を4組に分け、主審を1試合行い指導を受けた。二回実施した。		
	審判員の位置取り・有効打突の見極め・鍔迫り合いの反則の見極め等について適宜指導いただいた。		
休憩	休憩時間を利用して、研修生の準備運動を実施		
16:00~16:20			
互格稽古・指導稽古	全講師により指導稽古		
16:20~17:00	第1日目終了		
10月9日	第2日目開始		

審判法実技	香田常任理事が研修の進め方について指示
9:00～11:30	試合場一カ所で、八段の研修生4名が講師役となり、七段の研修生を8組に分け、審判法実技の指導を行った。その指導に対して全講師からきめ細かい助言や指導が為された。
質疑応答	
11:40～11:50	
閉講式	修了証授与 会長 網代忠宏
11:50～12:00	研修生代表 徳島県 富浦廣志 研修生 挨拶 常任理事 香田郡秀
[ 総 評 ]	
<p>徳島県立中央武道館において令和4年度剣道講師要員「試合・審判」四国ブロック研修会が開催された。四国4県から八段4名。七段23名（女性1名）の研修生が参加し終始緊張感のある研修会が実施された。</p> <p>研修会は網代忠宏会長の講話に始まり、香田郡秀常任理事による「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」についての重点的事項の説明を受けた。審判法の実技については、全講師より審判任務の心構え・有効打突と反則の見極めについての解説や、旗のあげ方や移動の仕方などの基本動作にいたるまで丁寧にご指導いただいた。</p> <p>正しい剣道の普及には正しい審判技能の修得が必要不可欠であり、この度の研修会が四国ブロックの剣道発展の為に大きな役割を果たすものであると確信した。今後、研修で得た知識や審判技能を各県に持ち帰り拡充・発展されることを祈念したい。</p>	

## 審判法実技における指導内容

研修生 富 浦 廣 志

令和四年度剣道講師要員「試合・審判」四国ブロック研修会については、福多雅英先生により上記のように概要が報告されます。ここでは審判法実技における指導内容を以下に列記するものとします。

### ●言葉の厳選

・講習会や審判員同士の話など、有効打突について説明する時など、有効打突の要素・要件を使って説明する。

要素（間合・機会・体捌・手のうちの作用・強さと沓え）

要件（姿勢・氣勢・打突部位・竹刀の打突部・刃筋）

### 第十二条

有効打突は「充実した氣勢」「適正な姿勢」「竹刀の打突部

で打突部位」「刃筋正しく打突」「残心あるもの」

例）打突部で打突部位を捉えていたが、強さと沓えが基準に達していなかった。

・有効打突を「ある・ない」で表現しない。

審判員の価値判断であるので、「有効である・有効でない」

「基準に達している・達してない」で表現する。

### ●所作

・次回審判員の姿勢

・旗の表示（止めは真上・有効を示す際は内側に絞って肘を伸ばす）

・旗を納めて移動する際、旗の柄を出さない。  
・旗は体側に付ける。

・旗の巻き方、縦・横決まりはないが統一したほうが良い。

・旗の表示方法について、引き分けは、前頭の上。

・旗の持ち方について、柄が見えないように持つ。

・旗を揚げる場合（一本の表示）は体側の真横四十五度の角度に上げること。

・旗を解く、旗を巻く動作は三人の審判が同時に行い、主審が副審に、左の副審が右に、右の副審が主審に移動（差し込み式などで、回った場合）に旗を解くのは三人が合せる必要はない。

・「やめ」の表示は両手平行で真上に挙げる。（前方に傾く、両手が平行になっていない場合が多い）

・止めの表示は、まっすぐ真上に上げること。

・引き分けの表示は、額の前で旗の真ん中付近を交差させて行うこと。

・発声を大きく。腕の上げ方は、四十五度より高く。

・審判は、入退場を含めて摺り足で歩くこと。（ドタドタと音を立てて歩かない）

・移動の際はつま先から歩く。あまり腕を振らない。

・移動時は、しっかり前を向いて堂々と歩く。

・入退場は、三人が歩みを合せること。

・有効打突を認め、旗を上げてても、試合者から目を離さない。  
・不適切行為があるかもしれない。

・有効打突の表示はまっすぐ一直線（肘の曲がり、手首の折れに注意、挙げた時に手の平を下方に回すときれい）

・鏡を見て直す。

・審判員の誰かが有効打突の表示をした場合、他の審判員は必ず何らかの表示をする。表示がない場合は、主審は合議の上で表示がなかった審判員から意思確認をする。（表示がないものは位置取りが悪い）

・宣告時の発声は大きく明確に旗は体側に付け、旗の先が真下に向くように持つこと。

#### ●位置どり

・主審が頂点の二等辺三角形を形成すること。そのためには主審が早く頂点に立つこと。

・試合者の動きにより、副審が頂点の二等辺三角形になる場合もある。

・移動する際は、回り込まずに切れ込むこと。

・主審と副審の距離を一定に保つこと。

・選手との距離（礼の位置）を同じに保つこと。

・試合者と二人の審判員が見える位置でなければならぬ。

・上段の構えに対して副審の位置どりも、突きの見える位置へ。（少々は二等辺三角形が崩れても良い。）

・試合者の動きを先読みして移動する。

・主審が早めに動き、二等辺三角形の頂点を作り、他の審判員と試合者が視野に入るようにする。場合によっては副審が頂点になるときもある。

・三人の審判員が息を合わせ目配せなどして的確な位置どりをする。

・試合者の一方に三人の審判が偏ったときには「やめ」をかける。

・竹刀が回っていて注意をする際は、その者の竹刀を持たずに鰐元まで手を持って行って手首を回して注意をする。

・審判は、姿勢良く立ち、自然体でスムーズに動き、走ったり、覗き込むような姿勢にならないこと。(常に試合を先取りした位置取り)

#### ●見極め

・玄妙な技や練度に応じた有効打突を見極める。

・審判は、三審制であるから三人で連携して意思統一を図る。

・有効打突の見極めについて、返し胴は、刃筋を見極める。片手での胴打ちは、強さや刃えが充分であれば有効。

・打突部位を捉えていないと有効打突ではないが、打突の強さや体捌き、手の内の刃えなどは試合者のレベルで判断する。

・いい引き技は積極的に取る。

・「なし」の表示後に「有効打突」の表示に変更するなど疑義をもたれるような表示は絶対にしてない。

・審判は、常に試合者や観衆から見られている(評価されている)との認識を持ち、自信を持って判定すること。(優柔不断な動きをしない)

・有効打突の判定は、試合者の練度(大会の程度)に応じて判定の基準を変えることは当然必要なことである。(全日本選手権と県中学大会とでは明らかに基準が異なる。)

・悩んで旗を上げない。(周りから不信心を持たれないようにする)

#### ●反則

・反則の内容を説明して宣告する。

・試合者Aが場外に出た場合は、副審でも合議をかけることができる。(錯誤の可能性)

・鰐競りや分かれる際の反則、上段の者が間合いが切れていない状態で上段を取る行為等は、一回めで反則とするかどうか。

一方のチームがリードしている、一方の試合者が一本を先行している等、試合の状況も加味して二度三度続くようであれば反則として取りやすい。

一回めで合議することはかまわない。

#### 《講師要員審判指導法》

・審判員に対して、試合前に、その試合の意義意味について話をする。

・審判員が整列する前に、諸注意をしておく。



- ・試合後に、審判の評価を行う。
- ・有効打突の判定について、講師は、三本上がったも、その技の有効性について一言言う。

- ・旗が分かれた場合は、有効にしなかった審判員に理由を聞く。
- ・場合によって、聴衆に有効か無効かを聞く。試合者に直接聞くこともある。最後に講師としての見解を述べる。

- ・物打ちという表現ではなく、竹刀の打突部という。有効打突の要件、要素の言葉を使う。

- ・試合を再開するときは、「再開」と言って始めさせる。

- ・今の技は、「ある」とか「ない」とかではなく、有効打突として認めるとか認めないという表現をする。

- ・審判員の旗の表示、声の大きさなども指導する。

- ・「思う」を使わない。言い切りの形で。

- ・「一本」↓「有効」使用する。

一本だと思えます。↓私は有効であると判断（評価）します。

### 《質疑応答》

- 鏢競り合い 一呼吸（審判の裁量）

- 上段の別れ方（剣先が触れない位置）

右足、左足どちらが前でも良い。一気に別れたら問題はない。と指導していく。



## 新型コロナウイルスが収束するまでの 暫定的な試合審判法

審判部長 富 浦 廣 志

主に中央講習会、ブロック講習会内容をまとめたものです。剣道連盟から出ている資料にそって香田郡秀先生が（全日本剣道連盟試合・審判委員長）が解説したものです。以下にその口述内容を記します。

全日本選手権の試合分析では、どういふところが問題になったかという、昨年の三月の全日本選手権を見て、二対一の試合内容が多かったということで、「取られても取り返せる方法の技が増えたのだな。」と喜んでいましたが、十一月の全日本選手権では、それが減って、また前に戻ってしまいました。

そしてもう一つは、鏝競り合いになっている時間がだんだん長くなってきた。選手も慣れてきたのか、なかなか別れようとしにくい。審判員も的確に捌けない。

そして一番困るのは、試合場によってこの鏝競り合いが長かったり短かったりする、それが一番困るから何とか統一をしなければということです。

あともう一つは、審議委員の先生から、「緊迫感、緊張感が鏝迫り合いにない。検討するように」というご意見をいただき、こ

のことを検討してみたのが次の資料です。

### 資料 暫定的な試合審判法

主催大会実施にあたっての感染症予防ガイドラインの遵守（感染予防）

ガイドラインを遵守して、感染予防をしようということです。もう一つは、長年の課題であった鏝競り合いの問題。これを一緒に解決しようとしたことです。

不当な鏝競り合いおよび意図的な時間空費、防御姿勢により接近する行為の解決。

これはだいぶ良くなってきております。

以前の全日本選手権では半分が鏝競り合いに費やされていた。コロナ禍の前の学生の大会では三分の二以上が鏝競り合いに費やされてきました。これを改めて、立ち合いから攻め合いを中心とした試合展開へ移行したいと考えています。

剣道の試合にとって勝負の要素は大事ですが、姑息な勝負の仕方（方）を是正し、反則ギリギリではなくて、公明正大に真っ向から勝負する態度を養うことを意図しています。

「鏝競り合い」については、試合者の態度や心の問題が大きく影響し、規則だけで捌くのは困難です。これは今まで歴史をさかのぼって見ても、いろんな先生方がこの鏝競り合いの問題に対して「一番の剣道の質を低下させるのは鏝競り合い」と言われていました。

試合者の態度や心の問題が大きく影響しますから、規則だけで

裁くのは困難です。試合者と審判員が共通に理解し、一体となつて良い試合の場を醸成することです。

一・意図的な時間空費や防御姿勢、勝負の回避による相手に接近する行為は規則第一条に則り反則を適応する。

これはずいぶん少なくなりました。立会いの場合、ここは本来、攻防の間合い攻め合いの間合いです。ここでは防御して、なんとか鏢迫り合いに持って行って、そこから一本を取りにいく。こういう剣道が学生や高校生の試合に多く見られました。指導者もそういう指導をしていた。それでは駄目だということなのです。

二・攻防や打突行動の中で相手と接触した場合、接触した瞬間の引き技や、体当たりから技、これは発声を含みます。積極的に出す。

接触した瞬間に積極的に技を出す。勘違いをされている。鏢迫り合いからの技がなくなつたと思つていられる方がいます。逆です。技を出してもらいたい。縁を切らないで接触したら技を出す。これをまず指導してもらいたい。

また、技が出なくて鏢競り合いになつた場合は、速やかに積極的に分かれる。試合者が審判員の「分かれ」「止め」の宣告を待つのではなく、試合者双方で分かれる努力をするということです。

鏢競り合いは鏢と鏢とが競り合つて互いが最も接近して、緊迫した間合いです。緊迫した間合いを作らないといけない。それが時間空費になっている。鏢競り合いが攻防や打突行動の中から発生した相対関係であると書いてありますので、これ以外で防御姿

勢で入っていくような姿勢態度はもう反則です。

三・鏢競り合いに解消する時間はおおよそ「一呼吸」とする。

これを入れました。これはなぜかと言いますと、さっき申しましたけれど、鏢迫り合いの解消にかかる時間がバラバラで長いところがあれば短いところもある。その時間を一呼吸程度で表しています。この一呼吸で正しい鏢競り合いをやっているかどうかを見極めてもらいます。

四・相互に別れようとしている途中に技を出さない。

この場合は技を出しても有効打突としない、一方が分かれようとしているときに追い込んで打突する行為や、別れようと見せかけた行為は反則を適応する場合があります。これはいろいろな状況があるので場合がありますと書いています。また別れる途中に相手の竹刀を叩いたり巻いたり押さえついたり、逆交差をしない。

五・試合者は分かれる場合、剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。

六・分かれる場合の剣先を開いたり、下げて分かれぬ。

七・鏢競り合いを解消する場合は双方がバラバラに下がらない。

前は「しのぎを削りながら下がる」を文章に入れていたが、それをやると、どうしても徐々に徐々に下がって、これが時間空費につながる。その下がるときに、のけぞったり、相手の竹刀を押さえ込んだり、逆交差をしたりということが出てきますので、双方が徐々に下がるのではなくて、正しい鏢競り合いから鏢と鏢で競り合う、押し合う力を利用して一気に下がる。そして下がった

ときにすぐ打突の行動に移れるような気持ちを持ち、ここで気を抜かない。別れるときに気迫がないと言われるので、すぐ打突行動に移れるような気構えが必要だと思います。

八. のマスクとシールドについてはそのままです。

質問事項及び解説も更新しているところもあります。

五. の鏢競り合い解消に至るまでにおよそ「一呼吸」とする。

双方が鏢と鏢が押し合う力を利用して一気に下がる。

六. 鏢競り合いは鏢と鏢が競り合って、最も緊迫した間合いであるということが一番最初に書くことで、そういう鏢競り合いを指導していただきたいと思っています。



## 令和四年度スポーツ庁委託事業

### 「令和の日本型学校体育構築支援事業」 講師オリエンテーション(オンライン会議)を受講して

教士七段 藤 川 和 秋

令和四年度スポーツ庁委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」多様な武道等指導充実及び支援体制の強化の一環として、本支援事業の目的及び研修内容等について理解を深め、支援体制の強化を図るため全日本剣道連盟主催でオリエンテーションが実施されました。

例年全日本剣道連盟が実施している日本武道館研修センター(千葉県勝浦市)における授業協力者講師中央オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン会議として、今年度は令和四年八月二十三日実施されました。その内容は次のとおりです。

#### 一、開会の挨拶(網代会長)

#### 二、コンプライアンス及び新型コロナウイルス 感染症予防について(中谷専務理事)

○ガバナンス・コンプライアンスの全剣連の取組みの説明

○倫理に関するガイドラインに対する違反行為があった場合

・全剣連綱紀委員会規則による処分

・都道府県に懲罰規程整備を依頼

#### 三、令和三年度武道等指導充実・資質向上支援事業 の成果報告と令和四年度の実施概要(軽米委員長)

○授業協力者登録数 四、一三〇名(全国)

○中学校における剣道授業協力者の採用校 二二七校

○配当時間 八時間が最も多い。

○授業協力者の参加者は、男性が八四% 女性が十六%

○年齢層は六十歳以上の参加者が最も多い。

○段位は六段以上の高段者が八四、四%を占めた。

○授業協力者活用実践校からの回答

・保健体育科教員、管理職全てが安全に展開できたと強く思っている。

・生徒からの回答

剣道に興味や親しみを持つことができた 八六、八%で前年より減少した。問題点を分析・検討する必要がある。また九二、七%が授業協力者を肯定的に捉えている。

○まとめ

・授業協力者の指導への意識レベルは極めて高く意欲的である。

・生徒、保健体育科教員、校長等の評価は極めて高く学習効果は高い。

・授業協力者活用校での公開授業実施校をさらに増やす。

○令和四年度事業計画

・各都道府県での授業協力者養成講習会の開催(十月)



・公開授業の実施 十八県

・学習効果の分析・検証（十月～令和五年二月）

#### 四、令和三年度から全面実施となった 学習指導要領の重点事項について（軽米委員長）

○「剣道授業の展開」ダイジェスト版第四版参照

・発達の段階に応じた指導内容の理解

①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

・基本となる技

①応じ技（面抜き胴）――二年生 ②応じ技（小手抜き面）

三年生 ③しかけ技（出ばな面）三年生 等

○礼を重視する指導

・伝統的な行動の仕方を学ぶ

・日常生活における礼について

・授業での礼―相手を尊重する、自己を律する礼

・三つの礼

道場に対する礼 ②先生に対する礼 ③相互の礼 等

#### 五、剣道授業における「主体的・対話的で深い学び」 「ICTの効果的活用」（岩脇委員）

○課題の解決を行い「探究」の過程に取り組む

#### 六、新型コロナウイルス感染症予防に留意した 中学校における剣道授業の展開（手引き）と 学習指導について（軽米委員長、山神委員）

○全剣連は「新型コロナウイルス感染症予防に留意した中学校における剣道授業の展開（手引き）」を参考にして

・学習内容は新型コロナウイルス感染予防の観点から安全なフィジカルディスタンスの保持及び方向などに留意して基本動作から対人稽古へ発展し行わせる。

・剣道具を用いて授業をする場合には、剣道用具を共有することが多いことから感染の収束までは剣道具や剣道着の着用は出来るだけ控えることとし、学習内容の一つである「木刀による剣道基本技稽古法」等を活用し、指導者や相手と安全な距離を保ち剣道の技の学習を中心とした授業を全剣連として推奨する。

#### 七、剣道授業の安全について（百鬼委員）

○剣道で発生した重大事故例

○竹刀の保守点検を怠った重大事故例

○熱中症予防

#### 八、公開授業、コロナ禍での授業実践発表

○茨城県―公開授業（剣道具着装での授業例）（ICTの活用）

## 鴨島東中学校における剣道授業の風景



生徒3人が有効打突の判定を実施



タブレット（ICT）を活用し自分達の動きを確認

### 九、公開授業の実施計画調整・アンケート調査依頼

### 十、閉会の言葉（網代会長）

○全国で公開授業十八か所の予定。

○アンケート調査は調査用紙でなく新たに回答者本人のスマートフォンやタブレットそしてパソコン等を用いて質問に答える形式とする。

以上講習内容を基に徳島県剣道連盟は令和四年十月四日（土）に松茂町第二体育館に県下中学校八校に派遣する授業協力者二十名を招致し、県下の授業協力者養成講習会を開催した。

その結果、徳島県の方針として全剣連が推奨する「木刀による

剣道基本技稽古法、基本一、基本二、基本五」を面、小手の剣道具を装着しない（胴、垂れのみ着装）方針で授業展開することを決定した。

また可能な限り生徒に与えられたタブレット（ICT）を効果的に活用し

○自分達の動作（姿勢・動き）を客観的にみる

○示範の動きとの違いを見付ける

など、自分達の課題の解決を行う「探究」の課程にも取り組みさせることを決定した。

# 剣道に役立つ医学知識

## 口呼吸を防ぐために

く呼吸を制する者が人生（剣道）を制するく

歯科医師 安田勝裕

口呼吸を防ぎ、鼻呼吸を得るための「口唇テープ」と「あいうべ体操」の話をします。

「口は食べ物をとるところで息をする場所ではありません」  
「鼻が息をするところです。口で息をするのは鼻から食物を入れるのと同じです。口を呼吸に使うのをおやめなさい  
息は吸う方も吐く方も鼻だけを使うように」

五木寛之

「間違った食事をして健康な人はいるが間違った呼吸をして健康な人はいない」

アンドルーワイル博士

まず最初に「口唇テープ」の話をします。睡眠時に上下の唇をテープで貼って、口を開かなくする行為です。セロハンテープで

もいいのですが、肌荒れしないためドラッグストアで専用テープの購入をお勧めします。

## こんな症状改善!!

- いびきをかく
- 疲れが取れない
- 寝覚めがすっきりしない
- 起きたとき、喉がイガイガする
- 朝起きたらだるい
- 寝つきが悪い
- 日中、睡魔に襲われる
- 風邪ひきやすい
- 口をポカンと開けている
- 口臭がある
- 倦怠感がある
- 食べ物が飲み込みづらい
- 寝ているときに喉が渴きやすい
- 便秘が続く
- 体温が低い
- 気力がない
- 唾液がねばつく
- 歯にすぐ着色する
- 歯肉が腫れやすい

集中力が続かない  
鼻が詰まりやすい

こんな病気を改善!!

アトピー性皮膚炎

花粉症

睡眠時無呼吸症候群

喘息

リウマチ

高血圧

口内炎

虫歯

歯周病

歯肉炎

過敏性腸症候群

掌蹠膿疱症

かゆみ

糖尿病

頭痛

湿疹

不整脈

夜間頻尿

うつ病・パニック障害

副鼻腔炎（蓄膿症）・後鼻漏

肩こり・首コリ

ドライマウス

口唇閉鎖不全症

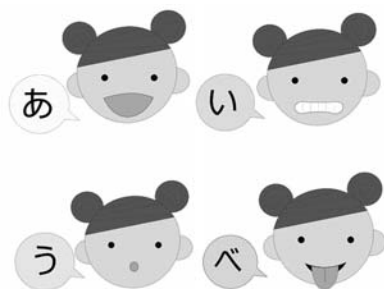
鼻は天然マスク。介護状態になる前にはオーラルフレイルという口腔機能の低下する状態に陥ります。そのため口腔筋機能訓練（MFT）が必要になります。

一口三十回嚙むというのも、その一つですが、一番簡単にコストパフォーマンスが良いのが、「あいうべ体操」です。

「あいうべ」の誕生は「あいうえお」でも良かったそうですが、舌の状態、位置がとても大切なので、それを強調する意味でも「べ〜」が大事なようです。

「あいうえ」と間違えられることもあります。「べ〜」の重要性を説くと納得してもらえます。簡単でどこでも出来るし、覚えやすいのでどこでもやってくださいと患者さんに勧めています。コツは、限界運動でやってください。一セット三十回で、一日三回行うと、かなり効果があります。やってみてください。

<https://12.wp.com/mirai-iryu.com/wp-content/uploads/2019/05/aiube-1.png?fit=650%2C650&ssl=1>



# 各種大会に参加して

## 第十七回全国都道府県対抗

### 少年剣道優勝大会で学んだこと

水口新汰



僕が、全国大会に出て感じたことは徳島県チームと他県のチームを比べて、気迫や仲間への声掛けが全然違っていたことです。また、個人のだめだったところは、二試合とも同じ技を打たれたことです。ぼくは、県代表で試合に出たのに「これ以上は出来ない。」と言う試合が出来なかったことが、とても悔しかったです。

全国大会前に四国の代表チームで行った練習試合でも、今回全国優勝を果たした愛媛県チームは、同じチームの仲間との声かけ、一人一人の気迫がとてもすごかったで

## 第17回 全日本都道府県対抗

# 少年剣道優勝大会



と き 令和4年9月18日(日) 午前9時開会  
と ころ おおきにアリーナ舞洲 (舞洲アリーナ)  
主 催 全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会実行委員会(大阪府、公益社団法人大阪府剣道連盟)  
後 援 スポーツ庁、大阪府、大阪府教育委員会、公益財団法人全日本剣道連盟  
公益財団法人大阪府スポーツ協会、大阪市スポーツ協会

スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

す。それに、一本一本に思い切りのある技を打っていて、尊敬するべき剣道をしていました。

試合が遠のいていたことで、勝手にこのくらいいいだろうと考えていて、必死に勝負をすること、全力を出し切る気持ちの

強さが足りていませんでした。

僕はこれから、大会で学んだことを活かして強くなれるように頑張って、中学校で全国に通用する選手になれるよう頑張っていきたいと思います。





### 小学生の部 - リーグ予選

#### Mリーグ

	徳島	長野	茨城	得点	勝者数	総本数	順位
徳島		0/0	1/1	0	1	1	3
長野	2/2		1/0	1	2	3	2
茨城	7/4	7/4		2	8	14	1

#### 第7会場 - 1試合目

	M-1	徳島		M-2	長野
先鋒		日和田 碧	引分		上原 紗月
次鋒		藤井 陽斗		◎	高藤 暖真
中堅		水口 新汰		◎	中村 芽生
副将		榎本 蘭	引分		小林 大峰
大将		河田 蒼生	引分		永井 詩音

#### 第7会場 - 3試合目

	M-1	徳島		M-3	茨城
先鋒		日和田 碧		◎ × ▲	木村 敬司
次鋒		藤井 陽斗	◎ ▲		中村 康志
中堅		水口 新汰		◎	河田 侑磨
副将		榎本 蘭		◎ ×	師岡 亮太
大将		河田 蒼生	▲	◎ ×	清水 教介

# 全日本剣道連盟設立七十周年記念

## 第七十回全日本都道府県対抗

### 剣道優勝大会に出場して

監督 福 多 雅 英

令和四年四月二十九日に大阪府大阪市のエディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）にて表記大会が開催されました。コロナ禍での全国大会でありますので、選手をはじめ役員・審判員等の参加者全員に抗原検査を義務づけ、観戦者数を限定するなど感染対策がとられていました。

大会の参加資格は、『各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。』となっております。次の区分によって選手構成がされています。

先鋒 高校生  
次鋒 大学生

五将 年齢十八歳以上三十五歳未満の者  
警察職員・教職員

高校生・大学生を除く  
中堅 教職員の者、年齢に制限なし

三将 警察職員の者、年齢に制限なし  
副将 年齢二十五歳以上の者、警察職員・教職員を除く

大将 年齢五十歳以上、剣道教士七段以上の者

このような選手構成で試合が行われますので、高校生・大学生をはじめ幅広い年齢層や職域での競技力が問われます。本県チームは、大会に向けまして、第六十六回大会でのベスト八入賞を目標に、コロナウイルス感染症対策を行いながら毎週木曜日に強化稽古会を実施してまいりました。選手全員参加による稽古会や例年実施していた県外への出稽古は実施できませんでしたが、選手は与えられた環境の中で各自で意欲的に取り組みました。

試合は一回戦で鳥取県と対戦し、各対戦ともに均衡した試合で、内容的には、十分に勝機はありましたが、力及ばず残念ながら敗退いたしました。試合成績につきましては次の通りであります。

#### 一回戦

徳島県 1 (3) - 3 (6) 鳥取県

先鋒 尾畑 (阿南光高校) × 板見  
次鋒 河野 (中部大学) ーメメ 加藤  
五将 松本 (四国電力) メメー反 上田  
中堅 白木 (川島高校教員) ーメ 徳村  
三将 山本 (徳島県警察) × 佐々木  
副将 日和田 (吉野川市役所)

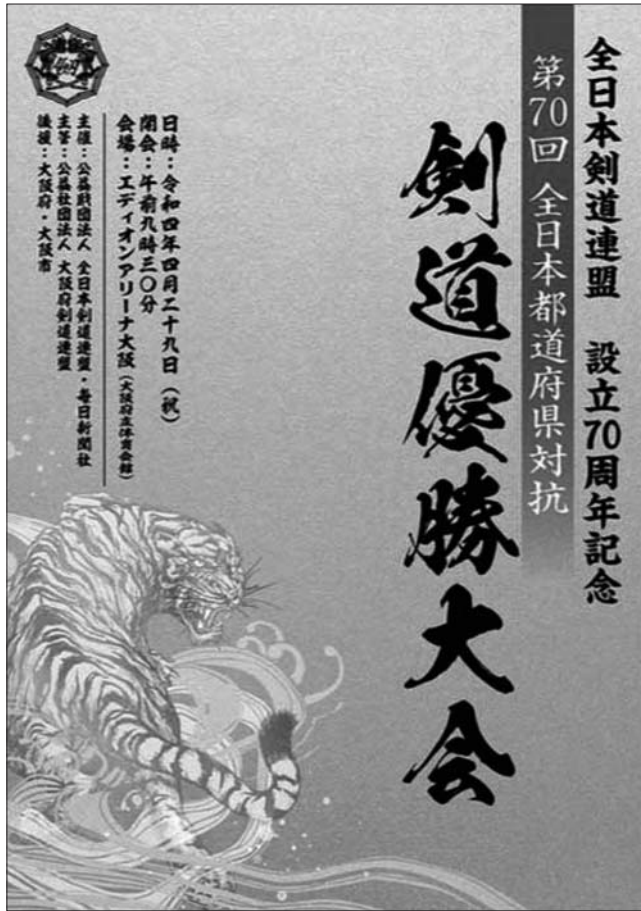
大将 玉田 (徳島文理中高教員) × × 前村

ーメ 石上

本大会を振り返り今後の課題として、まず考えられますのは、県予選会での参加者が少ないことです。多くの参加者が鎧を削り試合をすることが競技力の向上につながります。残念ながら、本年度は、コロナ禍により予選会に参加できない職域の選手がいたり、日程上、県外の大学生の参加が大変厳しい状況にありました。予選会出場者が多く参加しやすい日程設定等を考え、有望な選手の発掘を含め、各支部や各職域の先生方のご支援とご協力をいただきながら、取り組んでまいりたいと思います。

また、選手強化につきましては、高校生・

大学生をはじめ幅広い年齢層や職域での選  
手による大会でありますので、高体連・大  
学連とも連携を深め、強化部の先生方を中  
心に競技力の向上を目指した稽古会を継続  
的に実施して行きたいと考えています。



全日本剣道連盟より画像提供





# 全日本都道府県対抗 女子剣道大会に参加して

監督 白 木 洋 一

令和四年七月十日、東京・日本武道館で第十四回となる全日本都道府県対抗女子剣道大会が開催されました。この大会は、全日本剣道連盟設立七十周年記念として実施されることになり、例年五人制の団体戦を七人制に行われました。

本県選手団は先鋒「谷村七海」選手（富岡東）、次鋒「山室愛子」選手（大阪体育大学）、五将「松本美紗樹」選手（警察支部）、中堅「長地千景」選手（阿南支部）、三将「前田奈々枝」選手（阿波支部）、副将「金野裕美」選手（徳島支部）大将「竹内佳代子」選手（鳴門支部）の七人です。試合は一回戦シード、二回戦からの試合となりました。一回戦で兵庫県に勝利し勝ち上がりました。一回戦で埼玉県に勝利し勝ち上がった埼玉県との対戦です。埼玉県は、副将に全日本選手権や世界選手権を制した村山千夏選手が出場しており、一回戦を手

強く勝ち上がってきました。

埼玉戦の結果は五対一で負けましたが、強豪相手に真つ向勝負をして、内容的にもひけを足らない試合ばかりでした。

コロナウイルス感染症の影響で十分な強化稽古が実施されない中、出場選手は意識を高く持って自身の稽古に励んで頂いたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

以前にも書きましたが、徳島県選手の間にも引けをとらないものがあります。改めて一人一人の持っている力は十分 nationwide 通用するものがあると感じました。



最後に、今大会に向けてご支援をいただいた全ての方々に感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

## 第14回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将
埼玉県	花塚	菊池	小川	加藤	清水	村山	市村
	⊗	⊗ 一本勝	⊖ ⊗	⊗ ⊗	⊖ ⊗	⊗ 一本勝	
徳島県	⊗ ⊗						
	谷村	山室	松本	長地	前田	金野	竹内

### ○先鋒 谷村 七海

本大会に私は先鋒として参加させていただきました。憧れの場所である、日本武道館で試合ができたことを誇りに思います。

監督の先生をはじめ、チームの皆様には温かくしていただき、なかなかできない貴重な経験ができました。先輩方の声かけのおかげで、落ちついて普段通りの自分の剣道をする事ができたと思います。

またいつか、日本武道館で試合ができるようにこれからも努力し続けます。

### ○次鋒 山室 愛子

大学生になり、初めての全国大会での舞台となりました。都道府県大会は、過去に両親、そして昨年兄も出場したので、自分も出場できたことがとても嬉しかったです。

試合当日は、会場の雰囲気になんか緊張しましたが、周りの方々の支えがあったお陰で、全力で試合に臨むことができました。

残念ながら、埼玉県に敗退してしまいましたが、最後まで諦めず、全員で試合ができたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も目標を高く持ち、さらに精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

### ○五将 松本美紗樹

二年ぶりに全日本都道府県対抗女子剣道大会が開催され、全国から集結する女性剣士の方と竹刀を交え、刺激をもらうことができました。私は、剣道を始めて二十一年目になりますが、このような大会に参加することで、新しい技術などの発見に繋がるため、剣道の面白さを実感し、これからも強くなりたいという意識を高めることができました。

新型コロナウイルスが流行し、稽古方法も制限されている環境ではありますが、各選手の方々と切磋琢磨し、自分の剣道を磨いていきます。

### ○中堅 長地 千景

全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加する貴重な体験をさせていただきました。全国のレベルの高さを目の当たりにし、自



分の未熟さを痛感しました。しかし、それ以上に得られたものがあります。チームの仲間と協力、励まし合って試合に挑んだことが財産となりました。また、試合を組み立てる難しさ、打ち込む勇気など大切なことをご指導いただける機会ともなり、大変ありがとうございました。次の目標に向けて、稽古を続けていきます。

### ○三将 前田奈々枝

今年の大会には、三将として出場しました。なかなか稽古に参加することができませんでしたが、参加できた時には、福多先生・白木先生がつきっきりで稽古をつけてくださりました。今回は、チームの足を引っ張ってしまい、指導してくださった先生方へ良い報告をすることができませんでした。この大会の悔しさを忘れることなく、また一から出直し稽古に励みたいと思います。

### ○副将 金野 裕美

大会に出場することができ一番良かった

ことは、試合に向けてチームの仲間と充実した時間を共有できたことです。同じ目標に向かって、各年代で身体の調整をしながら、出来ることを一生懸命してきました。その時間が、私にはとても貴重で有意義なものになりました。

試合では、強い人と試合をさせて頂きました。『しなやかで柔らかい構えからの攻防』に見えて、『相手を自分の間合いに入らせない剛毅な構え』だったんだという、見ているだけでは分からなかった事を体感してきました。結果は残念でしたが、久しぶりに全国の仲間にも会えて刺激をもらい、次の目標に向かって進もうと思いました。素晴らしい経験をさせて頂き、心から感謝致します。ありがとうございました。

### ○大将 竹内佳代子

まずは、久しぶりに日本武道館で試合ができたことがとてもうれしかったです。自分自身の試合内容としては、良くもなく悪くもなくといった感想ですが、五分間がとても短く感じたので、自分なりに集中で

きたのかなと思います。一本にする難しさを改めて感じるとともに、その一本を求めて攻めしのぎ合う楽しさも感じるようになりました。

そして何より楽しかったのは、試合に向けての練習です。白木先生ご指導のもと、チームの仲間と同じ目標に向かって、共に汗を流した時間は、私にとってかけがえない時間となりました。

様々な稽古の機会を作っていただき、いろいろな方のご配慮のおかげで、私たち選手は大会に向けての練習にだけ専念することができたことにも感謝しています。ありがとうございました。

## 第三十一回全国高等学校 剣道選抜大会に出場して

富岡西高等学校 監督

上 田 宏 司

全国高等学校剣道選抜大会は富岡西高校にとっては実質第二十四回大会以来七年ぶりの出場となりました。実質といえますのは、二年前の第二十九回大会はコロナ禍のため大会が中止になったためです。十一年前には女子チームが常勝の富岡東高校に勝利し出場権をいただきましたが、東日本震災で中止となりました。そのため、無観客開催とはいえ大会開催決定に選手とともに喜び合いました。

ここ数年の富岡西チームは優勝の狙える力は持っていると感じてはいましたが、県内のチームの力が拮抗しており、どこが優勝するかわからない状態でした。特に富岡西は選手全員が優しくのんびりとしており、公式戦になると緊張し実力を出しあぐねていました。「戦う集団」としての自覚を作

るために「全国大会に行きたいんだ」という欲求を強く持たせました。

新チームは橋本キャプテンを中心にまとめ、「このチームで全国へ行こう」が合言葉になっていったように思います。そして、予選会を兼ねた新人大会に優勝して、文字通りチーム全員（二年 橋本青空、岩谷愛夢、三好健太、一年 羽坂颯真、岡崎進平、川口寛太、細川賢真）七人で全国大会への出場を決めました。

全国選抜大会の対戦は東福岡高校でした。超激戦区の福岡県のチームです。そして、剣道のみならず、ラグビー、サッカー、バレーボール等多くの種目で全国のトップを狙えるレベルのスーパー高校でした。対戦が決まったときは、練習試合ではなく全国トップレベルのチームが真剣勝負してくれる機会に恵まれ、選手にはいい経験になるなと思えました。「どこまで食らいつけるか」と試合に臨みました。勝てるかと思わずに私はリラックスしておりました。しかし、始めてみると、先鋒からよく粘り、集中して力の限りの試合運びとなり、大将

戦を残して中堅の一本負けのみで、後は引き分けでした。平常心は大事だなあとつくづく感じました。急に欲が出てきて、「橋本よたのむ。おまえならもしかしたら」と緊張してきました。大将戦の中盤「ドカーン」橋本の出鼻面が炸裂しました。思わず大声が出、すぐ隣の審判主任に謝ったほどの面でした。この一本は今でも頭に焼き付いています。残り時間わずかです。浮いたところを打たれ引き分け。○対一での敗退となりましたが、チームの気持ちのこもった粘りと、橋本の打ち上げた大きな一発は、「来て良かったなあ」という生徒の気持ちを「また来たい」に変えるものでした。

ここまで選手を育てていただいた小学校、中学校の先生方や指導者の皆さん、熱心に協力していただいた保護者の皆様ありがとうございました。

平成二十七年より大石正志先生より監督のバトンを引き継ぎ、自分の指導力不足を痛感しながら試行錯誤の繰り返しで数年でした。これからもいろいろな方のお世話になりながら、指導されながら、指導して

いきたいと思います。今後とも、富岡西高校の剣道部のご指導よろしくお願いいたします。



## 全国高校選抜大会に出場して

富岡東高校 小 畠 理 奈



令和四年三月二十六日から二十八日の三日間、愛知県春日井市総合体育館にて第三十一

回全国高等学校剣道選抜大会が開催された。

二年連続の入賞を目指していた私たちは、張り詰めた空気感の中、私の「黙想」という号令から前日練習を始める。少し緊張していたが、竹刀を握る手の感触や体の動きは悪くなかった。昨年八月、先輩方が引退され新チームになってから、より力をつけるために多くの県外遠征を経験し、技術面や精神面を鍛えてきた。そして毎日、この全国の大舞台に立つ自分を、その瞬間をイメージした。今まで必死になって取り組んできた、その「普段通り」を実践することできたから、会場の独特な雰囲気にも飲まれることはなかった。私にとっては初め

での全国大会。徳島県の代表、富岡東高校の主将としての重みをプラカードで感じながら、全国という大舞台に立てた喜びを胸に堂々と入場行進を行った。

大会当日、一回戦の相手は岐阜県代表の済美高校。初戦の立ち上がりが悪いということが課題である私たちは試合前、お互いに声を掛け合うことでリラックスし、全員で円陣を組み、気合いを入れた。結果、厳しい戦いにはなったが、次鋒の一本を最後まで守り切り、なんとか勝つことができた。正直ほっとした。今までの試合では、肝心なところで取り切れない場面が多くあり、チームメイトに頼りすぎていた。私のこの一本が勝敗を決めたのだと考えると、嬉しい気持ちと、次もまた「もう一本」とそんな負けん気が湧いてきた。全員で気持ちを作り直しての二回戦。相手は広島県代表の市立沼田高校。戦法の一本勝で勢いをつけると、中堅・副将で勝負を決めた。全員がとても良い状態で挑むことができたと思える試合だった。目標の最低限であるベスト十六。少し安心したところもあるが、まだ

自分たちの戦いは終わっていない。「もう一つ上へ」明日に向けて体と心を休ませた。

大会三日目。三回戦の相手は大分県代表の明豊高校。試合前、またいつもと同じように声を掛け合い、チームの指揮を高めた。先鋒は良い場面を作るも一本を取り切れず引き分け。次鋒・中堅と相手に取られ、副将の引き分けで勝負が決まってしまった。大将は結果がどうであろうと自分の剣道をしようと、最後まで諦めずに戦った。二年連続での入賞とはいわず、悔しい結果に終わってしまった。しかし、この三日間で勝負することの難しさ、また自分たちの実力の無さを改めて実感した。「もっと強くなりたい」と心から思った。この大会が終わり四月になれば新入生が入ってくる。選手層はより厚くなり、レギュラー争いも激しく、厳しいものになるだろう。でも誰にも負けたくない。もう一度みんなと試合に出たい。この悔しさをバネにインターハイに向けてまた一から頑張ろうと思った。

決して、楽しいことばかりではなかったけれど、この三年間でたくさんを経

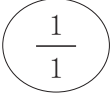
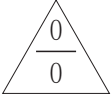
験し、人間的にも大きく成長することができた。部活動を引退した今、「富岡東高校を選んでよかった」と胸を張って言える。

先生方・仲間・支えてくださったすべての方々と共に歩んできたこの時間を一生の宝物にしたい。


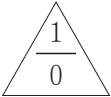


## 試合結果女子（富岡東）

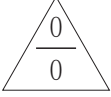
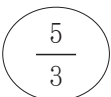
### 1 回戦 第四試合会場 1 日目 第13試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果				
富岡東 (徳島)	鳥澤	小島	谷村	平田	嶋田					
	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						引き分け	メ	一本勝	引き分け
済美 (岐阜)	佐藤	鈴木	高瀬	松本	山田					
	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						引き分け	メ	一本勝	引き分け
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒					

### 2 回戦 第四試合会場 1 日目 第16試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果				
富岡東 (徳島)	嶋田	小島	平田	鳥澤	谷村					
	▲ ド	一本勝	引き分け	メ	一本勝		▲ コ	引き分け	引き分け	
市立沼田 (広島)	永田	二宮	中間	山下	古谷					
	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						引き分け	メ	一本勝	▲ コ
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒					

### 3 回戦 第五試合会場 2 日目 第2 試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果						
富岡東 (徳島)	嶋田	小島	平田	鳥澤	谷村							
	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						引き分け	コ	一本勝	メ	コ	引き分け
明豊 (大分)	芦田	浦邊	小中原	後藤	奥							
	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>						▲	メ	コ	▲	コ	コ
試合時間	4分0秒	4分0秒	3分55秒	4分0秒	3分8秒							



## インターハイに参加して

阿南光高校 富田 将太郎

私は三年前「阿南光高校剣道部で全国大会に出場したい」という思いで入学しました。入学後は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、日々の稽古に励んできました。しかし、チャンスをものにすることができず、あと一步のところまで全国大会出場を逃してきました。そして、この県総体が高校三年生として出場できる最後の大会でした。チーム一人ひとりが、「絶対負けない」という強い思いを持って試合に臨みました。初戦から接戦となりましたが、気持ちを切らすことなく戦いました。準決勝では、先鋒から大将まで引き分けて代表者戦となりました。私が「チームを勝たせたい」という思いで臨み、勝利することができました。そして決勝戦では、先鋒尾畑、次鋒津山の活躍で二対一と勝利し、優勝することができました。

インターハイ出場が決まってからは、現

状に満足せず、より高いレベルを目指し、毎日の稽古に励みました。インターハイは、八月五日から八日まで、高知県春野総合運動公園体育館で開催されました。開会式では、徳島県代表として出場できた喜びと誇りを胸に参加しました。

予選リーグは、帝京第五高校と高松商業高校の四国同士の対戦となりました。初戦の帝京第五高校には、四国大会決勝で敗れていましたが、誰一人として気後れすることなく、インターハイという大舞台で勝利することができました。また、初戦の勢いそのまま臨んだ高松商業高校との試合は、自分たちのスタイルで試合を進めることができ、勝利を収め予選リーグ二勝で決勝トーナメント進出を決めました。この二勝は、部員全員の思いを団結させ、選手それぞれが自分の役割を全うしたことで手に入れた結果だと思っています。

決勝トーナメント一回戦は、神奈



川島の東海大相模高校との対戦でした。出場した選手全員が持てる力を十分発揮しましたが、一対三で敗れベスト十六という結果に終わりました。しかし、敗れはしました。悔いを残すことなく試合をすることができました。

私たちがここまで来ることができたのは、多くの方々の支えがあったからこそだと思います。日々熱心に指導してくださる先生方はもちろん、互いに切磋琢磨し、研鑽し合った仲間、そして保護者の皆さまの応援のおかげだと思います。また、あこう剣志会の先輩方が、仕事の合間を縫って練習に参加して下さったり、差し入れをして下さったりと本当に温かく心強いものでした。

最後に、私たちが技術面だけでなく人間として成長することができたのは、ご退職された佐々木和人先生、岩原先生や南谷先生の厳しくも温かいご指導のおかげです。目標を成し遂げた時の喜びや、「生活即剣道、剣道即生活」の大切さを学ぶことができました。

より高いレベルを目指すためには、日々

の稽古に明確な目標を立てて取り組まなければなりません。また強くなるためには、明るく覇気がなくてはならないことなど、三年間剣道部で学んだ全てがこれからの人生の財産になると思います。後輩たちには、前身の阿南工業高校から受け継がれてきた伝統を絶やすことなく、更なる高みを目指してほしいと願っております。

今まで応援して下さい下さった皆さま、本当にありがとうございました。



## 全国高等学校

### 総合体育大会に出場して

富岡東高校 鳥澤 明 未



令和四年八月五日〜八日、第六十九回全国高等学校総合体育大会が、

高知県で開催され

ました。私たちは、徳島県予選で八年連続、三十六回目の優勝を果たし、全国の切符を手に入れました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が拡大する厳しい状況の中、出場できることが当たり前であったわけではありません。改めて、今大会開催のためにご尽力いただいた関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

大会一日目の個人戦には、本校から谷村と私が出場しました。一回戦、谷村は高知県高知高校の楠岡選手と対戦し、延長戦の末、突きを打たれてしまい惜しくも敗退しました。私は、愛媛県丹原高校の岡田選手

と対戦、後半に打ち落とし面で一本勝ちし、二回戦、石川県星陵高校の野口選手との対戦は、延長で飛び込み面を取り、勝ちました。三回戦は、岡山県岡山商大高校の鹿毛選手と対戦し、竹刀を下ろしたところに面を、続いて相面をとられてしまい、敗退しました。各県代表選手と剣を交えて見えてきた反省点をかみしめ、翌日の団体戦に切り替えていこうと思いました。

迎えた団体予選、初戦の相手は広島県広高校でした。試合前に円陣を組み、みんなを腰を叩き合せて気合を入れて臨みました。先鋒の私は、「チームの流れをつくる」と心に決め、積極的に攻め、出鼻面を決めて一本勝ち、中堅の中村は引き分け、副将の平田は面を取られ一本負け、大将の谷村が引き分けて、二―一で勝利しました。

予選二回戦は、広高校に逆転勝ちして勢いづく山梨県甲府商業高校との対戦でした。「勝って予選突破あるのみ」と、私は初太刀から攻めていきました。間合いをつくった瞬間に飛び込んで打った小手に、主審の旗は上がりましたが、相手が打った面に両

副審の旗が上がり、一本を取られてしまいました。最後まであきらめず必死に攻め続けましたが、取り返すことができませんでした。

仲間たちも果敢に攻めつづけ、中堅の中村が面を決めて一本勝ちしてくれましたが、結果は一―二で負け、予選突破することができませんでした。先鋒としてチームの流れをつくることができなかったことが悔しくて、涙が止まりませんでした。

試合後、長井先生が私たちにおっしゃった「実力不足」の一言。その一言に、私は自分の未熟さを痛感しました。同時に、私たちに「まだ、やれるのだろうか？」と先生が問いかけてくださっているのだと思いました。誰よりも私たちのことを考え、導いてくださる長井先生が、また新たなステップへと背を押してくれていました。


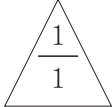
一瞬で勝負が決まる剣道の怖さを改めて思い知らされるとともに、全国の強豪たちと戦い続ける闘志が沸き、踏みしめる足に力が入りました。「まだ、やります。」と心の中で答える自分がいました。

ふり返ってみると、私たちの高校生活は、常に、新型コロナウイルス感染状況による行動制限との戦いでもありました。そのような状況の中でも、県内外から仲間が集まり、切磋琢磨してきました。全国レベルで戦えるようにと、自らバスを運転して、強豪チームとの練習試合に連れて行ってくださった長井先生。あたたかい応援をくださった先輩方。私たちが信じ、支え続けてくれた家族そして苦楽を（寮生活では寝食も）共にした仲間たち。皆さまへの感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。富岡東で培った力をもとに、さらなるステージで精進してまいります。

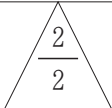

最後に私事ではありますが、剣道部がない中学校時代にご指導くださいました少年剣道の先生方、出稽古に迎えてくださった各校・各道場の先生方に感謝申し上げます。

## 女子団体予選リーグ結果（Hリーグ）

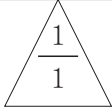

### 第1試合（第二試合場 第8試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	鳥澤	嶋田	中村	平田	谷村	
	メ	一本勝	▲	引き分け	一本勝	
広 (広島)	岩切	渡邊	畑中	兼守	弓矢	
	一本勝	一本勝	引き分け	一本勝	▲	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

### 第2試合（第二試合場 第10試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
広 (広島)	岩切	渡邊	畑中	兼守	弓矢	
	▲	一本勝	引き分け	一本勝		
甲府商業 (山梨)	北井	一之瀬	小嶋	角田	宮川	
	メ	一本勝	引き分け	一本勝	メ コ	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	1分27秒	

### 第3試合（第二試合場 第12試合）

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	鳥澤	嶋田	中村	平田	谷村	
	一本勝	引き分け	一本勝	引き分け		
甲府商業 (山梨)	北井	一之瀬	小嶋	角田	宮川	
	メ	一本勝	引き分け	一本勝	メ メ	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	1分31秒	

Hリーグ	富岡東 (徳島)	広 (広島)	甲府商業 (山梨)	得点	勝者数	総本数	順位
富岡東 (徳島)		0 0	3 3	1	3	3	2
広 (広島)	8 5		6 3	0	3	3	3
甲府商業 (山梨)	0 0	3 1		2	4	6	1

## 全中に出場して

那賀川中学校 平 松 政 樹



中学校に入学し、男子剣道部に入学しました。

私は、「剣道が強くなりたい」「全国大会に出場したい」という思いを胸に、那賀川

入学当初、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、部活動休止となりました。剣道ができない日々が続き、入学する前の初心を忘れそうになったことを思い出します。しかし、そうした期間があったからこそ、「剣道がしたい」という思いを一層強く抱くようになりました。

二年生の夏、先輩方が引退された後、私は主将に任命されました。主将になった当初は、部員をまとめていけるのだろうかとか不安で胸がいっぱいでした。しかし、そうした思いを拭い去ってくれたのは、先輩方

の姿でした。二年前の全国大会中止、昨年は県総体決勝敗退という悔しい経験が私を奮い立たせてくれました。そして私は、「全国大会出場」と「男子剣道部初の四国総体優勝」の二つを目標に、部員をまとめ、より集中して稽古に取り組むようになりました。

全国大会出場をかけた県総体決勝では、厳しい戦いとなりましたが、チーム一丸となり、全国大会出場を勝ち取ることができました。この勝利は、私たちと一緒に防具をつけて稽古し、指導して下さった濱田先生や長地先生、女子部の齋先生、先輩方、同級生、後輩、そして、応援して下さった保護者の方々の多くの支えがあったからこそだと思います。

そして、令和四年八月十九日から二十一日の三日間、北海道釧路市にて第五十二回全国中学校剣道大会が開催されました。この大会は中学校生活最後の試合になるので、今までやってきたことを全て出し切ろうと思ひ、試合に臨みました。

一回戦は千葉県代表の幕張本郷中学校が



対戦相手でした。あと一歩及ばず、敗退という悔しい結果に終わってしまいました。

この大会から、全国大会で活躍する選手は、技の完成度やスピードなど、全てにおいて私たちを上回っていたように感じました。ですが、全国大会という最高の舞台で、高の仲間と試合に臨むことができたことを、私は大変嬉しく、誇りに思っています。

中学校三年間は、長いようであっという間でした。苦しい時も、楽しい時も、仲間と共に過ごし、支え合い、四国総体準優勝、最後には全国大会に出場することができました。振り返ってみると、とても充実した中学校生活でした。

最後になりましたが、これからも那賀川中学校剣道部で学んだことを忘れずに頑張っていこうと思います。そして、ここで出会った仲間たちを一生大切にしていきます。今までお世話になった先生方や保護者の方々、これまで支えてくださった全ての方々から感謝しています。本当にありがとうございます。

## 【試合結果】

### 一回戦

幕張本郷中学校（千葉県）二―一で敗戦



## 全国中学校剣道大会に出場して

那賀川中学校 柏 原 あ こ



私たち三年生の  
集大成となる第五  
十二回全国中学校  
剣道大会が、令和  
四年八月十九日か

ら二十一日まで、北海道釧路市にある湿原の風アリーナで開催されました。今回は団体ベスト八以上という目標を立て、コロナウィルス感染症対策によるフェイスガード・マスク着用、ルールの変更などの様々な制限の中、チーム一丸となって日々の稽古に取り組みました。

決勝トーナメントでは、一回戦で東京都代表の淑徳巣鴨中学校と対戦しました。相手は有名な道場に通う、名前の知れた選手ばかりでした。試合前のミーティングでは、「絶対勝つ」とみんなで気持ちを一つにして試合に臨みました。結果は先鋒引き分け、次鋒は一本負け、中堅一本勝ち、副将一本

負け、大将引き分けの一勝二敗二分け、一本差で負けてしまいました。双方全力で打ち合い、取られた二本も試合終了と同時に直前の打突によるもので双方全力で一步も引かない激しい試合になりました。

試合後、目標のベスト八以上に届かない結果となり、会場やライブ配信で応援してくださっていた方々に勝利を届けることができず、申し訳ない気持ちと悔しい気持ちでいっぱいになりました。「私もう一本とることができたら」流れが変わったかもしれないと思いい、主将として自分の甘さを反省しました。

しかし、今年の私たちでは今回のような試合をすることはできなかったと思いましたが、昨年、神奈川全中で、石川県の宇ノ気中学校と対戦し、一対三で惨敗しました。

そこから一年間稽古や練習試合に必死で取り組み、今回の全中では負けてしまいましたが、「自分たちの精一杯」の試合をすることができました。交流のある数チームの皆さんから「感動した」と声を掛けられる中で、「悔しさ」と同時に「もうこのチー

ムでは試合できない残念さ」を実感しました。

この思いは後輩の皆さんに託したいと思います。コロナも含めてこれからも苦しいことや困難なこともあると思います。しかし、胸を張って「那賀川の剣道」を貫いてください。最後になりましたが、私たちが成長できたのも、たくさん指導していただいた先生方をはじめ、胸を貸していただいた先輩方、後輩の皆さん、三年間共に切磋琢磨して頑張ってきた同級生のみんな、いつも支えてくださった保護者の皆さんのおかげです。心から感謝いたします。私はいくらも中学校で培った経験を生かし、日々成長していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

【暴力0(ゼロ) 心でつなくスポーツの絆】

令和四年度 全国中学校体育大会

# 第52回全国中学校剣道大会

咲かそう君の花  
北の大地とみちのとして

会期:令和4年8月19日(金)~21日(日)  
会場:湿原の風アリーナ釧路(ウインドヒルくしろスーパーアリーナ)

主催:〔会期〕日本中学校体育連盟、〔会期〕全国中学校剣道連盟、北海道教育委員会、釧路市教育委員会  
主 幹:北海道中学校体育連盟、〔会期〕北海道剣道連盟、釧路地区中学校体育連盟  
全幹:全幹剣道連盟、全幹中学校剣道連盟  
後 援:入会クラブ、全日本中学校長会、全国経済教育教育長協議会、全国中学校教育委員会連合会  
〔会期〕日本PTA全国協議会、日本私立中等教育学校協会、札幌区、全国初等中等教育協議会  
毎日新聞社、読売新聞社、北海道、釧路市、釧路町、北海道都市教育委員会連絡協議会  
北海道中学校教育委員会、北海道教育委員会、北海道中学校長会、釧路中学校長会  
〔会期〕北海道スポーツ協会、釧路市スポーツ協会、北海道PTA協会、札幌PTA協議会、北海道新聞社



初めての

# 全日本女子選手権大会

山室 愛子



全日本選手権の  
試合が決まった瞬間、嬉しい半面、自分が全日本の大きな舞台に立てる

ことが信じられない気持ちでいっぱいでした。そして、大阪体育大学での厳しい練習の成果が十分に表せたと嬉しく思いました。

大会当日は、目の前に世界大会に出場している選手や全国トップクラスの選手がたくさんいて、緊張もしましたが、レベルの高い選手に囲まれて自分がここにいることが本当に嬉しく気持ち引き締まる思いでした。

一試合目は、京都府警の尾崎選手でした。私は普段通り、強気で思い切ってやろうと、試合に臨みました。相手の動きを見て、逆胴や跳び込み面などを狙って技を出してい

皇后盃授与

全日本剣道連盟設立70周年記念

# 第61回全日本女子剣道選手権大会

主催／公益財団法人全日本剣道連盟  
協賛／一般財団法人全日本剣道協会  
後援／スポーツ庁、文部科学省、奈良県教育委員会  
公益財団法人全日本剣道連盟事務局  
観戦券／観戦券発行所、向日新聞社



きました。しかし、手元が上がった瞬間に小手を打たれました。「打って反省。打たれて感謝」というように、自分が打たれた瞬間、自分の甘いところを知ることができました。打たれたところをしっかりと反省し、面の打ち方や足の運びを意識して、これからの練習に活かしていきます。

ていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。この経験をこれからの練習や試合などに活かして、もっと高い目標をもって、練習を積み重ねていきます。今回、全日本選手権大会に出場できたこと、本当に嬉しく思います。そして、応援してくださった、沢山の方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。





全日本剣道連盟  
設立70周年記念

第61回 全日本  
女子剣道  
選手権大会

【とき】  
令和4年9月4日(日)  
午前9時20分 開会 / 午前10時 試合開始

【ところ】  
ジェイテクトアリーナ奈良

主催 公益財団法人全日本剣道連盟  
共賛 一般財団法人奈良県剣道連盟  
後援 スポーツ庁 / 奈良県 / 奈良県教育委員会  
公益財団法人奈良県スポーツ協会  
橿原市 / 橿原神宮 / 毎日新聞社 <http://www.kendo.or.jp>



全日本剣道連盟より画像提供



## 「心気力一致の境地」

第六十八回全日本東西対抗  
剣道大会に出場して

警察支部 平野 誠 司

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、令和五年が明けると丸三年を迎えることとなります。この間、剣道界では感染防止対策として、「剣道マスク」「アイシールド・マウスシールド」の着装が義務付けられ、暫定的な試合審判法の導入により、「罅迫り合いの回避」や「発声の制限」などの対策が講じられてきました。

この三年間を振り返ってみますと、コロナ禍による上向思想の低下も見受けられましたが、逆に功罪とも呼べる事象が起きているのも事実です。できるだけ「接触を回避する」という感染防止対策と「離れて勝負する」ことへの転換がうまく融合し、本来の剣道の醍醐味が見直されているように感じています。やはり剣道は、間と間合いの勝負、「やるかやられるか」の場面にお

ける技の応酬が何より大切であり、この機会なくして剣の心を培うことはできないといっても過言ではありません。

現代剣道においては、長きに亘り、この機会を避けて勝負することが主流となっているようでしたが、この「剣道四戒」が沸き立つところで勝ちを制するという重要性を再認識できるきっかけとなっているように感じられます。これが「気剣体一致」から「心気力一致」への修練に繋がるスタート地点になると確信するところであります。高野佐三郎先生や千葉周作先生の言葉では、「機に臨み、変に応じて、勝ちを制することができ」とあり、機を見る心を基軸とした心法を「心気力一致」という言葉に集約し、また、この「心気力一致」がなければ敏速な活動はとれないと喝破しています。

さて、令和四年九月十八日、第六十八回全日本東西対抗剣道大会が神戸市中央体育館にて開催され、私は西軍四将として試合に臨みました。相対するは、同級生として長年競い合ってきた北海道の佐賀豊選手で

す。この大舞台で対戦できる喜びをひしひしと感じていました。

試合の展開は、立ち合いから合気をもつてその一瞬を探り合い、決して受け身にならず、触刃から交刃まで心気を充滿させて、その瞬間（機に臨み、変に應じる）を待ちます。立ち合い小手から入り、すぐさま諸手突きと機会をつくりましたが有効打とはなりません。さらに、相手の反撃を見切りながら間詰め、返し胴、諸手突き、すり上げ面と攻勢が持続出来ていたように振り返ることができました。

延長に入りしばらくして、心に雲がかかり出したことが自覚できました。これが四戒でしょう。心気が乱れ、攻勢も自然と緩みだし、機敏に対処もできなくなります。相手の攻めに同調してしまふ悪い状態です。最後は、その居つく瞬間に面を打ち抜かれてしまいますが、攻勢の持続ということが如何に大切かということ、そしてまだまだ修練不足を感じさせられた一戦となりました。

めざす「心気力一致」の境地は、静的な

「心」の作用と動的な「気」の作用が合わさった統一体であります。心は気を率い、また気は心に従って技になると言われています。この雲をつかむような修練、まだまだ程遠い道程であります、一步先を目指して正精進を誓った一戦となりました。大会出場に際し、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 全国教職員大会に参加して

徳島支部 森 康二

令和四年八月十一日、長野市真島総合スポーツアリーナに於いて第六十回全国教職員大会が開催されました。私にとって社会人初めての全国規模の大会参加でした。これまでは、本大会や都道府県大会、国体の予選会に参加するも、あと少しのところまで全国大会の出場を逃していました。ようやく全国への切符を獲得しても、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるったために中止になったこともありま

した。私は、小学校に勤めており、部活動で面をつけて稽古をすることはありません。そのため、稽古量が満足にとれていないからこそ、毎回の稽古で目的をもって取り組むことを心がけました。県内はもちろん、全国の先生方にも負けないために、たく



さんの先生方や仲間に稽古をつけていただき、体力や技術の向上を図りました。

大会当日は、多くの有名選手がおり、とても緊張していました。一回戦の相手は、

山下選手（京都府）でした。日本体育大学でレギュラーとして活躍されていたと聞い

ていましたが、「一つでも勝ちを重ねていきたい。」とひるまず臨み、相手の出ばなをおさえての面が一本となり、勝利することができました。この試合で勢いに乗り、二回戦の石坂選手（長野県）、三回戦の立野選手（福岡県）に勝利し、準々決勝へ進むことができました。準々決勝の相手は、設楽選手（静岡県）でした。落ち着いて試合を進めていくことができていましたが、先に面を取られました。引き胴を取り返し、延長戦にもつれ込みましたが、最後に私が入りすぎたところで面を取られてしまいました。ベスト八という結果で、本大会は終了しました。

様々な課題が残る本大会でしたが、これまでの稽古の積み重ねで、素晴らしい選手たちの中でこのような結果を残せたことが素直に嬉しく思います。いつも稽古のご指導をしてくださる先生方、共に稽古に励む仲間、ご支援くださる方々のおかげだと思っております。今回の経験を生かして今後も稽古に打ち込んで参りますので、どうぞよろしく願います。

## 全国警察剣道大会を終えて

剣道特錬員監督 山 室 雅 幹

令和四年十月十一日、警視庁武道館において三年ぶりとなる、全国警察剣道大会が開催されました。

本大会は、一部が、七人制の二二チーム、二部が、六人制の一八チーム、三部が、五人制の一八チームで争われます。本来であれば勝敗により各部の入れ替えがあります。今回は入れ替えなしの五人制での試合となりました。本県は平成三十年に三部において、第三位に入賞したことで二部に昇格し、長崎県警・奈良県警との試合（リーグ戦）となりました。

私たちは、本大会に向けて、基本を体得しました。体力面の強化、対外試合に努めてきました。団体戦では先鋒から副将までが、しっかりと大将まで繋ぎ、勝利することが最も重要になってきます。それぞれのポジションでの役割を再確認し試合に臨みました。

しかしながら二試合ともに苦しい試合展開が続く、長崎県警には四一〇、奈良県警には四一一、で敗れ次のリーグに進むことができませんでした。それぞれの戦いでは、一本先取しますが取り返されるなど、僅差の勝負をものにすることができませんでした。今後の課題として「勝負を勝ち切る」ことが重要であると痛感した大会でした。

平素の稽古を疎かにせず、常に真剣に試合のつもりで取り組むことが大切です。日々の稽古によって理合を学び、厳しい稽古を積み重ねていくことにより習得するものがあります。稽古の目的を持ち、いかに普段からこのような気持ちで取り組むことが重要であるかということを感じました。今回の結果を真摯に受け止め、令和五年度開催の全国警察剣道大会に向けて気持ちを切り替え、特錬員とともに汗を流し、精進して参りたいと考えております。

今後とも、御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 夢の舞台で

警察支部 玉田 赳 大

「勝負あり。」生涯忘れる事のない瞬間でした。

令和四年十一月三日、日本武道館、第七十回全日本剣道選手権大会において、開会式の厳かな雰囲気に残る静寂の中、そして大勢の観客の注目の中。奇しくも一回戦、第一試合に出場となった私は、会心の面二本を決めて勝利することができました。試合時間三分五秒、今大会で最も早く一本を取り、最も早い勝利でした。

全日本選手権大会は剣道日本一を決める最も権威ある大会であり、私自身が少年剣道を始めた時から目標としていた憧れの舞台でありましたので、この瞬間は生涯忘れる事ができないものとなりました。

全日本選手権出場資格を得るまでの私の道のりを振り返ってみると、とても長く、とても険しいものでした。徳島県警察の剣道特別訓練生として県予選にこれまで八回



挑戦し、準優勝二回、三位一回、あと一步の壁をなかなか超えることができませんでした。また、昨年、一昨年と新型コロナウイルス

イルスの感染拡大の影響により警察は不参加となる等、色々とありました。それらの障害を乗り越えて、この度、九回目の県予選でやっと優勝することができました。年齢も三十三歳になっていました。これまで

ご指導頂いた徳島県警の諸先生方、連盟の諸先生方、そして同僚の皆様に変更して心より感謝を申し上げます。

全日本への出場が決まってからは、名のある剣豪が集う大会で自分の実力を試すことが出来る絶好の機会ということもあり、大会当日までこれまで以上に自己研鑽に励みました。

大会直前には、国民体育大会や全国警察剣道大会があり、モチベーションを維持したまま大会当日を迎えることができたことも自分自身にとってプラス要素であり、特に国体ではベスト四に入賞するなど、その経験が大きな動力になりました。大会が近づくとつれ、緊張感より楽しみの要素の方が強くなっていきました。勝っても負けても悔いのない試合をして何よりも楽しんでやろうと心に決めて試合に挑みました。

その甲斐あって一回戦は勝利することが出来ました。二回戦は大阪府警の草野選手でした。言わずと知れた大阪府警でもトップ選手であり、現役最強の上段と言われている選手です。簡単には攻めることはできないと分っていたので嫌がるころはないか、間合いだけは注意しようと考えていました。上段からの面は鋭く、左小手で応戦するも敗退しました。いい間合いで小手を一本取っただけに悔しい二対一の敗退でした。

大会を振り返ってみると自分なりに満足いく試合はできましたが、一回戦を勝てた

ことに安堵していた自分がいたのではないかと、もっと貪欲に攻めることが出来たのではないかと時間が経過していくごとに後悔が生まれたことも事実です。

ただ、今後の剣道人生で貴重な財産になったことは間違いないので、この経験を糧として、これからも精進していきたいと思えます。





## 第七十回全国青年大会と

### 交剣知愛

小松島支部 澤 田 俊 介



令和四年十一月十一日、十二日に東京武道館で行われた第七十回全国青年大会が行わ

れ、徳島県代表として、小松島支部から男女八名が参加した。今回男子キャプテンという立場より、チームを代表して以下報告する。

僭越ながら自己紹介させていただくと私は昨年まで仕事でイスラエルに赴任しており、令和四年六月に三年ぶりに徳島に帰任したばかりだ。自分でも不思議なことに、日本でいた時よりもイスラエルへ赴任してからのの方が現地で精力的に剣道に取り組んでおり、姿勢、基礎練習、構えの重要性等を昔よりも強く意識し、剣道の意味自体についても日々考えながら稽古に励んでいた。

おそらく数少ない日本人剣士として恥ずかしくない振る舞い、剣道を行わなければならぬという深層心理が働いたのであろう。イスラエルにおいての剣道は結果として大人になってから基礎をゼロからやり直すきっかけとなった。イスラエルのナショナルチームメンバーとともに日々練習に励み、オランダで行われたヨーロッパ大会等への参加も経験できた。

帰国後、少年時代にお世話になった「徳島至誠館」に息子を入門させた事がご縁となり、その館長である高木先生より本大会に小松島支部のメンバーとして出ないかとお声掛け頂いた。大会の参加条件が三十五歳以下である為、私にとって実質最初で最後の参加であり、私が今回チーム最年長という事で力不足ながらキャプテンを務めさせて頂いた。

大会は残念ながら今大会三位に入賞した強豪の福岡県に一回戦で敗れてしまったが、徳島県チームとして恥ずかしくない剣道を見せることはできたと思う。先鋒・高木（市役所職員）は開始直後に面を取られた

が、すぐさま技ありの胴と面を取り返してチームに流れを持ってきてくれた。次鋒・福崎（中学校教員）は相手の攻めを上手くかわしながら、安定した剣道で延長戦で出ゴテを決めた。この時点で二〇としており「勝てるかもしれない」と感じたがここからが時間五分・引き分け無しという大会ルールにおける試合の駆け引きの難しさであった。中堅・橋上（自衛隊隊員）は相手の奇襲ともいえる初太刀飛び込み胴を貰ってしまった後、まだ気が落ち着かないうちに二本目を許してしまった。副将の私・澤田（日亜化学）は開始直後に相手の引き技を追い込んで面を先取したが、ここで「あと五分逃げ切ればチームとして勝ち」と思ってしまったのが敗因であった。中途半端な攻めからの打突を返されて同点にされた後、延長戦でも似たような打突での一本を許してしまった。悔やまれる試合であった。大将戦にもつれ込んだ末の大将・櫻木（大塚製薬）の相手は非常にどっしりした正剣で全くスキが無く圧倒的に格上であった。しかし、一本取られた後に執念の返し胴を決

めて勝負まで持ち込んだ。最後は残念ながら突きを貰って惜しくもチームとして敗北した。最終スコアも二―三（五―七）の乱打戦であった。

結果は残念だったが、青年大会は忘れられない経験になった。青年大会メンバーとは同じ支部に所属しているものの普段は別の場所で練習をしているため今回ほぼ「初めまして」の状態であったが、大会に向けて合同練習をしているうちに不思議と強いチームワークが出てきたのを肌で感じており、チームメンバーは一生の間であるという感覚を覚えた。人間関係が良好だったことに加え、高木先生、切中先生他多くの先生方に全面的なバックアップを頂けたからである。ここで関係各位に感謝の意を述べさせて頂きたい。

私の青年大会、海外での剣道経験を現した四字熟語を二つ述べさせて頂く。まずは「交剣知愛」。剣を交えて愛を知る。剣道界で有名な言葉ではあるが、単純に剣の道で仲良く成れますよといった表面上のことだけを言っているわけではなく、「同じ道を

志したものは短い期間でも深く分かりあうことができる、ただしそれができるのは本気で取り組んだものだけ。」という意味が含まれているのではないかと感じるようになった。次に「文武不岐」。これは私の母校である徳島文理中高剣道部の部訓だが、恥ずかしながら真に意味を理解するまでに卒業してから二十年も掛かってしまった。武の道は常に勉強である。中山先生・玉田先生、今更ですがありがとうございます。（中山先生は現在東京にお住まいであり、青年大会の応援にも駆けつけて下さいました。）

青年大会は社会人剣士として経験する価値がある大会であると断言する。今後若い青年剣士たちがどんどん参加し、上を目指していくと思うが、その時には全面的にバックアップを行っていききたい。また、私自身、剣の道はまだまだこれからも続くので弛まぬ努力を継続する所存である。

## 第70回全国青年大会

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
徳島	高木	福崎	橋上	澤田	櫻木
	ド メ	⊖ 延 長	メ Ⓣ	⊗ 延 長 コ	ド コ Ⓢ
福岡	⊗	岩瀬	阿部	池尻	早川
	井上				

## 青年剣道大会に出場して

栗野 安香音



令和四年十一月  
十二日～十三日、  
東京武道館におい  
て第七十回全国青  
年剣道大会が開催

されました。今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、三年ぶりの開催となりました。

昨年の初秋、高木壽史先生に「徳島県の代表として、青年大会に出てみないか。」と言われたのがきっかけでした。社会人になってからは試合の機会も減り、コロナ禍で稽古も十分にできていなかった私は、はじめ出場をためらっていました。せっかくの機会、今しかできない貴重な経験になるに違いないという気持ちになり、出場することを決めました。

高木先生のお声かけを中心に、男子五名、女子三名で「チーム徳島」が構成されまし

た。しかし、今まで面識がない人も多かった。チームとして本当に大丈夫なのだろうかという不安がありました。学生や社会人、住んでいる場所もみんな違っていたのですが、チームとして戦えるようにと、予定を合わせ、稽古を重ねました。さらに、日亜化学工業剣道部の方々と練習試合をさせていただいたり、清原杯にも出場させていただいたりしました。また、稽古後にミーティングを行い、日程や東京に着いてからの動きの確認、記念ユニフォームの打ち合わせなどを話し合い、少しずつチームとしてまとまっていくのが感じられました。

そして大会当日。この大会は、個人戦だけでなく、団体戦においても勝敗が決するまで延長戦を行うという競技方法でした。一回戦で女子は東京都代表と対戦しました。先鋒は二十分を超える勝負の末、惜しくも一本取られ一対〇。中堅と、大将の私も力戦奮闘しましたが一步及ばず、ともに一本負け。三対〇で初戦敗退となりました。どの都道府県代表も素晴らしい選手ばかりで、試合を見ているだけでも十分勉強になりま

した。二日目の個人戦。私は前日と同じ東京都代表の選手と対戦しました。試合前半は気迫で攻め、自分のペースで試合を進めることができていたように思います。しかし、延長に入り、焦って小手に打って出たところに返し面を打たれ試合終了。一回戦で敗退してしまいました。試合内容としては悔いの残るものとなりましたが、挑戦して良かったという清々しい気持ちで終えることができました。同じチームの二人も健闘し、佐藤さんは個人でベスト十六まで勝ち上がることもできました。

大会以外の時間には、チームのみんなと東京観光をしました。繁華街のほかに、明治神宮や浅草寺にも赴き、夜は全員で食事を楽しみました。三日間という短い時間で、徳島に帰ったときに解散してしまうのがさみしく感じられるほど、チームの仲が深まっていたことに驚きました。また、道中さまざまなハプニングに見舞われましたが、それも今となっては笑える、楽しい思い出となりました。

今回、青年大会に参加させていただき、

本当にいろいろな出会いと貴重な経験をさせていただきました。出場を決意した時に「きっと自分にとって良い経験になる」と信じて良かったと思える経験になりました。そして、剣道を通して人との関わりや、つながりが広がっていくのを肌で感じる事ができました。これからも剣道を続け、技を磨くだけではなく、人と人とのつながりを大切に、次の世代にもバトンが渡せるよう、引き続き剣道に関わっていきたいと思います。

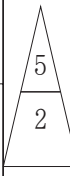
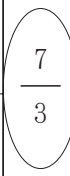
最後になりましたが、今大会に出場するにあたり、温かいご支援・ご声援をたくさんの方々からいただきましたことを、心よりお礼申し上げます。

【個人戦】 佐藤奈那子 ベスト十六

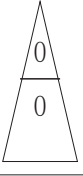
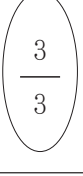
## 第70回全国青年剣道大会

### 【団体戦】

〈男子〉次鋒、副将は延長

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	成績
徳島県	高木	福岡	橋上	澤田	櫻木	
	ドメ	コ		メ	ド	
福岡県			メド	メコ	コツ	
	メ井上	岩瀬	阿部	池尻	早川	

〈女子〉先鋒、中堅は延長

	先鋒	中堅	大将	成績
徳島県	佐藤	生田	栗野	
東京都	メ磯崎	コ大野	コ尾名高	





## 第二十六回徳島県健康福祉祭 （県ねんりんピック）開催状況

徳島県高齢剣友会事務局

乾 清 孝

一、実施年月日…令和四年九月二十四日(土)

二、開催場所…松茂町第二体育館

三、参加人数…チーム数…十二

選手数…三十七名

(内、三名欠場)

### 四、開催状況

第二六回県健康福祉祭剣道交流大会には、徳島県高齢剣友会の各支部等から会員の剣士三十七名が集い、盛大に開催された。

今大会は、コロナ禍の中、十二チームが参加する団体戦（年齢制限なし）と年齢に応じて組み分しての個人戦が行われ、特に個人戦特組（七十五才以上）では、九名（参加最高齢八十二才）のトーナメント戦が行われ、その品位と闘志あふれる戦いぶりに参加者全員が注目するなど、まさに「これぞ健康福祉祭」と言うに相応しい大会となった。

### 五、大会結果

#### 〈団体戦〉

優勝…芳越会

（藤本辰夫、吉田昌彦、柴田宗忠）

準優勝…合同B

（高島稔之、谷博、藤川和秋）

第三位…阿南

（住友久夫、福井勝、鈴木啓三）

合同E

（久次米繁興、出口正春、森直行）

団体戦決勝戦は、前回（令和元年）準優勝の芳越会（脇高OB）が強力メンバーを新たに編成しリベンジを目指し、またアミダくじにより編成した合同Bチームも勝負強い曲者メンバーが揃い順当に勝ち上がり、結果的には三―〇となったものの見応えのある試合となりました。

特に柴田選手×藤川選手の先鋒戦では、開始直後に気合い十分で両選手攻め合いの後、藤川選手が面に出ようとしたりとところを柴田選手の小手が決まるなど、まさに決勝戦といえる非常に見応えのある試合で観戦

の選手一同「ウーン」と唸り声が出るほど緊張した場面での一本でありました。

#### 〈個人戦〉

⑦ 特組（七十五才以上）

優勝…美馬勝行

準優勝…川田武志

第三位…久次米繁興、澤井勝之

令和元年の開催から二年をおき、この間、七十五才以上の剣士が増え、従来は選手層が薄いことからリーグ戦を実施し、参加の各先生方には一息入れる間もなく非常に厳しい条件下での試合が行われましたが、今回九名となり、トーナメントとして試合場を第一試合場だけに絞り込み、他の選手が観戦する中での試合としました。

しかしながら、コロナ禍そして高齢ということから欠場者が三名となり、トーナメントとはいえリーグ戦と同様の体力勝負の過酷な状況下での試合となりました。

こうした中で赤色名札（八十才以上、赤色垂ネーム）を着けられた先生同士の試合にはその品位と闘志あふれる戦いぶりに参加者全員が注目していました。

特に川田選手にあっては、澤井選手との準決勝で延長（二分で判定勝）にまで持ち込んだ後の美馬選手との決勝戦では、「立つとくだけでも試合はやる。」との闘志満々の気力で臨まれ、まさに健康福祉祭に相応しい大会となりました。

① A組（七十才〜七十四才）

優勝…佐野博志

準優勝…藤本辰夫

第三位…藤川和秋、平 正明

B組最年長のベテラン佐野選手とC組からB組に上がり連続優勝を狙う藤本（辰）選手との試合巧者の曲者同士決勝戦となり、会場の空気が一瞬静寂の中に包まれるほどの気の練合の中、延長、相面で一瞬早く佐野選手の面が決まりました。

② B組（六十五才〜六十九才）

優勝…吉田昌彦

準優勝…久保隆司

第三位…富田 正、山崎直光

決勝戦は、前回B組三位の吉田選手と前回C組で準優勝の久保選手がB組に上がったの試合となった。両選手厳しい攻め合い

の後、吉田選手が面に打って出て、久保選手がこれを胴に返したものの不十分で体制が崩れたところ、その一瞬を逃さず打った引き面が決まりました。

③ C組（六十才〜六十四才）

優勝…尾脇広美

準優勝…柴田宗忠

第三位…月岡陽市、近藤浩文

決勝戦は、前回優勝者の柴田選手に、前回三位であった尾脇選手がリベンジする試合となり、見事に面と胴の二本勝となりました。



令和4年9月24日 県健康福祉祭（県ねんりんピック）



12チーム37名出場

## ねんりんピックかながわ二〇二二

美馬支部 柴 田 宗 忠

前回の和歌山大会から延期になること三年、令和四年十一月十二日神奈川県伊勢原市において剣道交流大会が開催されました。大会に参加するにあたって徳島県高齢者剣

友会の先生方には大変お世話になり、この紙面をお借りして御礼を申し上げます。さて、今回は二回目の参加となり、およそ全体の流れもわかりかけてきた矢先、高齢剣の先生から「監督として参加しなさい」と大役を仰せつかりました。その上、あいランド推進協議会の方から「徳島県選手団の旗手として総開会式に参加し入場行進をしてください」と言われ、二重の大役を背負った神奈川大会となりました。

コロナ禍ということもあり、体温体調管理アプリ「グローバルセーフティ」を自分のスマホにダウンロードし、大会二週間前から毎日体温、体調、接触情報、外出・出張・観光記録等を入力し本県出発前日、当

日には前もって郵送された抗原定性検査キット（鼻に綿棒を差し込み試薬にて判断する）でコロナ感染の陽性陰性を報告。さらに大会終了後帰宅して、再度抗原定性検査を行い後二週間体温体調を報告するといった面倒な、いや、丁寧な感染対策を行うことを指示されました。自分を守り、周りに迷惑をかけないため仕方ありません。

十一月十一日（金）九時 グランヴィリオホテルにて結団式、その後神奈川県入り、横浜中華街「状元楼」にて懇親会。ところが、この会食は選手団全員が狭い会場で一斉に食事し、アルコールも入り、大変密でありました。上記コロナ対策の中いかなものかと思われました。

十二日（土）横浜アリーナで行われた総開会式は全国から約一万一六〇〇人が参加し、観客席はほぼ満員状態でした。神奈川県黒岩知事の開始式通告後、徳島県旗を持って入場行進の途中、フロアーから見るアリーナ席はスポットライトが飛び交い圧巻でありました。メインステージではハンマー投げの室伏スポーツ庁長官の挨拶があ

り、テレビで見た精悍なルックスと日本人  
離れた体格を目の前で見ることができ感  
激しました。また、皇室からは三笠宮彬子  
さまがあいさつをされ「好奇心旺盛に様々  
なことに挑戦し、世代を超えた人たちと交  
流して豊かな時間を過ごすことを願います。」  
と選手団に言葉を贈られました。その言葉  
にこたえ、本県選手の武田さんは「感動し  
て熱いものがこみ上げてきました。」と感  
想を述べられていました。

その後、試合会場でもある伊勢原市体育  
館での監督会議では、鏢迫り合い等の反則  
について約一時間講義があり、運営側の審  
判方針の確認が行われました。

十三日（日）九時 伊勢原市体育館で剣  
道競技開始式が行われ、試合に先立ち、本  
県澤井勝之先生が高齢者表彰を受けられま  
した。全国で三名しか頂けない賞で日ごろ  
の稽古や健康管理、心身の鍛錬のたまもの  
であり、剣道競技者が目標とする名誉ある  
賞であります。心からお喜び申し上げます。  
本県選手団にとって試合前の嬉しい受賞で  
ありました。いよいよ試合本番、この勢い

で予選リーグに臨みました。初戦は滋  
賀県、先鋒・柴田、次鋒・武田俊文選  
手、中堅・六條一博選手、副将・東徳  
美選手、大将・沢井勝之選手。各選手  
とも善戦し、勝者数一、本数四の同数  
の引き分け、二試合目はさいたま市。

試合結果はなんと、第一試合以上に善  
戦し勝者数三、本数四で勝利となり、  
勝ち数一・負け数〇・勝者数四・総本  
数八となりました。予選リーグ突破か  
と思われましたが、滋賀県が長野県に  
勝者数三、本数六で総本数が十本とな  
り、勝ち数負け数勝者数が同じ、総本  
数で二本及ばず、惜しくも予選リーグ  
突破ならず。残念無念の結果でした。  
本当に悔しい。滋賀県戦で私があと一  
本取っていただければ念願の優秀賞を頂くこ  
とができたのに。後悔しきりです。

他県の先輩、同級生、後輩や友人と久々  
に会うことができ、近況を報告し、冗談を  
言い合い、再開を約束して会場を後にしま  
した。予選突破ならずとも有意義で楽しい  
大会であったと思います。



二〇二三年は愛媛県開催と聞いておりま  
す。連続の参加はかたやありませんが、機会が  
あればぜひ、上位入賞や優勝を目標に日々  
稽古に励みたいと思います。



# 随想

## おかげさままで八十路に

### 剣縁五恩に感謝

三木 毅



おかげさままで八十路に到達した。

この世に生を受け、

十五歳頃に物心が

ついていたような

記憶がある。その時分は世間では「人生五

十年」としきりに言われていた。今や人生

百歳の声が当たり前となっている。その上、

健康寿命とか平均寿命とか人の寿命に關す

る言葉があふれている。衣食住足りて何の

不満もなく、ただただ、ありがたく、また

結構な世になってきた。

おかげさままで八十路とか、やっと八十路

とかの言葉を使って盛んに元気印を振りま

いているが、まだまだ若い衆なのかもしれ

ない。高齢剣友会では八十路に達すると

「赤い名札」を授けて戴けるということは

「大老の印」を頂戴したとして感謝の念を

強くしている。八十路になり剣友諸氏と竹

刀を交えることができるのは、「剣縁五恩」

である。

先ず一恩は、この歳まで元気に剣道がで

きる体に生み、育ててくれた両親と現在の

家族に感謝である。

二恩は、この世に存在している剣道に出

会えたこと。

三恩は、守破離の精神を説き中でも基本

技を力んで教えてくれた師匠平尾勝美先生

に出会えたこと。

四恩は、剣友諸氏に出会えて練磨でき、

その人の剣風やお人柄の伝授を受けたこと。

五恩は、練磨ができる良き環境の道場と

いう場所があったということである。

これを総じて五恩として心底から感謝の

念を持っている。

この五月になって、相当古い剣友から相

次ぐ佳き出来事があった。高校時代からの

絆である。高校時代の剣友との糸は今も切

れることなくつながっている。平素は機を

みて電話にて近況を語り合い元気ぶりの確

認をし合っており、二年に一度は、一堂に

会して杯を交わすのが恒例となっていた。

この席にやってくる一人は埼玉県在住であ

るが必ず参加してくれる。誠に頭が下がる

思いであるが本人は、故郷で旧友に会える

ことをこの上ない喜びと思っかケロッと

している。地元で生活をしている者として

はありがたいことでも感謝している。

人は、春四月を迎えると、齢を一つ重ね

るものだという習性になっていると思うの

である。五月になってから、二人の剣友か

らご機嫌伺を得た。共に「一っ年取ったな」

が冒頭の会話である。一人は高校時代の二

歳先輩である。久し振りに、「おい、これ

やっつけ」「嫁はんに感謝せえ」など高校

時代の先輩台詞が続く、なんと有難くそし

て高校時代がいまも手元にありありで、元

気が湧く訪問を受けたのである。

また一人は、埼玉県に住む高校時代の剣

友からの電話である。「八十路になったな

あ」からの会話である。元気の良い口調で



瞬時に安心感が伝わってくる。互いに近況を話すうち、さらなる安心感に浸って、この一年の誓いを話したところである。

この歳になり、元気で過ごせるありがたさは、この上もない幸せである。改めて長生き合戦に参戦していきたいと誓っている。

## とある剣士の講演

高齢剣友会事務局

乾 清 孝

稽古嫌いな私ですが、誠に不思議なもので、現在、高齢剣で月二回の稽古に加えて、毎週一回、月曜会、徳島支部及び木曜会でも稽古をしております。

こうした姿は現職当時には想像すらできませんでしたが、何故か稽古を続けることができております。それは高齢剣の諸先生方と実際に竹刀を交えて、先生方の剣道に対する取組姿勢が体感できたことが大きな要因となっています。高齢剣顧問の三木毅先生が日頃よく言っておられることです、「剣道バカ」の一人になったかもしれませんが。

高齢剣入会直後は、七十才まで稽古ができればと思っていたのですが、もう七十才も後一年となり、これからは八十才を目標として精進していこうと考えております。それには私自身を含め家族が健康であるこ

とや稽古への理解など安定した家庭環境が必要であり、加えて指導をしていただける先生方の存在が不可欠であり、今、この環境を与えていただいていることに感謝しております。

そして、これまで休みながらも剣道を続けられたことにも感謝をしなければなりません。

その要因の一つが堀江先生の一言であり、その二つが「とある剣士」の剣道への取組姿勢を垣間見ることができたことにあります。

警察学校を卒業し、徳島西署田宮派出所勤務となって半年後に警察本部警備部警備課機動隊に異動となり、以後、二年間の剣道特錬生活が始まりました。しかも新婚一カ月でした。

早朝一時間、午前二時間、午後二時間の稽古。冬の寒い時期には道着の汗が乾く間もなく、夏の暑い時期には干してカチカチになった道着を着装しての稽古を化け物のごとく体力のあった先輩達と続ける毎日、体重も五十五kgから五十二kgと一日に三kg

の変化があり、そのため家族サービスも保たならず、まして稽古は嫌でいやで、デモ訓練、警備出動や捜索を待ち望む日々であり、早く機動隊を出て専務に入りたいとの一心でありました。

当時、師範の堀江幸夫先生から

「剣道はええぞ、署長もええが退職したら何も残らん。その点、剣道は一生続けられるし、稽古で培った人間関係は掛け替えのないものとなる。稽古は続けなアカン。」

とのお話を聞いたことを鮮明に記憶しておりますが、残念ながらこの意味が理解できるようにになったのは退職後暫らくしてからでした。

剣道特錬から年を経て、副隊長時に十数年振りに堀江先生の御指導を得る機会があり、稽古後の先生から

『あの（稽古嫌いな）乾が稽古をしよう。』と喜んでおられた。』

と藤川和秋先輩（現県連会長）の口から伝えられたのですが、この先生が喜んでおられたとの一言が稽古再開の切掛けとなりました。

そして、その二年後、私が稽古をズル休みして帰る途中、雨の中を片手傘で前屈みになりながら勝浦川沿いの土手を自転車荷台に防具と竹刀を積み、県連稽古会に行こうとしておられる北村 滋県警本部長（前国家安全保障局長、現Kitamura Economic Security代表）の姿をお見受けしたことで、稽古を続けてみようとの思いが湧きあがりました。

当時、県警本部長といえば、登退庁時には公用車での送迎があり、その本部長が多忙な業務をこなした後に自ら自転車を漕いでまで稽古に臨もうとしておられるとは思いませんでした。そもそも県警本部長が特錬稽古の視察や慰問に来られる機会はあるものの、自らが防具をつけて社会人や我々と同じ土俵で稽古をされる。ましてや、ほぼ毎週のように稽古に、しかも自転車を通われるということは非常な驚きでありました。

温厚で飾り気のないお人柄もありますが、この剣道への真摯な取組姿勢故か特錬主催の一杯会にも顔を出していただけするなど、

剣道を通じて本部長、特錬の垣根を超えた交流もありました。

こうした私個人の一方的な感謝の気持ちも堀江先生にお伝えすることがかなわず墓前にてのご報告となり、また北村先生にもいずれ機会があれば是非ともこの感謝の気持ちをお伝えしなければとの思いを持ち続けておりましたが、去る二月二四日、徳島新聞会館において経済安全保障の講演を拝聴する機会を得ることができました。

その経緯は、昨年暮れに徳島新聞主催の滴翠クラブで来年二月に前内閣安全保障局長北村 滋氏による「経済安全保障とは何か」と題する講演案内記事が掲載されており、是非にでも講演が聞ければと思ったものの、残念ながら同クラブには入会しておらず半ば諦めかけていました。ところが、十二月に高校の一部有志（柔道・剣道部等）による同窓会があり、出席していた徳島新聞米田豊彦社長（柔道）に講演の話を向けると招待していただけることとなりました。当日講演前に、北村先生、当時の糟谷公安委員長及び米田社長等と昼食を共にし、

先生が県警察本部長だった当時の思い出話

だけでなく私生活のことまで話題が拡がり、その際に勝手ながら私の一方的な感謝の意をお伝えすることができ、ひとつ胸の痞えが取れた思いでした。そして、非常に有意義な時間を過ごしていたところ、知事（北村先生とは東大の先輩後輩の間柄であり、山梨、埼玉及び本県でも同一時期に勤務されていた。）の表敬訪問があつて会食は中断となり、引き続きの講演となりました。

講演は、午後十二時二十分から約二時間行われましたが、サービスピリット旺盛な先生の講演は予定の時間をオーバーして熱が入ったものとなりました。

内容は、

近年のグローバルサプライチェーンの拡がり中で経済安全保障は軍事面での安全保障と両輪を成すものであり、日本は危機感の欠如からこの面における対策が疎かになっており、この遅れを取り返すべく今国会において経済安全保障法案を提出し、成立させる必要がある。この経済安全保障において優位性を保つためにも技術の「特定」、

「育成」、「保全」が重要となる。

というものであり、国家対国家という非常に広い難解な関係から現在の日本はどうあるべきかとの対処方法までも示され、その大局的な国家観の一端が垣間みられた感じでした。

#### 北村先生の経歴（一部省略）

東京都出身

開成高校卒（岸田総理と同級）

東大法学部卒

警察庁入庁

フランス大使館一等書記官

徳島県警察本部長

内閣総理大臣秘書官

兵庫県警察本部長

警備局外事情報部長

長官官房総括審議官

内閣情報官（七年八カ月歴代最長）

国家安全保障局長・内閣特別顧問

米国防総省特別功労章受章

退官

現 Kitamura Economic Security 代表



北村 滋先生

さて、冒頭の私の高齢剣入会の経緯ですが、現職時の日野利之先生から「準会員として高齢剣に入会して稽古をしている。」との話があり、この時初めて高齢剣という組織（団体）を知ったものの、当時は高齢剣という会名は如何にも「老人」というイメージが強く、入会には相当な抵抗がありました。しかし退職前から、三木毅先生、笠井勝先生そして端村武先生からお誘いがあり、絶対にお断りできない力関係と健康で長く続けられればとの思いで入会しました。

高齢剣での初めての稽古会は老人の稽古とは侮れず思いもよらない激しいものであり、中村先生の準備体操、そして素振り

終わると自由稽古となったものの、全員が私よりも年を召した先生であるにもかかわらず、稽古が終わらない、終わってくれない。まるで剣道特錬での稽古の時に感じたように高齢と言っても化け物揃いの先生方ばかりでした。

さて、今年度に入って高齢剣が県内剣士間の話題をさらったことがありました。今春の昨年度総会において、八十才を超える現役員には赤色垂ネーム（名札）を贈呈することとなり、各道場でも赤色垂ネームをつけた会員の稽古姿が見られるようになりました。

参加された先生方から「その垂ネームの色はどしたんですか？」との問いに対して、「八十になれば着けるんじゃない！」と気恥ずかしさと自信を誇示するかのような受け答えをされている姿が見受けられるようになりました。

その経緯は、全日本高齢剣名誉会長の高崎慶男先生（九十九才）、兵庫県高齢剣伊澤章先生（本県出身・八十九才）が稽古をされるとときに赤色垂ネームを着けられ、道

場の中でもひととき目立った存在感を示しておられ話題となっていました。また、徳島県高齢剣友会規約第三条（目的）には、この会は、「剣道の発展及び高齢者の生きがい、親睦、健康の増進に寄与することを目的とする。」

とあり、この目的を体現するものとして「赤色垂ネームを八十才以上の現役員に装着していただいたらどうか。」との意見が持ち上がったことによります。

会員としては、早く赤色垂ネームを着けられるようになりたいとは思いませんが、赤色垂ネームがつけられるよう、齢を重ねても私生活を充実させ、いつまでも健康で元気な姿で剣道ができること、それが目標であり、言葉を替えれば憧れでもあります。

この度、「とある剣士の講演」として私が現在も赤色垂ネームを目指して剣道を続けられている契機となった出来事を綴ることができましたが、最後に改めて堀江幸夫先生、そして北村滋先生へ感謝を申し上げます、ありがとうございます。

ありがとうございます。



## 剣道に感謝

丹生谷支部 湯城 豊 勝



最初に、昨年徳島市で開催された全国高専剣道大会において、審判・運営等でお世話になりました徳島県剣道連盟の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて、この度は私の拙い剣道人生を振り返りながら思い出すままに書かせていただきます。私は、昭和三十九年に延野中学校（翌年相生中学校に統合）入学と同時に剣道を始めました。その実力はいえればサッパリ。三年生最後の那賀郡大会では選手はおろか補欠にも選ばれない状態ですから、高校では剣道を続ける気はありませんでした。ところが、進学したのは阿南高専というところで状況が一変、レベルが低かったのここでも何とかがやれそうという感じでした。弱いなりにも続けていると、四国高

専剣道大会ではそれなりの成績を挙げ「鶏口となるも牛後となるなかれ」を実感しました。

阿南高専卒業後は教員として後輩の指導をすることになりましたが、六年後に退職、一念発起して新設の長岡技術科学大学に編入学しました。全国から集まった仲間たちとともに剣道部を創設、初めて出場した北信越大会では予選リーグを勝ち抜いて、決勝トーナメントに進出できたことは最高の思い出になりました。

大学院修了後は再び阿南高専で勤務、剣道部顧問としても再スタートを切りました。そして定年退職までの長い間、剣道に触れさせてもらうことができて非常に有難かったです。高専教員は研究もしなければならぬため、十分な練習はできませんでしたが、大会等いろいろな機会を通じて剣道を愛する多くの先生方と接することにより、剣道のことはもちろん人生についても教えてもらうことができました。職場に籠っていただけでは得られない生きた教訓に触れることができ、他の高専教員よりも得をし

た気分です。また、何度かは全国高専大会にも出場して、学生たちと喜びを味わったのは良い思い出として残っています。中でも十数年前には強い女子選手に恵まれ、三年連続全国準優勝は無上の喜びでした。

ここで、剣道を介して私に影響があったエピソードを二つ紹介します。ひとつは那賀川に関する話です。平成十年頃、那賀川の源流を特定しようとの動きが出てきましたが、ここでお世話になったのが木頭村の佐々木武夫先生です。剣道を通じて知り合いになっていたことが本当に有難かったです。諸々の手配から始まり、厚かましくも源流探検隊の隊長、さらには源流碑への刻字の揮毫をお願いするやらの連続でした。源流碑は今や那賀川のシンボルとして輝いています。源流へ踏み出した歩みは「小さな一歩」でしたが、その後の那賀川アフターフォーラムの活動、那賀川整備計画のまとめなどにおいて「大きな一歩」となりました。

いまひとつは海藻栽培に関する話です。平成十八年頃だったかと思いますが、来代



眞治先生に息子さんを紹介してもらいました。水産学の博士号を有する来代勇樹氏にウミブドウとマコンブ栽培法を教えてもらいましたが、特にその目的や知識には目から鱗の連続でした。最近、注目されるようになったSDGsやブルーカーボンの基本がここにあり、私が現在取り組んでいる生物多様性の活動にも繋がっています。

このような私も六年前に定年退職、剣道家として研究者としてもたいしたことではきませんでした。今は阿南高専剣道部の外部コーチとともに、「ひとづくり教育」を主とした会社（ACEネット研究所）を設立して楽しくやっています。古希を過ぎ多少のガタはあっても何とか健康でいられること、また素晴らしい人たちとの良き出会いを導いてくれた剣道に感謝です。この年になって、剣道の上達も人としての成長も「コツはコツコツ」ということを悟りましたが、漢字で書けば「骨は兀兀」だそうです。今後も「生涯修行、臨終定年」を目標に、社会への恩返しのためにももう少し頑張ります。

## 生徒たちが安心して稽古に取り組み 成長していける剣道部

徳島支部 山田浩史



はじめに

私が鳴門渦潮高校に赴任して、九年目になる。それ

までも「どうすれば生徒たちがやる気を持って、剣道に取り組めるのか」ということを常に考えて指導してきた。試合に勝たせることができればやる気を持てるのか。それとも褒めて褒めて、褒めることにより、自己肯定感が上がりやる気が出るのか。褒めてばかりでなく叱咤激励することも必要であるだろう。自分の剣道の実力が上がれば、生徒も強くなるのか。成功している指導者の指導法を学ぶことも大切だろう。自主性に任せれば生徒はもっとやる気を出せるのではないか。などなどいろいろと工夫し試してきた。迷いながらの指導であった。

「求めよさらば与えられん」のごとく、鳴門渦潮高校に赴任してからは、多くの人に出会うことができた。その一人にビーユアセルフ合同会社代表の川野操かわのあつなりさんがいる。彼はアドラー心理学をもとに、多くの企業の社員研修やチームビルディングを担当したり、アマチュアスポーツからプロスポーツの選手やチームのメンタルコーチを手がけている方である。私にとって彼との出会いは、アドラー心理学との出会いでもあった。また、彼の友人で佐賀県に在住している石橋哲也さんとは、川野さんの紹介で知り合うことができた。彼はインナーゲームの日本の第一人者で、高校バスケットボール日本一に一昨年輝いた福岡大濠高校男子バスケットボールチームのメンタルサポーターも手がけた人である。

また、前長崎県立島原高等学校剣道部監督の渡邊孝経先生は、私が県教委体育学校安全課の時に、指導者スキルアップ事業で徳島県へお呼びし、ご指導を仰いだことがきっかけで、個人的にも指導の相談にのってもらっている。

私も、若いときは自分が考えて、背負い込んでやるのがすべてだったのであるが、年齢とともに人に助けを求められるようになったことが、大きな転機となった気がする。

恥ずかしいと感じながらも頭を下げて教を請うことが、今の自分を超えられることにつながると思っている。その姿勢は誰に対しても同じであることが大切だと思う。

そうやって学んできた事を活かして、鳴門渦潮高校剣道部で実践していることをここで紹介させていただく。また、ここで紹介することにより、いろいろな方々にご指導いただければ幸いである。

### 鳴門渦潮高校の紹介

本校は、県内初のスポーツ学科と五系列を要する総合学科からなっている。それぞれの学科の特性を活かし、文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動、国際交流を推進し、地域に貢献できる生徒の育成をめざしている。また、県内全域はもとより県外の生徒も多数入学していて、生徒は何

事にも前向きに取り組み、礼儀正しくあいさつができ、明るく素直である。

### 剣道部の取組

#### ①生徒と指導者のフラットな関係性

生徒と教師は、社会的な立場の違いはあるが、お互いの人権を尊重することが大切である。言葉使いだけでなく生徒と教師が互いを認め合うことは強固な信頼関係を築くことにつながる。

#### ②やらされる稽古から自らの目標実現のため自主的に取り組む稽古へ

できるだけ生徒たちによって自主的に始まり、指示や教示を控え、生徒自身に気付けさせる指導を心がけている。気になる生徒には寄り添い変化のポイントになる部位に意識を向けさせてみる。それにより自分で気づき改善していくことを促す。

#### ③目標の明確化

稽古のはじめに三〜四人でミーティングをし、今日の個人の目標とそれを実現するためにどこに意識を向けるかを話し合わせる。技術面や精神面の目標をより明確に、

より具体的にすることによって、自身はそれに近づこうとする。

#### ④叱らず、褒めず、自分で気付き伸びていく稽古

褒めることは、生徒が褒められることを目標にしてしまったり、逆に指摘し叱ることとは、指摘されないこと叱られないことが目標となってしまう、どちらも生徒本人の真のモチベーションにはならない時がある。

そこで、自分で気付くために、知覚力をアップするための時間を設けている。具体的には、稽古前に内側の自分と向き合う時間を約三分間取る。ここでは、自分の動きや見えない仕草などを感じ取れるよう、いろいろな動きを取り入れる。ただし、他人と話や目配せなどはせず内側の自分と対話することに集中する。

#### ⑤生徒の取組に寄り添い、成果を認めるとの大切さ

目標を明確化し、やる気を持って取り組んでいるとある日できなかったことができようになる。その時教師は感情を表に出して喜びを伝えることが必要である。これ

はあくまでも生徒ができたことを認め称えることである。その出来事は生徒のやる気を増幅させると考える。

⑥自分を見つめ直す「STOP」の必要性

「STOP」とは、インナーゲーム（ティモシー・ガルーウェイ著）のスキルの一つで、自分の本来の目的を取り戻すためのものである。

明確な目標設定とやる気を持って取り組んでいても、練習が長時間になったり、周りからの影響によって本来の目標を見失い惰性でやってしまうことがある。この慣性（かんせい）行動を打破するために「STOP」を使う。これは練習の途中で活動を止め、冷静になって今の状態を考え、整理し、本来の目標を再確認し、障害になっているものは何か、それを乗り越えられる方法はないかなどを考え整理し、再度実行に移すようにする。

・「STOP」は次のそれぞれ言葉の頭文字である。

S : step back…後退する…今やっていることを中断し、少し後ろに下がったり、見る角度を変えて振り返る。

T : think…考える…今やっていることは

目標に沿っていることか？予定通り進んでいるか？障害は何か？それを克服する方法はあるか？を考える。

O : organize your thought…考えを整理する…考えた項目を整理し、再スタートのための準備をする

P : proceed…前進する…脳がリフレッシュされ、雑念が払拭されたとき、目的と手順が明確にわかり、やる気が再び充実して前進する。

⑦試合で最高のパフォーマンスを実現するために必要な「エンジョイ&チームワーク」

公式戦などの緊張する試合に臨む際、勝たなければならぬと力んでしまうのではなく、その苦しい試合を楽しむことに集中するよう促している。簡単なことではないが、一人で乗り越えるのではなく「仲間を信じる」ことにより、チームワークで乗り越えるよう言葉を掛け合っている。

⑧入学時は上級生が下級生の世話をし、絆をつくる。

入学当初は一年生の雑務を二・三年生がするようにしている。一年生は心身ともに余裕がない。そのとき、余裕のある上級生が下級生の世話をすることにより、下級生は上級生に感謝の気持ちが生まれる。その気持ちはいずれ他人に貢献したいと考えるようになり、その瞬間から人の成長スイッチはオンになると考えている。

これらを実践していく中で、時間はかかるが生徒の変容が見られるようになる。教師が玄関の掃除をしていると、一年次は見ても通り過ぎたりするが、二・三年次になると「自分がやります。」とやろうとしたり、掃除用具を持ってきて一緒に手伝おうとする。その成長をじっと待つ姿勢が必要になる。

生徒たちの感想

一年男子…目標設定を自分でするので、剣道を前より考えてするようになった。

二年男子…自分がやりたいことを妨害されにくい。稽古の中で気づきが多

く、先生が横で見ているので、安心して取り組むことができる。

二年男子：自分で考えてするので、考えが広がり、視野が広がった。

二年男子：先生は答えではなく、ヒントをくれるので、そこから自分で考えることができる。

二年男子：目標設定、振り返り、スケールングなど、自分のやりたいことを考えられる。

## おわりに

本校剣道部では、いかに生徒が安心して稽古に取り組み、やる気を引き出すことができるかをテーマに様々な活動に取り組んでいる。それには生徒に明確な目標をもたせ実践させる。その際、指導者は生徒が置かれた状況や現状をできるだけ「知覚」するようにして、様々な方面からサポートする。生徒の結果が思い通りにいかなくとも「経験」できることを大切にし、生徒を「信頼」し、できることを「選択」し実行



基本稽古の風景

させる。指導者が生徒に不信感をもったり、評価判断を下したりして、レッテルを張ることで生徒が本来もっている向上心を阻害しないように心がけている。答えは生徒の中にあることを信じて取り組むことが大切



稽古前のミーティング

である。それが生徒のやる気を引き出し、自己肯定感を高め、自分で気付き行動できることにつながり、様々な困難にも生徒自らが考え、行動し、解決していこうとする資質の育成につながると考えている。



知覚力アップの運動

## 今日までそして明日から

鳴門支部 石村 行範



せっかくの機会をいただいたので、私のこれまでの剣道との関わりについて書いてみよう

と思います。

### 【中学編】

剣道を始めたのは中学一年の時でした。最初に入った卓球部をある事情により退部し、一緒にやめた友人と入ったのが剣道部でした。選んだ理由は兄が剣道をやっていた影響もあったと思います。

「おれは鉄兵」という漫画がはやっていて、その辺のスポーツ店で竹刀が普通に売っていた時代でした。もっとも防具から胴着袴まですべて歴代の先輩からのお下がり、竹刀も折れたらその辺の余っている竹刀の竹を合わせるといふ具合で、あまりお金を

かけた覚えがありません。

試合や遠征も親は来ずに自転車の荷台に行っていました。もっとも引退試合の時だけは母親がこっそり見に来ていたというのはずと後になって聞きました。顧問も先輩もあまりうるさく言わずに割と自由な気風の剣道部でした。

### 【高校編】

高校の剣道部は、上下関係の厳しいところでした。先輩より先に帰ることは厳禁で、ヤンチャな先輩が何人かいて、中々帰らないので後輩泣かせでしたが、その代わりに授業では教えてくれない色々なことを教えてもらったのはここだけの秘密です(笑)。

稽古では夏休みや冬休みの長期休暇時にOBが大勢稽古に来てくれて、それはもう「よく死ななかつたもんだ」というくらい「かわいがって」もらいました。十人近くいた男子の同期は卒業時には四人になりました。

顧問の先生はヤンチャな先輩方も一目置



く、厳しいながらも人情ある方で、卒業時にいただいた「流汗涼風」という色紙は今も大事に持っています。

## 【大学編】

大学では、「文化系のサークルに入って青春を謳歌」という夢も抱いていたのですが、「見学に行っただけで先輩が焼き肉をおごってくれる」という典型的な「手口」にままと乗ってしまい、そのままめでたく入部の運びとなりました。でも、同じ下宿に一人、同じクラスに二人同期がいたので、運命だったのかなとも思っています。

学内にはまだ学ランを着た応援団が闊歩し、バンカラな気風が残っている最後の世代だったと思います。

稽古では一回生は地稽古などさせてもらえず、掛かり稽古（組み討ち、迎え突き等なんでもあり）ばかりでした。稽古後に銭湯で、同期の連中と首筋についた突きの痕（我々はキスマークと呼んでました）の数を競ったものです（笑）。

合宿で思い出深いのが某県警機動隊との

合同合宿（今から考えるとなんて無謀な）です。下界から隔絶された山の上の武道館で朝から晩まで一日中超ハードなメニューで生きた心地がしませんでした。地稽古では組み討ちになると最後は面を剥ぎ取られてその状態で掛かり稽古なんてのもありました。でもその剥ぎ取られた面は二階の観客席に放り込んでくれ、それを取りに行っている間に呼吸を整えられたので、ひょっとして「優しさ」だったのかも？（そんなわけないか笑）。こっそり隠れて飲んだ武道館のトイレの手洗い用の水が今でも人生で一番うまい飲み物だったと思っています。

部内コンパ等では一回生の時は後半ほとんど覚えていない状態で、「鍋蓋に日本酒を注いでビールをブレンドしてさらに醤油を一垂らし」した液体がこの世で一番まずい飲み物だというのを覚えたのもこの頃です。

こんな感じで学生時代は過ぎましたが、そのときの同期とは今でも交流があり私の一生の宝物だと思っています。

## 【社会人編】

大学の師範に卒業時に「剣道より仕事を第一に考える。そして三年間は結婚はせず仕事を覚えろ」という教えを忠実（？）に守り、本格的な再開は息子の剣道教室入門時で、一緒に稽古をさせてもらうという意識で道場に通いました。息子が卒業後は恩返しのためで剣道教室の指導のお手伝いをさせてもらっていました。目標だった「親子（息子＋娘）で剣道十段」を達成したのもこの頃です。

その後単身赴任などで一時期離れていましたが、ひよんなことから令和二年度から剣道教室の指導を引き継ぐことになりました。コロナ禍の大変な時期であり、指導も手探り状態の未熟な私ですが、他の先生方の協力をいただきながら、この剣道教室を次の世代に引き継ぐことを目標にしています。これからもよろしくお願いいたします。

## 四国遍路

高齡剣友会 別 宮 憲 治

四国八十八ヶ所と別格霊場二十ヶ所を、五十一日間歩いて結願することができました。剣道とは無関係の話で恐縮ですが、この四国遍路の体験をお伝え出来れば思っ筆を執らせていただきました。

十月一日感染状況の落ち着きを確認し、翌二日の早朝、JR板東駅から歩き始めました。

中高年が一二〇〇キロを歩くには四、五十日の連続した期間が必要です。二年前に三度目の職を離れて自由な時間は手に入れたのですが、新型コロナウイルスの蔓延で動きが取れませんでした。終息するのを待っていたのでは体力が衰えて実行出来なくなると考え、二回目のワクチン接種を終えたのを機に、気候の良い十月の出立を狙っていました。

警察官を定年退職した後の十年余りの間に、仕事の合間を縫って週末だけの四国遍

路。西国巡礼に続いて善光寺経由で中山道を、更に旧東海道を京都三条まで、それぞれ四日ほどに区切って歩き、四国遍路の通し打ちに備えてきました。

四国遍路は、昭和の後半はバスツアー、平成はマイカー、令和には外国人の参入と時代とともに観光化が進みましたが、昭和の終わりころからは次第に減少してきているようです。コロナ禍の前の歩き遍路は年間二千五百人位と言われています。ちなみに、私が今回の遍路で出会ったのは三十二人でした。交通整理に従事中の警備員さんの話では、十月二十九日に高知・愛媛県境の松尾峠を通った遍路は、午前中には私一人。前日は五人いたようです。

コロナ禍で令和二年四月から二ヶ月間、閉鎖されていた札所の納経所は、六月には再開されたのですが、観光参拝やバスツアーがなくなり、残念なことに休業や廃業する遍路宿が続出しています。予定した民宿が休業中のため、池田のホテルを午前五時に出て、雲辺寺などを経て観音寺までの四十キロを午後六時まで歩かざるを得ないこと

もありました。

遍路宿のほかに歩き遍路がお世話になるのがコンビニです。弁当や飲み物、トイレ、塵の処理など、コンビニには大変お世話になりました。

四国遍路は弘法大師信仰に基づき、近親者の冥福など何らかの御利益を願って、大師にゆかりがあるとされる寺々を巡り、祈りを捧げるものとして一般に広まったものだと言われています。昔は不治の病や深刻な悩み事など不幸を抱えて四国遍路に出るという事もあったようですが、今回私が出会った札幌市の人（六十歳位女）は里山歩き、山口県の人（七十歳男）は市民マラソン、茨城県の野宿の人（六十二歳男）は登山の経験者で、多分にスポーツ感覚で四国一周に挑戦している人が多いようです。勿論、遍路は一期一会、それぞれ心に秘めたものはあるでしょうが、挨拶程度の会話からは本当の思いまでは分かりかねます。

「遍路はみんな偏屈だ」との声があります。今の時代、車で回れば二週間で済むものを、経費と時間をかけて歩くことに拘っ

ているのですから、うべなるかなと思えます。

歩き始めて二十日目に三十三番雪隠寺から三十六番青龍寺を打つことができましたが、この頃になると一日で三十キロほど歩けるようになっていました。体重が三キロ程減ったことや気温が下がって歩きやすくなったためではないかと思えます。一ヶ月を過ぎ、久万高原町の四十五番岩屋寺を打つ頃には、厳しい修業の道とされる八丁坂も、ランナーズハイのような高揚感を覚えるようになっていました。

遍路道とは言っても本来は地域の人々が生活道や農道・林道などとして利用してきたもので、現在では車道として整備舗装されていることが多いのですが、昔からの地道を歩けることが遍路の醍醐味でもありません。しかし、利用する者がほとんどいなくなった古道を維持管理することは大変なことです。四十三番明石寺への歯長峠道は崩落のため通行止めとなっていましたし、十年前に歩いた八十五番八栗寺から志度への古道もなくなってしまいました。最近の徳島新

聞に、地元の人たちが二十一番太龍寺への「かも道」の整備に汗を流している記事が載っていましたが、遍路はこうした「お接待」の文化に支えられていることを実感することが多々ありました。

お接待と言えば、今回の遍路で、多くの人にお世話になりました。仕事の手を休めて道案内してくださったり、蜜柑やお菓子、ペットボトルのお茶など色々な物をいただきました。千円札を差し出されて戸惑う事もありました。これは私にはなく「同行の弘法大師」に対するものであることは分かっていますが、個人的には、笑顔の挨拶こそが一番のお接待と思っています。懸命に歩いている遍路には「おはようございます」と笑顔で挨拶を返していただく方が元気を貰えてうれしいのです。それが通学中の子どもさんならなおさらです。四国遍路は文化庁により日本遺産に認定されていますが、こうしたお接待の文化が廃らないことを願っています。

浦戸湾の渡船で一緒になった東京から来たという青年は、「前回結願したときに感

動して涙が出た。その感動が忘れられなくて、また歩いている」と目を輝かしていました。内子町で遇った逆打ちの夫婦遍路は、「四国の人たちの優しさに触れると幸せな気分になる。これで四回目です。お四国病に罹ったみたい」とうれしそうに話していました。

十一月二十一日、最後に番外大瀧寺を打つて私の遍路は終わりました。込み上げるような感動はありませんでしたが、お世話になった民宿の女将さんをはじめ出会った人たちの顔が浮かんできました。八十八番とは大違いで境内には誰もおらず、ゆっくりと時間をかけてお参りができ清々しい気分になりました。

十年余り一緒に歩いた金剛杖、汗の染み込んだ笠やリュック、履き潰した靴は処分しました。期待した劇的な心の変化は一向に見られません。ただ毎日歩くことだけを考えていたためか頭が空っぽになった気がしています。

## 称号・段位合格者

### 剣道七段に合格して

板野東支部 井川 理之



令和二年十一月に、七段審査資格を得てすぐの名古屋審査では、全く我慢が足りず手元を上げてしまう。中途半端な攻めからの打突で、合格する要素全く無しの初の七段チャレンジでした。その後は決して諦めた訳ではありませんでしたが、令和三年は一度も受審しませんでした。

毎年道場での初稽古では、「今年目標は決めましたか？今年頑張ることを家族に話しましょう」と子どもたちに話すのですが、私自身も「今年七段を取得する。合格する。」と子供たちの前で決意表明しました。

七段審査を受審するといって、違う環境で自らがストレスを感じるような稽古をする訳でもなく、何か特別なことをやる訳でもない。週三回の通常稽古と、月一回行われる板野東支部の稽古で、とにかく怪我なく取り組むことを決めて新年をスタートさせました。

やることはいつも一緒。子供たちとの準備運動から素振り、足さばき。前半の稽古では意識するポイントや注意する事を子供たちに伝えながら、自分自身も再確認します。そして、多くの指導者の先生方が来られている時には、子供たちのことはお任せし、中学生や高校生との基本稽古を中心にやらせてもらい、稽古最後には諸先生方と審査を想定しての稽古。保護者の方々にも動画撮影で協力していただき、諸先生方のアドバイスのもと、修正点を次の稽古で意識することを心がけ、令和四年四月三十日に行われた京都での七段審査に再チャレンジしました。

私は五〇三Bでしたので、AとCの方と連続での立ち会いでした。初太刀は、互い

に慌てず焦らず、今だ！という気持ちで互いに伝わったのか、「お互い我慢出来ましたよね。良い相面でしたね。審査発表を待ちましょう」と初めて剣を交えた方と、互いが出し切る立ち会いをし、合格出来たことはこの上ない嬉しさを感じ、感謝しかありませんでした。

この様な経験が出来たのも、板野東支部の先生方をはじめ、今まで稽古をつけてくださった徳島県剣道連盟の先生方、そして道場の子供たちや保護者の方々、いつも一丸となって子供たちの指導にあたってくださっている先生方のおかげです。

平成二十一年四月から、前任の亀田秀雄先生から誠武館道場長を引き継ぎ、今年で十四年目を迎えます。この間、県外での講習会や錬成会等で数多くの先生方と知り合うことができ、この繋がりがこそが大変刺激の大きいものになりました。京都の會田一博先生を筆頭に、富山県の紙屋行夫先生、竹貴士先生、兵庫県の木村岳先生、ここには書ききれないほどの先生方にお世話になりました。會田先生、紙屋先生には一歩先

## 剣道七段合格

に七段を取得され、竹先生、木村先生とは同じ春の審査で七段を共に取得でき、年齢を重ねても刺激し合える同志がいることは本当にありがたいことです。

徳島支部 大貝美治

いつも元気な子供たちに、まだまだ負ける訳にはいきません。「え？ほんとに七段？

令和四年四月三十日京都市京都市立体育館において剣道七段位に合格しました。

あれで七段合格したの？」と子供たちに言われないう、子供たちの成長と共にいっばずつ精進していきたいと思えます。健やかにそして前向きに、何事にも負けない心を持って人材育成に少しでも貢献できるよう努めて参ります。今後とも変わらぬご指導のほどよろしくお願いいたします。

高齡剣に入会した時には七段に到達するとは思っておりませんでした。そもそも、

左足の膝を痛めていたので入会のこと考えておりませんでした。しかし、高校から剣道を通して友人であった松島一成先生（令和四年に亡くなられました）から電話があり「ここで剣道をやめたらもったいないではないか」また改めて電話があり、「高齡剣へ申し込んであるけん、笠井先生に言ってる」とのことでした。

現役（警察官）時代は練習嫌いで気持ちには逃げておりました。松島先生に言われて自分は剣道嫌いではないのだと思ひ直し、剣道にやり残した感があるように思うようになりました。

その後、同地区内の整形外科で先生に相談したところ左膝に注射を週一回打ち五週

打てば練習をしてもよいと返事を貰い練習を始めました。連習を重ねて、高齡剣の四国大会、全国大会にも出場させていただきました。

約三年練習し名古屋市琵琶島スポーツセンターにおいて六段位を合格することができました。五段から二十九年目に六段合格です。

その後、毎週木曜日十時からの市立武道館での練習、月に二回土曜日松茂武道館での練習をしてきました。しかし、以前から痛めていた左足膝に水が溜まり、病院で何度も水を抜きながら練習をしてきましたが、痛みが治まらずもう剣道はできないのではないかと思ひながら練習を休止しておりました。

膝の養生をしながら約一年半が過ぎたころに膝に水が溜まらなくなり、痛みも和らぎ、完全に治ることもないので様子を見ながらまた練習を始めようと思ひました。練習を始めてみると周りの人は積極的に昇段審査に挑んでおりました。周りから、私も昇段審査に行くように何度も勧められ、また六



段合格から六年以上がたっていることから七段位を目指す決意をしました。

京都の審査において四人一組で私はA B C DのうちCでありBとDとの立ち合いになりました、Bの立ち合いを見てみると、真つすぐに打つ剣道をするので、良い立ち合いができると思いました。速さは私の方が上かなと思ひ、気合を入れて臨みました。小手と面が決まったと思います。お互いに良い立ち合いができました。互角か私が少し勝っていたと思いました。

Dにも私の小手と面が決まり、良い立ち合いができたかなと思ひながらも、二回とも一分間がすごく短く感じましたし、もう少し打てたのではないかと不安になりました。ただ、結果を素直に受け入れようと思ひました。

終了後休憩中にBが「私とやりましたね」と話しかけてきました。しばらくして結果発表があり、確認したところ私の番号がありました。Bも合格しており「お互いよかったです」と握手を求められました。私は驚きましたが、互いに握手をしている内に実技試

験を合格したという実感が強くなりました。

「日本剣道形も一緒にするかもわかりませんね」と言っていました。実際には一人ずれてしまい、形審査の相手をすることはありませんでした。二人とも最終的に合格しました。合格後、お互いに称え合いました。大阪の人でしたが、友人となりました。また、その時使用した袴は松島と刺繍している袴でした。

六段合格から約七年で合格することができました。今までのことを振り返ってみると六段及び七段も審査一回で合格することができました。七段審査に及んで二分間は気合を入れて目一杯頑張ろうと心に決めて臨みました。この合格は先生や先輩の注意、助言を頂き、指導して頂いたおかげです。また亡き松島一成先生のお誘いがなければ到達していなかったと思います。心からお礼を申し上げます

これからは七段としての新たな気持ちで精進して参ります。あらためて指導及び練習をして頂いた先生方に心からお礼を申し上げますと共にこれからもよろしくお願ひ申し

上げます。



## 七段に昇段して

麻植支部 日和田 慈 海



た。今回は初挑戦での合格をいただき本当に嬉しく思います。

今回の審査につきましては、新型コロナウイルスの影響もあり、資格ができてからも受審できるまでに時間がかかり、ほとんど稽古もできない状況でありました。

しかし、今年は武運に恵まれ、全日本都道府県対抗大会・四国四県大会・国民体育大会などに県代表として出場させていただくことになり、強化稽古にも参加させていただきました。そのおかげもあって今回の結果に繋がったもののご指導いただいた先生方や応援してくれた皆様に心から感謝しております。

審査を振り返ってみますと、私は以前より稽古時間が限られており、道場の中だけでなく日常生活の中において気持ちを充実させるよう取り組んできましたので、特に不安を感じることもなく臨むことができました。

また、今までの稽古においても、常に試合や審査対策でスタイルを変えることなく、正しい剣道を目指して修練を重ねてまいりましたので、当日の立合いは自分の剣道を

出し切ることができたと思います。

審査の立合いについては、ユーチューブ（剣道七段審査 日和田慈海）にアップしておりますので、何かの役に立てていただけたら幸いです。

私は、剣道という武道は、自己表現であると考えています。剣道を通じてその人の生き方に触れ、そこに魅力を感じることができるのではないのでしょうか。今回の昇段でさらに魅力のある人間に成長していきたいと思っています。

今後も剣道を通じてたくさんのご縁生まれ、皆様と一緒に味わいのある人生を送っていけることを願っております。



## 剣道七段に合格して

阿南支部 大石 真也



令和四年八月六

日、福岡県で行われた剣道七段審査に合格することができました。これ

もひとえに日頃より御指導頂いている先生方や学校剣道連盟の先生方、共に稽古に励む城北高校剣道部の生徒達のお陰です。心より感謝申し上げます。

昨年十一月に受審した審査で不合格となり、意識する部分や心構えについて、多くの先生方に助言を頂きながら稽古に取り組みました。構えや竹刀の振り方、足さばきなど、基本動作から見直し、間合いや打突の機会、打ち切ることについて研究してきました。いろいろと考えながら取り組んでいると、これでいいのかと不安になり迷うことも多々ありましたが、少しずつやるべきことが整理できていったように思います。

審査当日は緊張もありましたが、自分の間合いで機会を捉えて打ち切ること、それだけを意識して立ち合いました。前回の審査と違い、充実した気持ちでできたように思います。

七段審査へ挑戦する中で、自身の剣道への取り組み方が変わってきたように感じています。感覚に頼っていた部分がたくさんあったことを実感してからは、基本の大切さを今まで以上に考えるようになりました。自分でできていると思っていたことが不十分であったり、これまでに受けた先生方の教えの意味について受け止め方が変わったりと、審査に挑戦していなければわからなかったことがあります。何かを目指して真剣に取り組んでいると、新しい何かに気づくことができるのかもしれない。今後も多くのおつきを得るために、常に向上心や目標を持って剣道に取り組んでいきたいと思えます。

現在は城北高校で生徒を指導する立場にあります。将来の徳島の剣道を支えていく大切な子ども達に、剣道の楽しさや奥深さ、

私が先生方から教わったことを伝えていきたいと思えます。また、全国大会での活躍を目標としながら、人間的な成長を目的として共に稽古していきます。今後御指導よろしくお願致します。

## 剣道七段に挑戦して

三好支部 島 尾 眞 且



私自身は七段

挑戦はとも無理と端から諦めていたのですが、昨年の十二月、喜多先

生から「七段挑戦したらどうですか」と声をかけられ、その言葉に背中を押され挑戦の日々が始まりました。自分も七十歳を過ぎており、体力の不安を抱えながらもその言葉に甘え、毎週土曜日マンツーマンで基本から指導して頂きました。本当に歳は取りたくないもので六十代と七十代の身体の違いは歴然で、頭は勿論、体力の衰えがひどく週二回の道場での稽古だけでは十分な力をつけることが難しいと思い、地元中学校へ行って中学生と一緒に基本を中心に稽古に励みました。中学生であれば二〜三回で出来る事を何十回と繰り返すというこの連続でした。

四月に京都に行ったのですが、稽古の成果が全然出せず自滅してしまいました。しかし、得るところは沢山あり、それからは八月に向け、心機一転、一人稽古・基本稽古を中心に頑張ることにしました。さらに、稽古後は合田・喜多・藤本・堀川各先生から、色々アドバイスもいただきました。稽古は特に基本稽古を積み重ね、立合いは支部の稽古会で三回ほどただけでした。福岡の審査会が近くなると、コロナ感染者が一万二千人となり、少し腰が引けてきましたが「これがチャンスと思っ行ってきなはれ」と、ここでもみなさんに背中を押され福岡に向けて出発しました。

八月六日、池田駅七時過ぎの列車で岡山駅に八時四十分頃に着きました。新幹線は十分待ちで「さくら」、二十分待ちで「のぞみ」でしたが、ここはゲンを担いで迷うことなく「のぞみ」にしました。福岡の審査会場には十一時頃に着きました。暑い日でしたが会場にすぐには入れませんでしたので、日陰を探して、素振り、九歩の間合い、蹲踞を繰り返し気を落ち着かせました。

十二時に会場に入ることができ受付をすませました。受付番号は五九九Aでした。

そしていよいよ審査です。最初の立合いは相手と合気になるように合わせ、触刃の間に入る前に相手が声を張り上げたのですが、私は触刃の所に来たら相手に負けじと声を張り上げながらジワジワ攻めて入ると、相手がメンに来たので相面を狙いましたが竹刀が交錯しただけでした。二本目も同じパターンで対応してしまい、「これではイカン。名古屋に行くようになる」という思いが頭をかすめたので、今度は同じように攻めて入り相手がメンに来たので思い切って返し胴を打つとこれがまともに決まり、しっかり足さばきをして落ち着いて残心を取ることもしませんでした。次も攻めて入っていくとメンに来たのですり上げ面、これは失敗でした。その後、相手との間合いをしっかりと取りジワジワと攻めてゆくと相手がメンに来たので、こちら負けまいとメンに行き、相手が振り向いた所に隙が出来たので、引き面を打つと手応えがあり、大きく残心を取り、一回目の立合は終了し

ました。

二回目の立合はお互い落ち着いて合気になつてジワジワ入つて行くと、初太刀は相手がメンに来たので負けじとメンに行きましたが、お互い竹刀が交錯しただけでした。次に相手がメンに来たので思い切って返し胴を打ったのですが、今度は垂に当たり失敗でした。その後は相面を二本打ちにいつて竹刀が交錯した程度でしたが、しっかりと残心取ることを忘れず攻めていきました。最後には蹲踞をきれいにあわせ、終わることが出来ました。B、D共に打っては来たのですが、竹刀が私の体に触れることはありませんでした。

この様な立合いでしたので、発表の時に五九九Aが一番最初に大きく出ていた事が信じられなくて、自分の垂の番号と合格発表の番号を四回、五回と見比べて確かめてしまいました。

七段挑戦を決意してから、これまでに多くの先生方に稽古をつけていただき、また多くのご指導をいただきました。心より感謝申し上げますと共に、これからは子供達

の成長を見守りながら令和三年二月にお亡くなりになった平田先生の分まで頑張りたいと思います。



島尾真且先生 七段昇段祝賀会 令和4年12月3日



# 剣道七段審査会を終え

## 今思うこと

名西支部 富 永 ますみ

令和四年十一月十二日、愛知県名古屋市の昇段審査会において、七段の合格を頂きました。これもひとえに普段から何かと気に留めて頂き、指導して下さった先生方のお陰だと感謝しております。この場をおかりして御礼申し上げます。

思えば平成二十六年十一月十五日、同じ審査会場で六段を頂き、あっという間に八年が過ぎ、七段受審には十分すぎるほどの時間がたっていました。その間にも何度か声を掛けてもらっていたのですが、自身自身その気になれず、ずるずると来てしまいました。七段受審に、中々踏み切れなかった理由の一つとして、持病を抱えてのお稽古に、体が耐えられるだろうか？どれくらいなら大丈夫なのだろうか？自分では自覚がない分怖かった。これが一番の理由です。しかし、私も定年を迎える年になり、そ

の前に一度だけ体調の良い今、チャレンジしてみようかと、気持ちに変化があり、申し込みました。最初、やはり面を着けるのは怖かったです。稽古は、審査一か月前位から再開しました。始める前、私の持病を知っている先生が、他の先生方に病気の事を説明してくれ、私には「無理だけはするなよ、自分であかんと思たら、直ぐにやめること。わかったか。皆に迷惑掛ける事になるから」と約束をし、注意しながらの稽古が始まりました。

初日、「直すところは一杯あるけど、一か月しかない、審査用の稽古を重点的にしていこう」と、稽古が始まりました。先生方は、毎回良いところを引き出してくれ、それを体で覚えさせようとしてくださっている事は十分わかっていましたので、それに答えようとする反面、つつい担いでみたり、フェイントを掛けたりで、思うような立会が出来ず、何度も何度も繰り返し指導頂きました。

女子部、県警の合同稽古会、名西支部の稽古会、大麻中学校での稽古会にも参加し、

自分で出来ることもやりました。体力を付ける為、出勤時にはエレベーターを使わず、五階まで重りを持って階段を上りました。昼休憩と退社時にも一往復ずつ、合計二往復半、毎日毎日やり通しました。体力も付きましたし、何より、根気よく指導頂いた先生方のお陰で、出発前日には、「何とか形になった。審査では自分の好きな様にしなさい。好きな様にしても今まで稽古してきた事が自然に出るから、心配せんてよろしい」と最後の稽古も、いいイメージのまま送り出して頂きました。

当日、八六〇名ほどの受審者、やたらと女性が目につきました。実際、女性ばかりの組もありましたので、以前よりは多かったでしょう。一人目の立会は、三重県の一歳年上女性、蹲踞から「始め」の声を聞いた瞬間、全ての音が消え、二人だけが立会をしている様な感覚がありました。相手の動きや起こりも冷静に見えましたし、とても落ち着いて立会をする事が出来ました。二人目は一八〇センチメートルはあろう男性、初立ち竹刀を払われたり、巻かれた

り、壁に向かっていく様な感じで、「自分から打ち込むのは無理、よし攻めて打たせて、打ち切ろう」。少しずつじわじわ攻めると、案の定辛抱たまらず、飛び込んで来たところを返し胴。その一本しか決める事が出来ませんでした。私にとって渾身の一本でした。最後まで攻める剣道を貫き、やりきりました。動きや起こりを見る、打たせて、打ち切る。一か月間、何度も繰り返し稽古してきた事でした。合格を頂いた瞬間ほっとしたと同時に、色んなことを思い出し、涙が止まりませんでした。歳を取ると涙もろくなるのでしょうか。

私の最後の昇段審査。御指導頂いた先生方本当にありがとうございました。これからは体が動く限り、病気と相談しながら一日でも長く、少年剣士達と共に、剣道を続けられる様、精進していきたいと思えます。今後共、御指導のほど宜しく願いいたします。



## 剣道七段に合格して

徳島錬心館 船 城 明



令和四年十一月  
十二日名古屋市枇  
杷島スポーツセン  
ターでの審査に合  
格することができ  
ました。

令和二年十一月、名古屋での一回目の審査で不合格となり、令和三年の京都審査会に申し込みましたが、コロナの為、審査会が中止となり、後に姫路審査会に振換えとなりましたが、業務都合で県外への移動を控えなければならなくなり、審査を受けることができませんでした。令和四年の四月の京都審査を受験しましたが、不合格となりました。

受審前と不合格の報告を、恩師大澤孝彰先生にする度に、「姿勢はいいから必ずとおるから頑張れよ。合格するまで生きていくから」と励ましを頂いておりました。こ

の度、合格の報告に御自宅に伺った時、先生が、ほほをぼっと赤らめて「長生きしてよかった」とよろこんで頂いた事で、七段に合格した喜びを一番強く実感しました。大澤先生、ありがとうございます。

昇段審査に臨むことを、徳島支部に伝えて以降、徳島支部の先生方、高齡剣友会の先生方、加茂名少年剣道教室の先生方、徳島市立高校剣道部OB会の先生方、そして、徳島錬心館の先生方から、昇段審査に臨むにあたっての稽古のしかたを稽古を通じて色々と教えて頂きました。

不合格となったときは、先生方から教えて頂いていることがよく理解でき、落込むよりも、より楽しく稽古ができていたように思います。『無知の知』のように、自分には分っていたつもりでも、実際にはできていないことを知らなかった事が、昇段審査不合格でよく解ったように思えます。

この度の名古屋では、馬場力先生のかたみの垂れをつけ、審査に臨みました。いつも、のびのびと打たす稽古をして下さっていた先生に掛かっていくつもりで、先に出

ることができたように思います。四戒の恐れ、驚き、疑い、惑いなどは、馬場先生との稽古の時には、感じたことがなかったように思います。初心にかえて審査に望めたように思いました。

一人目の立合いでは、私の初太刀は先手の面で、かすった程度でしたが、打ちぬることができ、二本目は、出頭への面、三本目は相打ちの面でしたが、相手の竹刀は横にそれ、自分の竹刀が相手の面の中心に乗りました。二人目の初太刀は面、二本目は、抜き胴、三本目は出頭の面があたり、相手に打たれることなく立ち合いは終わりました。

しかし、打てたものの、十分な打突ができていたか、姿勢は崩れていなかったか、技の理合に問題はなかったか、等に関してはまったく自信はありませんでした。立ち合い終了後に、どの程度までできていたか、不合格時に連絡頂くはがきに、住所を記載して提出していました。

結果的には、合格できていました。この審査に合格できたのは、今まで剣道

を続けてこれたことにあると思います。剣道を続けられたこと自体、御指導を頂いた先生方の個性的な魅力のおかげであったと強く感じていきます。

羽織袴にマントをつけ、山高帽をかぶって、風呂敷に書物をくるんで、徳島市立高校の武道場にこられ、二刀流で稽古を付けて頂き、稽古の後は、黒田節等の剣舞をまわられて、健全娯楽の大切さを教えて頂いた大澤善二郎先生。ペットボトルにストローをさして、面をつけたままでの水分補給、女性との稽古についての配慮の仕方、落款の作り方、徳島支部の会計の仕方等を丁寧に教えて頂いた南充美先生。「試合では、無駄打ちをしてはいけません」、「剣道は非条件反射でないといけない」などの理合を教えて頂いた勝沼信彦先生。小太刀の強さを教えて頂いた糸谷文雄先生。初めての名古屋での六段審査に不安が無いようにと、同行して頂いた糸田川美千男先生。既に故人となられている先生方の人生を通しての稽古で悟られた事を教わってきていたように思います。

稽古というのは、一人の人生の中で終わるのでなく、人とのかわりの中で、次の世代に受け継がれていくものと感じるようになってきました。令和四年の四月から、剣道をはじめたばかりの孫達と、稽古ができるようになりました。この機会に、この段位を頂けたことを、本当に嬉しく思っています。

この段位に恥しくない稽古ができるよう、皆様、これからも、御指導御願い申し上げます。



## 感謝の心と六段と

鳴門支部 塚原裕美



私は、令和四年四月二十九日、京都市体育館において行われた剣道六段審査を受審いたしました。

しました。その結果、当審査にたくさんの方々のおかげをもちまして、合格することができました。審査を受けるに際して、これまでご指導いただきました先生方、女子部の方々に心より感謝申し上げます。とりわけ、恩師に当たり今年度より同勤務校というご縁をいただきました竹内佳代子先生、受審するにあたり親身になってご指導いただいた鳴門支部の佐伯守夫先生、心強くなるよう背中を押してくださった誠武館道場の井川理之先生には、重ねて厚くお礼申し上げます。

私はこれまで上段の形で、試合に出ておりましたが、今回の審査は中段で挑むと決

めておりました。それは、中段に対する探究心が上段に対する憧れに勝っていたためでした。受審のための稽古の際には、相手に対して半身になってしまいう癖を改善することを意識し続けました。思い起こすと、五段取得から、気が付けば八年が経っていました。この八年間、六段審査を意識しつつも、それに挑戦する気持ちには至っておりませんでした。しかし、多くの人の励ましにより受審を決意して以来、平日には、ほぼ毎日、竹内先生にご指導いただく贅沢な審査前の日々を過ごしてまいりました。同時に、稽古会等で、金野先生や安藝先生、長地先生に数多くの立ち合いをしていただきました。そのたびの、女子部の先生方との稽古や温かいお声かけにとっても感謝しております。

審査にあたっては、前日の夜に京都に入りました。審査当日の朝は、予定より早く会場に着きました。私は、体育館周辺を散歩して、心落ち着くときを待ちました。

その後、受付を済ませて、二階観覧席へ上がると、図らずも阿井先生に、お会いし

ました。会場の中で、同郷の方にお会いする幸運が、私に、心強い感情を湧かせて下さいました。受審に備えて、私は、外の渡り廊下で素振りや体操を行い、窓ガラスに映った姿をみて着装を整えました。やがて聞こえてきた、連絡事項から、審査への流れが始まりました。予測していたよりも早い時間の流れに、焦りも感じたときでした。私の審査は、「第三会場の一組目のB」という会場・組み合わせでした。それは、

その日の一番最初の審査でありました。急ぐ気持ちと戦いつつ面をつけ、待機椅子に座った時間は、ほんの数秒でした。あまりに早いときの流れに緊張感が最高潮に達し、胸の苦しさを感じました。お相手は男性の方でした。白線の向こう側のお相手を見ながら、前にいらっしやるのは竹内先生だと自分に言い聞かせ、先生にご指導いただいたことを思い出していました。「精一杯、出し切ろう」。自分の心の中の言葉でもありました。

「始め」がかかり、それからは無我夢中でした。一人目の方との立ち合いは、緊張



のあまり審査の内容をよくは覚えていません。が、お相手の攻めや圧が強く、圧倒されていたように思います。「捨てることができる必要。」という竹内先生のお言葉を思い出し、面へ跳びました。まだまだ納得のいく一本は打てていなかった、と今も思います。二人目は高身長の方でした。

「攻めの気持ちで、集中」と自分自身を励ましつつ、開始線まで足を運びました。一人目のお相手よりも私の足が動いてくれました。納得のいく出小手と抜き胴の技が打てたという感覚が残りました。

実技を終え、結果発表を待っているときは、攻めや打突のうっすらとした感覚はありました。しかし、時間が過ぎていくにつれてにその感覚が薄れていきました。私の心中では、「自分の剣道を出し切れたのか」という不安の方が膨らんでいました。

結果が貼り出されました。胴垂れを外して見に行きました。「三〇一A、三〇一B(私)、三〇二C…三〇一B!!」。喜びで全身の震えがしばらく止まりませんでした。震えを押さえつつ垂れをつけ、整列しまし

た。和やかな雰囲気の中で、形審査が行われました。

帰りは、フロントガラスから前の様子が見えないくらいの豪雨の中を、緊張の合間にうっすら残る残像を思い出しながら帰りました。

ここから真の新たな修行が始まります。

二十六年前に、竹内先生に教えていただいたすり足。鳴門一中剣道場で出会い、いろんな節目でいただいた多くのご指導は、今の私をつくってくれていると思います。これからも、恩師やお世話になった先生方への感謝の気持ちを忘れることなく、剣道を通して、人としてさらに磨きをかけていけるよう精進していきたいと思えます。それが、私にできる「感謝の気持ちをお返しすることである」と信じ続けて。

今後とも、ご指導よろしくお願い申し上げます。



## 剣道六段に挑戦して

阿南支部 阿 井 恵 子



令和四年四月二十九日、京都で開催された審査会において剣道六段に合格することが出来ました。

阿南少年剣道教室の須藤恭宏先生を始め、道場指導者の諸先生方。そして日亜剣道部の先生方。本当に多くの先生方に御指導頂きました。この機会をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

令和二年十一月には六段審査資格を得ていましたが、新型コロナの影響は想像以上に大きく、審査会場となる県外への挑戦はとてもしんどい状況で、何度も断念せざるをえない日々でした。今年の三月頃から職場も県外への移動が緩和され始めたのを機に、これは「チャンス！」と思い、兼ねてより六段への挑戦を秘めていた私の気持ち

は大きく動き出しました。

今回の審査において、心がけた事は三つ。一つ目は、審査会場一番の声を出し、気持ちで攻め負けない。二つ目は、立合い一分間は相手より先に攻め、絶対に気を切らない。三つ目は、打ち急がず、打突する際は残心まで丁寧に行い、打突を欲張らない。

これらを意識して立会いに臨みました。四人一組で行われる実技審査の受番号は三〇八―D全員の立会いを見てからの審査となり相手の動きを知る事が出来ました。

立会い一人目の相手は小柄で珍しく女性でした。しかし、私が苦手とする上段だと分かり立会い迄の一分間は、嘘だろ！こんな大事な審査会でも上段にあたるのか。と、一気に弱気になりました。が、今日まで指導して下さった先生方の事を思うとそんな弱気ではありません。せっかくな京都市まで審査に来たのだから、上段だろうと関係なく自分を出し切り、全力で立ち向かうしかない！と気持ちを奮い立たせ、心がけた三つを意識し、いざ立会い。

一人目の上段の立会いは、立ち上がり第

一声に気迫と気合充分で攻め寄り、初太刀は右小手。残心後に再び攻めて左小手。するとここまですべて一本も相手からの打突がないままであったが、手元が少し下り面を打ちに来そうになった所を攻めて飛び込み面。その後つばぜり合いになった所を引き胴打つて終了。

続く二人目の立会いは、同身長程の中段でどっしりと構え、じっくり攻める印象の男性でした。この相手とする時の初太刀は、機会を見て迷うことなく面に飛び込んでいこう！と攻めきる作戦で挑んだ所、面決まらず相打ち。再度攻め寄り、攻め切った所では出ばな小手。その後、相手が面を打ち込んできた所を返し胴。最後、自分得意の面で挑み終了。

立会い終了後、今出せる力は全て出し切ったという満足感と、審査員の先生方には私の二分間をどう評価して下さいののだろうか？と期待と不安が入り混じっていました。もう結果を祈るのみ。暫くして結果発表で自分の番号を見つけた時は、感動で胸がいっぱいになりました。その後の形審査も終え

「二次審査は全員合格です」と言われ、ホッとしたのを覚えています。

今回の合格を一番に喜んでくれたのは、京都まで一緒に同行した車送迎をしてくれた主人であり、嬉しそうな顔を見た瞬間、六段に挑戦し合格して良かったなどと改めて感じました。

振り返れば、私が剣道を初めて三十年が経ちました。那賀川中学校での初担任が齋

浩一先生であり、部活見学で剣道を勧めた事の下さり、今まで剣道を見た事も触れた事もない私が、見学で初めて剣道を目にし、竹刀を握るきっかけとなりました。その後、

経験のない親の反対を押し切り「厳しい稽古でも中学校三年間は剣道が続ける！」と

いう覚悟と説得で入部に至りました。入部後は、とにかく勝負にこだわった先生の厳しい教えと稽古に無我夢中でついていくのに必死な日々でした。三年時、村井正志先生が監督となり県総体個人でベスト4に入賞できました。富岡東高校時代は、河田清

実先生の御指導の元、とにかく左手を中心とした振りの基本稽古と地稽古を叩き込ん

で頂きました。初めての全国大会に出場できた経験も先生方の教えを活かし、目標に向かって地道に頑張ってきたからだと思います。

剣道を続けていく事で沢山の人に出会い、子供が剣道を始めた事で初めて少剣に携わり、教える立場や難しさを経験しました。

今後も色々な経験を積み、更なる目標に向かって精進して参りたいと思いますので、御指導のほど宜しくお願い致します。



## 六段審査に合格して

板野東支部 安 藝 智 子



令和四年四月二十九日、京都で行われた審査会において、六段をいただくことができました

した。

これも偏に、これまでご指導いただいた徳島県剣道連盟の先生方、女子部の先生方、板野東支部、鳴月会等でお世話になっている諸先生方のおかげです。心より御礼申し上げます。

私は小学五年生の時、当時父の赴任先であった奈良県の京東剣友会で剣道を習い始めました。週三回の稽古のうち一回は、上垣功先生（現在範士八段）が来てくださり、稽古をつけていただきました。中学では残念ながら剣道部が無かった為、引き続き京東剣友会に通いました。高校で剣道部に入りましたが、二年生の終わり頃に大病を患

い、泣く泣く剣道を諦めました。以来二十年間、剣道とは無縁の生活を送っていました。

そんな私が再び剣道にのめり込むことになったのは、ある先生とのご縁があったからです。今から約十年前、私は主人の仕事の関係で、アメリカのミシガン州デトロイトに三年間住むことになりました。その話を聞き、言葉の不自由な異国での生活を想像した時に、日本人としての自分の軸をしっかり持ち続ける為に自分にできる事は何かと考えました。そして、日本の伝統文化である剣道を再開しようと思いい立ちました。ミシガンには、デトロイト剣道道場という、アメリカで二人しかいらっしやらない剣道

八段の先生が道場長の道場がある事がわかり、すっかりやる気になった私は、すぐに地元の道場を探し、剣道を再開しました。

そして平成二十三年春、大量の荷物と防具と竹刀と共に渡米し、ほどなくデトロイト剣道道場の門を叩きました。道場長である田川順照先生（現在範士八段）には、帰国してからも近況をご報告し、六段審査の

半年前からは、模擬立会いの動画をお送りし、ご指導を仰ぎました。審査の直前には「自分を信じて立ち向かうこと、自分の良い所、今まで努力してきた所を見てほしいという気持ちで臨んでください。」とのメッセージを頂き、その言葉を胸に会場に向かいました。不思議と緊張はせず、落ち着いて審査に臨む事ができました。また、審査前に女子部の竹内佳代子先生に特訓していただき、立会いの中で気持ちを切替える事の大切さを教わりました。本番の立会で「あっ失敗した！」と思った時も、次、また次と気持ちを切替え、前向きに立て直す事ができました。

合格して改めて、剣道を諦めた高校時代の辛かった経験、再開し剣道にのめり込んだ日々が思い出され、これまでご指導いただいた先生方、共に切磋琢磨した剣友、田川先生はじめ在米中お世話になった方々、支えてくれた家族への感謝の気持ちで胸が熱くなりました。そして、剣道を再開して本当に良かったと心から思いました。

これから先も、健康に留意し、志を高く

持ち、できる限り長く、剣道を続けていき  
たいです。

今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお  
願い申し上げます。

## 六段審査に合格して

警察支部 山 本 義 征

令和四年五月十五日、愛知県において実  
施された六段審査に合格することができま  
した。

これもひとえに、日頃からご指導いただき  
ました剣道連盟の先生方、警察剣道の上司、  
先輩方のお陰だと感謝しております。

これまでの剣道人生を振り返ると、幼少  
期は、「試合に勝ちたい、相手より先に竹  
刀が打突部位を捉えればいい」そのような  
気持ちで稽古を行っていました。自分の剣  
道観の転機となったのは高校、大学時代に  
あり、相手と対峙し合気をもって打つか打  
たれるかの交刃の間で相手に押し打ち勝つ  
ことを学び、現在まで修行に励んできまし  
た。先をかけ、攻める気持ちが相手に伝わ  
ると相手と構えた五分五分の均衡状態が打  
開かれ、自分の打突機会が見出され、技を  
打ち込むことができ自分が主導権を握れて  
いるのか意識して稽古するようになりまし

た。

審査では、同格が相手であり実力も拮抗  
しているため、主導権を握り、互格の状態  
から攻め勝った状態で技につなげることを  
意識しました。

審査を振り返ると、先をかけ技を打ち切  
ることができた場面と返し技を打たれる場  
面がありました。今まで稽古してきたこ  
とを発揮して合格することができました。

現在は、機動隊に所属しており、練習環  
境は恵まれている立場にあります。また、  
新型コロナウイルスにより稽古ができない  
日々を過ごしてきましたが、大会、稽古会  
がウィズコロナの中で少しずつ動き出して  
います。このような状況の中、何事におい  
てもこのウィズコロナという判断でどう稽  
古していくのか、どう自己を肯定していく  
のか考え、これからも剣道の修行に励んで  
いきたいと思えます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろし  
くお願いいたします。



## 六段昇段

警察支部 玉田 赳 大



令和四年五月、愛知県枇杷島スポーツセンターにおいて行われた昇段審査において六段に

合格させて頂きました。これもひとえに日頃からご指導頂いている徳島県警察の諸先生方、そして同僚の支えのおかげであると感謝しております。心よりお礼申し上げます。

さて、今回の六段審査に合格するまでには、乗り越えなければならぬ大きな障害がありました。それは、新型コロナウイルスによる影響で、剣道ができなくなったことです。試合も稽古も、もちろん審査会についても同様でした、それまで、毎日稽古ができることが当たり前という環境であったのが、コロナの猛威により何もかもがストップするとは予想していなかった事態でした。

練習できる環境の大切さを痛感させられた期間でもありました。審査資格を持ちながら挑戦すらできないという状況になり、歯がゆさと焦りがありました。自分を見つめ直す良い機会と捉え、プラス思考で日々自主トレーニングに汗を流すことができました。また、このような厳しい状況の中でも、県外の友人から昇段の報告を受けたときには、大変励みになり、私自身負けてられないと思い、トレーニングにも精が出ました。

期間中、防具をつけることができなかつたため、トレーニングで体力作りを中心に行いましたが、できるだけ竹刀を握るということを心がけました。色々な種類の素振りを行うことで竹刀の握り方を始め、自分の癖の発見や、自分にベストな竹刀の発見等、様々な見直しをできたことが、今回の昇段という結果に繋がったのではないかと思っています。

令和三年十月、練習が本格的に再開しました。マスクとシールドに違和感を抱きつつ、五月に開催される予定の六段審査に向

けて稽古に励みました。幸いにもトレーニングを続けてきたおかげで体力的にはあまりブランクを感じることなく、試合動も徐々に戻り、マスクとシールドにも慣れてきたころには昇段審査の日にちが迫っていました。

六段審査の当日は自分でも落ち着いた状態で立ち合いができました。普段は周りの選手の動向が気になるのですが、「立ち合い中は余計なことを考えずに打ち切る。相手が来ても動じない。十分な気力。」この三点を意識し立ち合いに臨みました。一次審査を終えて礼をしたときは、満足する立ち合いができたと思えました。次は剣道形へと移り、前々日に近藤先生からご指導いただいた点を注意し、剣道形を終え、無事に六段に昇段することができました。今回の審査は、全てがうまくいき合格することができました。次は七段審査となります。より厳しいものとなると思いますが、十分に力を発揮できるように、まずは真の六段としての高みを目指し、自分をより成長させ、精進していきたいと思っています。

## 名古屋での六段審査

鳴門支部 紅 露 喜代美



愛知から徳島に  
来て十三年になり  
ます。いつもご指  
導いただき、あり  
がとうございます。

六段以上は全国審査となり、審査会場の一つに名古屋があると知ってから、いつか受審できる時が来たら、実家のある愛知で挑戦したいと思っていました。

以前から私は夏が苦手です。気を抜くと、すぐに体力・体重が落ちてしまい、日常生活にも支障が出てしまうからです。そのため、ここ数年は、夏でも極力冷たいものを控えて胃腸が弱らないように心がけています。稽古後は食事を増やし、さらにT先生の手作り黒ニンニクを食べて体力維持に努めています。そうすることで、一年を通して元気に過ごせるようになったと感じています。

コロナの感染拡大、自分の心の弱さや技術の未熟さを言い訳にして、受審する勇気がずっと湧かなかったのに、一回、挑戦してみたのと気持ちが変わった日のことをよく覚えていきます。一緒に稽古する仲間の存在が、私の背中を押してくれました。九月中旬のことでした。

受審申し込みをして名古屋までの切符を買ってしまったら、もう後には引けません。けがに気を付けて、なるべくいつもの稽古ペースを崩さないようにしました。

審査の前日、ベストコンディションで実家に帰省しました。コロナの感染拡大もあり、久しぶりの帰省でした。審査前日の夜と当日の朝、ストレッチと素振りをしてから審査会場に向かいました。帰宅は昼過ぎになるかもしれないと母に伝えたら、おにぎりを用意してくれました。

審査会場は受審者であふれかえっていて、人の多さに圧倒されてしまい、緊張がより一層強くなってしまいました。検温と消毒をする係員の中に、愛知にいた頃、西三河女子部の稽古会で一緒に稽古していたMさんがいました。

んがいました。マスクをしてもお互いに分かりました。「頑張ってるね」とMさんにお声をかけていただいたとたん、今までの緊張が嘘のようにほぐれていきました。普段の自分を見ていただきたい。あれこれ考えず、審査会場で一番大きな声を出して、あとは攻めて打ち切り、残心のことだけを意識しました。日本剣道形も落ち着いてできました。

着替えて帰る時にMさんのお顔を見たら、ほっとして涙が出てしまいました。帰りの名鉄電車で母のおにぎりを食べている時も、うれしくて涙があふれてきてしまいました。愛知にいた時は先輩の女性剣士が、徳島に来てからは少年剣道教室の保護者の方が、道場の隅っこで小さい我が子の遊び相手になってくれました。まるで父や母のように、心に寄り添い支えてくれる多くの方々の理解や励ましがあるから剣道が続けられます。特に夏以降、垣根のない稽古会へお誘いいただく機会が増え、剣道のつながりが広がっています。日常生活においても、剣道のお陰でたくさんのご縁に恵まれるこ

## 剣道六段に合格して

麻植支部 三好延年

とが多く、とてもありがたく思っています。大好きな剣道が続けられることは、本当に幸せなことだと思っています。感謝の気持ちを忘れずに剣道を続けていきたいです。今後ともご指導いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



令和四年十一月  
愛知で行われまし  
た、六段審査会に  
おいて、合格する  
事ができました。

麻植支部の先生方をはじめ、日曜剣友会に参加の皆様方の御陰で稽古ができた結果合格する事ができたと思います。稽古に時間を割いて頂いた先生方本当に有難う御座いました。

私の剣道の始まりは、香川県の大川郡（今のさぬき市）長尾少年剣友会に小学校四年生の頃入部し、小中高大と剣道が続ける事ができました。大学卒業後は仕事のため剣道の竹刀を握る事無く、防具は実家の押入れに入ったままでした。結婚し、徳島に住み、子供が生まれ、子供の躰と体力作りを考えた時、家の近くで剣道を教えている事を知り、見学に行きました。その剣道

教室が上浦剣道教室でした。故・出葉先生、日野先生、近久先生、宮越先生と出会い、子供の指導をして頂くつもりが私も剣道に誘われ、再開する事になりました。二十数年ぶりの剣道でしたので、最初の頃はとても苦しく大変でしたが、子供が頑張っているのに、親が辞める訳にもいかず続ける事となり、同じ境遇で剣道を再開した先生方も入部してきて、子供の指導稽古、先生方との稽古を、学生の時とは違った感覚でも、楽しくする事ができました。しかしながら自分が六段審査を受ける事になるとは、その時は、全然考えていませんでした。私が昇段審査で苦戦したのは、五段審査で二回不合格となり、自分で何が悪いのか解らなくなりました。二回目の不合格の時審査の評価を聞く機会があり、指導を仰ぎました。内容は自分勝手な打ちが多く、打突の機会を捕らえていないと言うものでした。自分の剣道を振り返り悩んだ末、相手と合気になり、打突前に必ず攻めを入れ打突する稽古を行い、三回目にして五段に合格することができました。



徳島の五段審査は、難しいと先生方に慰められました。が、今思うと、五段審査で苦労した事が今の自分の剣道を見直す機会となり非常に良かったと思います。五段審査合格後、自分の中では昇段審査に関しては達成感がありこれで終わりかなと思っていました。しかし、支部の先生方から六段審査いつ受けるかと聞かれる様になり、六段審査を意識する様になりました。

審査前の稽古の内容は、週二回の稽古で麻植支部の子供、先生方との合同稽古、藤川先生の指導による日曜剣友会での基本打ち、先生方・中高生との地稽古、審査本番を想定した先生方との立会い稽古、日本剣道形と短い時間の中で審査の日程に合わせて計画的に指導、稽古をつけて頂きました。その中で藤川先生より、良い面が打てているので面を打ち切る様にと指導を受け、審査に望みました。

愛知の枇杷島スポーツセンターは、とても広く審査コートも多く有り圧倒されました。準備をし、下階に下りて、自分のグループに集まり、名前と受験番号を呼ばれ整列

し、すぐ本番。聞いてはいましたが、本当に準備運動も無い状態ですぐ立会いでした。一人目、二人目とも私は初太刀は、面と決めていましたので、相手と合気になり面を打ち切りました。あとの技は、面と返し胴以外の技は出していません。とにかく合気になり面を打ち切る事相手との縁を切らない事に注意して立会いを行いました。自分の剣道ができたと思えました。立会いの合格発表後余韻に浸る間も無く、すぐ整列し、

下階で剣道形の審査を行い、あっという間に審査が終わり、着替える時に初めて合格した実感が湧き喜びが込み上げました。今回の六段審査に合格できた事は、徳島で出会った、諸先生方、家族、剣道で縁ができた方々の御陰だと思えます。これからも人と繋がりを大切にし生涯剣道を続けていきたいと思えます。今後共、御指導宜しくお願い致します。



# 剣道教士を頂いて

海部支部 丸 岡 偉 人



この度、剣道教士に合格することができました。この紙面をお借りしまして、今迄お世話になりご指導して頂いた先生方に、厚くお礼を申し上げます。

令和四年二月十三日の予備審査では藤川会長はじめ審議員の先生方には大変お世話になりました。私は剣道の稽古を続ける目標に「いつかは教士を」と思っていたので、最終目標に到達した達成感があります。この機会に私の剣道に出会ってからの五十四年間を振り返ってみようと思います。

私が剣道を始めたのは、大学入学後の十九歳の時でした。初心者私でしたが、何とか四年間をやり遂げることができ、剣道三段の賞状が残りました。

卒業後は、大阪で営業職につき、不規則

な生活を送っていました。剣道再開のきっかけになったのは、郷里の徳島に、特別養護老人ホームが新設され、その職員として採用されたことでした。この間、結婚して

子供もできていて、長男が小学一年になり、何かスポーツをさせたいと思っていました。

そんな時、町内に剣道教室があるのを知り見学して、すぐに入会させてもらいました。昭和五十年頃に地元の剣道教士の西山勝喜先生が、小学生と剣道経験者を募って立ち上げたものでした。送迎して見学しているうちに私も又やってみたいと思うようになり、私も入会させてもらいました。再開した剣道は、学生時代のかかり稽古中心のきついものでなく、体力的にも余裕を持って稽古ができました。

先生からは、基本ができている、と誉められ、週二回の稽古が待ち遠しくなるほど、子供よりも私のほうが熱中しました。再開後二年の三十五歳で、四段に昇段でき（三段からは十五年の間隔ができました）。教室でも指導者の一員に加えて頂き小学生の低学年を主に指導していました。その後、

五段、六段と昇段でき、先生が自宅に西山錬心館を開設した後の海部川剣道教室の代表指導者として現在に至っています。

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である、と全日本剣道連盟の理念にあるように、私達指導者は少年達との竹刀や木刀を通しての、日々の稽古により精神力を養い、身についた礼儀作法が、将来、立派な社会人になるための下地になることを信じて、指導していきたいと思っています。

現在、教室には私を含めて七人の指導者がいますが気をつけているのは、相手への礼、道場への礼をきちんとすること、稽古では基本打ちの質を高めることに重点をおいています。子供達によい手本がみせられるようお互いの技量と人格を高めるため日々の稽古に励んでいます。最年長の私が四十四歳で六段、七十歳で七段、そして今回の教士称号に挑戦した姿勢を後進の指導者に示すことで、全員が向上心を持ち、今後指導を継続してくれることを願っています。

以上、今回の教士称号を頂いての雑感を書きましたが、県下の高齢剣友会では、ま



まだまだ弱輩です、今後も稽古の際にはお手柔らかに、ご指導下さいますようお願いして拙文を閉じます。

## 剣道教士に合格して

板野東支部 木下 裕 康

高校の先輩である武田修典先生の修武館道場に「平常心是道」（びょうじょうしんぜどう）という禅語が掲げられています。この禅語は、身体には病気や怪我がついて回る。心では喜びもあるが悲しみ、悩み、嘆き、苦しみがついて回る。これが人間生活である。それらに出会って、それらとかかわりながら、平静な判断を失わずに生きていくという意味だが、いつも自分には難しい事だと思いつつ稽古をさせて頂いています。

自分の剣道を振り返ってみると、小学校六年の時同級生に誘われて、旧の県立武道館で館長の魚澤先生から一年間素振りの指導を受け、中学校では入学時、剣道部が廃部となっており顧問の先生が居らず、同級生五人で同好会を作り教室の机を片付け自己流の稽古に明け暮れました。高校に入学し、はじめて山田武雄先生、藤本雅史先生、

両先生から竹刀の握り方から改めて指導を受け、剣道の面白さを感じ、卒業後は警察官を拝命し、機動隊で稽古に励みました。

二十七歳で他署に異動してからの三十年間剣道から離れ、五十七歳の時に子供達と稽古が出来たら良いなという軽い気持ちで稽古を再開しました。そしてその後の九年で六段、続いて七段と合格し、この度教士号を頂きました。七段合格までは稽古をすれどどうにかなると考えておりましたが、教士号を受審するにあたり、受審資格が、剣理に熟達し、識見優秀なる者とあり自分がそれに値するかなと自問自答しました。しかし結論が出るはずも無く付け焼き刃ではありませんが、剣道指導要領、剣道試合・審判規則、同細則、称号・段位審査実施要領、剣道講習会資料に目を通し、少しでも自分のものにしようと努力しました。

しかしながら、なかなか記憶に残らず、従来の筆記試験、論文と審査を受け先に教士になられている先輩方の凄さを思い、今回、コロナ禍で論文提出のみの審査で合格した自分としては、これからは教士になる



修行と捉え「平常心是道」ありのまま自分に逆らわず一生懸命稽古に励んで行きたいと思っております。これからご指導宜しくお願い致します。

## 錬士号に合格して

徳島支部 綾部 文 明



令和四年十一月  
東京審査にて、錬士号に合格致しました。これまでお世話になった皆様

に深く感謝申し上げます。今回の受審にあたり、まず五月全剣連中央講習伝達講習会に参加し、教士八段富浦廣志先生、教士八段玉田晋作先生によるガバナンス・コンプライアンス、新型コロナウイルス感染症対策、女子委員会の役割、ガイドラインを踏まえた試合・審判の留意点に関する座学講義と実技講習を受講し、伝統文化の継承には常に現代の新しい視点を適切に取り入れる必要がある事を学びました。次に八月徳島県称号推薦選考会で、木下裕康先生と松本憲二先生と立会いました。先生方から落ち着いた柔らかさと強い気持ちを感じる事ができ、懸待一致の充実した立会いに繋

がったと思います。そして九月小論文を提出し申請しました。小論文では、剣道指導の心構えの要点に対する私なりの考えと今後の剣道修業への取り組み方を示しました。現在私は養武館で子供達に指導させてもらっています。今回の錬士号審査で剣道指導の心構えについて自分の考えをまとめましたが、低学年の子供達にも伝わるようにするためにはより豊かな表現方法を学ぶ必要があります。子供達に伝わるように工夫して指導することが自分の健康づくりや自信に繋がっていて、今後とも指導できることに感謝しながら子供達と一緒に稽古を継続してまいりたいと思います。今後とも御指導の程どうぞ宜しくお願い致します。



ができた、懸待一致の充実した立会いに繋

## 剣道錬士に合格して

小松島支部 松 本 憲 二



私の錬士合格までは五月に伝達講習会を受講し、八月に剣道立ち合いと剣道形の審査を

終えて、十一月に小論文を提出しました。課題は平成十九年三月十四日制定の「剣道指導の心構え」の要点を記しそれを踏まえたいえであなたの剣道修行について述べなさいです。今回投稿する機会をいただき私なりの剣道修行について書いてみることにしました。

私が剣道を始めるきっかけとなったのは、テレビの影響です。一九七一年から一九七二年にかけて放映された「俺は男だ」森田健作（元千葉県知事）主演のテレビドラマを見て剣道に興味を持ったからです。

中学生から剣道を始め、高校、社会人（海上自衛官）と続けてきました。しかし

気がつけば同級生は皆止めてしまっています。定年退職をしてからも今も剣道が続けられているのは、剣道を通じて良き師、良き剣友に出会えたことが私の宝です。教わることの大切さを学び尊重し剣道の楽しさを知りました。また、人として成長していくことが出来たからだと思います。

今は高齢者と言われる年齢に近づきましたので、今後は心身ともに健康でいることを大切にして剣道ができる事を喜び、楽しく剣道をしていきたいと思っています。また、向上心（目標）を持つことも大事だと思います。今後の目標は七段合格です。そして剣道を通じて人との繋がりを大切にしていきたいこと、更に剣道によって学び続け精進していきたいと思えます。

これからもご指導のほどよろしくお願い致します。



令和四年度 | 剣道 |

# 称号・段位合格者一覧

【教士】

丸岡 偉人  
木下 裕康

【七段】

井川 理之  
大貝 美治

【錬士】

綾部 文明  
松本 憲二

島尾 眞且  
富永 ますみ  
船城 明

【六段】

塚原 裕美  
阿井 恵子  
安藝 智子  
山本 義征  
玉田 赳大  
吉岡 陵次  
紅露 喜代美  
三好 延年

【五段】

五月二十二日  
猪野 翔太  
岡田 佑介  
青木 万里子  
八月二十八日  
長地 千景  
十一月二十七日  
美馬 州一  
本田 将大  
村上 晋亮  
小野 勝  
喜多 登志郎  
網師本 誠司  
小西 謙一  
田中 伸

【四段】

令和五年  
二月十二日  
櫻木 鉄也  
五月二十二日  
令和五年  
二月十二日  
米田 賢司  
井地岡 勇人  
鏡 量俊  
市原 裕之  
西條 翔太  
八月二十八日  
坂本 昌典  
村上 哲之  
森 肥佐雄  
松本 美紗樹  
十一月二十七日  
武知 樹生  
富永 康生  
中山 孝太郎  
庄野 智  
矢野 真一  
北林 葵  
樫本 裕司  
坂井 純

【三段】

五月二十二日

三宅 澄  
秋山 颯汰

八月二十八日

本庄 創思  
井川 凱翔

羽坂 颯真  
中野 脩大

岡崎 進平  
岡 輝晟

紅露 和輝  
細川 賢真

山本 優光  
川口 寛太

内海 翔貴  
栗田 星舞

森脇 康生  
横手 良祐

次原 良涉  
米津 総司

尾畑 翔

丸岡 佑太郎  
由岐中 千智

瀬山 ちゆり

坂野 陽菜  
大塚 未流依

田村 凜乃  
藤岡 玲奈

藤本 佑一朗  
十一月二十七日

佐藤 輝和  
村橋 烈

仁木 史弥  
島田 史輝

近藤 蒼真  
吉岡 健心

岡山 誠  
原和 慶

田中 友成

宮内 秀薫

古賀 春華  
阿井 楓

西崎 彩乃

令和五年  
二月十二日

中根 朔  
撫養 思唯

近藤 正獅  
野尻 壯馬

富永 晃汰  
永瀨 聡良

八木 優也  
蔭山 大成

島口 拓  
尾華 裕貴

西華 姫楓  
蛭田 夢加

中村 莉音  
横山 舞

高田 穂花

佐藤 愛結花  
安藝 玲緒奈

小山田 奈央

武藏 小春  
岩佐 ほのか

【二段】

五月二十二日

榎本 悠  
宮田 真吾

真田 一輝

小坂 泰心  
佐川 皓志朗

榎本 茉音  
板場 鈴々

高瀬 絢菜  
岡部 里緒

中江 さくら  
計盛 穂乃香

二宮 未由  
八月二十八日

武田 脩斗  
中川 遥守

橋大 晴  
津島 優生

川人 陸  
渡川 零

益岡 佑斗

福多 伊織  
佐々木 清人

富永 悠太

大石 一真  
次原 玄

堀口 良太  
山内 健二

前田 優莉  
小柏 舞桜

山崎 春花  
田岡 静佳

浅野 花怜  
濱内 瑞希

正木 暖心  
吉田 瑞希

井後 恭子  
十一月二十七日

殿川 瀨里  
高松 宏樹

米崎 湧哉

近藤 真桜  
赤池 ひなた

國見 菜々

蛭田 昭美  
大前 真由美

令和五年  
二月十二日

天羽 龍慎  
奈良井 翼

川原 楓瑛  
安友 良輔

野田 宗佐  
藤川 創一郎

松本 奏利  
河内 颯斗

四宮 大地  
東海 大地

村瀬 大地  
三角 拓巳



【初段】

濱田百合愛

中野朱音

内田こころ

江西瑞子

岩谷夢羽

吉岡琴祢

吉岡未徠

米倉真央

檜原空

一宮めい

正木七菜

六條美玖

四月二十九日

中岡亮仁

春藤悠輔

有井温人

古津勘汰朗

坂野良真

豊田大晴

住吉陸

小宮山雄也

彦上諒太郎

栗本裕斗

大西悠斗

佐藤誠之介

安井劍四郎

坂口幸音

近藤誉高

佐藤亮太

松前充朗

野中優汰

中村貴也

松浦暖大

藤永聡真

寺島壯流

野地奏汰

大森立也

神崎創至

山田稟

大和希輔

古賀大翔

敦賀龍平

中野叶翔

亀代天斗

橋本真

安倍健一郎

久保好毅

加藤優真

坂野夢生

川原正嗣

三谷龍希

川風香貴

鴻野香海

広瀬功季

花岡龍一

木内琢巳

松浦良佑

四宮甲斐

武内剛

平井寿弥

西村渚

日和田呷果

古田埜乃佳

甘利惟

川野恵奈

岸本愛

助道泉厘

西田穂菜美

糸谷心

内村椋

大久保実咲

林菜々花

齋藤海來

六條瑚子

山口珠生

大塚仁葉

大谷心海

宮本未來

高田優花

下込文音

六月十九日

木村仁

田岡京三

山本匠真

西尾育真

三宅和老

川添将義

佐野照英

福島一然

西村洸人

上野壮馬

坂本楓

近藤瑠太

矢野大馳

岸田敏春

久原朔人

山岡悠人

山崎俊太郎

伊藤幸之心

大塚透

立木亮

田中侶太

普久原梨空

連記秀朗

越澤陸

吉田直樹

中本翔太

河野和樹

内藤千尋

遠藤滉大

網康訓

曾根健太郎

瀬尾勇哉

大井健太郎

大弥優介

川原彦知

板東剛

中山恵里衣

北島光

北島幸歩

河野彩芽

堤せら

中西花凜

古北菜々美

瀬戸はるな

國清愛弥

西濱穂香

三橋朋果

笠井音和

小川息吹希

中村凜音

梶浦陽美姫

出口海音

天羽彩姫

山田優唯

多田柚花

森内菜々子





新設

居合道部会コーナー

# 特別寄稿(三)

## 居合道について

居合道範士 原 田 勝

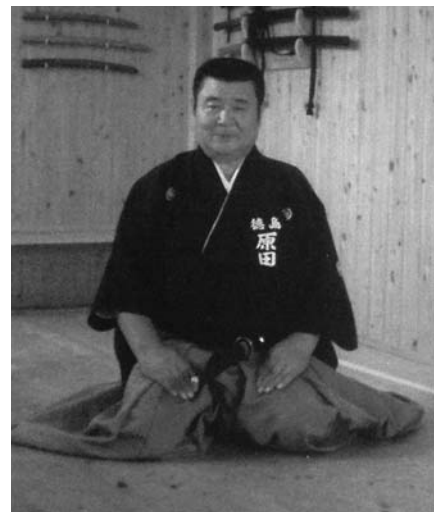
居合道とは大同二年（西暦八〇七年）室町時代後期、山形県北山村郡林崎村石城嶽大明神沢にて、居合の祖と言われる、林崎甚助源重信により創始されたと伝えられている。その流名を神夢想林崎流と呼んだ。後に、一宮流・水鷗流・田宮流・関口流・長谷川英信流・大森流・伯耆流など多くの流派が生み出され、数百年に渡り脈々と受け継がれてきた。

戦後に剣道は一時全面的に禁止となったが、昭和二十七年に全日本剣道連盟が結成され剣道が復活した。昭和三十一年には居合道もその傘下に入る事となり、昭和四十四年には剣居一体の面から、「剣道連盟居合」が制定された。時代は変われど、その精神は古来の通り伝承され、現在においても変わりなく受け継がれている。

居合は立会いに対する言葉で、抜刀術・抜剣・居相・居合・鞘の中と称されている。敵の不意の攻撃に対して、直ちに居合わせ抜刀する。その鞘離れの一瞬に勝負を決める武術としてあみ出された業であり、抜いてしまえば剣道となり、それを持って剣居は

表裏一体とされてきた。生死を一瞬にかける居合の修業は、

生死一如、静動一貫の幽玄な境地まで発展、居合は三尺の秋水（良く研ぎ澄まされて曇りのない日本刀の事）を帯びて行



う禅であると言われるようになった。精神修養を第一義とし、心身鍛錬の道となった。居合の「居」とは常住座臥体のいる所である。また、無念無想も、恐怖も、喜怒哀楽も心の「居」である。即ち「居」とはその場その時の心身の实在を指している。合とは、太鼓のように打てば響き、臨機応変、当意即妙の動きを言う。居合即ち居合わすの意で、常住座臥、一挙手一投足揺るぎないものである。心の修錬が居合道の本領である。

ただ刀を上手く抜き扱うだけが、居合ではない。無双直傳英信流の教えに次の如く説いている。「居合とは人に斬られず、人斬らず、己を責めて平らの道」柔和の精神を第一義とし、居合の実意を守り、常に礼儀を重んじ、人を立て、己を控え、寛容の精神を養い、大きな和の心を養い錬れば、居合整い天理にかなない、天下和順となる。したがって居合道は人格高操高潔なる人間形成を、目指して修錬する道とされている。



# 活動報告

## 居合道部会活動報告

居合道部会 満 壽 良 史

### 居合道講習会

春季講習会は令和四年五月八日、松茂町第二体育館で開催し、全日本剣道連盟居合及び日本剣道形の講習を行いました。参加者は二十一名でした。

令和四年七月二十三日・二十四日の両日岡山市において「第四十九回居合道中央講習会・地区講習会」が開催され、中央講習会には坂本憲一先生が、地区講習会には会員十名が参加いたしました。

この講習会では、これまでの全日本剣道連盟居合の「指導要点」を見直し、居合道委員会で編纂作業を進めている「指導上の留意点」に関する講習が中心で、このほか審判実技及び審査法の講習、古流（居合道各流派の技）研究について行われました。

中央講習会の内容については、九月十八日に伝達講習会を開催して会員に周知する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により開催を見合わせ、令和四年十一月六日に松茂町第二体育館

において開催した秋季講習会（参加者二十四名）のなかで坂本先生を講師として行いました。

### 四国四県合同稽古会

新型コロナウイルス感染拡大により、本県での開催を見合わせていた「四国四県合同稽古会」を美馬市のうだつアリーナにおいて本県では四年ぶりに開催いたしました。今回の稽古会は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、参加資格を五段以上とし、四国及び兵庫県から十名の講師を招いて開催しました。

県によっては、県外行事への参加を自粛するところもあり、参加者は四十五人という少人数での稽古会となりましたが、中央審査の受審者を対象とした「模擬審査会」を初めて実施するなど稽古会の内容に腐心いたしました。

### 全日本居合道大会

全日本剣道連盟設立七十周年記念第五十七回全日本居合道大会は令和四年十月八日東京武道館において開催されました。

本県からは、吉岡修一監督のもと五段の部に山田師正選手、六段の部に徳山豊選手、七段の部に森将夫選手の三名が出場し、総合成績は三十七位でした。

### 居合道県下大会

令和四年度居合道県下大会は、令和五年三月十九日に松茂町第

二体育館で開催し、(参加者二十三名)次の方々が優秀賞・奨励賞を受賞されました。(敬称略)

優秀賞 宮本昂成 北川心桜 黒川翔太郎

宮本響基 檜地千恵美 大森春奈

森本理希 山田師正 徳山豊

奨励賞 木村起真

### 居合道部会合同練習会

居合道部会会員相互の技術向上と親睦を図るため、合同練習会を令和四年五月から令和五年二月まで合計十一回開催し、延べ一二二名の会員が参加しました。

令和五年度も講習会や合同練習会を通じて部会全体のレベルアップを図っていきたくと考えていますのでご支援くださいますようお願いいたします。



# 講習会報告

## 第四十九回居合道中央・地区講習会報告

居合道部 坂本 憲 一

令和四年度の第四十九回西日本中央講習会（地区講習会）は、七月二十三日・二十四日の二日間、岡山県総合グラウンド体育館（ジップアリーナ岡山）で開催された。参加者は、西日本（近畿・中国・四国・九州地区）における全剣連所属の五段以上の居合人が対象で、参加総数は三四四名、本県からは八段としては私が参加した。

一日目、十時から始まった開講式では、真砂会長のコロナ禍での開催に対する激励の言葉、藤田長久岡山県剣道連盟副会長の歓迎と激励の挨拶。続いて役員講師の紹介の後、草間居合道委員長の挨拶があり開会式が終了。

引き続き、中谷行道専務理事から全剣連会長の交代発表とガバナンス・コンプライアンスについての「全剣連ガイドライン」の説明があり、徹底した不祥事の防止を前提に資料と事例を掲げ、その重要性を説明された。

十一時三十分から始まった「全剣連居合」の講習では、礼法及び一本目から十二本目までを草間純市居合道委員長が解説。一本

目から六本目までを勝瀬文孝講師、野外での刀礼、七本目から十二本目までを桑田孝弘講師が演武を行った。

今回の講習会は、従来の講習会で提示された『全剣連居合道講習会「指導要点」』を、一昨年から『全日本剣道連盟居合「指導上の留意点』』と改称し、それを実践して行こうとするところが大きな特徴である。「指導上の留意点」では、指導者が初級者から上級者までを指導するにあたって技前を具体的に分かり易い表現にすることが目的であると説明され、山梨県・岡山県で行われたこの講習会での指摘や意見など、反響を踏まえながらさらに内容を検討充実して行く旨、申し添えられた。後は居合道委員を講師として班別により実技講習となり、一班は小倉昇講師・中村正人講師（八段三十九名）、二班は佐々木幹彦講師・山崎明正講師（七段百二十一名）、三班は國方孝之講師・無津呂弘幸講師（六段百六名）、四班は勝瀬文孝講師・桑田孝博講師（五段七十八名）。なかでも八段はサブ道場を会場に、指導者としての「指導上の留意点」を理解・指導する上での方法論・加えて質疑応答と踏み込んだ議論がなされた。主な内容は、基本的な動作、抜き付け時の手と足の使い方、切り下ろしにおける体全体の動き、間の取り方など実に詳細な議論がなされ、特に、形に囚われ過ぎる傾向を諫め、仮想的を自分の中にしっかりと想定し、より実戦的に対応できるように技を練り込む必要がある。等々であった。

二日目の午前中は審判講習となり、最初、中村講師が第五十八回全日本居合道大会審判実技の反省を踏まえ審判員の立居振る舞

いと審判基準の内容説明があり、その後、八段を審判要員とし、全日本居合道大会審判要領の説明と審判基準を模擬試合を通じて詳しい指導がなされた。

七段については佐々木・山崎両講師。六段・五段については國方・無津呂両講師が担当、審判の基本動作、後退時の立ち居振る舞い、それぞれ五段の試合者による模擬試合を通じて判定基準の確認がなされた。

十一時三十分からの古流研究は、草間委員長が総括し、各流派ごとに別れることから私は自流の無双直伝英信流ブロックに参加した。参加人員は最多数の総勢三百二名。中村・國方両委員が講師を務め、近畿・中国・四国・九州（沖繩含む）ブロックごと同じ古流の技前を演武する形で進められた。今回は、特に、古流の技前を指定して個々に演武者を指名、演武終了後、その者に理合等の説明を、質疑応答する方法が採り入れられた。ちなみに小生は、よく似ている技前「虎の一足」と「脛圍」の演武が当たり、両者の違いを述べるよう指名されたため、演武終了後、二つの技前について師匠伝授の理合を述べさせて頂いた。

閉講式に当たっては、受講生代表に終了証が授与された後、小倉審議員・岡山剣連、山本会長の挨拶。草間居合道委員長からは、講習内容を正しく伝達して貰いたい旨の挨拶があった。本県においては、十一月六日、松茂町第二体育館において伝達講習会が開催され、講師は不肖ながら私が務め、午前中に全剣連居合を午後には審判講習を行い、午後四時伝達講習会を終了した。



# 大会・行事所感

## 第五十七回全日本

### 居合道大会に出場して

居合道部 徳 山 豊



第五十七回全日

本居合道大会都道

府県対抗優勝試合

が令和四年十月八

日に東京武道館に

おいて開催され、徳島県チームの一員として出場させていただきました。コロナ感染者数の第七波がやや収まった時期で、無事に大会も開催されました。ここに大会の概要と反省を述べたいと思います。

この大会は、各県代表三選手（五、六、七段各一名）を各段別に三試合場に分け、各試合場ではトーナメント方式により試合を行い、優勝者までを決めます。試合は、対戦する二人が紅白に分かれ、古流二本

（自由）と全剣連居合三本（指定技）の計五本を同時に演武します。その優劣を審判員が判定し、良いと思う方の旗（赤または白）を上げます。二本以上の旗の上があった方が勝者となります。勝者には、勝つごとに一点を与え、各県選手三名の得点（勝数）の合計点をもって団体成績が決定されます。

徳島県チームは、監督・吉岡修一先生、副監督・満壽良史先生、選手は七段の部・森将夫選手、六段の部・徳山豊、五段の部・山田師正選手でした。試合結果は、森、徳山が一回戦で敗退、山田が二回戦で敗退（一回戦シード）という結果に終わりました。結果、総合点が最下位の三県のうちのひとつとなってしまいました。

原田勝先生、坂本憲一先生、一村昌和先生のご指導の下、強化稽古を重ねましたが、昨年度に続く好成績を出すことができませんでした。今回の結果を反省し、中位以上の成績が残せるように強化に取り組みねばならないと思います。

私自身は、平成三十年に茨木県での第五十三回大会から四年目の出場でした。前回

は、メンタル面で動揺があり普段どおりの演武ができず後々まで悔いが残りました。四年前に「臥薪嘗胆を肝に銘じて、また一から出直し稽古に励みたい」と「徳島の剣道」にも書きました。以来、地道に稽古に取り組んでまいりましたが、目標にしてきた一勝はできませんでした。姿勢の悪さ、体幹のぶれ、仮想敵に対する攻め等、まだまだ課題が多く、力不足を実感しました。ただ、思い切り演武することだけではできませんでした。自分の力を出し切ったので、前回のような悔いはありません。

試合当日の会場で、高知県の亀井洋祐八段から「（仮想敵を）ぶっ殺してこい！」と叱咤激励されました。この一言で、「上手くやろうとか、力を抜こう」とかの雑念がなくなり思い切り刀を振りました。悔いなく負けましたが、課題も明確になり、さらに稽古に励もうという意欲が湧いてきました。意欲につながるように経験ができたことに深く感謝しています。年齢も最高齢に近くなってきてはいますが、歳は忘れてがんばりたいと思います。また、技の上達



に励むとともに居合道を通して、人間的な成長も目指さねばと思います。

最後になりましたが、ご支援いただきま

した徳島県剣道連盟、ご指導いただきまし  
た諸先生方、応援いただきました居合道部  
の皆様にご心からお礼申し上げます。



徳島県チーム  
左から 吉岡、山田、森、徳山、満壽

## 令和四年度 | 居合道 | 称号・段位合格者一覧

### 【四段】

十一月六日

安田 勝裕

### 【初段】

五月八日

大森 春奈

### 【三段】

十一月六日

西岡 悠天

令和五年

三月十九日

尾花 裕貴

### 【二段】

十一月六日

辻 考

# 称号・段位合格者

## 居合道七段位を拝受して

石川県 北川 裕美子



私はこれまで、  
師匠より「謙虚に  
せよ、真面目にせ  
よ、創意工夫をし  
て、一生懸命稽古

せよ」と教わってきました。技については  
「自分で見て覚えよ、無駄をするな、無理  
をするな、武道として合理的な居合を目指  
せ、全身全霊をもって、一心に取り組み」  
と教わってきました。

その師匠のお導きによって稽古を重ね、  
令和四年十一月二十七日に、東京居合道六・  
七段審査会において、居合道七段位を拝受  
いたしました。

これまでの師匠の教えの中でも、私の居  
合道への取り組み方、生き方の支えになっ

ている言葉があります。【「上手い居合」

ではなく、「良い居合」をしなさい。「上手  
い居合」は試合で勝てるかもしれないけれ  
ど、誰からも好感の持たれる居合とは限ら  
ない。「良い居合」は、試合には勝てない  
かもしれないけれど、誰からも好感の持た  
れる居合だ。北川さんは、「良い居合」を  
しなさい。それは生き方にも通じる。「上  
手い生き方」ではなく、「良い生き方」を  
しなさい。誰からも好感の持たれる生き方  
をしなさい。】この言葉が、私の生きる指  
針になっています。

これから居合道七段位として、指導者の  
立場になります。先人の教えに「教えるは  
学ぶの半ばなり」とあるように、人に教え  
るということは、生半可な知識や技量で教  
えられる事ではなく、常に自分の品位、風  
格、技量を正す精進につながります。その  
人の持つ「自分にはない良いところ」を学ぶ  
機会をいただけます。

その時には、自分の考えを押し付けるこ  
とをせず、その人自身が、自分で研究した  
り創意工夫ができる「ヒントを投げかける」

のが、私のやるべきことと思っています。  
先生から教えてもらって身に付けるだけの  
稽古は、動物園の「檻の中にいる動物」と  
同じです。自らエサを求めて主体性を持つ  
て稽古に励んでいると、大変稽古が面白く  
夢中になっていきます。それが、まさに今  
の私です。

もちろん、浅学の私のことですから、横  
道に逸れることばかりでした。後になって、  
その遠回りしたことがすべて「自分の肥し」  
になっていると気づきました。「近道を望  
む事なかれ、遠回りを恐るる事なかれ」で  
す。

私は、私のような「居合が楽しい、もっ  
と取り組んでみたい」とワクワクした気持  
ちで稽古に励む仲間を増やしたいと思っ  
ています。また、私は「師匠と同じ志を紡い  
でいこう」と心に決めています。

北川さんは石川県在住ですが、原田勝  
先生に師事されておられます。居合道  
七段に合格されましたので、本誌に御  
寄稿をお願いしました。

## 居合道四段に合格して

阿波居合道伝習会 安 田 勝 裕

令和四年十一月六日の昇段審査で、居合道四段に合格いたしました。

七年前に、居合を始めました。参加したのは、阿波居合道伝習会です。剣道連盟阿波支部の会員だった私は、春分の日と秋分の日に行われる阿波支部練成会開会式での無双直伝英信流の古伝組太刀の演武は、鏢や柄などを使い体全体を武器とする技があり、心惹かれるものがありました。『徳島の剣道』を読まれる方は、剣道人が多いと思いますので、剣道人が居合を始める時の疑問点、戸惑い、よかったことなどをお話ししたいと思います。

居合をされている方には当たり前のことに思いますが、初めて阿波居合道伝習会の稽古の見学に行った時に、見学だけだと思っていたのですが、その場で居合刀の話になりました。問題は居合刀の重量や長さで、右手の長さに太刀の刃身の長さが合ってい

ないと、抜刀、納刀がうまくいきません。居合衣、居合袴の他にも、帯が必要です。この帯に刀を帯刀することになります。

居合には、日本剣道連盟居合十二本、伝統につちかわれた古流があります。阿波居合道伝習会は無双直伝英信流ですが、他に多くの流派が存在し、試合や審査の時は、自分が学ぶ古流を数本抜いてから、日本剣道連盟居合を数本抜くのが一般的です。違う道場に出稽古に行くときは、自分が学んでいる道場と同じ流派の道場に行かないと、混乱するみたいです。

私は、居合を始めて最初に礼式を覚えませんでした。所作がすべて決まっています。次に日本剣道連盟居合一本目から順次、習っていききました。一週間に一本のペースでその動きを覚え、早すぎると思ったのですが、開始一年後に初段を取得しました。

日本剣道連盟居合は剣道と同じ足さばきなのですが、複数人の敵を想定しており、剣道のように一対一の戦いではないので、戸惑いがありました。撞木足、カギ足はご法度なのは同じです。古流になると、逆に

撞木足で敵への対応が必要で、混乱する部分があり、剣道に固まった私としては、ややこしかったです。

二段を習得した後、先生から真剣で練習する必要性を説かれ、現代刀を入手することにしました。刀の制作者は、徳島県無形文化財保持者の杉山正俊刀匠です。真剣の素材は玉鋼とは聞いていたのですが、師は、玉鋼に火繩銃の銃身を素材にしたおろし金を交ぜて、古風な鍛え肌を出していることに驚くとともに面白さを感じました。また、その登録が文化財として教育委員会であることにも興味を覚えました。

手を切るのが怖くて四段は居合刀で受審したのですが、五段は真剣で受審したいと考え、現在真剣で稽古に励んでいます。

いざ居合を始めると、剣道とは共通点と相違点があることがわかります。相違点からいうと、居合は、速筋より遅筋を使う武道であることです。剣道と使う筋肉が違い、疲れが異なります。居合は面をつけません。素顔を三六〇度から見られています。プレッシャーがあります。逆に自己顕示欲

## 居合道三段に合格して

居合道部 西 岡 悠 天



みはしましたが、ぼんやりしていて頭の中はまともありませんでした。

実技審査時は、無我夢中で余裕などまったくなく、実技の後、審査を見守っていた父から「ミスはなかったよ」と告げられた時、それまでの緊張が解け、やれることはやったのだという思いと審査が終わったのだという実感が湧いてきました。

冷静に審査時を振りかえってみますと、その日は暑くない日だったのに額に汗がにじんできました。今思うと朝起きた時から緊張していたのです。そうしたプレッシャーの中で三段審査に合格したことは、自分にとって自信につながる大きな経験だったと思います。

私が居合を習うことになったのは、本当にささいなことでした。それは、何か習い事をしなさいと祖母に言われ、いろんな習い事の間を見学していたおり、阿波居合道伝習会の練習場へ父に連れられて行った時の事でした。練習風景はかっこいいの一言で、私には目を奪われるばかりの景色として映りました。これが、居合道を始めたき

が強いときは、自己陶醉するかもしれませんが。また、刀を使用するため、その握りは場面、場面で変えていく必要があります。剣道では竹刀は丸いので、握りの替え方が難しいですが、日本刀では、握りによって刀の運用が変わることがわかりました。この辺りは、もっと有段者に聞いてください。阿波居合道伝習会に参加したとき一番驚いたのは、自分が一番若かったことです。広報委員を買って出て、市の広報誌や、ケーブルTVに勧誘広告を出し、毎年一人入会してもらえよう努力しております。俗にいうロングテールマーケティングです。おかげで今回、高校生で三段に合格した西岡君も小学生の時、市の広報誌を見て入会してくれました。

先日の講習会で、日本剣道形の講習がありました。居合は剣道形の質を高めます。そして剣道の質を高めると思いますが。剣道有段者の皆さん、居合を始めませんか。新しい剣道の未来が待っていると思います。

先生や先輩方のおかげと心より感謝しています。

私は、小学生の頃から居合を習い始め、今まで、暑い日も寒い日も全剣連居合十二本の技をどうすれば正確にできるのか、一回一回考え練習してきました。練習の過程では、思い違いをしたり、手を傷つけてしまったりすることも沢山ありましたが、教えてくれる先生の期待に応えたいという思いだけは忘れず今日まで居合を続けて来ました。

昇段審査の当日、私は正直なところ、今日が受審の日だという実感がありませんでした。直前まで教本を読んで審査に取り組

かけです。

居合を習い始めた頃は、何も分からず、背丈が小さいため、先生から借りた脇差をただ振るだけだと思っていました。しかし、練習を積んでゆく内、決められた「形」があることを知りました。当時の私はなぜそういう形があるのだろうと不思議に思っていました。

しばらくして居合道は古い歴史をもち、実戦を考慮して作られた多くの形が存在し、全剣連居合の十二本の形は、それらの古い形を元に作られ、時代と共に進化洗練されて出来上がったものだとということが分かり、その技をもって、段級審査や大会での試合が行われているということを知りました。

居合道は奥が深いとよく聞かされるのですが、その深さは今の私には分かりませんが、その内分かって来るのでしょうか。日々の練習の中で、これまで出来ていたことが出来なくなってしまうこともあります。その時はどこがどう出来ていないかを深く考えるようにし、手本となる先生の技をまねて出来ていた時の感覚を取り戻すようにし

ています。また、一度全部忘れて最初に帰ってやり直してみるのもいいのかもしれないと思います。

最近、先生から一つの動作に番号をつけ、その番号を付けた時の姿勢を完成させた形にするように指導されました。この方法だと悪い癖がついている部分がよく分かりません。しかし、長年こうだと思いつけていたことは、なかなか直すことが出来ません。それと分かっているも今までこうだったという記憶が残っているせいか直すのは本当に大変です。これが、居合道における「道」  
「修錬」だと思えます。

審査前の練習では実技ばかりして筆記の勉強は数日に一回すれば良いほうで、審査の前に一夜漬けて審査に臨む状態でした。しかし、実技を上達させ段位が上がるにつれ文章化された教本を熟読する必要性をつくづく感じるようになりました。また、逆に技術前を教本に当てはめて理解するのも一つの方法とも考えるようになりました。最近、特に気にしているのは、段位に伴って身につけなければならない言葉使い等々

が、おろそかになってきていることです。このことは肝に銘じ、先生や先輩に褒められるよう努力しようと思っています。

このような私ですが、今後とも御指導の程宜しく願います。



# 居合道 はじめました

春風館 辻

孝



私は現在徳島春風館道場で、青木茂生先生に剣道と居合道をご指導頂いております。六

年前息子が剣道を始めるのを機に、私も一緒に道場に通い、おかげで剣道五段に合格できました。居合は昔から興味があり、剣道の目標を達成したら先生にお願いしようと思っておりました。稽古をはじめて約一年半です。

令和四年十一月六日に行われた審査会で、居合道二段の合格を頂くことができました。

当日は、私から順に審査が始まり、審査員の先生方を前に緊張して、いきなり開始線から大きく離れて正座してしまいました。後悔するも仕方ない、と気持ちを切り替えて、次第に流れに乗れたものの、最後にまた力んでしまい、短くも長い時間を終えま

した。

審査後、青木先生から、刀礼の際に刀の位置が真ん中から左にずれていたことをご指摘頂きました。他の先生からも携刀姿勢や正座の仕方についてのご指導がありました。つつい術技の手順ばかり気を取られ、作法にまで注意が至りませんでした。まだまだ初心者の私は居合道解説書を熟読し、忠実にそれを守ることが重要だと思いました。

居合で最も難しいのは、実際にはいない敵を相手にすることです。術技の手順はどうにか覚えたものの、うまくできただけ、仮ても自分勝手にただ刀を振っただけで、仮想の相手を切るのに不合理なことが殆どです。

また、居合では袴の下に帯をしますが、初めなかなかなじまず、決まった着装ができるのに半年かかりました。それで下腹部が落ち着きやと抜刀納刀が行えるようになりしました。真中から切り下ろすのに、手首を柄の上におきそつと柄の凹凸に指をそえ、右の中指と左の示指を少し締めて丹田

を意識するとできます。ところが、先生に褒めて頂きもう一回、という時にさあ良いところを見せようなどと欲を出すと、とたんにぶれてしまいます。やれやれ難しい、日本刀はとても正直です。

しかしながら刀を振る感覚で竹刀を握り、丹田を意識することで、剣道の稽古仲間から最近姿勢がよくなったと言ってもらえました。それからは子どもたちの相手をする時や、高段の先生方の攻めにも崩れないよう我慢して、常に姿勢を保つ稽古を心がけています。

他にも、稽古では全剣連制定居合十二本に加え、道場の流派である「無双直伝英信流」の動作を習います。古流と呼ばれる術技は数多く様々で、切腹の介錯の業や、二人で行う形もあります。

古流は実戦即応であり、踏み足の向きまで細かく論理的で、いったいどうやって作られたのだろうか、と驚いています。時を超え先人からの智慧に触れているのを感じます。青木先生は技の稽古とともに流派の歴史や居合道のこれまでの経緯についても

教えて下さり、大変興味深いです。

武道は日本人が積み上げてきた大切な文化であり、今それを私は継承させて頂いているように思います。居合をはじめて本当によかったです。今後も剣道とともに居合道の稽古を続け、遙か高い理想に近づけるよう、次の昇段を目標に励みたいと思います。



## 居合道初段に合格して

徹心道場 大森 春奈



私が居合道を始めるきっかけとなったのは、祖父です。祖父は、家では優しく、ゆったりと

している「じいじい」ですが、袴を着て刀を握ると、キリッとしてかっこいい「先生」に変わります。私はそんな祖父を幼い頃から見てきたので、居合はとても身近にあり、私もしてみたいと思っていました。そして、中学に上がり、居合を始めるとにしました。

私は最初、祖父が簡単そうにスツとしていたので、私も簡単に出来ると思っていました。しかし実際に始めてみると、まず、袴も一人で着ることができませんでした。帯を何度も腰に巻いたり、後ろでリボン結びをしたり、わけがわからず、毎回祖父に着付けてもらっていました。そして刀をふっ

ても、体の軸がブレて、フラフラしてしまいました。私は十二本ある連盟居合の中で特に、四本目で苦戦しました。理由は、四本目では「居合膝」という座り方があり、

私はその座り方をする時、バランスがくずれて毎回こけてしまいます。私は簡単に出来ると思っていただけなのに、出来ないことが多く、とても悔しかったです。しかし、毎週祖父や小野先生、徳山先生、林先生などの先生方が熱心に教えてくださったおかげで、

だんだんと出来ることが増えました。そして、今では着付けも一人で出来、四本目も上手に座ることが出来るようになりました。そして、令和四年五月八日、居合道初段の昇級試験に合格することができました。しかし、初段に合格するまでも、とても大変

でした。初段からは試験に「筆記テスト」が加わります。私は、徳山先生に剣道の理念である「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」という言葉を教えてくださいました。その際、床に正座をして教えてくださいましたので、私はまだ正座に慣れておらず、足が痺れてしまったことが

心に残っています。しかし、そのおかげで、筆記テストにスツと合格することが出来たのでよかったです。

私は初段に合格するまで、たくさんの方々にお世話になりました。だから私もお世話になった方々のようになれるよう、今よりも、熱心に練習し、体だけでなく心の修行もしていきます。そして、もっと出来ることを増やして、次は二段に合格できるようにがんばっていきます。

## 随想

### 居合道八段審査をめざして

森 将 夫



そもそも私が居合道を始めるきっかけは詩吟を近所の人に習っていたことによる。詩吟

の師匠から、剣舞や扇舞の話の時に居合の話が出て、初めて居合の事を知った。刀を振って人を切る武道としか知らなかったが興味があった。剣舞をするには居合をして刀の扱い方を知る必要があると思った。

詩吟の師匠から、鴨島町に居合の偉い先生がいると紹介してくれ、この話をしている時に西山さんが一緒に居合の稽古に行こうと誘ってくれた。その時は私の年齢は三十五歳であった。今現在は七十七歳で四十二年間もこの居合道を続けた事になる。

しかし、その間には道場へ行ったり行かなかったりした時期もあったが、曲りなりにも続けてきた。鴨島町の師匠・平尾勝美先生も亡くなり、また居合を誘ってくれた西山さんも亡くなった。しかし私は元気でこの稽古事にすっかり入り込んでいます。

令和四年の年の初めにこれだけ長くやっているのだからこの道の頂点に向かうという目標をたてた。居合の最高の段位で八段である。審査を受けることが出来る条件はクリアされている。また、新型コロナウイルス感染も少し落ち着いて来ている。

七十歳頃より鴨島町の徹心道場へは夜遅くの車の運転に自信が持てなくなり、徳島の中央武道館に居合の稽古場所を変更した。自転車で十五分程で行ける。居合道八段審査会が令和四年五月三日に京都市立体育館で実施された。受審者九十九名、一次実技合格者二十五名、二次実技合格者五名、合格率五・一パーセントであった。この時の全剣連の広報誌「剣窓」に一次実技合格に「もう一步」の欄に私の受審番号があった。非常に嬉しく、今現在の稽古の方法でよい

事が分かった。今現在師匠について稽古をしていないため自己流で稽古をしている。

全日本剣道連盟設立七十周年記念で居合道八段審査会が年一回から令和四年は二回となった。二回目は東京の江戸川区スポーツセンターで十一月二十六日(土)に実施された。これに向かって月曜日、水曜日、金曜日の午前中の二時間を武道館で稽古した。しかし、私の家庭の事情で子供を施設に朝九時に送って行き、また昼の三時に迎えに行かねばならない。また子供の病院への送り迎えもあり、さらに病院での診療箇所は四箇所もある。だから時間もバラバラで居合の稽古も充分とは言えない。そこで、月曜日と金曜日の夜は七時頃より坂本憲一教士八段のグループと一緒に稽古をさせてもらった。これまでよりも居合の稽古時間が格段に増えた。

令和四年十一月二十六日の居合道八段審査会では、受審者九十九名、一次実技合格者三十四名、二次実技合格者六名、合格率六・一パーセントであった。今回はこの一次実技合格者に入る事が出来た。しかし、

自分としてはこんな出来で合格者になるのは？武道館でいつも稽古をしているときの半分位の出来であった。まだまだ稽古が足りないという事だ。来年は令和五年五月三日に京都市である居合道八段審査会にはこんな事には成らないように十分に稽古をしていきたいと思えます。

## 徳島県の居合道の歩み

青木茂生



徳島県剣道連盟が居合道を取り入れたのは昭和二十七年からである。その当時の中心的

な指導者、剣道範士八段、居合道範士七段であった須見善富先生が戦前（昭和十五年、その当時は高知県へ出かけて行くのには非常に交通の不便な時代であった。）に、甲浦港から船に乗って年二回程度、高知市へ出向いて居合道教士であり無双直傳英信流第十八代子爵の山内豊健先生から指導を受け徳島県内において指導・普及を行った。当時の居合道人口は三十名ほどであり、その中で代表的な先生方は、石井隆介先生・下村富夫先生・滝下勝先生・田村楚一先生・松島隆先生・平尾勝美先生・他に遠藤英雄氏・中村武夫氏等であった。

全日本居合道大会への参加は、昭和四十

六年に香川県で行われた第六回大会からであった。その当時五段平尾勝美、六段滝下勝、七段下村富夫の各選手が参加した。その後は、参加も途切れがちであったが、昭和五十一年第十一回福島大会より再び参加をし、それ以降は全日本居合道大会に参加をした。平成十年第三十三回広島大会の都道府県対抗優勝試合に於いては、団体成績七位であった。その後も六位〜十位の成績を数年維持した時代もあり、個人の成績としては平尾勝美選手と高橋憲司選手がベスト四位まで勝ち上がったこともある。

昭和五十一年より徳島県剣道連盟は、居合道普及発展のために当時の三木只雄県剣連会長が堀江幸夫先生（次期の会長）と親交があった大阪の居合道範士九段・剣道範士九段坂本吉郎先生（徳島県出身）と坂本先生の高弟であった居合道範士九段福田一男先生を講師として迎え指導を受けた。昭和五十三年十一月四日徳島県剣道連盟主催の居合道講習会を初めて実施された。（尚、昭和四十一年には森繁樹先生と政岡實先生とを招いて徳島市で四国居合道研究会が開



催された。研修会の時、森先生と政岡先生の居合演武を参加者皆が拝見している。また、四国の居合道研究会は、昭和四十年に愛媛県今治市でも開催されている。(この時の研究会は、全剣連・日居連の肩書は一切外し年齢順に抜き居合を楽しみつつ、研究するなごやかな研究会であったと聞いている。)

昭和六十年から剣道範士八段堀江幸夫先生(後に名誉会長)の御支援により講習会は、全剣連居合を主として秋に

年一回実施し、昭和六十二年十一月坂本範士が亡くなられて、その後は高弟の福田一男範士が続いて講師として秋季講習会が行われた。また、昭和六十年より高知の居合道範士八段澤田友信先生を講師に招いて春に古流(無双直伝英信流)の講習会を開催していた。古流の講習会は、澤田範士が体調を崩される平成五年まで続いた。その後は大阪の福田範士に春の講習会の講師も併せてお願いした。福田先生のご指導を受けることにより徳島県居合道部全員が更に一致団結し、益々居合道部の活動が活発化し



た。平成九年には、西日本の居合道地区講習会を開催し、県外の有名な多くの先生方に指導を受けることができた。そして、各人の居合道段位も福田一男先生の指導のお陰をもって中央審査会で合格する高段位者がだんだんと多くなってき始めた。その当

時に、代表的指導者であった居合道部長下村富夫先生がお亡くなりになり、中心的指導者を失った居合道部員は、指導者を県外に求めて各人がそれぞれの先生方に指導を仰ぐ事になった。平尾勝美氏は、佐賀県の範士八段日浦真蔵先生、高知県の範士八段

澤田友信先生、香川県の範士八段香西好雄先生の指導を受けた。又、現在範士八段原田勝先生は、高知県の範士九段三谷義里先生の指導を受けた。現在教士八段坂本憲一先生においては、徳島県石井町の居合道教士七段・剣道教士六段野口直之氏に指導を仰ぎ、野口先生の紹介で香川県観音寺市の居合道範士八段岩田憲一先生を師事し、阿波居合道伝習会の会員であった居合道教士七段・剣道

教士七段一村昌和氏も坂本憲一先生と同様に岩田憲一範士に指導を受けた。張野久晴氏・高橋憲司氏・前田健志氏は、高知県の範士八段澤田友信先生の指導を受けられている。

平成元年に徳島県剣道連盟の組織が再編成されたのに伴い居合道も剣道範士八段堀江幸夫先生(その当時、徳島県剣道連盟の会長)の計らいにより県下各地に散らばっていた居合道部員を集め、再編成した。もしもメリットよりデメリットが多かったら元の支部に戻すこととして再度、徳島県剣

道連盟居合道部が出発をした。部員は三十名と少数であったが、当時徳島県の代表的指導者であった平尾勝美先生を中心に活動を開始し、全日本居合道大会・京都大会等近県の大会にも積極的に参加するようになった。この時の居合道部長は、範士八段原田勝先生が就任し、徳島県の居合道発展のためにご尽力をされました。歴代の居合道部長は、初代下村先生、二代目滝下先生、三代目堀江先生、四代目原田先生、五代目高橋先生、六代目岸田先生、七代目福井先生であり、現在の居合道部長には、居合道練士六段の満壽良史氏が務めている。令和元年七月に徳島市立体育館において、居合道六段・七段審査会並びに西日本居合道地区講習会が実施されました。その大きなイベントには徳島県剣道連盟と徳島県居合道部会員の結束で立派な審査会・講習会が行われた。

今、心配していることは少年部において、平成二十年頃まで六十名ほどいた少年・少女が現在は数名程度で減少を続けている状況であります。

その頃の少年の部は、近県の大会に於いて優勝又は優秀選手になる少年剣士も多く、目覚しい発展を続けていました。しかし、今は寂しい限りであります。

今後、徳島県居合道部を発展させていくためには、会員の増強が必然となってまいります。現在、範士八段原田勝先生を中心に部員の更なる増強を図っているところであります。かつて徳島県居合道部は全日本大会において八位以内の上位にいた実績もあります。それを復活させることを目標に堅実な活動を続けていかなければならないかと思えます。剣道と居合道とは極めて密接な関係があります。抜刀や納刀、刃筋気魄その他手の内などは、剣道人としても参考となることが多いので、是非剣道人の方々にも居合道を学んで頂きたい。『剣道の理念』は、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」と唱われております。剣の理法の剣とは、日本刀のことなのでから是非とも操法の修練をしていただければ幸いかと思えます。今後益々徳島県居合道部が発展することを、ご祈念申し上げます。



## 道場紹介

### 大和錬心館

大和錬心館 西本 忠司

大和錬心館の居合は原田範士八段が始められました。故木頭村長・走川輝一先生をはじめ数名の方が学んでいましたが、高齡、体調不良などにより一人、二人と刀を置かれ、原田先生が平成二十六年の台風による災害で小松島市に引っ越しをなされてからは、大和錬心館で稽古をしているのは私人となっています。

私が居合を始めた頃は、今は取り壊された古い道場で毎週二回、午後七時三十分から稽古をしていました。「手の内ができればゼロです。ゼロに十を掛けてもゼロ、百を掛けてもゼロですよ。」と先生はおっしゃい、手の内についてだけで十〜二十分ぐらいの稽古し、それから形の稽古が始まります。刀の重さだけで振れと言われるの

ですが、羽音ばかり気にして振っていたように思います。

また、原田先生に連れられて、高知大会、宇和島大会、香川大会、大阪大会と参加していました。大会前の懇親会では高段者の先生方の中で居合いを始めたばかりの私は居所が無く小さくなっていました。しかし、そのおかげで、他県の先生方に顔を覚えて頂き、今でも親しく声を掛けて頂いています。

現在の和錬心館（木頭柔剣道場）での稽古は、週に一日ですが、不定期に休日の午後、那賀町立北川体育館で稽古をしています。一人での稽古は仮想敵を意識できず、あいかわらず羽音を気にし、形が崩れ悪い癖がつきがちです。意識を高く持たなくてはいけないのですが、難しいもので、原田先生の道場に伺い稽古を見ていただいても毎回同じところを指摘されています。

剣道は年齢に関係なく老若男女が同じように竹刀を交えて稽古できる素晴らしい道ですが、居合も老若男女の差なく行うことができます。年数を重ねるごとに体力は衰

えますが、こつこつと修行をつみ、居合を通して健康的な人生が送れるよう、そして、木頭に原田先生が灯した居合の火を消さないように歩んでいきたいと思っています。



# 徹心道場

徹心道場 吉 岡 修 一

## 徹心道場誕生

創立は昭和四十三年四月一日で居合道範士八段・剣道教士七段平尾勝美先生です。「心の修業に徹する」ということで「徹心道場」と名付けられました。平尾先生は徳島県ではじめて居合道八段に、その後、範士になられた先生です。

練習は月・水・金の週三日で、午後七時三十分から午後十時まで。場所は吉野川市鴨島町鴨島、鴨島第一中学校武道館。令和四年度の在籍者は成人の部十名、少年の部十名で、高段者として七段二名・六段三名、女性が九名で徳島県ではじめて居合道六段の女性もいます。少年の部は熱気溢れる練習をしています。成人の部も上位の昇段に意欲を燃やし切磋琢磨しております。

平成十九年の第四十二回全日本居合道大会と令和四年の第五十七回全日本居合道大

会には徳島県代表選手として五段の部・六段の部・七段の部・監督も徹心道場から選ばれています。

平尾先生の剣道居合道の師は名西郡石井町西覚円雄心館長の須見善富先生です。その須見先生の師は名西郡石井町柳生新陰流総家久武館長の久保源次郎利雄先生です。

## 徹心道場の慶事

(一)平尾先生居合道八段昇段記念に日本刀を贈呈

平成二年五月十三日に京都市で行われた居合道審査において見事八段に昇段されました。これは徳島県で初めてとのことであります。平成二年八月二十五日に徹心道場と鴨島少年剣道教室一同より、記念の日本刀を贈りました。徳島県無形文化財保持者で吉野川市鴨島町牛島刀匠・杉山正俊氏の作で居合刀としてはじめての作刀とのことであります。登録証には次のように記されています。

銃砲刀剣類登録証

登録記号 徳島県第二五六七八号

種別 刀 長さ七十一・七センチメートル

反り 一・七センチメートル目くぎ穴一個

銘文 (表) 阿波国正俊造之  
(裏) 平成二年八月二十五日、製作承認年月日  
平成元年十一月三十日  
徳島県教育委員会  
平成二年十月十七日

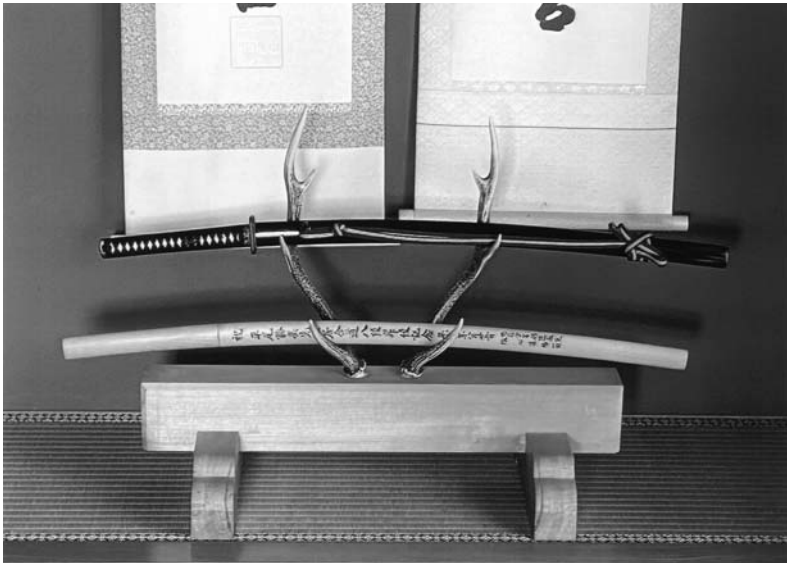
(二)徹心道場創立四十周年記念で武道額を奉納

平成二十二年十一月十三日徹心道場創立四十周年記念として武道額を作り奉納しました。武道額は縦九十四センチメートル・横一・六七センチメートルの総樗作りで四角に真鍮の飾り金具をつけ、中央に平尾先生より賜りました桜の木刀大小を掛け、累計二七四名を記しています。先生の氏神さ



んであります若宮神社（吉野川市鴨島町知  
 恵島四〇〇）にて平成二十二年十一月十三  
 日（土）午前九時より式典を行いました。  
 神殿に玉鋼鍛えし太刀を置き、供物をし、  
 木村宮司のもと額の除幕、祝詞奏上、道場  
 代表が誓詞拝読、拝殿前で無双直伝英信流

に古くから伝わる四  
 方被い後、道場生一  
 同揃い抜きをして式  
 典を終了しました。



平尾先生居合道八段昇段祝いに贈りし日本刀



徹心道場武道額奉納記念 平成22年11月13日 於:若宮神社

徹心道場創立四十周年記念で作った武道額



## 大和養心館

大和養心館 原 田 勝

大和養心館の始まりについて、昭和二十五年当時私は、那賀町木頭出原（旧木頭村）に住んでいたため、徳島市より約百キロ程の距離で交通の便利が非常に悪い時期であった。居合道の県内外の大会及び講習会等に参加する為には非常に不便であったので、中継基地として小松島にセカンドハウスを建てた。それに合わせて自分の稽古場を作ったのが始まりであった。

平常は那賀町木頭出原の大和錬心館で稽古をしていた。その大和錬心館の意味は、大きな和の心を錬るの意味であった。しかし、私は錬るまでには到らないと思い、養うにして、大和養心館とし、まずは大きな和の心を養う事とした。養うの次はそれを更に錬って行く事にした。

現在は主に県内の指導的立場にある先生方が稽古に来ている。それに加え、県外各地からは八段の受験者等の方が稽古に来ら

れるので基本的に年中無休としている。





新設

杖道部会コーナー

## 特別寄稿（四）

### 徳島県剣道連盟杖道部の発足を祝して

全日本剣道連盟杖道委員長 黒 郷 源 慈



この度、徳島県剣道連盟機関紙「徳島の剣道」に寄稿のご依頼を頂き躊躇いたしました。折角の機会と思ひ浅学を顧みず思いのままを綴らせて頂きます。

杖道が全日本剣道連盟（以後全剣連）に加盟したのは昭和三十一年ですが、その後十二年間の研究期間を経て昭和四十三年に全剣連制定杖道が誕生しました。因みに資料によりますと「日本剣道形」は大正元年に制定されたものを昭和八年に加増補。「全剣連居合」は昭和四十四年に制定され、その後二度の加増補をしております。

全剣連杖道は神道夢想流杖術が元になっているといわれています。しかし、私的には修練する上で「神道夢想流杖術イコール全剣連杖道ではない」とはっきり認識するべきと思っています。何故ならその方が全剣連の昇段審査、あるいは大会等で戸惑わないで済むからです。所謂、古流としての「杖術」と全剣連の「杖道」との違いを理解した上でそれぞれの技を修練することが大切

だと思えます。神道夢想流杖術には「称号・段位」は存在しません。他の武術などに見られる目録のように練度により「奥入証」「初目録」「後目録」「免許」が師匠から授けられます。蛇足ながら徳島県剣道連盟会員の皆様が「杖道」、「杖術」を修練されるうえで参考になれば幸いです。

さて、私は現在、全剣連杖道委員会委員長として七名の委員と仕事をさせて頂いております。全剣連杖道委員会の最大の課題は、普及です。全剣連の役員から常々「杖道の会員数が少ない」と言われ肩身の狭い思いをしておりました。

この度（令和三年）、徳島県剣道連盟に杖道部が発足をされましたことは誠に感慨深く感謝致しますと共にお祝いを申し上げます。次第です。私的なことを申し上げますと、副会長の米倉滋先生と約三十年前、当時「柳生の講習会」、現在の全剣連剣道中央講習会でご一緒させて頂いた同期生でございます。京都大会の度に同期会をおこなっております。顔を合わす度に「徳島県に杖道を」としつこく言っております。正直な気持ちですが、全国的に剣道で活躍しておられる先生にとって杖道とは厄介で迷惑な話ではないかと思っております。

昨年の十月の講習会にお招き頂き、米倉先生をはじめ、会長の藤川和秋先生、杖道部会長の青木茂生先生、一村昌和先生、坂本憲一先生等、役員高段者（剣道・居合道）の先生の方々が参加され、自ら熱心に稽古をされるのを拝見し胸が熱くなるのを覚えめました。参加をされました全ての会員の皆様の真剣に稽古される姿

が目に焼き付いております。

今後、益々徳島県剣道連盟杖道部が発展するのは目に見えております。私も及ばずながら、また機会があればお役に立ちたいと思っております。最後に徳島県剣道連盟の益々のご発展と、会員の皆様のご健康、ご活躍をお祈りいたしまして結びとさせていただきます。



令和4年10月22日 徳島県中央武道館にて



# 講習会報告

## 令和四年度徳島県剣道連盟

### 杖道講習会を受講して

杖道部会 筒井 勇



令和四年十月二十二日・二十三日の二日間にわたり、標記の杖道講習会が開講されました。当初は杖道部会発足後の早い時期に発足式と併せて行う計画でしたが、新型コロナウイルスの感染状況や防止策の徹底などで中止・延期が続きましたし、なにしろ初めての開講というところもあって準備や連絡も手際よくとは言い難く、ようやく開講にこぎつけたという状況でした。講師には、全日本剣道連盟杖道委員長の黒郷源慈範士をお招きしました。

講習会初日は、徳島県剣道連盟会長藤川和秋先生にご臨席いただき、県立中央武道館剣道場を会場に行われ、愛媛県から四名、高知県から三名の先生方も参加されました。愛媛県・高知県からご参加いただいた先生方も含めて、参加者全員と面識があるのが私のみということもあり、会場設営に続いて受付を担当させていただきました。

先ず、開講式・記念撮影が行われ、続いて黒郷範士からの講話があり、杖道が全日本剣道連盟に加入した経緯や杖道形が制定された経緯などについて聴講しました。講話の後、黒郷範士と愛媛県剣道連盟杖道部長の藤田和男先生による杖道制定形の演武を細分化しての説明があり、昼食休憩を挟んで丸一日かけて、制定形一本目の「着杖」から五本目の「左貫」までの実技講習を行い、参加者それぞれがペアを組んで稽古しました。愛媛県松山市や和歌山市での過去に参加した講習会にて点と線について学んだことがあり、点の部分が大事であることを頭ではわかってはいたつもりですが、いざ一つ一つの動作を細分化してその都度止まってみて、構え・目付・体捌きと足捌き・足の位置・後ろ足の爪先の向き・打突時の動作などをセルフチェックすると、できていない部分が多かったですし、黒郷範士からとてもわかりやすい説明や実演を見聞きし、理解を深めていくことができました。

徳島県の参加者は、普段ご指導してくださる先生（青木茂生先生、徳山豊先生）以外はまだまだ初心者レベルで、制定形も二本目までしか教わっていない者もいました。

一方、愛媛県・高知県からの参加者は、徳島県の先生方よりも高段位の先生ばかりでしたから、初心者レベルの講習内容にさぞかしつまらなさを感じたのではなかるうかと思いましたが、高段位のある先生から「普段の稽古でなかなかここまで細分化した稽古はできていないし、改めて基本に戻って見直すことができ良かった」という言葉を耳にした時はちょっと安心しました。

初日の講習会を終えてからは、黒郷範士を囲んでの懇親会が行われ、貴重なお話をたくさん耳にすることができました。

講習会の二日目は会場を徳島市立八万中学校体育館剣道場に移して行われました。

先ず、黒郷範士と愛媛県の藤田和男先生とによる杖道制定形の十二本目までの全ての演武を通じて拝見した後、休憩を挟みながら三時間余りの実技講習にうつりました。前日と同じように細分化して、制定形の六本目「物見」から九本目の「雷打」までの太刀・杖の動きを教わりました。講習会当時、徳島では六本目の「物見」は三回ほど稽古したことがありましたが、七本目の「霞」は前週の定例稽古で初めて稽古し始めたばかり、八本目の「太刀落」と九本目の「雷打」については指導にあたっておられる先生と私以外には未知の世界。どうやら徳島のメンバーにはチンプンカンプンだったようです。

初日のようにペアを組んでの稽古も六本目の「物見」のみ、あとは太刀の動き・杖の動きを繰り返し稽古していくなかで、形の構成を理解するように取り組みました。

わからない部分は質問したり、理解できるまで何度でも見聞きすれば良いものを（そのための講習会だと私は思います）、何を遠慮しているのか誰も発言しないものですか、松山市での講習会の時のようにまたしても私が質問攻め。講習会の終盤には「私ばかり度々質問してすみません」と言うほどでしたが、黒郷範士には間違いなく顔と名前を覚えていただけた筈です。

この度の講習会では細分化しての非常にわかりやすい説明により制定形の構成を学びました。解説書を読み返せば「ああ、この部分はこういうことを説明されていたな」というのが手に取るように分かる内容で、今後の稽古を積んでいくのにおおいに活かせる講習会でした。

初日のみの参加の方もいましたが、愛媛県・高知県から遠路お越しただきご指導してくださった先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

こういう講習会を毎年開講し、個々の技能を高めていきたいと思えますし、他県の杖道家との交流も図りたいですし、体験見学会を開催したり、剣道大会の開会式で演武を行うなどして、杖道の普及発展につなげていきたいと思えます。







## 令和四年度第三十二回杖道 中央・地区講習会に参加して

杖道部会長 青 木 茂 生



令和四年八月二十七日(土)～二十八日(日)の二日間、和歌山県和歌山市「和歌山ビッグホエール・ビッグウェーブ」において、全日本剣道連盟主催の令和四年度(第三十二回)杖道中央・地区講習会が開催され、徳島県杖道部を代表して本講習会に参加を致しました。受講生は二七三名でした。

一日目、十時からの開講式では、真砂威副会長のコロナ禍での開催に対する激励の言葉、杖道の全国的普及と技能の向上を図ること、全日本剣道連盟杖道の的確な伝達・審判実技等の共通理解を得ることのお言葉が述べられました。その後、横尾英治和歌山県剣道連盟副会長が会長代理で歓迎と激励のご挨拶を行い、続いて全日本剣道連盟杖道委員長黒郷源慈先生のご挨拶がありました。その後続いて、本講習会の役員・講師の紹介を行った後、全日本剣道連盟中谷行道専務理事が、「ガバナンス・コンプライアンス」全剣連の取り組み」の説明がなされ、実技講習へと進んでいきます。

十時三十分頃からの実技講習では、村上直隆講師により「礼法

解説」をされた後、講習生の中から指名された福田博文講習生(福岡)・神之園文男講習生(神奈川)が実技をされました。そして、「太刀の構え・操作法」を藤崎興朗講師が、「杖の基本動作の解説」を大竹俊行講師が行いました。「基本単独動作」は、講習生の中から東浜秋雄講習生(東京)が行い、「相對動作(打)」森井美津男講習生(東京)、「相對動作(仕)」安田嘉一講習生(神奈川)が実技を行い午前の講習を終了いたしました。

午後は、安丸進講師による「全剣連杖道の形解説」があり、(打)に力武公平講習生(東京)、(仕)に上田花代子講習生(埼玉)により形の実技を行いました。十四時四十五分から十七時迄、段別に別れての講習会、八段位は安丸進講師、七段位は釣賀敏郎講師、六段位は森本訓史講師・藤崎興朗講師、五段位は村上直隆講師、四段位は神代孝一講師、三段以下は大竹俊行講師で実施されました。

二日目は、九時から始まり一日目と同じ六段以下は昨日に続き、全剣連杖道の実習を行い、八段・七段は場所を移し、神代孝一講師による「審判・審査委員の心構え」、釣賀敏郎講師・安丸進講師による「審判実技」が行われました。十一時～十一時十五分の間に、令和四年開催の「第四十九回全日本杖道大会」は、ビデオ撮影がなされ、後日配信される事の告知、その際、実施される試合場の区画線、選手入場方法、武具の置き方についての説明・実演がなされ、確認・検証が行われた後、再び各段別による講習会が再開されました。



十二時三十分、閉講式にて修了証（代表東京都：相馬憲孝講習生）が授与され、後和歌山県剣道連盟副会長上里昌輝・杖道委員長黒郷源慈先生より挨拶がなされ、本講習会が無事終了を致しました。



# 大会・行事所感

## 第九回広島杖道大会に

### 出場して

杖道部会 筒井 勇

令和四年十一月二十七日（日）広島県立総合体育館にて開催された第九回広島杖道大会に前年に続いて参加しました。前年はコロナ禍の影響で大会前日の交流稽古会が行われませんでした。今回は行われ稽古会の開始前から会場入りしました。

徳島からの参加者が私しか居らず、まずはペア探しをしなければなりませんでしたが、私と同じようにペア探しをされていた奈良杖道会の福山久美子先生の試合では私が打太刀を、私の試合では福山先生が打太刀を相互につとめることにしました。

そうと決まればあとはひたすら稽古を繰り返しましたが、初めてペアを組むということもあり、なかなか合気になれず、特に

福山先生が打太刀をつとめた際に間合が詰まりすぎたり逆に離れてしまうことが多く、形稽古の難しさを痛感しました。

そんななか、福山先生の所属道場の上村崇幸先生や原田大先生、過去の大会や講習会でお会いしてご縁をいただいた愛媛の岡部盛重先生、大阪の広瀬和子先生、高知の松本親昌先生からの確なアドバイスをいただけ修正に努められたのは交流稽古会ならではの指導であり、私のような下位の者には力となり励ましになり本当にありがたかったです。

さて大会当日は、近畿・中国・四国・九州各地から一六〇名の選手が参加しました。開会式に続いて個人演武にうつり、まずは小学生五組（最年少は小学二年生、五年生と三年生の姉弟は団体戦のメンバーにも入っており、先鋒・次鋒を務めていました）による全日本剣道連盟杖道形、続いて範士八段から六段までの高段者十組による全日本剣道連盟杖道形、さらに六組による古流の演武を拝見しました。

古流には残念ながら私は触れたことがあ

りませんが、実戦そのものの迫真の演武に身震いすらしめましたし、高段者の先生方の演武はこれ以上ない贅沢な見取り稽古で、自分の少しでも近づきたい、真似てみたいと食いつくように見入ったものです。

個人演武（こちらは勝敗はありません）が終わり、いよいよ段別個人トーナメント戦が始まりました。私がエントリーした初段の部には十一人が出場。お互いが打太刀を務めることになった福山先生は二試合目、私は七試合目でした。

まず福山先生の試合で打太刀を務め、さらに三試合目の鹿児島県の選手の試合でも急遽打太刀を務めることとなり間合を保ち打突部位を正確に打突することを心掛けましたが、福山先生はミスもあり敗退となりました。いよいよ私の出番となりましたが、私は全くというほど緊張しませんでした。打太刀を務める福山先生が緊張しているのを最初の立礼から見てとれました。試合演武は杖の方のみで勝敗の判定がされます（この大会における試合規定）から自分が稽古してきたことをしっかりと出しければ

勝機はあると信じて臨みました。

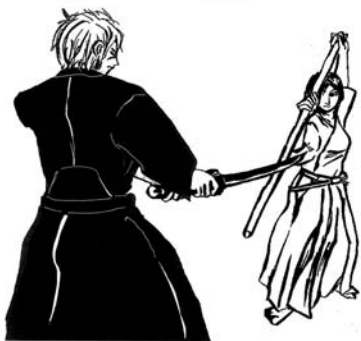
昨年の大会でミスをしたところも無難に  
いきましたし、相手よりも氣勢のこもった  
大きな声を出せました。普段から心掛けて  
いる大きな動作で丁寧に演じることができ  
ましたが、本場に最後の最後、打太刀が後  
退したところで間合が離れてしまい、さら  
に切りつけるように構えるところでグッと  
足を踏み出して適正な間合に入ってくれば  
修正できたでしょうが間合が切れた状態の  
ままになってしま

いました。三人の  
審判員が起立し、  
主審の「判定」の  
宣告で拳がった旗  
は相手に二本と私  
に一本でした。  
杖道は形武道で  
すし、形武道とは  
定められた手順で  
動作を正しく行う  
ことですからやっ  
ていることは皆同

じです。そんな中で太刀と杖との合気や間  
合、動作の正確性や静から動・動から静と  
いった緩急強弱など様々な要素が求められ、  
それらの優劣で試合での勝敗が決するのを  
痛いほど感じさせられました。

試合は最も意義の高い稽古だと思いま  
すし、試合を通じて得られた課題や反省点を  
基に今後さらなる稽古研鑽に励みたいと思  
います。そして今回は昇段してのワンラン  
ク上での挑戦を目指したいものです。

## 第九回 広島杖道大会



日時 令和4年11月27日(日) 9時15分開会  
会場 広島県立総合体育館 武道場  
主催 一般財団法人 広島県剣道連盟  
後援 公益財団法人 広島県スポーツ協会

令和四年度 | 杖道 |

### 称号・段位合格者一覧

【四段】

八月十四日

青木 茂生

【初段】

八月十四日

米倉 武志

【三段】

八月十四日

徳山 豊

中尾 幸雄

山田 師正

筒井 勇

塩谷 美千彦

米倉 滋

木原 資裕

武田 修典

清水 俊夫

市村 昌和

赤松 昌睦

兵頭 新平

坂本 憲一

安藝 智子

# 称号・段位合格者

## 杖道三段に合格して

杖道部 徳山 豊



徳島の剣道（第三十七号）に「杖道との出会い」と題した拙文を掲載させていただきま

した。その後、本県にも杖道部会が発足し、稽古の機会と仲間にも恵まれ、さらに昇段審査まで受けることができました。昇段審査を受けることは、会員の強い意願でありましたが、本県には審査員がいないため愛媛県に行くか、愛媛県から審査員を招聘しなければなりません。コロナ禍が続ぎ、審査会開催は難しい状況にありましたが、米倉滋先生はじめ県剣道連盟関係各位のご尽力、愛媛県剣道連盟のご厚意により、令和四年八月十四日に愛媛県剣道連盟杖道審査会

（於愛媛県武道館）において、徳島県剣道連盟杖道審査会を愛媛県審査会の前に実施していただけることになりました。当日は、本県剣道連盟からは西谷肇一副会長がご列席くださいました。

初段十六名、三段一名、四段一名の計十八名が受審し、結果全員が合格できました。私は三段をいただきました。初段と二段のときは、高知県で特別に受審させていただきました。しかし、徳島県にも杖道部会ができましたので、高知県での受審もできなくなりました。当分審査は受けられないと思っていたのが、今回このように受審でき、本当にありがとうございます。審査の前に、青木先生が軽く合わせてくれましたが、緊張で体が硬くなり思うように動けませんでした。緊張していないようでもやはり緊張するもので、普段どおり動けるかどうか不安でした。審査では、相手をしてくれた愛媛の方が上手で、気を合わせた演武ができました。仕打ちのときにミスもありましたが、お蔭様で合格できました。念願でありました審査会も開催でき、全員が合格できたこ

とは本当にうれしいことでした。審査の機会を作ってくださいました県剣道連盟はじめ関係各位に厚くお礼を申し上げます。

今回の受審に向けて、六月十八日には愛媛県剣道連盟杖道部会主催の講習会に参加し、全日本剣道連盟杖道委員長の黒郷源慈先生から礼法から始まる基本の留意点を詳しくご指導いただくことができました。学びましたことは、要点をまとめて会員に配布いたしました。さらに審査の直前には、高知と兵庫で特訓を受けることができました。高知では亀井洋祐先生から、兵庫では久田孝博先生から、基本動作と形一本目から十本目までを徹底指導いただきました。八月上旬のエアコンのない道場内は三十度を超える暑さでしたが、何とか持ちこたえました。青木先生の自宅道場でも青木、一村両先生と何度か稽古を重ね受審に備えました。合格の連絡をしたところ、亀井先生からは「形を覚えた段階から、次は形が使えるようになること」と言われました。「形が使えるように」とは、どういうことか。久

田先生からいただいた「一の会信条」の中に次のような一文がありました。

形の為の形稽古にあらず

形は実戦の為の稽古なり

形を知りて慢心せず、

形を覚えてからが稽古なり

これからが、本当の稽古と思地道に取り組んでゆきたいと思えます。

## 杖道入門を許可する

杖道部会 清水 俊夫



私は十年前に徳

島県を定年退職し、

昨年七十才を迎え

た元公衆衛生獣医

師である。十数年

「抜刀術神伝流」という古流居合をやって  
いる。一昨年、同門の知人に「内は抜付け  
も相手に正対し足運びは二直線歩行が基本  
だが、古武道では半身に撞木足でやるもの  
が多い。機会があればそういう武道も経験  
したい。」と話した所、彼は「それなら杖  
道が良い。私もやっているの、一度稽古  
を見に来ませんか。」と誘われたのが切掛  
けである。

その後、松茂町武道館での稽古に参加す  
ることになった。稽古は月に二・三回、大  
体二十名位が参加していた。多くは剣道や  
居合をやっている人達であったが、全くの  
武道未経験者も数名いた。稽古は全員整列

しての互礼の後、基本動作十二本を行い、  
「形」の稽古に入る。仕杖と打太刀との組  
になって十二本の「形」をやるのだが、昇  
段審査までは専ら審査で行う「着杖」から  
五本目の「左貫」までを稽古した。

始どの人が次の審査で私と同じ初段を受  
ける予定であったが、先輩達はかなり以前  
から稽古されており、練習量も十分に見え  
た。また実に真面目でタフなのである。会  
場の都合で一時間半か三時間、途中水分補  
給の休憩を挟みながら稽古するのだが、そ  
の間ミッチリやるだけでなく休憩時間もあ  
ちこちに集まって仲間内で検討し、上級者  
から指導を受けながら稽古を続けるのであ  
る。

私達初心者には基本技についても、「見様  
見真似でやれ。」と言われたのだが付いて  
いくのもかなり厳しいものであった。時折  
県内外で開かれる講習会に出席した方は必  
ず伝達講習を行うのである。それも詳細に  
メモを取り、最初から最後までを実に事細  
かく丁寧に伝達するのである。とは言っても  
の折からのコロナ禍で稽古は度々中止に



なり、予定された講習会や昇段審査も中止や変更になった。その為もあり、昇段審査迄の期間は私にとっては審査に必要なだけの「形」を覚えるのがやっとであり、稽古量の絶対的不足は明らかであった。

昇段審査は令和四年八月十四日（日）午後松山市の愛媛県立武道館で行われ、学科試験は予め示された問題の解答を記して試験前に提出していた。当日午前七時に集合し、車に乗り合わせて松山に向かった。初段十四名、三段・四段各一名の受験であった。受験番号順に仕杖と打太刀が組になり仕・打交代を挟んで二組づつ順次に審査を受けた。

私は仕杖からであった。「着杖」、「水月」、「引提」までは順調であった。「斜面」での事である。「斜面」は「常の構え」から打太刀が面を打ってくるのをかわして、相手の左こめかみを打ち、更に対手が上段に振りかぶったところを「返突」し、杖尖を対手顔面に着けて残心を示し、納めるのである。しかし、何を思ったの、私は「返突」に続いて「引落打」をやってしまったのだ。

たいと考えている。

大失敗である。この時、「間違えても途中で止めるな、最後までやってしまえ。間違ったことよりも、どう対処するかが大事なのだ。」という居合を始めた頃先輩に「云われた言葉が浮かび、そのまま続けた。その後の「左貫」、仕・打交代、打太刀での五本はそれなりに出来たと思う。自分たちの番を終り、後の審査を見ながら、「やってしまったな。落ちるとしたら私かな。」と考えた。稽古の絶対量が足りなかった。何も考えなくても体が自然に動く迄稽古しなればいけないのだ。次に備えれば良い。そう考えると冷静になっていた。全体の試技の終了後審査時間があり、結果発表と講評があった。結果は全員合格であった。

大学卒業時、獣医師国家試験に合格した私達に恩師が「合格おめでとう。これで君たちが一人前の獣医師になったのではない。獣医学を学ぶ資格が出来たということだ。」と仰った。そう考えると、今回の初段合格は「杖道入門」の許可を頂いたということになる。これに安心せず、先輩達に負けなように、身体の動く限り稽古を続けて行き



## 杖道初段に合格して

杖道部事務局 米 倉 武 志



令和四年八月に、

愛媛県杖道審査会にて杖道初段に合格させていただきました。

ました。御指導い

ただきました先生方、そして共に稽古に励んだ杖道部会の皆様のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。

私が杖道を始めたきっかけは、父からの誘いでした。元々、小・中学生の頃は剣道の稽古に励んでおりましたが高校進学とともに別の部活動へ進み、剣道とは疎遠となっていました。武道から離れて十五年以上の月日がたったある日、父から杖道の誘いを受けました。最初は悩みましたが、もう一度武道の道に進んでみようという気持ちが湧き、杖道部会に参加しました。

さて、杖道はその名の通り「杖」を使用する武道です。打太刀（うちだち）と仕杖

（しじょう）に分かれ、二人で攻撃防御の形を行います。私は右の通り長い間武道から離れていたため、最初は構えや足の運びでさえうる覚えという状態でした。しかし、先生方に基本的な部分から御指導頂き、また杖道部会の会員の皆様と共に一から杖道を学び、稽古に励んできたことで昇段審査に臨むことができました。

今回の審査は、愛媛県剣道連盟が主催する審査会に参加させて頂く形となりました。これは、徳島県では審査員の確保等の課題が多くあったためです。

杖道の初段の審査は、形の一本目から五本目を実技審査で行います。私にとっては子供時代以来の昇段審査でしたが、普段通りの、稽古してきたとおりの動きが出来ました。形武道であり、お互いの呼吸を合わせる事が大事であると思っていますが、同じ杖道部会の方々と稽古の成果を審査会という舞台で存分に発揮できたと感じました。

今回の審査会では、徳島から受審した全員が合格することができました。当時、杖

道部会が発足して一年と数ヶ月でしたが、発足当時から目標として掲げていた「初段全員合格」を達成することができ、大きな前進となりました。

現在、二段の審査に向けて次の形を稽古しています。しかし直さなければならぬ箇所、覚えなければならぬ事など課題は山積みですが、目の前の目標に向けて日々精進してまいる所存です。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 随想

### 杖道との出会いと道のり

板野東支部 武田修典

私は武道とよばれる剣道ならびに居合道については少々たしなみではおりますが、杖道という名称にはピンと頭のなかでもきていませんでした。現在徳島県剣道連盟板野東支部会員として席を置き、剣道稽古においては松茂町・北島町の教室・道場等で汗を流しています。また、板野西支部における剣道板野道場へも日曜日午前中出来る限り通っており、そこで指導に当たられておられる岡田良人先生より杖道を体得したいとの依頼を受け、杖道修練の使用する木刀については正規品を購入し、杖については武道具店において在庫無きため、物流量販店へ出向き直径二・四cmの長さ二〇〇cm白むくの素材があり、定寸に切断し、当面使用することとしました。なお、木刀・

杖の規定は次の通りです。

木刀 長さ約一〇〇cm (三尺三寸五分)

柄約二四cm (八寸)

材質 白樫

杖 長さ約一二八cm (四尺二寸一分)

直径約二・四cm (八分)

材質 白樫

杖の握りと手の内、これ等においては、剣道、居合の知識が多少あるため少しは理解しているつもりではいますが、杖には左手・左足前の構えや打ち等の独特の構えや技があります。

さて稽古を始めるにあたり、まず基本技の単独動作及び相對動作が各十二本あり、この高齢者が覚える(記憶)ことは至難の業です。始める前から尻込みするような状態ではありましたが、まずは単独動作の五本目までを週一回日曜日、剣道稽古前に二十分程度行ないました。

その日覚えたかと思えば次にはまったく忘れていくゝまたおなじことの繰り返しで一進一退ともいえない、前にほとんど進まない状態でした。

そのような時に杖道への道が開かれたのは、令和二年一月の剣道連盟初稽古会が北島町のサンフラワードームで開催されたとき、米倉滋先生と杖道についてお話しする機会があり、現在養武館にて数名で杖道の稽古を始めたとお聞きし、それでは私も参加させてくださいと、二〇二〇年一月十一日より御稽古させていただきましたこととなりました。

その後、新型コロナウイルスにより、令和三年三月〜六月まで中断。七月より再開し、第一・三日曜日の稽古。稽古会場は松茂町第二体育館へ移行となり、現在も同場所を継続しております。

当初からの稽古内容は、単独動作十二本及び相對動作十二本を令和二年九月まで、また形動作を四本目までを織り交ぜながら、令和四年七月まで繰り返し稽古し、杖道一級認定となりました。令和四年八月には愛媛県にて初段受審し、なんとか杖道初段に合格させていただきました。

杖道は精神の修養と鍛錬を第一義とし、手足の技でなく心の技でその目的は精神修

養にあります。

これからの稽古においても私は腰痛持ちですので、不自然な動作による腰痛として、形の中で「返し突き」や太刀の「引き落とし打ち」のように腰の捻りを必要とする技のとき、足から身体を返さなければ強い負担をかけることとなり、腰痛を悪化させることとなります。不自然な動作をしないよう工夫しながら、細く長く自己管理しながら稽古を続けていけたらと願うばかりです。

## 杖道を始めて

杖道部会 山田 師正



徹心道場で居合の稽古をしている時、高知県の亀井洋祐先生（居合道八段、杖道五段）

が仕事で単身赴任され道場にいらっしゃっていました。居合道をご指導頂いている時に杖道という武道を居合の間合いを知る為に学ばれている旨を聞きました。私は杖道という武道があることすら知らなかったのですが、同門の徳山先生（居合道教士八段、杖道三段）と内藤先生と三人で教えて頂く事になりました。

杖道とは白樫で出来た直径二、四cm長さ一二八cmの杖を用いた武道で、約四〇〇年前にかの宮本武蔵を破ったとされる夢想権之助勝吉が創始された神道夢想流杖術が起源と言われています。この木の杖一つで随一の剣豪を相手に挑んだというだけに、信

じられない努力の末、編み出された技を知ることになり、どんどん興味がわいてきました。実際の形では木刀と対峙して行うので剣の弱点をより体感でき体捌きの大事さを感じました。

当時は徳島県には杖道部は無く一昨年前に発足した旨を聞いてはいたもののタイミングが合わずようやく昨年杖道部に入門させて頂きました。杖道部には武道は初めてという方や剣道、居合道の高段者の方も参加されていますが、杖道に関しては皆さん初心者でした。コロナの影響で大会等が出来なかったため昇段審査を受けられていなかったのですが、八月十四日に愛媛県の杖道部の協力もありついに昇段審査を受けることができ、私も初段を取得出来ました。

杖道の動きはほぼ左右両側を使うのでバランス良く身体を鍛えられ、如何に正しい姿勢が大事かということをまざまざと実感します。また、杖道の理念は攻撃を主とせず、相手の攻撃に応じて変化し、制圧するのが本旨であり、その指導精神は「傷つけ

ず 人をこらして戒しむる 教えは杖の外  
にやはある」とうたわれるように形の多く  
は後の先ではじまります。精神修養に適し  
た杖道という武道を広く世間に周知してい  
ければと思います。





## 専門部報告

### 事業部より

事業部長 佐賀博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義で安全に実施されることを目的として活動しています。令和五年一月現在の事業部は二十三名の理事及び委員で運営しています。

令和四年度の活動状況は、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会人大会が中止となり、令和五年一月現在において女子大会が延期となった状態で三月の開催を目指して準備を進めているところです。

そのような厳しい状況の中、感染拡大防止策を万全に期して、成年男女の大会・予選会及び少年の大会・予選会を六回開催しました。

中でも全日本都道府県対抗少年剣道優勝

大会の県予選を兼ねた第一回徳島県少年剣道選手権大会の開催に向け、少年部との連携を図り、盛大に開催することができました。これは、少年強化という面からも大変有意義な大会が開催できて良かったと思っています。

各大会等の結果については別紙大会記録をご覧ください。

また、春には、富浦廣志先生・玉田晋作先生に講師をお願いして、剣道伝達講習会を開催しました。講習会は、指導法、試合審判法、さらには日本剣道形の習得等に大変勉強になる講習会ですので、来年度もたくさんの方が参加されますようお願いいたします。

このように、令和四年度は、何とか大会等を開催できたものの数々の制約の中での開催となり、皆様方にはご迷惑をおかけ致しました。来年度は、コロナ収束とはいかないまでも、できるだけ制約のない状態で各大会が開催されることを願うばかりです。

また、各大会の開催にあたり、事業部以外からたくさんの方のご協力をいただ

きましたことを本誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

令和五年度は、コロナ感染症に負けず、剣道連盟主催の各大会等が盛大に開催されることを願うとともに、引き続きまして先生方からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。事業部からの報告とさせていただきます。

## 令和4年度 大会記録

### 1. 第77回 国民体育大会 予選会 令和4年4月17日 ソイジョイ武道館

区 分		第1位	第2位
男子	先鋒	美馬 州一 警察支部	西條 賢太 鳴門教育大学院
	次鋒	玉田 赳大 警察支部	白木 恒二郎 名西支部
	中堅	日和田 慈海 麻植支部	大石 真也 阿南支部
	副将	山室 雅幹 警察支部	山名 信行 警察支部
	大将	玉田 晋作 徳島支部	
女子	先鋒	玉田 理紗子 日本体育大学院	佐藤 奈那子 鳴門教育大学院
	中堅	長地 千景 阿南支部	
	大将	金野 裕美 徳島支部	

参加者 役員等含め55名

### 2. 剣道伝達講習会 令和4年5月8日 ソイジョイ武道館

参加者 役員等含め121名

講師 教士八段 富浦 廣志 先生 教士八段 玉田 晋作 先生

内容 審判法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形等

### 3. 第1回徳島県少年剣道選手権大会

#### 兼第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会県予選

令和4年7月3日 ソイジョイ武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
小学1.2年生の部	山出 朋弥 鴨島少年剣道教室	豊島 慶佑 小松島少剣クラブ	河村 実怜 大麻錬成館	湯川 実千琉 徳島少年剣道教室
小学3.4年生の部	水口 萌香 徳島剣清塾	平田 愛芽 徳島剣清塾	中江 颯志 佐古剣道クラブ	大谷 優 鷲敷振武館
小学5年生の部	坂口 潤 日亜錬心塾	河田 淳紀 徳島剣清塾	棚橋 爽斗 徳島剣清塾	山本 京 阿南少年剣道教室
小学6年生の部	水口 新汰 徳島剣清塾	河田 蒼生 徳島剣清塾	日和田 碧 石井少年剣道クラブ	藤井 陽斗 徳島剣清塾

【県予選結果】 小学6年生の部優勝者 水口 新汰(徳島剣清塾)

予選勝ち残り者

河田 蒼生(徳島剣清塾)、樫本 蘭(那賀川剣道教室わかあゆ会)

藤井 陽斗(徳島剣清塾)、日和田 碧(石井少年剣道クラブ)

※ 以上の5選手が第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の徳島県代表選手に決定

参加者 役員等含め370名

### 4. 第34回徳島県剣道選手権大会兼第70回全日本剣道選手権大会県予選会並びに

#### 第25回徳島県女子剣道選手権大会兼第61回全日本女子剣道選手権大会県予選会

令和4年7月23日 中央武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男 子	玉田 赳大 警察支部	浅田 光貴 警察支部	白木 恒二郎 名西支部	本田 和将 警察支部
女 子	山室 愛子 大阪体育大学	嶋田 優月 富岡東高校	河野 菜々子 日本体育大学	佐藤 奈那子 鳴門教育大学院

参加者役員等含め78名 竹刀計量結果 (計量本数 95本、合格本数92本、合格率96. 8%)

### 5. 第49回 徳島県社会人剣道大会

中止

**6. 第52回 徳島県少年剣道錬成大会**

令和4年11月6日 ソイジョイ武道館

区分	優勝	準優勝	第3位	第3位
団体戦	徳島剣清塾	鷲敷振武館	和田島少年剣道クラブ	石井少年剣道クラブ

【優勝】徳島剣清塾(先鋒:棚橋爽人、次鋒:藤井陽人、中堅:水口新汰、副将:河田淳紀、大将:河田蒼生)  
参加者 役員等含め 240名(団体30チーム、今大会は基本錬成は実施せず、試合錬成のみ実施)

**7. 第40回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会**

**第45回 全国スポーツ少年団剣道交流大会 (徳島県予選会)**

令和4年12月4日 ソイジョイ武道館

小学生の部(団体)	第1位	第2位	第3位	第3位
郡市名	阿南市A	阿南市B	阿南市C	阿南市D

【第1位】阿南市A(先鋒:平田愛芽、次鋒:尺長紗和子、中堅:鹿島太雅、副将:高瀬智菜、大将:河田蒼生)

中学生の部(個人)	第1位	第2位	第3位	第4位
男子	津島 優生 小松島少剣クラブ	林 巧 阿南少年剣道教室	大和 希輔 那賀川少年剣道教室わかあゆ会	富増 奎佑 徳島少年剣道教室
女子	西村 渚 鳴門市光武館道場	上村 優亜 小松島少剣クラブ	前田 優莉 土成剣道スポーツ少年団	橋本 愛生 小松島少剣クラブ

参加者 役員等含め 220名(団体戦 17チーム、個人戦中学校男子44名・女子25名)

竹刀計量なし

**8. 第71回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会**

**第15回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会**

令和4年12月25日 中央武道館

男子	第1位	第2位	第3位	第4位
次鋒 (大学生)	岩原 潤哉 鹿屋体育大学	北林 翔 京都産業大学	河野 寛之 中部大学	富永 涼介 国際武道大学
五将 (18歳以上35歳未満)	菅 朋樹 刑務所支部	山崎 広貴 刑務所支部	玉井 翔 刑務所支部	松本 好史 小松島支部
中堅 (教職員)	白木 恒二郎 名西支部	西田 凌介 徳島支部	森 康二 徳島支部	大石 真也 阿南支部
三将 (警察職員)	本田 和将 警察支部	山本 義征 警察支部	梶原 拓磨 警察支部	木田 将大 警察支部
副将 (35歳以上)	江口 大佑 刑務所支部	秋山 雄治 刑務所支部	湯村 義喬 徳島支部	
大将 (50歳以上教士七段以上)	吉田 茂生 徳島支部	北村 仁志 阿波支部	中尾 幸雄 徳島支部	
女子	第1位	第2位	第2位	
次鋒 (大学生)	岩原 千佳 八代白百合学園高校	山室 愛子 大阪体育大学		
五将 (18歳以上、高校大学生除く)	松本 美紗樹 警察支部	佐藤 奈那子 鳴門教育大学院	西 柚衣 徳島支部	山本 千尋 徳島支部
中堅・三将 (30歳以上)	長谷川 愛実 阿南支部	長地 千景 阿南支部	塚原 裕美 鳴門支部	【中堅代表】長谷川選手 【三将代表】長地選手
副将 (40歳以上50歳未満)	前田 奈々枝 阿波支部	金野 裕美 徳島支部	阿井 恵子 阿南支部	
大将 (50歳以上)	竹内 佳代子 鳴門支部			

参加者 役員等含め77名 男女とも先鋒は高体連推薦・男子中堅及び三将は令和5年1月に別途実施  
竹刀計量結果 (計量本数 130本 合格本数 124本 合格率 95.4%)

**9. 第42回 徳島県女子剣道大会**

令和5年3月5日、中央武道館において開催予定

令和4年度、事業部では成年男女の各大会・予選会及び少年の各大会・予選会を上記のとおり実施しました。各大会等においてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

令和5年度も各大会等が盛大に開催され多数の方が参加できますことを願っております。

## 審査部より

審査部長 生 田 浩 章

令和四年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、居合道の部では、五段以下審査会（四回）、杖道の部では、五段以下審査会（一回）等全て無事終えることができました。

地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼申し上げます。

審査会の結果につきましては、杖道の部、受審者十七名、合格者十七名、合格率一〇〇%、居合道の部、受審者二十一名、合格者二十一名、合格率一〇〇%、剣道初段以下の部、受審者一〇三名、合格者一〇八名、合格率九九%、剣道二段～五段・称号の部、受審者一八二名、合格者一六六名、合格率九一%となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、

剣道六段八名、剣道七段七名、剣道錬士十二名、剣道教士二名という結果でありました。合格者の先生方は下記の通りです。

### 【剣道錬士】

綾部 文明（徳島支部）  
松本 憲二（小松島支部）

### 【剣道六段】

塚原 裕美（鳴門支部）  
阿井 恵子（阿南支部）

### 【剣道教士】

丸岡 偉人（海部支部）  
木下 裕康（板野東支部）

安藝 智子（板野東支部）  
山本 義征（警察支部）  
玉田 趙大（警察支部）  
吉岡 陵次（徳島支部）  
紅露喜代美（鳴門支部）  
三好 延年（麻植支部）

### 【剣道七段】

井川 理之（板野東支部）  
大貝 美治（徳島支部）  
日和田慈海（麻植支部）  
大石 真也（阿南支部）  
島尾 眞且（三好支部）  
富永ますみ（名西支部）  
船城 明（徳島支部）

## 強化部より

強化部長 白 木 洋 一

### 【本年の強化状況】

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年となりました。

本年度の強化成果の報告として一番は、なんとと言っても二十九年ぶりの国体四位入賞です。

これは、平成五年十月に徳島県で開催された東四国国体の時以来のベスト四進出であります。東四国国体の時は、県を挙げての強化がなされ、時間的にも予算的にも恵まれた状況でありました。それに比べて本年の入賞は、まさしく選手の皆さんの日々の鍛錬の賜物であるといえます。自らが稽古の課題を持ち、基本稽古から互いの稽古や指導稽古までを地道に取り組むことによつて、達成感や新たな課題に向かう気持ちが生まれます。それこそが更なる高みへと歩む原動力になっていると思います。

大都市に比べ、剣道人口は言うまでもなく、取り巻く環境は決して恵まれていない本県において、今回の成果は今後の強化の大きな励みになりました。

### 一、令和四年度実施結果

(一) 【剣道連盟強化稽古会】  
期 間 令和四年三月二十三日～

令和四年十二月八日現在

実施回数 三十三回

延べ参加人数 三一三名

平均参加人数 (十名)

### (二) 地区交流稽古会

新型コロナウイルス感染症の影響により

中止

### (三) 長期育成強化訓練

新型コロナウイルス感染症の影響により

中止

### (4) 強化遠征

新型コロナウイルス感染症の影響により

中止

### 二、大会結果

#### 【令和4年の試合結果】

第二十回全日本選抜剣道八段優勝大会

開催日…令和四年四月十七日(日)

#### 一回戦

平野誠司 ー メ 恩田浩司(東京)

延長

第七十回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

開催日…令和四年四月二十九日(金)

会場名…エディオンアリーナ大阪

(大阪府立体育館)

#### 対戦結果

一回戦 徳島県 1 ー 3 鳥取県

第十四回全日本都道府県対抗女子剣道優勝

大会

開催日…令和四年七月十日(日)

会場名…日本武道館

二回戦 徳島県 1 ー 5 埼玉県

(埼玉ー兵庫の勝者)



国民体育大会第四十二回四国ブロック予選大会

開催日…令和四年八月二十一日(日)

会場名…高知県南国市スポーツセンター

○少年男子 四位

徳島県 0 | 2 香川県

徳島県 0 | 0 高知県

(代表勝)

徳島県 1 | 3 愛媛県

○少年女子 四位

徳島県 0 | 2 香川県

徳島県 1 | 0 高知県

徳島県 0 | 2 愛媛県

○成年女子 三位

徳島県 3 | 0 香川県

徳島県 0 | 2 高知県

徳島県 0 | 2 愛媛県

第六十一回全日本女子剣道選手権大会

開催日…令和四年九月四日(日)

会場名…ジェイテクトアリーナ奈良

一回戦

山室愛子 | コ 尾崎麻美(京都)

第六十八回全日本東西対抗剣道大会

開催日…令和四年九月十八日(日)

会場名…神戸市立中央体育館

四将 平野誠司 | 佐賀豊(北海道)

(延長) | メ

第七十七回国民体育大会 剣道大会

開催日…令和四年十月三日(月)

五日(水)

会場名…ユウケイ武道館

(栃木県総合運動公園武道館)

二回戦 徳島 3 | 2 島根

(島根1大分の勝者)

先鋒 美馬 | 加藤

[4] | メメ [3] ○

次鋒 玉田(越) | 長岡

[6] コー メメ [5] ○

中堅 日和田 | 長原

○ [7] コ反 | ド [6]

副将 山室 | 深石

○ [7] メメ | [7]

大将 玉田(晋) | 小松

○ [8] ココ | コ [7]

三回戦 徳島 1 | 1 岩手

○ 本数勝ち

先鋒 美馬 | 山口

[4] | メ [3] ○

次鋒 玉田(越) | 菅野

[6] | [6]

中堅 日和田 | 松沢

[7] メ | コ [5]

副将 山室 | 菅崎

[7] コー メ [7]

大将 玉田(晋) | 安達

○ [8] メメ | [8]

四回戦 徳島 3 | 1 静岡

先鋒 美馬 | 菊池

[4] | コ [4] ○

次鋒 玉田(越) | 望月

○ [6] ドコ | ド [5]

中堅 日和田 | 高坂

[7] | [6]

副将 山室 | 吉留

○ [7] メメ | [8]

大将 玉田(晋) | 高田

○ [8] ドド | [7]

準決勝 栃木 4 - 1 徳島

先鋒 大平 - 美馬

○ [4] メコ - [4]

次鋒 市川 - 玉田(起)

○ [5] メコ - メ [6]

中堅 鈴木 - 日和田

○ [7] ドメ - [7]

副将 藤原 - 山室

[7] - メ [7] ○

大将 大島 - 玉田(晋)

○ [8] メコ - [8]

三位決定戦 鹿兒島 3 - 1 徳島

先鋒 木村 - 美馬

○ [4] メメ - [4]

次鋒 浜崎 - 玉田(起)

○ [5] メド - コ [6]

中堅 森園 - 日和田

[6] メ - メ [7]

副将 竹中 - 山室

○ [8] メ - [7]

大将 浜田 - 玉田(晋)

[7] コ - メコ [8] ○

第七十回全日本剣道選手権大会

開催日…令和四年十一月三日(木)

会場名…日本武道館

一回戦

玉田起大 - 加藤宏明(千葉)

メメ - メ

二回戦

玉田起大 - 草野龍二郎(大阪)

コメ - メメ

………五年度大会、予選会結果………

第七十一回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会(出場予定選手)

先鋒…高校生(高体連より推薦)

次鋒…大学生

【内海翔貴】(徳島文理高校)

五将…年齢十八歳以上三十五歳未満の者

【岩原潤哉】(鹿屋体育大学)

【菅 朋樹】(刑務所支部)

中堅…教職員の者

【白木恒二郎】(名西支部)

三将…警察職員の者

【本田和将】(警察支部)

副将…年齢三十五歳以上の者、警察職員・

教職員を除く。

【江口大祐】(刑務所支部)

大将…五十歳以上、剣道教士七段以上の者。

【吉田茂生】(徳島支部)

第十五回

全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

先鋒…高校生(高体連より推薦)

【中村 莉香】(富岡東高)

次鋒…大学生

【岩原 千佳】(筑波大学)

五将…年齢十八歳以上の者

【松本美沙樹】(警察支部)

中堅…年齢三十歳以上の者

【長谷川愛実】(阿南支部)

三将…年齢三十歳以上の者

【長地 千景】(阿南支部)

副将…年齢四十歳以上の者

【前田奈々枝】(阿波支部)

大将…五十歳以上の者

【竹内佳世子】(鳴門支部)

### 三、令和五年度の目標

### 少年部より

てまいります。

#### 【基本方針】

「競技力向上と武の文化的伝承」

○新型コロナウイルス感染症対策を徹底した稽古のあり方

・ 新型コロナウイルス感染症対策の徹底（検温、消毒、マスク、換気）

○剣の理法に即した正しい剣道の指導と心豊かなる剣心の養成

・ 強化体制の確立  
・ 徳島スタイルというべき強化スタイルの確立

・ 一人一人が自らの課題に取り組み稽古（基本を重視した、系統的な強化）

○審判と指導、審査と指導を連携させた徳島の剣道本体の向上

○全国大会入賞を目標にした競技力向上

- ・ 選手層の拡大
- ・ 強化稽古（場や時間）の確保
- ・ 強化稽古に参加しやすい雰囲気作り

少年部長 白 木 崇

令和四年度の少年部の主な活動は

一、少年剣道強化訓練（毎月一回）（実施回数八回）

二、全国都道府県対抗少年剣道優勝大会における県代表選手選考

（少年剣道選手権大会上位入賞者による予選会を実施）

三、徳島県代表選手の強化

（八月二十六日、四国四県代表チーム強化練成会・愛媛県。）

（九月十日、県代表選手強化練習試合・那賀川B & G。）

四、全国都道府県対抗少年剣道優勝大会団体戦出場

（九月十八日、大阪市・予選敗退。対長野県・茨城県）

以上、四項目の行事を進めてまいりました。今後もアフターコロナを考え、少年剣道の充実に向けた取り組みに努力し



# 女子部より

女子部長 竹内 佳代子

## 〈大会の結果〉

①全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

(七月十日)

会場 日本武道館

二回戦 徳島 一 一 五 埼玉

②国民体育大会第四十二回

四国ブロック大会(八月二十一日)

会場 高知県南国市

徳島 三 一 〇 香川

徳島 〇 一 二 高知

徳島 〇 一 二 愛媛

(一勝二敗)

③全日本女子剣道選手権大会(九月四日)

会場 ジェイテクトアリーナ奈良

一回戦

山室愛子 一 〇 尾崎麻美

④徳島県女子剣道大会 (三月五日)

会場 中央武道館

〔団体戦〕 参加チーム数 七

優勝 教員剣美会 B

(竹内・山本・長谷川)

準優勝 あななん A C K

(大城・長地・阿井)

第三位 大学連合

(三好・北林・佐藤)

〔個人戦〕

三十五才未満の部 参加者十名

優勝 長谷川愛実

準優勝 山本 千尋

第三位 北林 葵・竹内 悠

三十五才以上三段以下の部 参加者五名

優勝 井後 恭子

準優勝 大前真由美

第三位 金森 純子

三十五才以上四段以上の部 参加者六名

優勝 前田奈々枝

準優勝 阿井 恵子

第三位 大城 幸子

## 〈女子稽古会〉

○毎週木曜日 一九:三〇〜二〇:三〇

中央武道館で実施

○状況をみて

・土曜日 一四:〇〇〜一五:〇〇

石井中学校で実施

・土曜日 一一:〇〇〜一二:〇〇

大麻中学校で実施

※女子のラインで通知している。

## 〈都道府県剣道連盟の女子代表者による

### 全国リモート連絡会議の報告〉

(一月十六日)

#### ①日程

一、役員あいさつ

二、全日本都道府県対抗女子剣道大会ア

ンケート 集計結果報告

三、全体会

(1)県剣道連盟副会長就任のあいさつ及

び抱負

(2)女子剣道の発展と強化などについて

(高知県剣道連盟 下坂美和氏)

#### 四、分科会

##### (1) 発表（一人三〜四分）

- ① 各剣道連盟女子の活動状況及び女子剣道普及の課題において
- ② 幼年剣道人口の減少に対する対策について

##### (2) 分科会の質疑応答

#### 五、全体会

##### (1) 発表（五分程度×七班）

#### 六、質疑応答

##### ② おもな内容

○全日本都道府県対抗女子剣道大会に関して

- ・ 試合時間が長引いたことへの不満が多かった。↓それをうけて次年度は試合時間を四分に変更。

- ・ 七人制については賛成が多かった。
- ・ 三十代二人については、子育て中の剣道離れを防ぐためこのまま継続予定。

- ・ 審判技能の指摘が多かった。今後の課題。

##### ○分科会から

① 各剣道連盟女子の活動状況及び女子剣道普及の課題について

- ・ 各県とも、ライングループを作って連絡・情報の共有をおこなっている。

##### ・ 女子稽古会

- ↓中には、子ども連れをOKにして、ベビシッターもつけているところがあった。

##### ・ 女子剣道大会運営の工夫をする。

- ↓五十才以上の部をつくる、賞品の工夫（野菜・くだもの）など。

- ・ ホームページに女子の活動状況を掲載する。

② 幼年剣道人口の減少に対する対策について

- ・ 企業と協賛したテレビCMでPRした。

- ・ 高齢の先生が保育園・幼稚園に行き、すり足などを教える活動を行っている。

- ・ 防具をつけていない子を対象にした大会を実施した。

・ 積極的に剣道体験会を行い、参加者に竹刀をプレゼントした。

##### 〈令和五年度に向けて〉

① 女子大会について（アンケート結果も参考に）

- ・ 実施日については、九月実施より、三月第一日曜日の希望が多かったので、これからも三月開催で実施したい。（令和五年度は三月三日（日）実施予定）

- ・ 個人戦は、年齢別・段位別で実施した今年度の形を継続する。大人になって剣道を始められた方が、試合に楽しんでチャレンジできるような大会にしていきたい。

- ・ 賞品については、さらにモチベーションが上がるものを引き続き検討していきたい。

- ・ ニコートで実施希望の意見があった。今回は終了時間もおそくなってしまったので、できればニコートで実施し、状況によってはリーグ戦なども検討し



たい。また、剣道形演武の部や基本打ちの部などもとりいれたらという意見もあったので、検討したい。

・大会と合わせて「審判講習会」「指導法講習会」などを継続して行いたい。

## ②女子稽古会について

今年度の形で継続して実施。女子部のLINEを通じて随時連絡を行う。

・毎週木曜日

一九・三〇～二〇・三〇

中央武道館

・毎月第三土曜日

一四・三〇～一六・〇〇

白木先生のご指導の下の稽古会

くの女性の皆様と一緒に剣道を楽しめるために活動していきたいと思えます。今後もご協力よろしく願います。



# 審判部活動報告

審判部長 富 浦 廣 志

## 一 本年度の活動

①徳島県審判講習会 三月二十七日

コロナウィルス感染拡大のため中止

②全剣連中央講習会 四月二・三日

③少年剣道教室指導者講習会 審判研修

四月十日

④コロナウィルス感染拡大のため中止

④中央講習会伝達講習会（中央講習会）

五月八日

⑤ブロック研修会「試合・審判法」

十月八日

⑥各大会での審判研修の実施

・暫定的な審判法の理解を深めるための研修。

・昼食時や団体戦第一試合終了後、審判研修を実施

・開会式前など時間を利用して、暫定的な審判法を選手に対しての講習を行った。

⑦審判依頼 剣道連盟主催大会において審判依頼を行っている。

## 二 来年度の活動について

○全剣連重点指導の徹底（一昨年度に引き続き）

（ア）宣告、表示を正確、明確に行う。

（イ）「有効打突」及び「反則行為」の見極め。

・適正公平に審判 私的な感情をなくし公平に（＝信頼性）

審判員も見られている評価されている意識

・規則に載っていないことがあったら、第一条に照らし合わせて判断する。（剣道がより正しい方向に向かえるか判断する）

・成人は成人の少年は少年のそれぞれの適正を見極めて。

・鏢迫り合いの「空費」「不当」「受けてから入って鏢迫り合いに」積極的に

意識がなくても組み立てがそうなら

ているものもとっていく。（不当な行為として判断する）

○コロナウィルス感染拡大防止ガイドラインに伴う、暫定的な試合・審判法の趣旨・方法の理解を深め、実践力を高められるよう、会員に対し啓発を行っていく。

「審判が良くなれば、試合が良くなる」という意識を高め、審判講習会や各種大会を通して、審判技能の向上や、審判員としての資質向上を図っていきたい。

# 中体連より

中体連部長 木下 臣 仁

○令和四年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	4.5.7	4.7.16	4.11.19	4.1.21	4.5.7	4.7.16	4.11.19	4.1.21
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	28校	32校	27校	30校	22校	24校	22校	24校
優勝	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	城ノ内	徳島	徳島	徳島	小松島	小松島	鳴門一	小松島
第3位	徳島	鴨島一	徳島文理	小松島	徳島文理	鳴門一	小松島	石井
第3位	鴨島一	城ノ内	小松島	徳島文理	鳴門一	徳島文理	石井	鳴門一

## 県総体個人

令和四年七月十七日(日)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 岩本 響輝(那賀川)

準優勝 松本 奏利(木頭)

第三位 大石 一真(城ノ内)

第三位 富増 奎佑(徳島)

女子

優勝 鈴江 海音(木頭)

準優勝 佐藤 千夏(脇町)

第三位 内田 ころ(那賀川)

第三位 秋山 鈴奈(徳島文理)

## 四国総体

令和四年八月三日(水)

香川県観音寺市立総合体育館

## 〈団体戦〉

男子

那賀川中学校 準優勝

(決勝) 龍雲二一(那賀川)

徳島中学校 第三位

(準決勝) 那賀川二一(徳島)

女子

那賀川中学校 第三位

(準決勝) 東予東三一(那賀川)

小松島中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

## 〈個人戦〉

男子

岩本 響輝(那賀川) 二回戦

松本 奏利(木頭) 三回戦

大石 一真(城ノ内) 二回戦

富増 奎佑(徳島) 一回戦

宮田 真吾(城ノ内) 二回戦

四宮真一郎(鴨島一) 一回戦

津島 優生(徳島文理) 三回戦

尾畑 涼月(那賀川) 一回戦

女子

鈴江 海音(木頭) 一回戦

佐藤 千夏(脇町) 一回戦

内田 ころ(那賀川) 三回戦

秋山 鈴奈(徳島文理) 二回戦

山本実加子(那賀川) 一回戦

高嶋 桜子(那賀川) 三回戦

甘利 慧(那賀川) 一回戦

大塚 仁葉（鳴門一）一回戦

**第五十一回全国中学校剣道大会**

全国中学校大会

令和四年八月十九（金）～二十一日（日）

北海道・湿原の風アリーナ釧路

〈団体戦〉

男子 那賀川中学校 一回戦敗退

女子 那賀川中学校 一回戦敗退

〈個人戦〉

岩本 響輝（那賀川）二回戦敗退

松本 奏利（木 頭）一回戦敗退

鈴江 海音（木 頭）ベスト八〔敢闘賞〕

佐藤 千夏（脇 町）一回戦敗退

**全国都道府県対抗少年剣道大会**

令和四年九月十八日（日）

大阪府・おおきにアリーナ舞洲

監督 濱田 諒（那賀川）

コーチ 谷口 拓馬（木 頭）

先鋒 鈴江 海音（木 頭）

次鋒 佐藤 千夏（脇 町）

中堅 大石 一真（城ノ内）

副将 松本 奏利（木 頭）  
大将 岩本 響輝（那賀川）

〈予選リーグ〉

徳島 ○ー三 秋田

徳島 ○ー五 岐阜（予選敗退）

**県内行事**

○木刀による剣道基本技稽古法講習会

七月三十日（土）徳島中学校武道場

○県中剣道指導者講習会

八月二十七日（土）中央武道館

○徳島県中学校剣道一年生大会

十月二十九日（土）ソイジョイ武道館

・男子団体 優勝 徳島中学校

男子個人 優勝 川添 将義（徳島）

・女子団体 優勝 富岡東中学校

女子個人 優勝 福岡 鈴（木頭）

○第十八回四国中学校新人剣道大会

令和五年二月二十六日（日）

うだつアリーナ

**優秀選手**

男子十五名、女子十二名（新聞発表済み）

**令和四年度中学校剣道部員数**

（ ）は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	97人 (93人)	87人 (78人)	75人 (104人)	259人 (275人)
女子	72人 (69人)	64人 (67人)	71人 (47人)	207人 (183人)
合計	169人 (162人)	151人 (145人)	146人 (151人)	466人 (458人)

# 高体連より

高体連剣道専門部委員長

河野 寿仁

## 一、大会報告

### ○男子第六十六回・女子第五十六回徳島県

高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県

予選

・日時 令和四年一月十六日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十七校 ①富岡西 ②

徳島文理 ③鳴門渦潮・阿南光

・女子 参加校数十校 ①富岡東 ②阿

南光 ③徳島文理・富岡西

### ○第二十二回四国高等学校剣道新人大会

(中止)

・日時 令和四年二月五日～六日

・会場 高知県立高知小津高校

・男子団体 富岡西・徳島文理・鳴門渦

潮・阿南光が出場予定

・女子団体 富岡東・阿南光・徳島文理・

富岡西が出場予定

・男女個人 前年の選手権大会ベスト八

進出者が出場予定

### ○第三十一回全国高校剣道選抜大会

・日時 令和四年三月二十六日～二十八

日

・会場 愛知県春日井市総合体育館

・男子 富岡西が会場 一回戦敗退

・女子 富岡東が会場 三回戦進出

(ベスト十六)

### ○第四十七回徳島県剣道連盟会長杯争奪高

校剣道大会

・日時 令和四年四月二十四日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十六校 ①阿南光 ②

鳴門渦潮 ③富岡西・徳島文理

・女子 参加校数十校 ①富岡東 ②徳

島文理 ③富岡西・阿南光

### ○第六十二回徳島県高等学校総合体育大会

・日時 令和四年六月四日～五日

・会場 藍住町町民体育館

・出場者数 男子百三十三名・女子八十

三名

・団体戦

男子 ①阿南光 ②富岡西 ③城北

④鳴門渦潮

女子 ①富岡東 ②富岡西 ③川島

④阿南光

・個人戦

男子 ①橋本(富岡西) ②岩谷(富岡

西) ③添木(城北)・羽坂(富岡西)

女子 ①谷村(富岡東) ②鳥澤(富岡

東) ③武藏(富岡東)・赤川(城北)

### ○第六十八回(男子)第五十六回(女子)

四国高等学校剣道選手権大会

・日時 令和三年六月十九日～二十日

・会場 高知県立春野総合運動公園体育

館

・男子団体 阿南光・富岡西・城北・鳴

門渦潮が会場

準優勝・阿南光

・女子団体 富岡東・富岡西・川島・阿



南光が出場

第三位・富岡東

・男子個人 八名出場

・女子個人 八名出場

ベスト八 中村莉音(富岡東)

○第四十三回国体四国ブロック大会

・日時 令和四年八月二十一日

・会場 南国市立スポーツセンター

・少年男子

監督 大石 真也

コーチ 西田 凌介

選手 尾畑 翔(阿南光)

岩谷 愛夢(富岡西)

三好 健太(富岡西)

永濱 聡良(城北)

富田将太郎(阿南光)

玉垣 柊芽(阿南光)

谷川 俊輔(城北)

結果 リーグ一勝二敗で、国体本戦  
出場ならず

・少年女子

監督 長井 薫

コーチ 松浦 哲也

選手 鳥澤 明未(富岡東)

武藏 小春(富岡東)

赤川 真唯(城北)

谷村 七海(富岡東)

嶋田 優月(富岡東)

○第五十五回徳島県高等学校剣道選手権大会

・日時 令和四年十一月十三日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 出場者数九十一名

①内海 翔貴(徳島文理)

②篠原 崇也(城北)

③受川 諒(鳴門渦潮)

橋本 和馬(城北)

・女子 出場者数五十六名

①中村 莉音(富岡東)

②平田 大和(富岡東)

③村田 七菜(富岡東)

武藏 小春(富岡東)

平田 大和(富岡東)  
中村 莉音(富岡東)

結果 リーグ一勝二敗で、国体本戦  
出場ならず

○全国高等学校総合体育大会大会

・日時 令和四年八月五日～八日

・会場 高知県立春野総合運動公園体育館

・男子団体 阿南光が 決勝トーナメント進出(ベスト十六)

・女子団体 富岡東が 予選リーグ二位で決勝トーナメント進出ならず

・男子個人

岩谷愛夢(富岡西) …一回戦敗退

橋本青空(富岡西) …四回戦敗退  
(ベスト十六)

・女子個人

谷村七海(富岡東) …一回戦敗退

鳥澤明未(富岡東) …三回戦敗退

二、強化事業

○令和四年度徳島県国体少年の部強化錬成会

- ・日時 令和四年十二月二十八日～二十九日
- ・会場 阿南市スポーツ総合センター・阿南光高校
- ・招待校 筑紫台高校（福岡県）
- ・県外参加校
  - ・近大和歌山（和歌山）・近大付属（大阪）・八幡工（滋賀）・日吉ヶ丘（京都）・滝川第二（兵庫）・新田（愛媛）・鈴鹿（三重）・白子（三重）・西京（山口）・丸岡（福井）・金沢（石川）・深川（東京）・星琳（福岡）
- ・県内参加者
  - ・富岡東・富岡西・阿南光・城北・鳴門渦潮・鳴門・徳島文理・徳島科技・徳島市立・城ノ内・城東・川島・阿波・脇町・板野・阿南高専・海部

○令和四年度徳島県高等学校体育連盟剣道

専門部春季錬成大会

- ・日時 令和五年三月十八日～十九日
- ・会場 阿南市スポーツ総合センター
- ・招待校 育英高校（兵庫県）・鈴鹿高校（三重県）
- ・県外参加校
  - ・桜丘（愛知）・浜名（静岡）・明石（兵庫）・滝川第二（兵庫）・高松商（香川）・高松南（香川）・琴平（香川）・岡豊（高知）・済美（愛媛）・丹原（愛媛）・西京（山口）
- ・県内参加者
  - ・富岡東、富岡西、阿南光、城北、鳴門渦潮、鳴門、徳島文理、徳島科技、徳島市立、城ノ内、城東、川島、脇町、板野、阿南高専、海部

○国体選手選考会

- ・第一回 令和四年十月十六日
- 会場：阿南光高校新野キャンパス
- ・令和五年一月二十八日
- （実施予定 ↓ 中止）

三、人口調査

○平成二十九年～令和四年度の人口推移

令和2年度	平成29年度
219名	249名
令和3年度	平成30年度
230名	243名
令和4年度	令和元年度
220名	242名

・第二回 令和五年 二月二十三日  
会場：ソイジョイ武道館

# 大学連より

大学連部長 木原資裕

## 一、第六十九回中四国学生剣道選手権大会

への出場(松山)

日時…令和四年五月十五日

○一回戦敗退 小島 直将(徳大)

小山田慎介(徳大)

國近 一生(徳大)

○二回戦敗退 松本 喜起(徳大)

○三回戦敗退 山本 風芽(徳大)

## 二、第五十四回中四国女子学生剣道選手権大会への出場(松山)

日時…令和四年五月十五日

○一回戦敗退 村本歩美佳(徳大)

北林 葵(徳大)

神崎 三華(鳴教大)

○三回戦敗退

## 三、第七十三回四国インカレへの出場(鳴門)

日時…令和四年六月二十六日

○男子予選リーグ

・徳島大 一分一敗(予選リーグ敗退)

○女子予選リーグ

・徳島大 二敗(予選リーグ敗退)

・鳴教大 二敗(予選リーグ敗退)

・四国大 一勝一敗(予選リーグ敗退)

## 四、第六十九回中四国学生剣道優勝大会への出場(岡山)

日時…令和四年八月二十六日

○男子予選リーグ

・徳島大 一勝一敗

決勝トーナメント進出

☆男子決勝トーナメント

・岡山大 3(6) 1(2) 0 徳島大

一回戦敗退

## 五、第四十一回眉山杯剣道大会(徳島県学生剣道選手権大会)ならびに第十七回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時…令和四年十一月二十三日(水・祝)

場所…徳島文理大学体育館

参加者数…三十五名

[選手二十七名(男子二十一名・女子六名) 役員審判八名]

○選手権大会成績

男子 優勝 片岡 俊人(蔵本)

二位 松本 喜起(蔵本)

三位 松本 尊灯(蔵本)

伊藤 子貢(常三島)

女子 優勝 佐藤奈那子(鳴教)

二位 神崎 三華(鳴教)

三位 表彰なし(参加者六名)

○東西対抗優秀選手

男子 松本 尊灯(蔵本) 五人抜き

中川 一樹(文理) 四人抜き

松本 喜起(蔵本) 二人抜き

好川 直希(文理) 二人抜き

女子 福山 花純(四国) 三人抜き

田村 眞尋(四国) 二人抜き

佐藤奈那子(鳴教) 二人抜き

## 六、第四十二回中四国学生剣道新人大会への出場(福山)

日時…令和四年十二月十八日

○男子

一回戦 徳島大 愛媛大

2 (3) 1 0 (0)

二回戦 徳島大 山口大A

2 (3) 1 2 (3) 代

○女子

徳島県よりの出場大学なし

### 七、大学連講習会

昨年三月実施予定の大学連講習会はコロナウイルス感染予防のため、中止となった。

### 八、総括

昨年三月実施予定の大学連講習会は開催できなかったものの、他の大会等はコロナ禍を乗り越え、ようやく従来通りの開催ができたことは喜ばしいことであるが、大会参加者数は減少しており、特に女子の参加減少が大きい。このことは徳島県内の大学剣道部活動が低迷していることを顕しており、今後の大学剣道部の活動活性化への試行錯誤が必要と考えている。

## 高齢剣友会より

事務局長 乾 清 孝

令和三年度の活動報告は、高齢剣友会がコロナ感染拡大の影響によって、四国四県高齢者剣道交流大会、全国高齢者剣道交流大会、全国ねりんピック、県健康福祉祭（県ねりんピック）等の各大会の中止や月二回の定例稽古会さえも満足に開催することができなかったことから、内容が乏しく報告するには至りませんでした。

令和四年度は、二年度・三年度と同じく四国四県高齢者剣道交流大会及び全国高齢者剣道交流大会は中止されたものの、全国ねりんピック（神奈川県）、県健康福祉祭（県ねりんピック）が開催され、年末には南部稽古会も盛大に開催することができ、今回、令和三年・四年度の合同報告します。

### 一 総会

令和三年度総会は、三月二十六日（土）

松茂町第二体育館において三一名の先生方の出席により開催され、

第一・二号議案

令和三年度事業・会計及び監査報告

第三・四号議案

令和四年度事業計画（案）・事業予算（案）

及び事務局提案の議事についても、異議なく可決され、令和四年度は高島会長以下九名の体制（役員改選なし）、で活動することになりました。

なお、事務局提案議事として、

「八十才以上の会員に対する赤色垂ネーム（名札）の贈呈について」

提案したところ、

八十才に至るまで剣道の稽古修練を続けられていることへのご自身の誇りを表すため、さらには後輩会員も健康に留意し赤色垂ネームをつけるまで剣道修練ができればという先輩会員に対する尊敬、願望、目標となるための指標となる。

との賛同が得られたことから、後日、会長

から八十才以上の現役剣士（川田武志先生以下十名）に赤色垂ネーム（名札）が贈呈されました。

## 二 活動状況

### ・新潟・富山両県での高齢剣合同稽古会に参加

令和三年十一月十九日、美馬理事長以下十二名が徳島県高齢剣友会「有志の会」として参加。

初日は、新潟三条市内の山田道場（館長・山田義雄教士八段・全国高齢剣副会長）での稽古。

二日目は、富山県黒部市で新潟・富山両県高齢剣との交流会（試合・合同稽古）

### ・新潟県山田道場への二回目の出稽古

令和四年四月八日、松村先生以下有志八名で参加。

### ・県健康福祉祭（県ねりんピック）

令和四年九月二十四日、松茂第二体育館で十二チーム、選手三十七名の参加により開催。

特に個人戦特組（七十五才以上）では、

九名（参加最高齢八十二才）のトーナメント戦が行われ、その品位と闘志あふれる戦いぶりに参加者全員が注目するなど、まさに「これぞ健康福祉祭」と言うに相応しい大会となった。

### ・全国ねりんピック

令和四年十一月十四日、神奈川県で開催され、

大将・澤井先生

副将・東先生

中堅・六條先生

次鋒・武田先生

先鋒・柴田先生

が参加し、予選リーグ一勝一分なるも勝者数負けで惜しくも決勝トーナメントに上がれず。

### ・南部稽古会

令和四年十二月十日、三年振りの（牟岐中学校内のB&Gセンターから牟岐中学校体育館に急遽会場を変更）開催となり、兵庫県から伊澤章先生（徳島市ご出身）、蛭子先生、江本先生のご参加を得たほか地元剣士含めて四十二名（内、高

齢剣三十五名）が参加。

また、続く第二道場（残心）の民宿しらす屋では、まるで学生時代の合宿さながらの雰囲気の中で三十一名の会員等が参加し、恒例となった伊澤先生差し入れの濁り酒に酔いながら豪華な皿鉢料理に舌鼓を打ちました。

忘年会を兼ねていることもあり、夜を徹して先生方の攻めが稽古以上に厳しく行われるなど剣道談議が続き、初めて参加された先生方からも、この楽しい気分が味わえるなら来年も牟岐での声も多く聞こえていました。

## 事務局からのお願ひ

「剣友徳島」への投稿依頼」

※議事（その他）の「四」

当会機関誌の「剣友徳島」への掲載記事につきましては、コロナ対策のため全国大会等の大会が三年続いて中止又は延期となり、さらに自主的な投稿もない状況のため令和三年度の発行ができなく四年度との合併号にせざるを得ない状況と



なっております。  
各先生には、廃刊への危  
機状況であるとの認識の  
下に、剣道に限らず、何か  
残しておきたい、何か伝え  
ておきたい、何か知っても  
らいたい等のご希望がありま  
した。ご投稿をお願いしま  
す。



## 徳島県剣道稽古場所一覧（令和5年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-626-2470	徳島剣道教室剣道場	少年 (火・木) 17:00-20:00 (土) 16:00-
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年 (火・金) 19:00-21:00 (日) 18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小(木) 加茂名中(土) 加茂名南小(日)	少年 (木・土) 18:00-19:45 (日) 17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年 (木・土) 18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年 (水・土) 17:00-19:00 一般 (水・土) 19:00-21:00
	宅宮(えのみや)剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年 (土) 19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年 (火・土) 19:30-21:30 一般 (火・土) 21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年 (火・金) 19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年 (土・日) 17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場(火) 養武館道場(木・土)	少年 (火) 19:00-21:00 (木・土) 19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年 (火・金) 19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年 (火・木) 17:00-19:00 (日) 9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年 (火・木・金) 19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般 (火・木・土) 19:00-20:00
	松紀和会道場	松村和宏 090-8970-4863	松紀和会道場	少年 (火・水・木・金) 19:00-20:30
	日亜錬心塾	山本泰史 090-3780-9813	大松小学校(月・土) セント歯科(木)	(月) 18:10-19:30 少年 (木) 18:30-20:30 (土) 13:00-15:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年 (火・木) 18:30-20:30 (土) 17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	石村行範 088-686-8923	鳴門ソイジョイ武道館	少年 (月・水) 18:00-20:00 (土) 9:00-11:00 一般 (月) 20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年 (火・土) 18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年 (月・木) 19:00-20:30 一般 (月) 20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年・一般 (木・金・土) 19:00-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 (武道館)	少年・一般 (火・金) 19:00-22:00
	修武館道場	武田修典 080-5664-2686	修武館道場	少年 (月・水・木) 18:30-20:00 一般 (水) 18:30-20:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00-21:00
	土成町剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30-21:00
	市場剣道教室	大野和則 090-2822-7715	市場武道館	少年（月・火・木・土） 19:30-21:00
	阿波支部稽古会	安田勝裕 0883-35-7111	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川 功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	山田泰弘 0883-74-1932	馬路小学校体育館	少年・一般（水）18:30-20:00
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	日野利之 090-2783-3416	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	近久 寛 090-1329-7817	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	藤川和秋 090-2786-5975	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南支部稽古会	村井正志 080-1992-2715	阿南第一中学校	小・中・高・大・一般 (第2木・第4木) 19:30-21:00
	阿南少年剣道教室	中西 実 088-664-4879	阿南市武道館	少年(火・木・金) 19:00-21:00 一般(火・金) 21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年(火・木・土) 18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年(月・水・木) 18:30-20:30 一般(水) 21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館(火) 那賀川B&G体育館(水・金)	少年(火・水・金) 19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般(水) 19:30-21:00
	徳島剣清塾	河田清実 090-1579-7001	阿南第一中学校剣道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
丹生谷支部	振武館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年(水・金) 19:00-21:00 一般(水・金) 21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年(火・木・土) 16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般(月・水・金) 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年(月・水) 18:00-19:30 (金) 18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般(木) 19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251(梅山)	北小松島小学校体育館(月金) 小松島小学校体育館(水)	少年(月・水・金) 19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年(火・土・日) 18:30-20:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般(月・水・木) 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般(月・水) 19:00-21:00 少年・一般(土) 18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年(月・木) 16:30-18:00 一般(水・第2金・第4金) 18:00-20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土 19:30-21:30
	久武館	瀬部克好	久武館道場	水・土 19:30-21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00
	高齢剣稽古会	乾 清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般 土 14:00~ 開催日は毎月変更(要確認)

## 居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。 居合道部

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30 (少年)
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 岡山博之 088-669-1610	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	四段・鎌田 貴 携帯 080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	教士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	錬士六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日 9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅 088-698-2970	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00
修武館道場	武田修典 携帯 080-5664-2686	修武館道場	水曜日 20:00～21:00

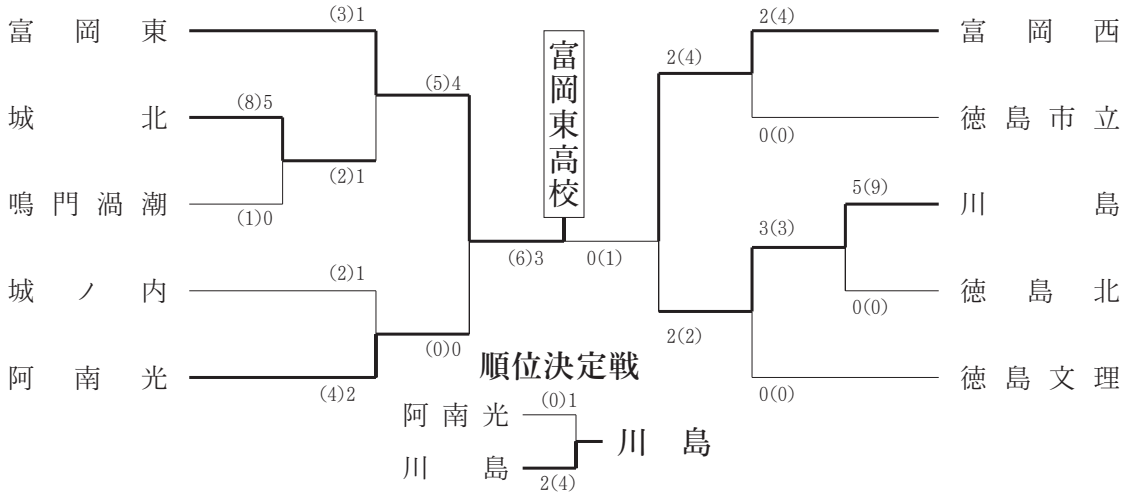


# 令和4年度大会記録

## 徳島県高校総体 団体戦

日時 令和4年6月4日(土)  
会場 藍住町民体育館

### 〈女子団体戦〉



### 〈男子団体戦〉



〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	尾畑	津山	玉垣	島田	富田	0	2	富田 延長
	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗			
城北	添木	谷川	藏本	近藤	永瀆	0	2	永瀆
	⊕	⊗	⊗	⊗	⊗			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	岩谷	岡崎	三好	羽坂	橋本	2	4	
	▲⊗	⊕一本勝	⊕					
鳴門渦潮	上元	佐川	藤本	眞貝	谷本	1	2	
	⊗		⊗	⊗一本勝				

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	添木	茨木	藏本	原	永瀆	3	6	
		⊕一本勝	⊕⊗	⊕	⊗⊕			
鳴門渦潮	上元	撫養	藤本	眞貝	谷本	1	3	
	⊗	▲		▲⊗				

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	尾畑	津山	玉垣	島田	富田	2	4	
	⊕一本勝	⊕	⊗	▲	▲			
富岡西	岩谷	岡崎	三好	羽坂	橋本	1	2	
			⊗	⊗一本勝				

〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	嶋田	鳥澤	平田	中村	谷村	4	5	
	⊕一本勝	⊗	⊗一本勝	⊗一本勝				
阿南光	西崎	古賀	阿井	入江	岩佐	0	0	

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	中尾	田窪	森川	山崎	羽坂	2	4	
				⊗	▲⊗			
川島	兼松	伊丹	大塚	坂東	田村	2	2	
	⊕一本勝	⊗一本勝						

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	西崎	古賀	阿井	入江	岩佐	0	1	
	⊗							
川島	兼松	伊丹	大塚	坂東	田村	2	4	
	⊗			⊗	⊗一本勝			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	嶋田	鳥澤	平田	中村	谷村	3	6	
	⊕一本勝	⊗	⊗	⊕	⊗			
富岡西	中尾	内田	森川	山崎	羽坂	0	1	
					⊗			

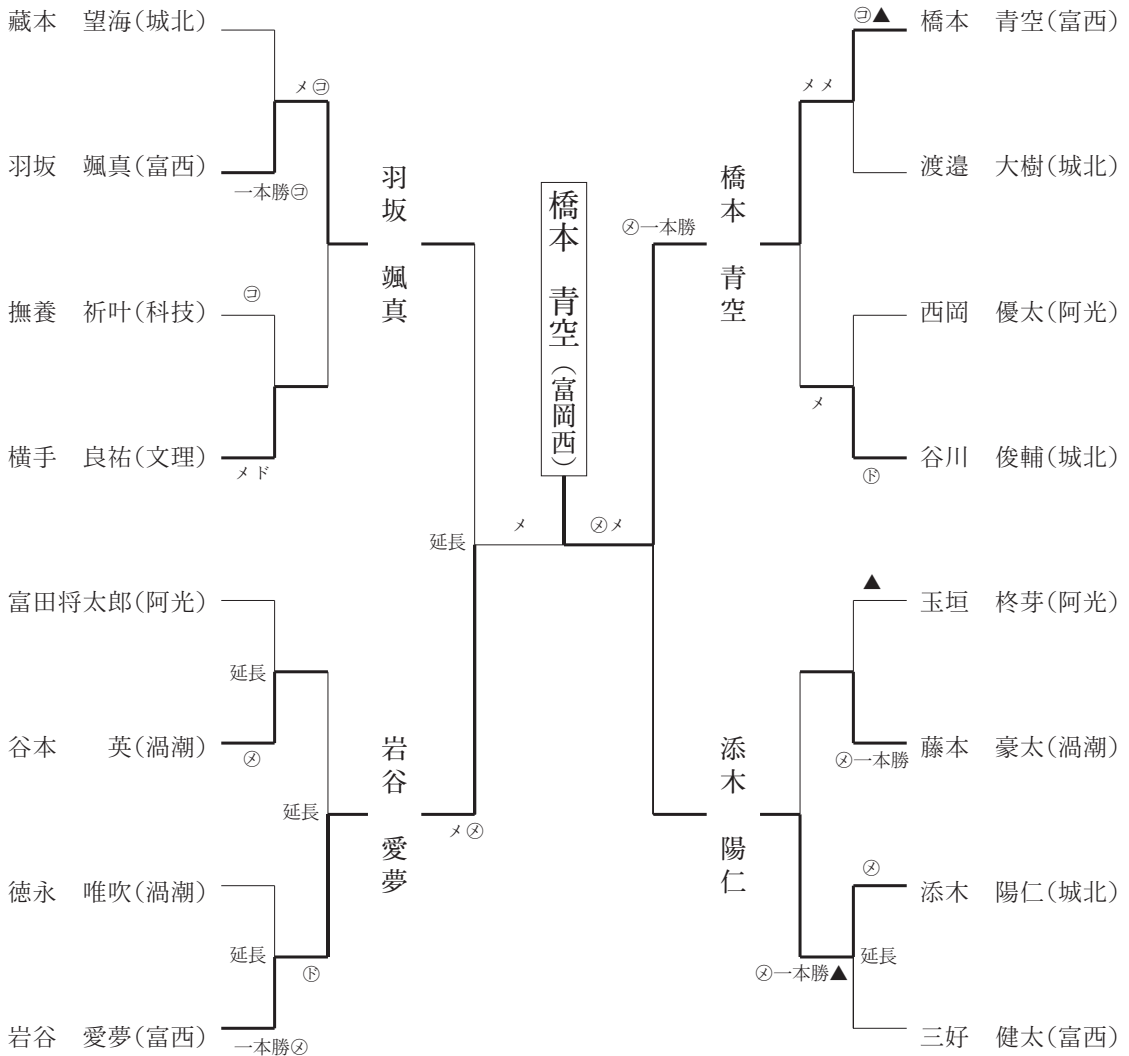




# 男子個人の部

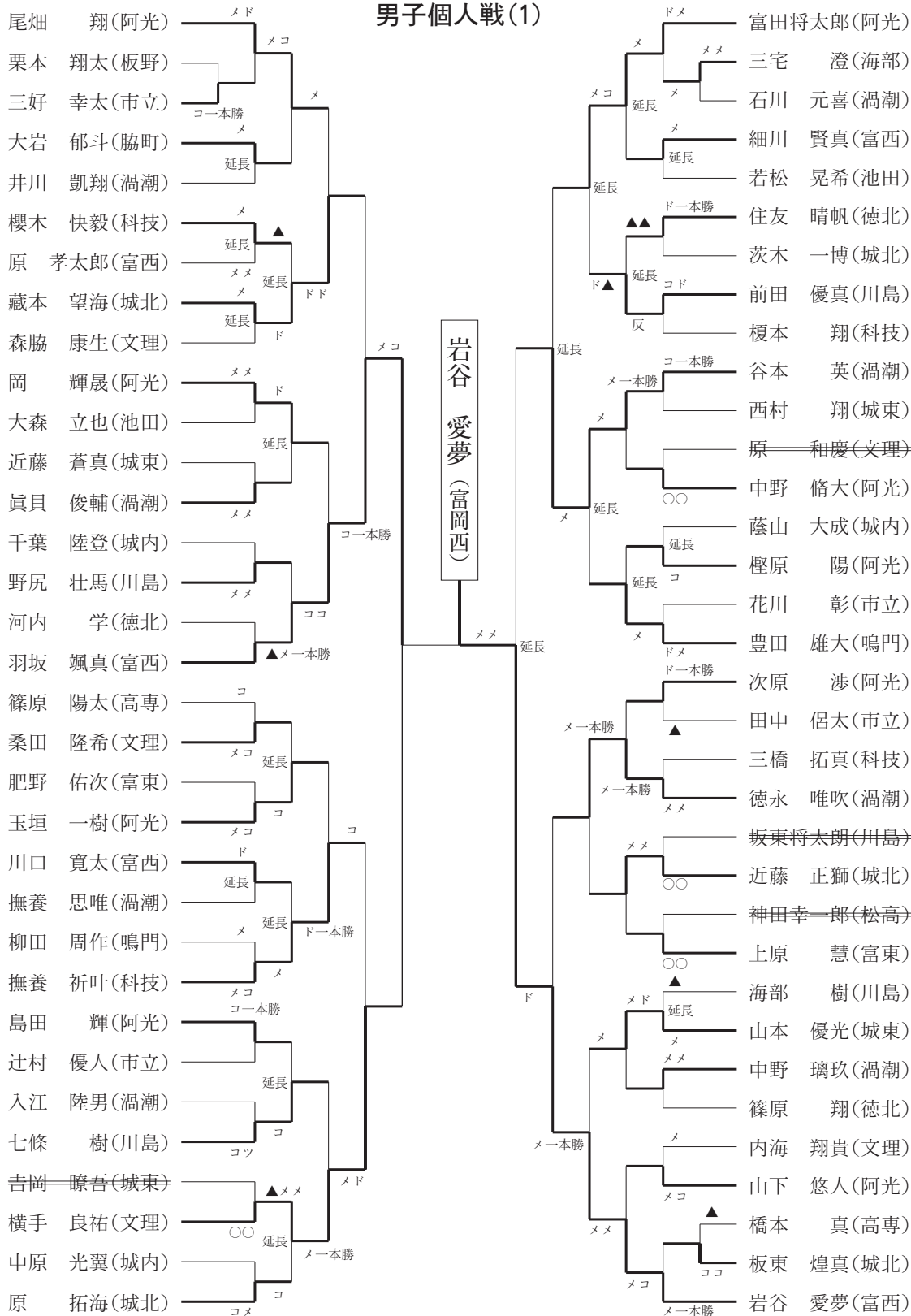
優勝 橋本 青空 (富岡西)  
 準優勝 岩谷 愛夢 (富岡西)  
 第3位 羽坂 颯真 (富岡西)  
 添木 陽仁 (城北)  
 優秀選手 橋本 青空 (富岡西高校)

## 〈男子個人戦〉

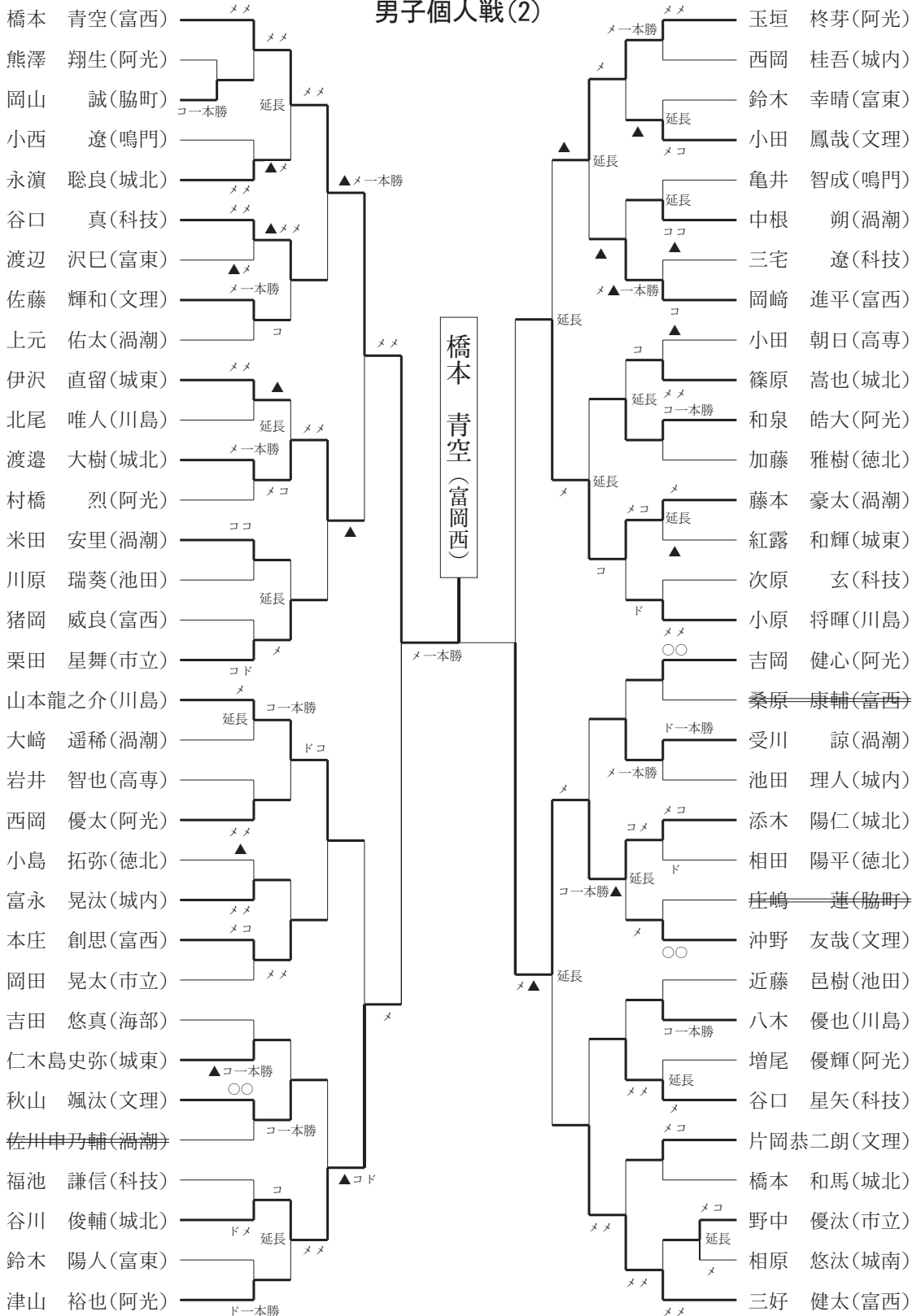




男子個人戦(1)



# 男子個人戦(2)



## 第76回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

### 【 団 体 戦 】

日 時 令和4年7月16日(土)・17日(日)

場 所 鳴門ソイジョイ武道館

順位	男 子	女 子
優 勝	那 賀 川 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	徳 島 中 学 校	小 松 島 中 学 校
第 3 位	鴨 島 第 一 中 学 校	鳴 門 市 第 一 中 学 校
第 3 位	城ノ内中等教育学校	徳 島 文 理 中 学 校

#### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	岩 本	大 和	原	尾 畑	平 松	3	
	ド ド	X		メ	X		メ ド
徳 島 中	メ	X		X		0	
	多 田	村 瀬	入 江	野 田	富 増		

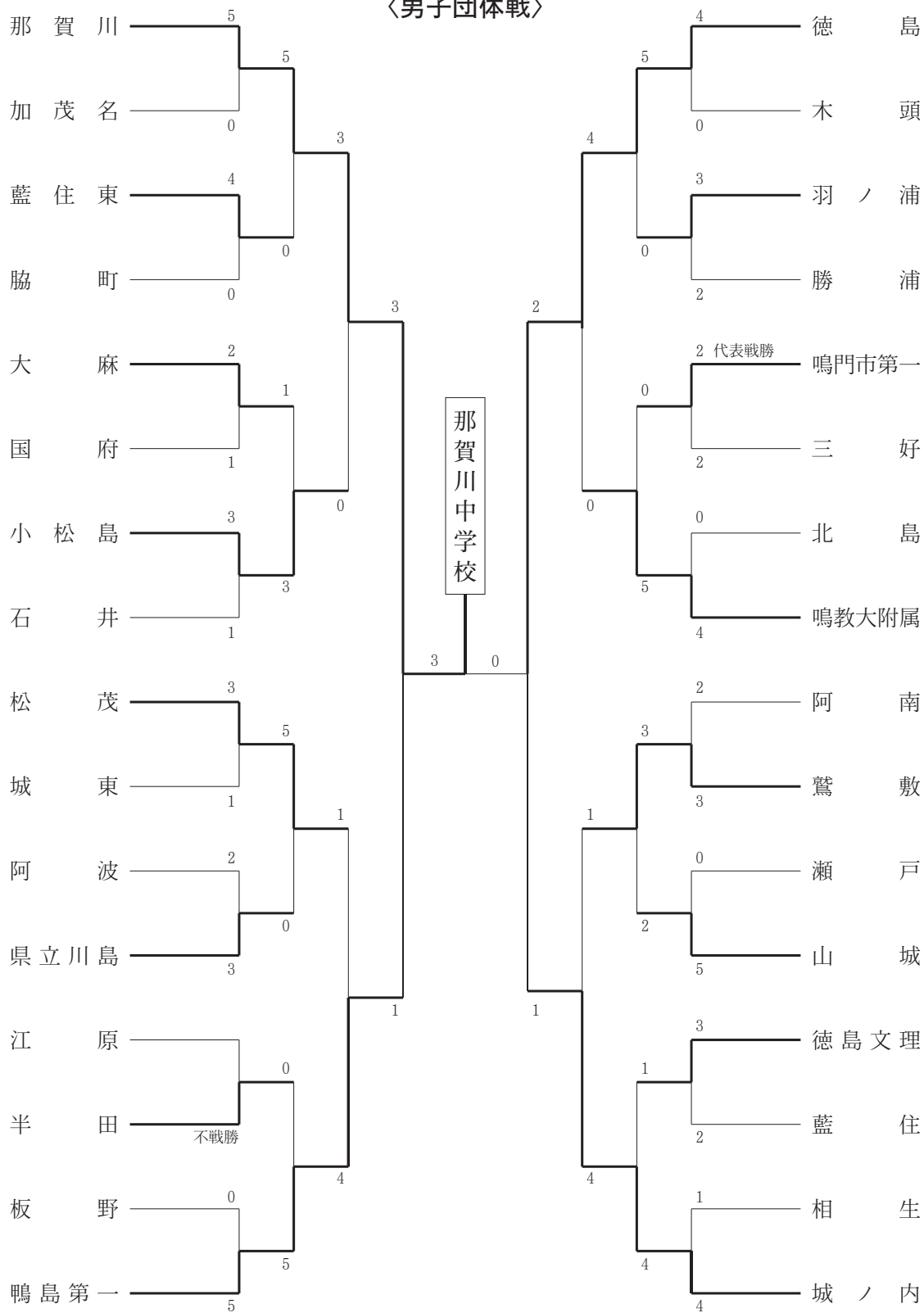
#### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	内 田	山 本	柏 原	甘 利	高 嶋	3	高 嶋
	コ コ	X		X			コ コ
小松島中	ド	X		メ ド	メ	2	
	松 浦	中 野	上 村	岩 谷	檜 原		岩 谷

### 【 個 人 戦 】

順位	男 子	学校名	女 子	学校名
優 勝	岩 本 響 輝	那 賀 川	鈴 江 海 音	木 頭
準 優 勝	松 本 奏 利	木 頭	佐 藤 千 夏	脇 町
第 3 位	大 石 一 真	城ノ内	内 田 ころろ	那 賀 川
第 3 位	富 増 奎 佑	徳 島	秋 山 鈴 奈	徳 島 文 理

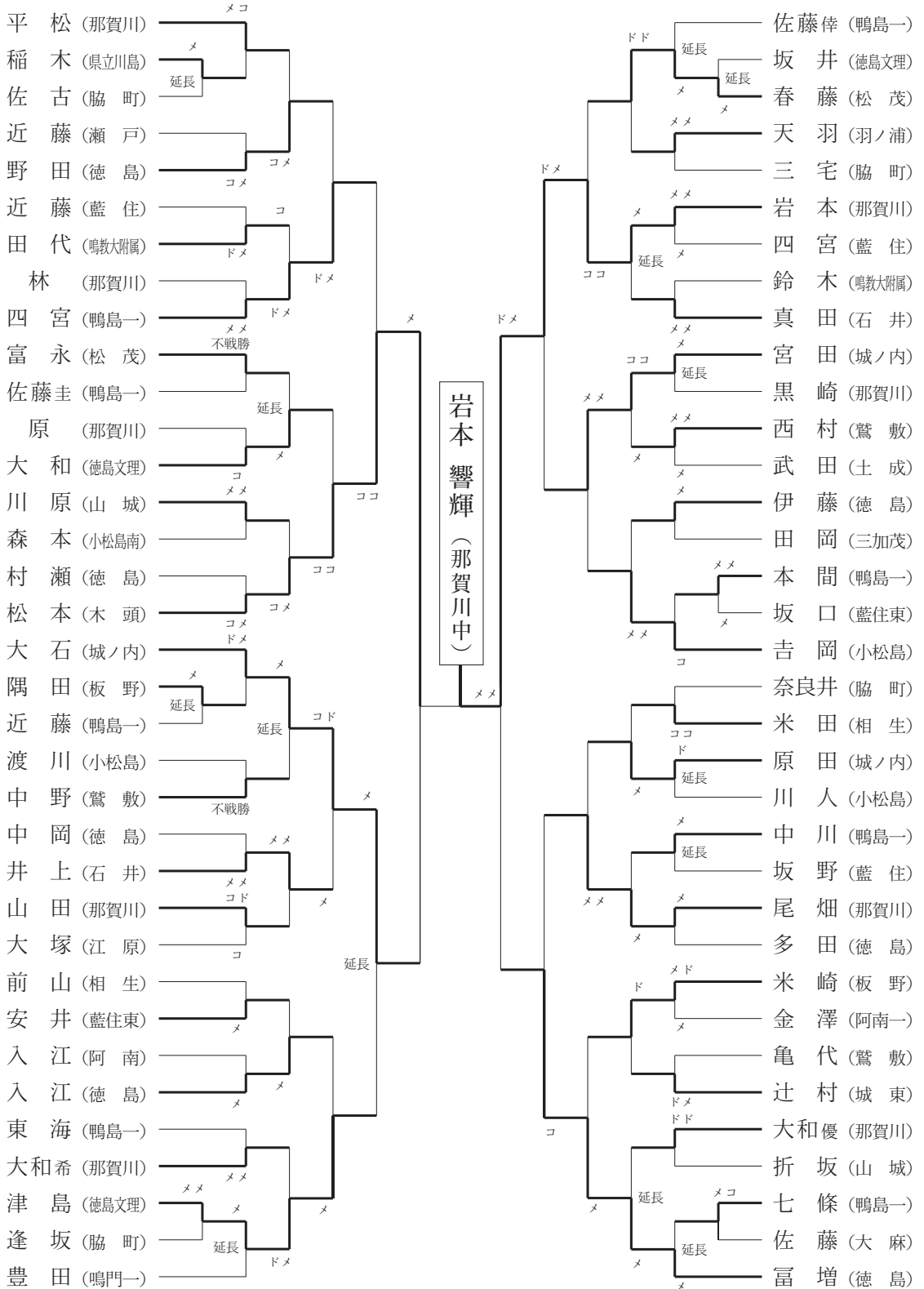
# 〈男子団体戦〉



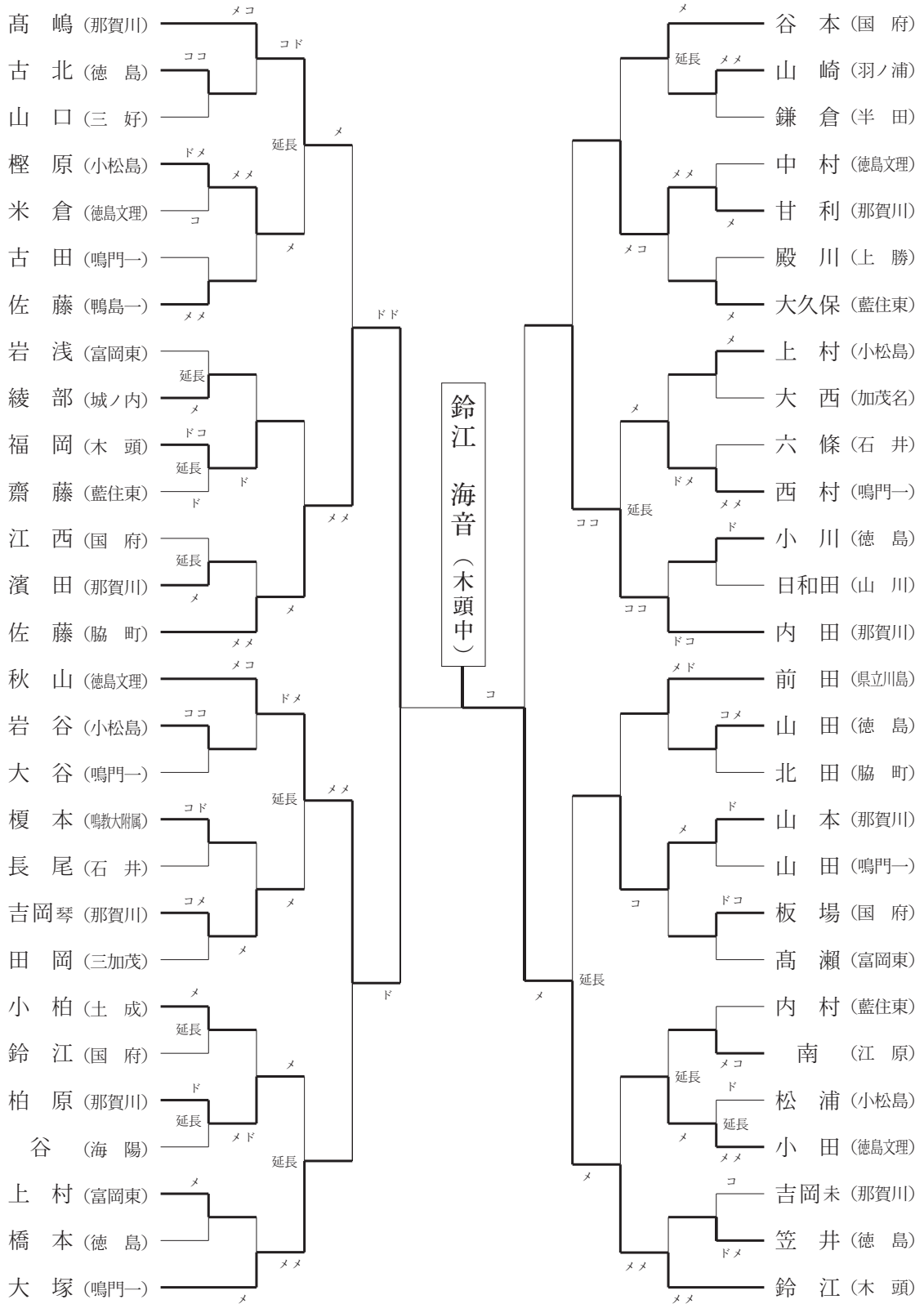




# 個人戦〈男子〉



個人戦〈女子〉



# 第1回 徳島剣少年剣道選手権大会

日時 令和4年7月3日(日)  
場所 ソイジョイ武道館

## 1・2年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
山出 朋 弥	豊島 慶 佑	河村 実 怜	湯川 実千琉
鴨島少年剣道教室	小松島少剣クラブ	大麻錬成館	徳島少年剣道教室

## 3・4年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
水口 萌 香	平田 愛 芽	中江 颯 志	大谷 優
徳島剣清塾	徳島剣清塾	佐古剣道クラブ	鷲敷振武館

## 5年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
坂口 潤	河田 淳 紀	棚橋 爽 斗	山本 京
日垂錬心塾	徳島剣清塾	徳島剣清塾	阿南少年剣道教室

## 6年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
水口 新 汰	河田 蒼 生	日和田 碧	藤井 陽 斗
徳島剣清塾	徳島剣清塾	石井少年クラブ	徳島剣清塾

## 第17回 全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 代表選手

氏名	所属	学年
水口 新 汰	徳島剣清塾	6年
河田 蒼 生	徳島剣清塾	6年
樫本 蘭	那賀川剣道教室わかあゆ会	6年
藤井 陽 斗	徳島剣清塾	6年
日和田 碧	石井少年剣道クラブ	6年

## 第74回 四国四県剣道大会

日 時 令和4年5月15日(日)

場 所 愛媛県武道館剣道場

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島県	氏名	山本	長地	金野	森	矢野	林	山本	湯村	敦賀	日和田	原	河野	玉田	白木	富浦	4 — 2
	取得部位					▲					不戦勝	⊗メ					
香川県	取得部位		⊗ド			⊙一本勝	⊗ド	⊗メ	⊙一本勝				⊙一本勝			⊙一本勝	10 — 7
	氏名	坂本	吉田	松永	米	雉鳥	山下	宮田	松本	山畑	圃西	藤原	坂口	竹下	西本	桑原	

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島県	氏名	山本	長地	金野	森	矢野	林	山本	湯村	敦賀	日和田	原	河野	玉田	白木	富浦	12 — 6
	取得部位	⊙一本勝			メド		⊗コ					⊙コ		反	⊙コ	⊗コ	
愛媛県	取得部位		⊗メ	⊙一本勝	⊗	⊙一本勝		⊙一本勝	⊗メ	⊙一本勝			⊙一本勝	⊗ド			13 — 8
	氏名	今久保	柳原	吉川	竹内	小笠原	岡田	菅	高橋靖	高橋秀	松岡	客野	菊池	井上	二神	清川	

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島県	氏名	山本	長地	金野	森	矢野	林	山本	湯村	敦賀	日和田	原	河野	玉田	白木	富浦	12 — 7
	取得部位				ⓧ一本勝		Ⓣコ		▲	Ⓣ一本勝	Ⓣメ	Ⓣメ	▲		ⓧメ	ⓧメ	
高知県	取得部位		コⓧ	ドⓧ		コⓧ		一本勝Ⓣ									7 — 4
	氏名	酒井	津野	松本	辻	西原	櫻木	上岡	野崎	川島	楠岡	高木	小野	小笠原	宇賀	森岡	

	高知	徳島	香川	愛媛	勝数	勝者数	勝本数	順位
高知		$\frac{7}{4}$	$\frac{12}{6}$	$\frac{6}{3}$	0	13	25	4
徳島	$\frac{12}{7}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{12}{6}$	1	15	28	3
香川	$\frac{13}{8}$	$\frac{10}{7}$		$\frac{9}{4}$	2	19	32	2
愛媛	$\frac{10}{7}$	$\frac{13}{8}$	$\frac{9}{4}$		2	19	32	1

優勝	愛媛県
準優勝	香川県
第3位	徳島県
第4位	高知県





# 〈男子の部〉

優勝 玉田 赳大 (警察支部)  
 準優勝 浅田 光貴 (警察支部)  
 第3位 白木 恒二郎 (名西支部)  
 第3位 本田 和将 (警察支部)



徳島新聞に見る戦いの跡

2022年(令和4年)5月8日 日曜日

那賀川男女が頂点

剣道

県中学選手権

剣道の第51回徳島県中学校選手権は7日、鳴門ソイジョイ武道館で男子28校、女子22校が参加して団体戦が行われ、那賀川が男女そろって優勝した。男子は2年連続6度目、女子は4年ぶり17度目。大会は新型コロナウイルスの影響で、2020年から2年連続で中止され、3年ぶりの開催となった。

【男子】1回戦 藍住東3-2羽ノ浦 徳島文理4-0板野 石井4-1脇町 鴨島3-1鷺敷

藍住3-1城東 相生1(本数勝)	【女子】1回戦 脇町2-1北
ち1山城 県立川島5-0江原	島 羽ノ浦2-0城東 県立川島
阿波4-0加茂名 城内5-0	5-0半田 徳島3-2石井 藍
三好 松茂3-1大麻 国府4-1	住東4-0三好 富岡東4-1土
0半田 小松島5-0瀬戸▽2回	成▽2回戦 那賀川5-0脇町
戦 那賀川5-0藍住東 石井1	加茂名4-1江原 国府3-0羽
(代表勝ち) 1徳島文理 鴨島1	ノ浦 鳴門3-1県立川島 徳
5-0藍住 鳴教大付5-0相生	島文理3-1徳島 鳴教大付2本
阿南2-1県立川島 城内5-1	数勝ち 2藍住東 勝清3-1鷺
0阿波 松茂4-1国府 徳島4	勝 小松島4-0富岡専 準々決
1小松島 準々決勝 那賀川4	勝 那賀川4-0加茂名 鳴門1
0石井 鴨島3-1鳴教大付	2-1国府 徳島文理3-0鳴教
城内3-1阿南 徳島4-0松	大付 小松島2-0勝浦▽準決勝
茂▽準決勝 那賀川3-0鴨島	那賀川5-0鳴門1 小松島1代
1-城内3-1徳島	表勝ち 1徳島文理
▽決勝	▽決勝
那賀川3-2城ノ内	那賀川4-0小松島
岩本 1コト 小坂0	○内田 ヌト
○大和 コーメ 榎本	○山本
○原 ヌー 宮田	○柏木 ヌコー
○尾畑 ヌー 原田	○甘利 ヌー
平松 1ヌ 大石0	○高嶋 ヌー
	岩谷 松浦 上野 榎原











敢闘賞の徳島剣清塾

**◆第40回三浦旗少年大会(5月8日・新居浜市民体育館)**  
 ◇徳島県関係の上位  
 △小学生低学年団体1回戦  
 徳島剣清塾(先鋒・水口晴香、次鋒・岩崎、中堅・集心暖、副将・高橋明里、大将・平田愛芽)5  
 ○新居浜市連盟(愛媛)2回戦  
 清塾3、0久枝剣道会(愛媛)3  
 3回戦 剣清塾5、0丹原連盟(愛媛)▽準々決勝 小倉根剣友会(大阪)2-1剣清塾  
 徳島剣清塾は敢闘賞

剣道

**あわー  
スポーツ**

記録・情報はお客さまセンターまで早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231  
 F A X (0120) 333414  
 メール awaspo@topics.or.jp



中学生団体を制した養武館



小学生団体が優勝の日垂練心塾

◆第4回徳島県道場少年大会兼全国道場少年大会・同選手権徳島県予選(5月16日・鳴門ソレイユイ)



小学生個人女子の上位入賞者



小学生男子個人の上位入賞者

【団体】小学生の部①日垂練心塾(先鋒)②山口純葉(中堅)③坂口凜(大将)④多川響(副将)⑤徳島剣清塾(佐々木)⑥養武館(中学生)⑦出口純葉(白垂練心塾)⑧柳生夏希(日垂練心塾)⑨坂口凜(日垂練心塾)▽中学生男子の多田健人(養武館)⑩鈴木一(松和会)⑪辻村瑠人(松和会)⑫由代朝也(松和会)▽中学生女子⑬合本真智子(佐々木)⑭栢原あこ(養武館)⑮大塚仁葉(鳴門市光武館)⑯秋山鈴奈(鳴門市)



中学生個人男子の上位入賞者

【徳島剣清塾】②篠原奏騎(佐吉クラブ)③藤井陽斗(徳島剣清塾)④鹿島大雅(徳島剣清塾)▽小学生女子の多川響(白垂練心塾)⑤出口純葉(白垂練心塾)⑥柳生夏希(日垂練心塾)⑦坂口凜(日垂練心塾)▽中学生男子の多田健人(養武館)⑧鈴木一(松和会)⑨辻村瑠人(松和会)⑩由代朝也(松和会)▽中学生女子⑪合本真智子(佐々木)⑫栢原あこ(養武館)⑬大塚仁葉(鳴門市光武館)⑭秋山鈴奈(鳴門市)



中学生個人女子の上位入賞者

【光武館】団体の全国大会は7月28、29日に日本武道館であり上位チームが、個人の大会は10月16日に愛知県のパークアリーナ小牧でありクラスの優勝者が出場する。

2022年(令和4年)6月19日 日曜日

四国高校選手権 前期

第2日

剣道

- 【男子】個人決勝 竹内(帝京 第2)×山田(高知)
- 【女子】個人準々決勝 岡部(高松)×中村(高松)
- 【男子】個人準々決勝 岡部(高松)×中村(高松)
- 【女子】個人準々決勝 岡部(高松)×中村(高松)

2022年(令和4年)6月25日 土曜日



4

剣道・岩原千佳、松山若樹  
(八代白百合学園)



全国大会春夏連覇を目標に掲げる岩原(左)と松山  
=熊本県八代市の八代白百合学園(同校提供)

「2人大将」雪辱を期す

つて1本勝ち。インターハイ出場が懸かる第3試合は「気持ち強く持つて臨んだ」と積極的な攻め、メン2本で優勝を決めた。

一方、松山は第1試合で1本負けした反省を踏まえ、第2、3試合はチームの勝利を最優先した戦いに徹した。1-0で回ってきた副将戦は、いずれも勝利

が決まる場面。「自分の気が試合を乗り越えて実力を示す」と語る。主方は高校生活を通じて「相手が求めていることを考え、見えないものを見る力」と精神的成長を強調。岩原は「今までやっていたことを信じ、得意のメンを打ち込んで相手を圧倒したい」と天一番に向けて闘志をみなぎらせた。

(須見千次郎)

3月に愛知県で開催された全国選抜大会の剣道女子団体を16年ぶりに制した八代白百合学園(熊本)。「春夏連覇」を目標に掲げ、初のインターハイ優勝に照準を合わせる。チームの中核を担う徳島出身の岩原千佳(徳島市出身)と松山若樹(わかな、小松島市出身)は、昨年のインターハイ決勝で敗れた雪辱を果たすべく、必勝を期している。

熊本県総体で主将の岩原は、大將、松山は副將として2連覇に貢献した。どんな状況でも勝たなければならぬ大將と、勝敗のポイントを握る副將。168センチの体格を生かした力強い攻撃が持ち味の岩原と、瞬間的な判断力に優れる松山は、チームの面輪として就任3年目の澤田武秀(たつひで)監督の期待に応えた。

順当に勝利を取めたとはいえ、3戦全勝を締めくくった決勝リーグは接戦の連続だった。岩原は2-1で迎えた第1試合でメンを奪





2022年(令和4年)8月4日 木曜日

剣道女子 団体V狙う八代白百合(熊本)

# 県出身2人にエール

全国高校総合体育大会(インターハイ)の剣道が5日から高知市で行われる。女子団体の初の全国制覇を目指す熊本県の八代白百合学園をけん引するのが、徳島出身で3年生の岩原千佳(18)、松山若樹(18)両選手。2人の小中学校時代を見守った県内の恩師らも教え子の悲願達成に期待を寄せる。

## 岩原、松山選手あすから本番



チームの主夫としてインターハイ初制覇を目指している徳島県出身の岩原(左)・松山両選手(八代白百合学園高校提供)

## 小中時代の恩師「勝算は十分」

両選手とも3人きょうだいの末っ子で、それぞれ兄の背中を追い剣道をはじめた。小学校時代に汗を流したのが小松島市内の剣道教室「小松島少剣クラブ」。指導した青木博志代表(60)は「2人とも当時から才能は秀でていた」と振り返る。高速のメンが武器の岩原選手と、変幻自在に返し技を操る松山選手。道場の外ではごく普通の友達同士だが、竹刀を握ると互いに譲らぬ真剣勝負を繰り広げた。学年別の大会では常に2人が決勝まで勝ち上がり、2人が決勝まで勝ち上がり、2位を独占。青木代表は「勝敗は五分だった。ライバルがそばにいたことで切磋琢磨し、力を伸ばせたのだと思う」と話す。

徳島中学校剣道部で3年

間指導した兼松佳史さん(61)＝真光中教頭＝も、練習に取り組む2人の真摯な姿勢を覚えている。「基本動作の練習を100本、200本と課したが、最後まで一生懸命振っていた。剣道が大好きだった」

2人が3年生だった2019年、徳島中は徳島県中学総体、四国総体の団体でいずれも優勝。ただ、躍進が期待された全国総体は頂点に届かなかった。

進学先の高校を選択する時期、兼松さんは「しっかりと自分が行きたい道を選びなさい」と助言。2人は果たせなかった日本一を熊本から目指す道を選んだ。

7月25、26両日に福岡市で行われた玉竜旗高校大会で、八代白百合は団体3位に入賞。岩原選手も優秀選手に選ばれるなど、全国制覇に向けて調子は上向きだ。インターハイは、勝ち抜き方式の玉竜旗大会と異なり、先鋒、中堅など5つのポジションの勝ち数で争う団体戦。兼松さんは「岩原、松山と、大将クラスの選手が2人いる八代白百合は十分勝算がある」と太鼓判を押す。青木代表も「普段通りの力を発揮することが大事。平常心で臨んで」とエールを送った。

剣道は個人戦が5日から始まり、団体は6日から予選リーグ戦が行われる。

(平尾貴宏)





第14日

女子個人4回戦 攻め込む八代白百合学園の岩原(右) 〓高知市の県立春野総合運動公園体育館



# 岩原

(熊本・八代白百合)  
徳島中出

# 8強入り

## 剣道

## 女子

5日始まった剣道女子個人で、徳島中出身の岩原(熊本・八代白百合)がベスト8に進出した。「勝ち残って(翌日)から団体戦に臨む)チーム活躍し、優秀選手に選ば

れるなど調子は上々だった。しかし、8強入りを決める4回戦は、相手に先にも許す苦しい展開。逆転勝利を引き寄せたのは、このインターハイに懸ける強い気持ちだ。「生まれ育った徳島を、個人も団体も勝つて、みんなに報告したい

【男子】個人1回戦  
橋本青空 ×  
熊本隆汰 ×  
岩谷愛夢 (高西)

【女子】個人1回戦  
楠岡晴琉 (高知) ×  
谷村七海 (高知) ×

【男子】個人1回戦  
宇賀大朔 (高知) ×  
山本笑 (京都) ×

## 剣道

【男子】個人1回戦  
橋本青空 ×  
熊本隆汰 ×  
岩谷愛夢 (高西)

【女子】個人1回戦  
楠岡晴琉 (高知) ×  
谷村七海 (高知) ×

【男子】個人1回戦  
宇賀大朔 (高知) ×  
山本笑 (京都) ×

【男子】個人1回戦  
橋本青空 ×  
熊本隆汰 ×  
岩谷愛夢 (高西)

【女子】個人1回戦  
楠岡晴琉 (高知) ×  
谷村七海 (高知) ×

【男子】個人1回戦  
宇賀大朔 (高知) ×  
山本笑 (京都) ×



# 四国 インターハイ

第15日

月曜

2022年(令和4年)8月7日 日曜日

スポーツ (22)



女子団体予選リーグ・富岡東対広 果敢に攻め込む富岡東の先鋒  
・鳥澤(右) 〓高知県立春野総合運動公園体育館(岡野将大撮影)

## 富岡東、予選Lで姿消す

剣道 女子団体

剣道団体女子の富岡東は6日の予選リーグB組で1勝1敗の2位に終わり、四国インターハイの舞台から姿を消した。ベスト16に進出した昨夏以上の成績を目指したがかなわず、3年生たちの目から涙があふれた。

広(広島)との第1戦はいずれも3年の先鋒(せんぽう)鳥澤、次鋒嶋田が相次ぎ一本勝ちして波に乗り、大将谷村も手堅く引き分けて先勝。だが、1勝同士で迎えた甲府商(山梨)との第2戦は精彩を欠いた。

鳥澤が微妙な判定後に一本を取られ、嶋田も分けて取り返せなかった。大将谷村は2本のメンを奪われ万事休す。「気持ちの弱さが出てしまった」と、嶋田と谷村は悔しそくに振り返った。

ただ、先輩らの16強を越えようと、部員全員で積んできた研さんの証しは見せた。鳥澤は前日の個人戦で2勝、全国大会の個人戦で勝つのは初めてだった。

1年の中村が第2戦で

一本勝ちを収めるなど手ごたえを感じさせた。鳥澤は「みんなをやってきたことは間違っていない。来年こそ予選を突破し、さらに上を目指して」と、後輩たちに目標を託した。

(平尾貴宏)





2022年(令和4年)8月9日 火曜日

第16・17日

# 大将岩原(徳島)涙の惜敗

女子

## 八代百合(熊本)3位

剣道



女子準決勝・八代百合学園対中村学園女子 代表戦で果敢に攻め込む八代百合の大将岩原(右)  
▲高知県立春野総合運動公園体育館(岡野将大撮影)

徳島出身の岩原と松ナメント準決勝で中村学一(なつ)が終った。山を擁する八代百合学園女子(福岡)に敗れて、先鋒(せんぽう)から(熊本)は、決勝ト13位。悲願の初優勝に挑み、大将まで五人全員が引き

分けて行われた一本勝負の代表戦で、大将岩原が無念の敗北を喫した。試合後、涙が止まらない大将を、部員らが肩を抱くようにして取り囲んで慰めた。

大会5連覇中の強豪・中村学園女子との大一番。命運を託された代表戦で岩原が向かい合った相手は、先に対戦して引き分けた大将ではなく、7月の玉電旗高校大会で負けた副将だった。絶対に勝たなくてはならないと思っただけなのに、しかし慎重になりすぎたのか、間合いをうまく詰めることができず、得意のメンを繰り出せないまま試合開始から分、痛恨のコテを奪われた。

副将松山も目を真つ赤にはらした。副将戦はコテを奪って両チーム初の一本。ところが直後に反則を取られて一瞬集中が途切れ、ドウを取り返された。「自分が守り切らななくてはならなかった」と悔しがった。

2人は徳島中を卒業後、日本一を目指して熊本へ。大将、副将を務め、チームの両輪として存在感を發揮してきた。澤田武秀監督も「岩原らを軸に部員個々の力が付いた」と成長を認めた。

「つらいことも多かったけど、みんなが乗り越えてくれたことに感謝している」と振り返った松山。岩原も「意識の高い仲間と一緒に励んできた3年間は本当に充実していた」と話し、涙を拭いた。

(平尾貴宏)





剣道男子団体決勝トーナメント1回戦・阿南光対東海大相模  
メンを決めた阿南光の副将吉岡(右) (岡野将大撮影)

# 男子チーム一丸でベスト16 阿南光成長の証し

阿南光男子が7日の予選リーグを突破し、16強3敗し、チームの決勝トに入った。8日の決勝トーナメントは1回戦で敗れたが、新校名で新たな一ページをしるし、岩原監督は「自分たちの力は出し切れた」と部員をねぎらった。

東海大相模(神奈川)との決勝トーナメント1回戦は1-3の力負け。一矢を報いたのは年の副将吉岡だ。中堅までで返り引き分け。途中、面がすれて着直す時間

山が雪辱の一本勝ちを収めて戦りつなびし、全員一丸で予選を突破した。

戦いを終えて富田は「相手を倒せるような個々の力はないが、全員が踏ん張って後ろに負けていなかった。後輩たちにはさらに上を目指してほしい」と話した。(平尾貴宏)

剣道		男子団体決勝トーナメント	
阿南光	1-0	高千穂	1-0
尾畑	0-1	宮千穂	0-1
津山	0-1	中野村	0-1
吉岡	0-1	豊島	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-1
阿南光	1-0	岩谷	0-1
尾畑	0-1	中野村	0-1
津山	0-1	豊島	0-1
吉岡	0-1	岩谷	0-1
富田	0-1	岩谷	0-

2022年(令和4年)8月21日 日曜日

スポーツ (20)

**剣道**

アリーナ  
（ウインドヒルくしろスーパーアリーナ）

◇徳島県関係と決勝  
【男子】団体1回戦  
幕張本郷 2-1 那賀川  
千歳  
▽決勝  
九州学院 1-0 大野東  
（熊本）  
九州学院は大会連続10度目の優勝。

# 全国中学校 体育大会

第5日

(23) スポーツ

2022年(令和4年)8月22日 月曜日

5

全国中学校体育大会（全中）第6日は21日、北海道釧路市ウインドヒルくしろスーパーアリーナなどで11競技が行われた。剣道女子個人の鈴江海音（木頭）が準々決勝に進出し、準優勝した小林心乃（愛知）に敗れたが

# 全国中学校 体育大会

第6日

5位に入った。相撲団体の阿南一は予選3敗で敗退。バスケットボール男子団体の八万、城東はいずれも予選リーグで敗れた。卓球男子個人の引地亮斗（南部）は3回戦で敗れ、16強入りを目指した。



**得意技磨き無欲の勝利**

初戦の2回戦から3勝し、準々決勝に進出し、快進撃を見せた女子個人「初戦突破が目標だった。調した。」

初戦の2回戦から3勝の鈴江（木頭）。5位に思っていたより上位に入り、準々決勝に進出し、快進撃を見せた女子個人「初戦突破が目標だった。調した。」

準々決勝では、準優勝した愛知の選手と対戦。メンを狙う相手に対して返しドウで応戦する展開となり、互いに決め手を取ったまま3分が過ぎて延長戦に突入した。「何としても1本取る。攻めようと竹刀を上げた瞬間、わずかな隙を突かれてドウを決められた。4強に一步届かず、「すごく悔しかった」と鈴江。準々決勝で惜しくも敗れたとはいえ、2回戦は後半に飛び込んでメンを決め、接戦となった3回戦女子個人で5位に入った木頭の鈴江は北海道釧路市ウインドヒルくしろスーパーアリーナ

練習不足で臨んだ四国総体個人戦は、まさかの1回戦敗退。それが転機となり、練習で出たメンやコテ返しメンなどの得意技に磨きを掛け、苦手がなにも取り組んだことが結果につながった。高校進学後も剣道を続ける予定。「今日は竹刀が浮いて攻められる場面が多かった」と反省点を挙げ、「自分から攻める形をつくらたい」と決意を語った。

(須見亨次郎)

**剣道**

（ウインドヒルくしろスーパーアリーナ）

◇徳島県関係と決勝  
【男子】個人1回戦

安方晴真 松本奏利  
熊本・九メー (木頭) 村コ  
州学院 中村文次郎 岩本響輝  
熊本・九メー (那賀) 西田菜乃花  
州学院 佐藤千夏  
△決勝

△4回戦  
鈴江海音 メー 小林心乃  
武田詞葉 池田幸穂  
社東 山・総 鈴江海音  
△準々決勝  
△3回戦  
鈴江海音 メー 稲村凛  
佐藤千夏 小  
△決勝

△4回戦  
鈴江海音 メー 池田幸穂  
武田詞葉 池田幸穂  
山・総 鈴江海音  
△準々決勝  
△3回戦  
鈴江海音 メー 稲村凛  
佐藤千夏 小  
△決勝



# 徳島 16強入り 成年男子



## 剣道

(ユウケイ武道館)

◇徳島県対決勝

【成年男子】2回戦

徳島 3-2 島根

美馬 1-メメ 加藤

玉田 越 コメメ 長岡

○白田 コ反下 原 一 玉田 コニコ 小松 一 柄木は初優勝。  
○山室 メメ 深石 一 【成年女子】決勝

## 鮮やかな逆転勝ち

成年男子の徳島は、初戦を下し、16強入りを果たした。監督を兼任する副将の山室(県警)は「大」と晴れやかな表情を

見せた。1勝2敗で迎えた副将戦。山室が鋭い踏み込みで立て続けにメンを2本奪い、勝負を振り出しに戻した。大将戦は、互いにコテを1本ずつ取り合う緊迫した展開となった。相手の手元がわずかに浮いた一瞬を逃さず、玉田晋(徳島文理高教)が「とっさに体が反応した」と振り返るコテを的確に決め、激戦に終止符を打った。

目標のベスト8を懸けて3回戦で対戦する岩手は実力が似通っており、再び接戦が予想される。玉田晋が「全精力を集中して勝ちたい」と闘志を燃やせば、山室は「気持ちを竹刀に乗せ、5人全員で上を目指す」と意気込んだ。

(富士佳輝・写真も)

成年男子2回戦・徳島対島根 積極的メンを狙う徳島の副将・山室(右) 宇都宮市のユウケイ武道館



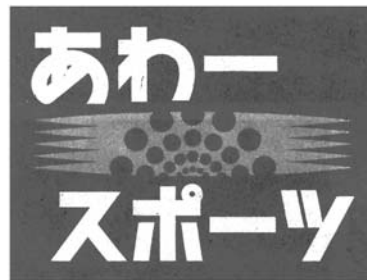
# 那賀川男女ともV

## 剣道

### 県中学新人大会

剣道の第47回徳島県中学校新人大会は19日、鳴門ソイシヨイ武道館で男子27校、女子22校が参加して団体戦が行われ、男女とも那賀川が優勝した。男子は2年連続9度目、女子は4年連続21度目。男女の上位各4校が四国新人大会(来年2月25、26日・美馬市うだつアリーナ)に出場する。

3-0 勝浦 羽浦 1-0 北島	大和 野田
小松島 不戦勝 木頭 勝町 3-0	【女子団体1回戦】半田2代
2 藍住 大麻 3-0 国府 鳴門 1-0	表勝 2 北島 城東 4-0 羽ノ
3-2 半田 2 回戦 那賀川 3-1	浦 驚敷 2-1 阿波 加茂 4-0
1 松茂 城内 3-1 鳴教大付	0 脇町 徳島 3-1 三好 鳴教大
阿南 1 (代表勝) 1 加茂 徳島 文理 4-1 山城 鴨島 3-1	付 3-0 鴨島 2 回戦 那賀川
徳島 文理 4-1 山城 鴨島 3-1	5-0 半田 徳島 文理 3 (代表勝)
藍住 東 小松島 5-0 羽ノ浦 脇町 4-1 大麻 徳島 3-1 鳴門 1-0	ち 3 勝浦 県立川島 3-1 城東
▽準々決勝 那賀川 4-1 城内 徳島 文理 4-1 阿南 小松島 2-1 鴨島 徳島 4-0 脇町	石井 5-0 驚敷 鳴門 4-1 加茂 高岡 3-1 徳島 国府 3-0 藍住 東 小松島 4-0 鳴教大
準決勝 那賀川 2-1 徳島 文理 徳島 5-0 小松島	付 準々決勝 那賀川 5-0 徳島 文理 石井 3-1 県立川島 鳴門 1-3 2 高岡 東 小松島 3-0 国府
▽決勝 那賀川 1-1 徳島	府 準決勝 那賀川 4-1 石井 鳴門 2-1 小松島
本教勝ち	▽決勝 那賀川 2-2 鳴門 1-1
西岡 コーコ	吉岡 末 本教勝ち
阿井 メイコ	○濱田 コーコ
西尾 瀨	吉岡 琴 メイコ
川添 岡	○川野 古田
中岡 添	○内田 コーコ
西岡 添	筒井



## 剣道

◆第53回徳島県少年錬成大会(11月6日・鳴門ソイシヨイ体育館)  
 △決勝トーナメント1回戦 徳島 剣清塾 2-1 徳島少年剣道教室 和田 少年剣道クラブ 3-1 阿南少年剣道教室 石井 少年剣道クラブ 4-0 那賀川剣道教室 わかあゆ会 驚敷 振武館 2-1 佐古剣道クラブ 準決勝 剣清塾 2-0 和田 驚敷 2-1 石井 決勝 剣清塾(鹿島 藤井 水口 河田 東 河田 意) 3-1 驚敷(中山 東 福永 西尾 松本)



# 城北2年ぶりV

## 女子は富岡東9連覇

剣道

県高校新大会

剣道の全国高校選抜大会は26日、男子は徳島県予選を兼ねた第13校、女子10校が参加した。富岡東9年連続34度目の頂点に立った。男女とも優勝校が全国大会(来年3月26、28日・愛知県春日井市総合体育館)へ進出する。



男子決勝・城北対阿南光 先鋒戦の勝利でチーム勢一ツかせた城北の橋本(左)と鳴門ソシヨイ武道館

城北は2年ぶり8度目の優勝に輝き、女子は富岡東9年連続34度目の頂点に立った。男女とも優勝校が全国大会(来年3月26、28日・愛知県春日井市総合体育館)へ進出する。

上位4校が四国新大会3位決定戦 富岡東1・阿南光(来年2月4、5日・藍住町町民体育館)に進む。富岡東4・城北

▽決勝  
富岡東4・城北  
城北1  
阿南光  
吉岡  
玉垣  
中野  
村橋  
永瀬  
村田  
永瀬  
島田

▽女子1回戦  
徳島市3・阿南光  
徳島市4・城北  
徳島市5・阿南光  
徳島市6・阿南光  
徳島市7・阿南光  
徳島市8・阿南光  
徳島市9・阿南光

▽女子2回戦  
徳島市10・阿南光  
徳島市11・阿南光  
徳島市12・阿南光  
徳島市13・阿南光  
徳島市14・阿南光  
徳島市15・阿南光  
徳島市16・阿南光  
徳島市17・阿南光  
徳島市18・阿南光  
徳島市19・阿南光  
徳島市20・阿南光

▽女子3回戦  
徳島市21・阿南光  
徳島市22・阿南光  
徳島市23・阿南光  
徳島市24・阿南光  
徳島市25・阿南光  
徳島市26・阿南光  
徳島市27・阿南光  
徳島市28・阿南光  
徳島市29・阿南光  
徳島市30・阿南光  
徳島市31・阿南光  
徳島市32・阿南光  
徳島市33・阿南光  
徳島市34・阿南光  
徳島市35・阿南光  
徳島市36・阿南光  
徳島市37・阿南光  
徳島市38・阿南光  
徳島市39・阿南光  
徳島市40・阿南光

▽女子4回戦  
徳島市41・阿南光  
徳島市42・阿南光  
徳島市43・阿南光  
徳島市44・阿南光  
徳島市45・阿南光  
徳島市46・阿南光  
徳島市47・阿南光  
徳島市48・阿南光  
徳島市49・阿南光  
徳島市50・阿南光  
徳島市51・阿南光  
徳島市52・阿南光  
徳島市53・阿南光  
徳島市54・阿南光  
徳島市55・阿南光  
徳島市56・阿南光  
徳島市57・阿南光  
徳島市58・阿南光  
徳島市59・阿南光  
徳島市60・阿南光

上田4校が四国新大会3位決定戦 富岡東1・阿南光(来年2月4、5日・藍住町町民体育館)に進む。富岡東4・城北

▽決勝  
富岡東4・城北  
城北1  
阿南光  
吉岡  
玉垣  
中野  
村橋  
永瀬  
村田  
永瀬  
島田

▽女子1回戦  
徳島市3・阿南光  
徳島市4・城北  
徳島市5・阿南光  
徳島市6・阿南光  
徳島市7・阿南光  
徳島市8・阿南光  
徳島市9・阿南光

▽女子2回戦  
徳島市10・阿南光  
徳島市11・阿南光  
徳島市12・阿南光  
徳島市13・阿南光  
徳島市14・阿南光  
徳島市15・阿南光  
徳島市16・阿南光  
徳島市17・阿南光  
徳島市18・阿南光  
徳島市19・阿南光  
徳島市20・阿南光

▽女子3回戦  
徳島市21・阿南光  
徳島市22・阿南光  
徳島市23・阿南光  
徳島市24・阿南光  
徳島市25・阿南光  
徳島市26・阿南光  
徳島市27・阿南光  
徳島市28・阿南光  
徳島市29・阿南光  
徳島市30・阿南光  
徳島市31・阿南光  
徳島市32・阿南光  
徳島市33・阿南光  
徳島市34・阿南光  
徳島市35・阿南光  
徳島市36・阿南光  
徳島市37・阿南光  
徳島市38・阿南光  
徳島市39・阿南光  
徳島市40・阿南光

▽女子4回戦  
徳島市41・阿南光  
徳島市42・阿南光  
徳島市43・阿南光  
徳島市44・阿南光  
徳島市45・阿南光  
徳島市46・阿南光  
徳島市47・阿南光  
徳島市48・阿南光  
徳島市49・阿南光  
徳島市50・阿南光  
徳島市51・阿南光  
徳島市52・阿南光  
徳島市53・阿南光  
徳島市54・阿南光  
徳島市55・阿南光  
徳島市56・阿南光  
徳島市57・阿南光  
徳島市58・阿南光  
徳島市59・阿南光  
徳島市60・阿南光

### 粘り発揮 雪辱果たす 城北

城北女子は夏の県総体では先鋒戦ながら粘り強められた。それでもひる流れを渡さず、引き分け準決勝で敗れた阿南光に「く追い付き、リベンジしたい」と語り、2年ぶり4戦のうち、2戦は開始3秒でトウを決し、試合のつたし振り返った。



女子決勝・富岡東対城北 先鋒戦を制し優勝に貢献した富岡東の村田(右)

試合を決めたのは先鋒を自他に、強気に攻め(せんほう)の橋本、開(ひら)くことができた」と話し、2年ぶりとなる全国選抜大会に、8強以上を屈指する。永瀬は「さけに攻撃力をつけたい」と全国では勝てない。結果は満足せず、冬場の鍛錬を誓った。(木村明)

デジタル版に写真特集  
徳島新聞デジタル版では紙面に未掲載の写真も公開しています。特集からジジはQRコードからアクセスしてください。

# あわー スポーツ

## 剣道

◆清原杯第67回県下大会(10月30日・11月3日・阿南市入来1ツ総合センター)  
【小学校】徳島剣清塾A(河



中学校男子優  
勝の那賀川A



小学校優勝の徳島剣清塾A

田真冬 鹿島大雅 河田真紀 水口新次 藤井陽斗 河田蒼生 ②



中学校女子初優勝の小松島

小松島心葵 徳島少年剣道教室 ③  
【中学校】男子①那賀川A(濱田誠 西岡英士 柏原健人 阿井輝 林巧 大和希輔) ②徳島③城内④徳島文理⑤女子⑥小松島(栗野安香 松浦遥 中野朱貴 橋原空 桑田夢加 岩尾羽) ②  
①那賀川③石井  
【高校】男子①阿南光A(岩原靖人 吉田健心 岡田展 中野廣 大村橋人 島田隆) ②阿西③鳴門④城北⑤女子⑥阿東A(長井薫 福崎 武蔵 小森 田七菜 中村晋 平田大和 森長来) ②阿東B③城北④徳島市  
【一般男子】徳島支部(生田 浩章 廣谷飛鳥 富田原大 生田真大 西田凌介 森康) ②日女化学③鳴門支部④小松島支部⑤女子⑥鳴門教育大 木原賢裕 神崎三華 大西叶恵 佐藤那都 ②阿東支部③青年大会④

2022年(令和4年)11月15日 火曜日

## 剣道

◆阿南中央リタリークラブ杯争奪少年大会(9月23日・阿南市武道館)  
【団体】高年①徳島剣清塾A ②徳島剣清塾B ③阿南少年剣道教室A ④阿南少年剣道教室B ⑤低学年 ⑥徳島剣清塾 ⑦徳島清塾 ⑧徳島清塾 ⑨那賀川剣道教室わかあひ会A ⑩那賀川剣道教室わかあひ会B ⑪個人(生田あゆみ 阿南少年剣道教室) ⑫本庄慈恵(大野小) ⑬中川凌汰(阿南少年剣道教室) ⑭表原一心(阿南少年剣道教室) ⑮1年①水口栞奈(徳島剣清塾) ⑯高野里絆(徳島剣清塾) ⑰岩浅晴(徳島剣清塾) ⑱2年①西潤(那賀川剣道教室わかあひ会) ⑲野村拓未(徳島剣清塾) ⑳尺長涼(新野少年剣道教室) ㉑亀井結之心(徳島剣清塾) ㉒3年①岩浅詩(徳島剣清塾) ㉓上原穂香(徳島剣清塾) ㉔大松谷澤太郎(那賀川剣道教室わかあひ会) ㉕高橋明里(徳島剣清塾) ㉖4年①水口萌香(徳島剣清塾) ②平田琴芽(徳島剣清塾) ③亀井心暖(徳島剣清塾) ④羽坂菜那(那賀川剣道教室わかあひ会) ⑤5年男子①河田蒼生(徳島剣清塾) ②鹿島大雅(徳島剣清塾) ③藤井陽斗(徳島剣清塾) ④水口新次(徳島剣清塾) ⑤6年女子①長紗和子(新野少年剣道教室) ②高瀬智菜(新野少年剣道教室) ③山本京(阿南少年剣道教室) ④山ノ井夏希(阿南少年剣道教室)



高学年3位の阿南少年剣道教室



高学年優勝、準優勝の徳島剣清塾



中学校女子3位の鳴門第一

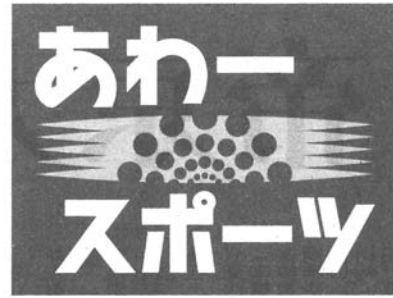
◆第25回西杯争奪近頃遠征少年大会(10月10日・鳴門アミハリユホール)  
◇徳島関係の上位  
▽小学生低学年敢闘賞 徳島剣清塾(中学校女子) 鳴門第一◇ 同敢闘賞 県立川島A



個人の上位入賞者ら







### 剣道・居合道

◆第17回吉野川市民体育祭(11月20日・美郷ふるさとセンター体育館)

【剣道】団体小学生低学年①鴨島少年剣道教室A②鴨島少年剣道教室B③吉野川市少年剣道教室B③吉野川市少年剣道教室上▽高学年①吉野川市少年剣道教室A②鴨島・山川合同チーム③上浦剣道教室

▽個人木刀による基本稽古法①三好智也②三好美紀③木内茂美③秋月佐代▽小学2年以下①山出朋弥②河野颯良③林大洋③稲垣健吾▽3、4年①石井佑弥②木内聡真

③井上双葉③森本時士▽5、6年①片岡遼大②三好琥珀③木内景次③七條進▽中学女子①前田優莉②佐藤優多③坂東輝夢③石井袖衣▽同男子①四宮真一郎②中山遙守③真田一輝③山本匠真▽高校女子①佐藤愛結花②正木七菜③六條美玖③一宮めい▽同男子①前田優真②大塚怜斗③藤井武士③八木優也▽一般①鳴瀧朝希②三好延年③近藤一志③高田迅入

【居合道】小学生①黒川翔太郎②木村起真③宮本昂成▽中学生①大森春奈②大岸娃心▽高校生①大岸美心②長谷川亜寿美③日和田慧果▽五段以下①山田師正②小野和敏③日和田慈海▽六段以上①林由美②徳山豊③森将夫

上位入賞者ら









2023年(令和5年)2月14日 火曜日

剣道

◆第40回徳島県スリット少年団交流大会・第45回全国スリット少年団交流大会予選(12月4日・鳴門ソレイシイ体育館)  
 【団体】小学生①阿南市A 平田尊① 徳島剣道塾 尺長紗和子② 新野少年剣道教室 鹿野太雅② 徳島剣道塾 高橋智葉① 新野少年剣道教室 河田蒼生① 徳島剣道塾  
 ②阿南市B ③阿南市C ④阿南市D  
 【個人】中学生①津佐三小 松島少剣クラブ②林巧(阿南少年剣道教室) 中学生①西村浩(鳴門市光武館)②上村優亜(小松島少剣クラブ)



団体の上位入賞チームのメンバー

◆第5回有賀杯争奪大会(1月23日・那賀川スポーツセンター)  
 【団体】小学1、2年①徳島剣

清塾A(岩佐晴、高野重純、野村拓未)②徳島剣道塾B③阿南少年剣道教室A④佐吉剣道クラブ⑤3、4年①徳島剣道塾A(岩佐詩平、田澤春、水口明彦)②那賀川剣道教室わかあゆ会A③阿南少年剣道教室A④誠武館道場⑤、6年①徳島剣道塾A(鹿野大雅、藤井陽斗、河田蒼生)②白亜練心塾③阿南少年剣道教室A④那賀川剣道教室わかあゆ会A



徳島剣道塾

2023年(令和5年)2月23日 木曜日

剣道の強豪・富岡東高校（阿南市）女子剣道部を、韓国・釜山出身の魏有辛さん（27）が約2週間の剣道留学で訪れた。韓国は世界有数の剣道が盛んな国。自宅で道場を開く父丞完さん（57）と同部監督の長井薫教諭（51）が知り合いだったのが縁で実現した。少女剣士らから高い技術を吸収し、「今後の鍛錬に生かしたい」と意欲を燃やす。

## 父と監督 大学部活で同期の縁

# 魏さん 剣道留学 韓国↓富岡東高



部員と談笑する魏さん（中央）＝阿南市富岡町の富岡東高校

## きょうまでの2週間 今後の鍛錬に意欲

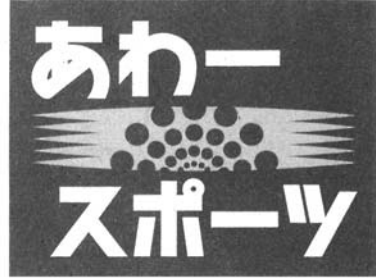
魏さんは自宅に道場がありながらも水泳やテニスなどに打ち込み、25歳まで剣道の経験がなかった。エスティシャンとして働く中、同僚が剣道を始めたのがきっかけで丞完さんらに師事。仕事を終えた午後2時以降に練習に励み、昨年10月に初段を取得した。

丞完さんと長井教諭は国士館大の剣道部で同期。交流を兼ねて魏さんが同部で練習することになり、今月23日までの日程で11日に来県した。1、2年生部員11人と毎日約2時間、素振りや足さばきなどの基本練習、試合形式の「地稽古」に汗を流した。指導に当たった長井教諭は「癖がなく、基本に忠実な剣道ができてい」と評価。1年の中村莉音さん（16）は「一緒に基本練習をしたり、教える側になったりすることで、自分に足りない部分に気付いた」と刺激を受けている。

練習後の食事や、言語を教え合うなどして部員と交流を深めた。「日本に来て良い経験ができた。剣道は色んな国の人と交流ができるスポーツ。これからもずっと交流を続けていきたい」と魏さん。帰国後は自宅の道場に部員を招きたいと考えている。（越智浩子）



2023年(令和5年)2月27日 月曜日



# 剣道



米倉

◆第19回国際親善大会(11月5、6日・京都市武道センター)  
 ◇徳島県関係  
 ▼地区対抗1回戦 近畿A 副将 米倉滋・徳島東武館長 4  
 1 1 関東E ▼2回戦 近畿A 4  
 1 1 関東D ▼準決勝 近畿A 3  
 1 2 東海A ▼決勝 近畿A 2 | 1 関東C

2023年(令和5年)2月27日 月曜日

女子2位トーナメント決勝・那賀川対協和 果敢に攻めて勝利を収めた那賀川の内田(左) 11うだつアリーナ



## 2位トーナメント

### 那賀川女子首位

#### 四国中学新人剣道

剣道の第18回四国中学校新人大会は26日、美馬市のうだつアリーナで4県の新人大会の男女上位4校が参加して団体戦が行われた。徳島県勢では、女子の那賀川が予選リーグ2位校による2位ト

ナメントを制した。1位トーナメントは男子が東予東、女子は久万の愛媛県勢が優勝した。大会は新型コロナウイルスの影響で2年ぶりに開かれた。

◇徳島県関係と1位  
 【男子】予選リーグA組③徳島1勝1分け1敗▼B組④小松島3敗▼C組③徳島文理1勝2敗▼D組③那賀川1勝2敗  
 ▼4位トーナメント1回戦 鏡野(高知)2-1小松島

▼3位トーナメント1回戦 徳島2-1高知、那賀川2-1徳島文理▼決勝 那賀川3-2徳島  
 ▼1位トーナメント決勝 東予東(愛媛)2-1勝賢(香川)  
 【女子】予選リーグA組③小松島2勝1敗▼B組③鳴門1分け2敗▼C組④石井3敗▼D組②那賀川2勝1敗  
 ▼4位トーナメント1回戦 石井4-0高知▼決勝 石井2-1大方(高知)  
 ▼3位トーナメント1回戦 小松島2-1鳴門▼決勝 小松島2-1綾川(香川)  
 ▼2位トーナメント1回戦 那賀川2-1小松島

2023年(令和5年)3月2日 木曜日

【掲載希望をお寄せください】 チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

# 頑張れ スポーツ少年団

## 剣道

- ◆1974年発足 吉野川市
- ◆藤川和秋道場長 選手12人(男子11人、女子1人、こども園1小学5年)
- ◆在籍校 鴨島中央認定こども園、鴨島かもめこども園、川島こども園、鴨島小、知恵島小、西麻植小、柿原小、脇町小
- ◆練習 週3回
- ◆片岡遼大キャプテンのチーム自慢 みんな負けず嫌いで一生懸命練習している
- ◆目標 チーム一体となって団体戦で優勝する
- ◆入部希望などの問い合わせは藤川道場長、電話0990(2786)5975

## 鴨島少年剣道教室



# あわー スポーツ

2023年(令和5年)3月14日 火曜日

## 剣道

◆第10回中国四国地区少年剣道大会  
 12月10-11日・最市水島  
 徳島公園体育館  
 ◎徳島関係の上位  
 △小学3年女子①梶詩(徳島剣道部)②川華音③白亜心悠  
 △小学4年女子①梶詩(徳島剣道部)②原櫻(徳島剣道部)③女子④車井心暖(徳島清志)⑤敢闘賞⑥平田芽(徳島清志)⑦6年男子 敢闘賞⑧徳原瑛騎(佐吉剣道クラブ)⑨岡女子⑩川華音⑪白亜心悠⑫敢闘賞⑬坂口漢⑭白亜心悠⑮中学2年 敢闘賞⑯松浦遥⑰白亜心悠  
 ◆第28回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月12日・とぎん七三アリーナ)  
 ◎団体 小学校低学年①佐吉剣道クラブ②徳島少年剣道教室③高学年④徳島少年剣道教室⑤佐吉剣道クラブ⑥北井上剣道教室⑦武蔵

- 【個人】小学1年生以下①中川照大(徳島少年剣道教室)②藤葉ゆい(徳島少年剣道教室)③園丸拓海(加茂少年剣道教室)④佐藤千冬(兼武館)⑤2年生⑥高橋秀(徳島少年剣道教室)⑦清川美千琉(徳島少年剣道教室)⑧千塚大朗(佐吉剣道クラブ)⑨清水英大(佐吉剣道クラブ)⑩3年生⑪平大翔(佐吉剣道クラブ)⑫黒止祐衣(清東少年剣道教室)⑬越前諒斗(加茂少年剣道教室)⑭佐藤隼太(兼武館)⑮4年生⑯北島暉(徳島少年剣道教室)⑰中川晃志(徳島少年剣道教室)⑱東優子(佐吉剣道クラブ)⑲川野太雅⑳北井上剣道教室㉑5年生⑳榑主部(徳島少年剣道教室)㉒陶久翔(徳島少年剣道教室)㉓園原一真(北井上剣道教室)㉔前田裕吾(徳島少年剣道教室)㉕6年生①徳原瑛騎(佐吉剣道クラブ)②中川旺亮(徳島少年剣道教室)③榑本佳梨(徳島少年剣道教室)④湯川千輝(徳島少年剣道教室)⑤中男子①古健人(兼武館)②天和智哉(兼武館)③中岡亮(徳島少年剣道教室)④富増浩(徳島少年剣道教室)⑤岡友(笑不書(徳島少年剣道教室)⑥吉岡未来(兼武館)⑦高岡琴祿(兼武館)⑧米倉真央(徳島少年剣道教室)  
 ◆第48回徳島県西部地区少年大会(2月19日・阿波中学校)  
 △小学生①右井少年剣道クラブ②徳武館③難住剣道ポト少年団③鴨門市武館▽中学生男子①鴨島一②難住③脇野④脇町⑤女子①奥立島②在③三好④脇町





令和五年度

# 剣道・居合道・杖道昇段審査 学科試験問題・解答例

徳島県剣道連盟の段位審査における学科  
問題について

この解答にあたっては、適語選択については名称等、正確に記憶しておかねばならない事項もあるが、記述式の問題においては、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。

## 【剣 道】

### 剣道段位学科問題について

剣道の学科問題は、日本剣道形についての設問を初段から四段は必修とし、空欄に適切な語句を語群から選択して解答する適語選択形式とした。

問題数については、各段四問より二問を出題することとした。初段から四段については、必修問題として日本剣道形が出題されるので、残りの三問から一問の出題となる。

五段については、全四問中から二問の出題とする。

初段と二段については、従来の記述式だけでなく、適切な語句を語群から選択して解答する適語選択を多く取り入れた。

三段・四段・五段の記述式の問題は、解答例に簡条書き形式を一部取り入れた。

### 初段の部

1 日本剣道形太刀の形の一本目・二本目・三本目について説明した文の（ ）に適語を語群から選び記入なさい。

〔一本目〕

打太刀は諸手(①)、仕太刀は諸手(②)で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、仕太刀の(③)を打つ。

仕太刀は左足から体を少し後ろに自然体でひくと同時に、諸手も後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の(③)を打つ。打太刀が剣先を下段のまま送り足で一步ひくので、仕太刀は、十分な気力で打太刀を押しながら、剣先を(④)の中心につけ、打太刀がさらに一步ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手(①)に振りかぶり残心を示す。

〔二本目〕

打太刀、仕太刀相(⑤)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の(⑥)を打つ。

仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の打ち込んでくるのを抜いて、大きく右足を踏み出すと同時に打太刀の(⑥)を打つ。

〔三本目〕

打太刀、仕太刀相(⑦)で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一步踏み込みながら、鎧ですり込み、諸手で仕太刀の(⑧)を突く。仕太刀は、左足から一步大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打ちの鎧で軽く入れ突きになやすと同時に打太刀の(⑨)へ突き返す。

打太刀はこの時、右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の(⑩)につけて仕太刀の刀を物打ちの鎧で右に押さえる。

《語群》

中 段	下 段	左上段	右上段
水 月	正 面	咽喉部	右小手
顔	胸部		





を打ち、右足をひきながら(7)に振りかぶって残心を示す。

打太刀が剣先を(8)につけ始めるので、同時に仕太刀も左足をひいて剣先を(8)に下ろし、相(8)になる。打太刀は左足から、仕太刀は右足から小足三步で、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

《語群》中段 下段 諸手左上段

脇構え 諸手右上段 八相の構え  
正面 残心 氣勢 右肺  
右足 左足 胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①八相の構え ②脇構え ③氣勢

④正面 ⑤右肺 ⑥残心  
⑦諸手左上段 ⑧中段 ⑨左足  
⑩右足

## 2 「打突の好機」について五つあげなさい。

〔解答〕以下の基本的な項目から答えること。

- ・相手の動作の起り(出ばな)
- ・技の尽きたところ(動作や技が終わったところ)
- ・居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)

- ・退がるところ(引きはな)
- ・受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- ・息を深く吸うところ(息を吸う時は、相手の動作が止まる)

3 「稽古で心がけなければならぬこと」について述べた文の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

- (1) 竹刀の(1)、準備運動、整理運動をはじめとした(2)に留意する。  
(2) 大きな目標や(3)をもって取り組む。  
(3) (4)を重んじる。  
(4) 立会いの「(5)」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な(6)で、精魂を込めて稽古をする。  
(5) (7)に忠実な稽古をする。  
(6) (8)を積極的に使って稽古をする。  
(7) 稽古後は(9)し、(10)・研究をおこたらない。

《語群》研究心 初太刀 点検 気力

工夫 反省 安全面  
しかけていく技 基本 礼儀作法

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①点検 ②安全面 ③研究心

- ④礼儀作法 ⑤初太刀 ⑥気力
- ⑦基本 ⑧しかけていく技
- ⑨反省 ⑩工夫

4 全日本剣道連盟が制定した「剣道修練の心構え」について、( )に適語を語群から選び記入しなさい。

「剣道修練の心構え」

剣道を正しく(1)に学び心身を(2)して旺盛なる(3)を養い剣道の(4)を通じて(5)をとうとび(6)を重んじ(7)を尽くして常に自己の(8)に努め(9)を愛して広く人類の(10)に寄与せんとするものである

《語群》国家社会 昭和五十年三月二十日制定

平和繁栄 気力 信義  
修養 真剣 特性 礼節

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①真剣 ②錬磨 ③気力

- ④特性 ⑤礼節 ⑥信義 ⑦誠
- ⑧修養 ⑨国家社会 ⑩平和繁栄

### 三段の部

1 日本剣道形太刀の形六本目と七本目について説明した文の( )に適語を語群から選び文を完 成させなさい。

〔六本目〕

打太刀は、(①)、仕太刀は(②)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て(②)から打太刀の両拳の中心を攻める氣勢で、(①)に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに応ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と合おうとする瞬間、右足をひいて(③)に振りかぶる。

仕太刀はすかさず(①)のまま大きく右足から(左足もともなって)一歩進む。打太刀は直ちに左足をひいて(①)となり、機を見て仕太刀の(④)を打つ。

仕太刀はその刀を、左足を左にひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右蹠ですり上げ、右足を踏み出し、打太刀の(④)を打つ。

打太刀は剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、(③)に振りかぶり(⑤)を示す。

〔七本目〕

打太刀、仕太刀相(①)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て、一歩軽く踏み込み、刃先をやや仕太刀の

左斜め下に向けて、蹠ですり込みながら、諸手で仕太刀の(⑥)を突く。仕太刀は、打太刀の進む程度に應じて、左足から体をひくと同時に、諸手を伸ばし、刃先を左斜め下に向け、物打ちの蹠で打太刀の刀を支える。

互いに相(①)になり、打太刀は、(⑦)を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の(⑧)に打ち込む。

仕太刀は右足を右前にひらき、左足を踏み出して体をすれ違いながら諸手で、打太刀の(⑨)を打ち、右足を踏み出し左足の右斜め前に軽く右膝をつけて、爪先を立て左膝を立てる。諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり、刃先は右に向ける。その後、刀を返して(⑩)に構えて、(⑤)を示す。

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

諸手左上段 諸手右上段 中段  
下段 脇構え 八相の構え  
右小手 左小手 右胴 左胴 正面  
胸部 咽喉部 残心 右足  
左足

〔解答〕

- ①中段 ②下段 ③諸手左上段  
④右小手 ⑤残心 ⑥胸部  
⑦左足 ⑧正面 ⑨右胴  
⑩脇構え

2 「平常心」について説明しなさい。

〔解答例〕

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たねばならないことを強く求めている。

3 「三殺法」について説明しなさい。

〔解答例〕

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ざること。  
剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。  
技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技を仕かける余裕を与えない。  
気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

4 互格稽古で注意することを書きなさい。

〔解答例〕

- ①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行う。  
②相手と対等の気持ちで行う。

③立ち会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂込めて打突する。

④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。

⑤相手を選び好みしないで、多くの人と稽古する。

**四段の部**

1 日本剣道形 小太刀の形について（ ）に適語を語群から選び回答欄に記入しなさい。

〔二本目〕

打太刀は①、仕太刀は②の構えで、打太刀は左足から、仕太刀は右足から、互いに進み間合いに接したとき、仕太刀が入身になろうとするので、打太刀は右足を踏み出すと同時に、①から、仕太刀の③に打ち下ろす。

仕太刀は右足を斜め前に、左足をその後ろに進めて、体を右にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、左鑷で受け流して打太刀の③を打ち、左足から一歩ひいて上段にとって残心を示す。

〔二本目〕

打太刀は④、仕太刀は②の構えで、互いに右足から進み間合いに接したとき、打太刀は、守る意味で、④から中段になろうと

とする瞬間、仕太刀は、打太刀の刀を制して入身になろうとするので、打太刀は、右足を後ろにひいて⑤にひらくのを、すかさず、仕太刀が、再び中段で入身になって攻めてくるので、打太刀は⑤から変化して①の振りかぶり、右足を踏み出すと同時に仕太刀の③に打ち込む。

仕太刀は左足を左斜め前に、右足をその後ろに進めて、体を左にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、右鑷で受け流して面を打ち、打太刀の⑥を押さえて腕の自由を制すると同時に、右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向け、剣先を⑦につけて残心を示す。

〔三本目〕

打太刀は中段、仕太刀は⑧の構えで、打太刀は立ち会いの間合から、右足、左足と進み、次の右足を踏み出すとき、仕太刀が入身になろうとするのを中段から⑨に振りかぶって、仕太刀の③に打ち下ろす。仕太刀は、その刀をいったんすり上げて打太刀の右斜めにすり落とす。

打太刀は、直ちに左足を踏み出し、仕太刀の⑩を打つ。仕太刀は左足を左斜め前に踏み出し、体を右斜めにひらくと同時に、胴を打ってくる打太刀の刀を、左鑷ですり流し、そのまま左鑷で、打太刀の鑿元にすり込み、小太刀の刃部のはばきで打太刀の鑿元を押さえ、入身になり、打太刀の⑥を押さえ

る。

打太刀がひくので、仕太刀はそのまま攻めて、二三歩進み右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向けて、剣先を⑦につけ、残心を示す。

《語群》 諸手左上段 諸手右上段

中段半身 下段半身 下段

脇構え 八相の構え 二の腕

右小手 右胴 左胴 正面

胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①諸手左上段 ②中段半身 ③正面

④下段 ⑤脇構え ⑥二の腕

⑦咽喉部 ⑧下段半身

⑨諸手右上段 ⑩右胴

2 有効打突について説明しなさい。

〔解答例〕

有効打突は、剣道試合・審判規則に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。

言い換えれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理

合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと刃えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・氣構えである。

### 3 残心の重要性について述べなさい。

〔解答例〕

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと氣構えにならなければならない。もし、打突した後には油断していたならば逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残そうとすると心に心が止まってしまうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと氣構えになる。

### 4 剣道における熱中症の予防と対処方法について述べなさい。

〔解答例〕

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うっ熱によって、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害される。このような状態を総称して熱中症と言う。

〔熱中症の予防〕 熱中症を防ぐためには

① 剣道場の換気、風通しに十分注意すること。  
② 稽古の前にはコップ1〜2杯の水分を摂取すること。

③ 急に暑くなったときには、稽古量を少なめから始め、暑さに慣れるまでは徐々に増やしていくこと。

④ 稽古は長時間続けずに、面をはずして定期的な休息をとること。

⑤ 稽古の間には十分量の水分を補給すること。スポーツドリンクや食塩水（水1リットルに1〜2gの食塩）が望ましい。

〔対処方法〕 熱中症になったら

① ただちに涼しいところに運び、防具を外して袴のひもをゆるめ、頭を低くして寝かせろ。

② 冷たいタオルで全身の汗をぬぐいつつ、首の周囲や太ももの付け根などを、水を包んだタオルなどで冷やす。

③ 水分補給をスポーツドリンクや食塩水で行う。

④ 三十八度以上熱があるとき、けいれんが起ったとき、意識がもうろうとしたり、意識がないときは危険なので、すこしでもおかしいときは、体温を下げる応急処置を行いなから救急車を呼んで病院にて治療を行う。

## 五段の部

1 審判員の心得について「一般的要件」と「留意事項」を述べなさい。

〔解答例〕

一般的要件

① 公正無私であること。

② 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。

③ 剣理に精通していること。

④ 審判技術に熟達していること。

⑤ 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

① 服装を端正にすること。

② 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。

③ 言語が明晰であること。

④ 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。

⑤ よい審判を見て学ぶこと。

2 「指導者としての心構え」について述べなさい。

〔解答例〕

① 確固たる信念と情熱、愛情と誠意をもって指導する。

② 指導を受ける者の人格と個性を尊重しながら

ら指導する。

③ 自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。

④ 指導を受ける者とともに修練に励み、技能の向上に努める。

⑤ 能率的・合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。

⑥ 指導を受ける者の健康や安全に留意する。

### 3 「互格稽古」について説明し、「指導上の留意点」を述べなさい。

#### 〔解答例〕

技能や気力の同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。

① 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行わせる。

② 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。

③ 立会いの「初太刀」を大事にし、一本一本に精魂込めて打突させる。

④ 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫させる。

⑤ 相手をより好みしないで、多くの人と稽古

をさせる。

### 4 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

#### 〔解答例〕

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

① 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。

② 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。

③ 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した気勢、気迫をもって合気で行う。

④ 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。

⑤ 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

⑥ 打太刀は一足一刀の間合いから打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。

⑦ 振りかぶりは、剣先が両こぶしより下がらないようにし、一拍子で打つ。

⑧ 足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。

⑨ 残心は十分な気位をもって行う。





## 【居合道】

### 初段の部

1 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道の理念」を記せ

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。

2 「居合道と礼」について記せ

礼は、対人関係や社会の秩序を円滑に維持し、平和で充実した社会生活を送るために必要なことであるが、世代を超えて学び合い、生涯にわたる人間形成の道である居合道においても同じことがいえる。居合道は道場での稽古を始め、講習会や大会など様々な場互いに学び、修練を積み重ねることによって自己の錬磨と修養につなげることができるのであり、ともに居合道を学んでいる人々に対しては常に敬意と感謝の念を持ち、礼儀正しく接していくことが大切である。

3 「柄の持ち方」について記せ

右手は鐙元近くを持ち、左手は「巻き止め」に小指がかからぬように「柄頭」を余して持つ。

両腕とも上筋より下筋を強くし、小指と薬指を締めて他の指をゆるめ、ちょうど鶏卵を握るように柄に手のひらが全部さわるように柔らかく持つ。

4 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道修練の心構え」について穴埋め式による問題を10項目出題する。

### 二段の部

1 「居合道の目付け」について記せ

実際には見えない敵を相手とする居合道において「目付け」はとても大切である。居合道における「仮想敵」は常に動いているため、敵の位置や動きを意識して演武する必要がある。居合道の「仮想敵」は自分と同じくらしい背丈とし、仮想敵の顔の中心を見るようにするが、一点を注視するのではなく、敵の全体を見るようにする。また、敵を倒した後の目付けは倒れた敵を見越したところとし、気は四方にくばる。

2 「居合道の呼吸」について記せ

各技に移るときは原則として三呼吸目を吸い込んだときに動作を始める。各技を一呼吸で終えることが望ましいが、息継ぎする場合

は敵に悟られないように行う。

3 「演武の心得」について記せ

演武はすべて充実した氣勢、正確な刀法、適法な姿勢、「気・剣・体の一致」を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で「行ずる」心がけが大切である。

4 「一本目・前」、「二本目・後ろ」、「三本目・受け流し」の「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

### 三段の部

1 「残心」について記せ

敵を倒した後も油断せず、どんな反撃にも直ちに対応できるような身構えと気構えのことである。居合道においては倒した敵に心を残すことではなく、四方いづれの方向からの新たな攻撃にも対処できる気を配ることが最も重要であり、新たな敵に対する気構え、体構えのことである。

2 「気剣体の一致」について記せ

「気」とは氣勢、「剣」とは刀の操作、「体」

とは体さばきと体勢のことで、これらがタイミングよく調和がとれ、一体となって働くことにより、効果的な斬突が可能となる。

### 3 「中段の構え」及び「諸手左上段の構え」について記せ

「中段の構え」は右足を前に左こぶしをへそ前より約一握り前にして両手で刀を持ち、剣先の延長が敵の両眼の方向に向くように刀を保持した構え。

「諸手左上段の構え」は両手で刀を頭上上げた構えで、中段の構えから左足を前に出し、左こぶしを左額の前上一握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

### 4 「四本目・柄当て」、「五本目・袈裟切り」、「六本目・諸手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

## 四段の部

### 1 「試合における勝敗の決定」について記せ

正しい礼法・作法による充実した氣勢と適正な姿勢をもって、正確な技術と刀法に基づいた気・剣・体一致の技前と心構えの優劣に

よって勝敗の判定を決定する。勝敗の判定基準は次のとおり

①修行の深さ、②礼儀、③正確な抜きつけと切りつけ、④正確な鞘離れと刃筋、⑤正確な血振りと角度、⑥正確な納刀、⑦心の落着き、⑧目付け、⑨気迫・残心・間と間合い、⑩気・剣・体の一致、⑪武道として合理的な居合であることとし、「全日本剣道連盟居合（解説）」の審判・審査上の着眼点を参考とする。

### 2 「守破離」について記せ

剣道や居合道における修行上の段階を示す教えで、「守」は指導者の教えに忠実に従って学び、それを確実に身につける段階。「破」は「守」の段階で学んだことについて工夫を凝らし、技術を高める段階、「離」は「守」・「破」といったことを超越して、技術をさらに深め、新しい境地を開いて確立していく段階のことである。

### 3 「八相の構え」及び「脇構え」について記せ

「八相の構え」は「諸手左上段の構え」から、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、刀をとる位置は鰐を口の高さにし、口からほぼ拳ひとつ離す。左拳の位置はほぼ正中線とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度と

し刃先は敵に向ける。

「脇構え」は右足を後ろにし、左半身となり、刀を右脇に剣先を後ろにし、刃先は右斜め下に向ける。剣先は下段の構え（膝頭より約3〜6センチメートル下）より少し下げた位置にとり、刀身が相手から見えないように構える。

### 4 「七本目・三方切り」、「八本目・顔面当て」、「九本目・添え手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

## 五段の部

### 1 全日本剣道連盟が平成19年3月14日に制定した「剣道指導の心構え」をもとに「居合道指導の心構え」について記せ

居合道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく刀の扱い方の指導に努める。相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。ともに居合道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

## 2 「自信と慢心」について記せ

〔解答例〕

修練を重ね居合が上達してくると、おのずと自信がついてくる。自信をもつことにより平常心を保つことができ、いかなる場合にも確かな技前を発揮することができる。また、そこには気位も備わってくるものである。

しかし、行き過ぎた自信は慢心となり、修行の妨げとなる。このため、居合道の修行においては常に謙虚な気持ちで向上心を持ち続け、反省と工夫を怠らないことが肝要である。

## 3 居合道段位審査における五段以下の実技審査について「全日本剣道連盟居合（解説）」の「審判・審査上の着眼点」のうち、「特に留意すべき項目」について記せ

初段から三段までの特に留意すべき項目は  
①正しい着装と作法、②正確な抜け、切付け、③正確な血振り・角度、④正確な納刀の4項目であり、四段及び五段では三段までの4項目に①心の落ち着き、②目付け、③気迫、④気・剣・体の一致の4項目を加えた8項目である。

## 4 「十本目・四方切り」「十一本目・総切り」

「十二本目・抜き打ち」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。



## 【杖道】

### 初段の部

#### 1 流租、流名について記せ。

流租は、夢想権之助勝吉、流名は、神道夢想流杖術である。

権之助は、寛永の頃の人と言われ、筑前の国（今の福岡県）宝満山に祈願参籠し、御神託を授かり、独自の杖術を創始されたのである。以来、今日まで永々として伝えられている。

#### 2 形一本目「着杖」について解説せよ。

正面から切り下ろす太刀を、体を右斜め後ろにかわして左小手を打ち、さらに、退きながら上段に構えるその左小手を本手打する形である。

#### (打)

- 1 八相に構えてから間合に進み、右足を踏み出して正面を水平まで切り下す。
  - 2 右足から退きながら左上段に構える。
  - 3 右足から退きながら太刀を右脇下におろす。
  - 4 左足を右足の後ろに退き、構えを解く。
- (仕)
- 1 常の構えから右手を正面に伸ばし、すべ

らせて、杖尾を床につけて立て、杖先を握る。

2 右足から右斜め後ろに大きく退きながら体をかまし、右手を持ち替え腰にとり、左手で杖を握る。杖先を右に半円を描くように回すと同時に、左足から踏み出して左本手で左小手を打つ。

3 を両手いっぱいにとり、右足を踏み出し、左小手を本手打する。

4 杖先を顔面につけて残心を示す。

5 左手を後ろに引き、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につける。

6 右手を上から持ち替え、杖を右手の内側にすべらせながら左足を右足に揃え、常の構えとなる。

#### 3 杖道を学ぶ目的とその効果について記せ。

杖道は精神の修養と身体の鍛錬を第一義とする。決して手足の技ではなく心の技で、その目的は精神修養にある。

杖道修練の効果は数多いが、主として次の5点をあげることができる。

- 1 礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われる。
- 2 身体を強健にし、活動を敏活にする。
- 3 姿勢態度がよくなる。
- 4 判断力、決断力が養われ、自信をもって

事に当たれるようになる。  
5 対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

### 二段の部

#### 1 基本技の修得について記せ。

基本は、杖の操法の基礎となるものであって、これを修得することによって杖道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

1 正しい姿勢と気位を高める。

2 間合がわかり、打突が確実となる。

3 動作が正確、機敏、活発となる。

4 個癖がなくなり、打筋が正しくなる。

5 目付け、眼が明らかとなり、気合が充実してくる。

#### 2 形二本目「水月」について解説せよ。

太刀で正面を切りかかるところを、右斜め前に体をかわして水月を突き、さらに引落打する形である。

#### (打)

- 1 八相に構えて間合に進み、振りかぶりながら右足を踏み込み正面を切る。
- 2 右足から大きく退きながら八相に構える。
- 3 右足から踏み込み切り付けるように中段に構える。

4 太刀を右後方に打ち落とされると同時に右足から退く。

5 左足を右足に引きつけ、構えを解く。(仕)

1 常の構えから右足を右斜め前に踏み出し、左足をわずかに移動させて体をかわしながら左手は腰にとり、右手は杖の中央を握ったままで水月を突く。

2 右足から後ろに退くと同時に杖を右後ろに引き、左手を杖先にかけて、右手を持ち替え引落に構える。

3 太刀を引落打すると同時に、右足から踏み出し「打」の顔面を攻める。

4 残心を示す。

5 左手を後ろに引き、右手を肩の高さにし、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につけ、右手を上から持ち替え、杖を右手の内に押し込みながら左足を右足に引きつけ、常の構えとなる。

### 3 杖道の稽古のあり方について述べよ。

稽古とは、古を稽えることであって、師の教えを忠実に守って、これを繰り返し繰返し修行し、正しい技を修得し体得することである。

稽古を行うためには、上達をする最も大切な条件がある。

「汗の出る分量だけ強くなる」といわれる

が、時間の許す限り、精進の続く限り稽古することによって、技術が向上する。そして始めて杖道の目的である心身の練磨と人間性、次第に養成されていくのであり、自分のためにも、社会貢献のためにも、充分肝に銘じて稽古に励まねばならない。

## 三段の部

### 1 杖の構え方について記せ。

構え方は、体勢を正しく相手を威圧する如く正々堂々の構えでなくてはならない。杖道における構え方は非常に多いが、その主なるものは、次の4つにわけられる。

#### 1 「常の構え」

自然体のまま右手で杖の中央を握り、右体側に軽くつけ、杖先をほぼ「へそ」の高さにし、両足を揃えて立つ。

#### 2 「本手の構え」

##### ① 右本手の構え

常の構えから、右手、右足を前に出し、左手で杖尾を握り、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

##### ② 左本手の構え

右本手の構えの左右逆となる。

#### 3 「逆手の構え」

##### ① 右逆手の構え

常の構えから、杖先を左手で逆に握り、右足を1歩踏み出すと同時に、右手は持ち替えることなく、杖尾を右後ろ上から回して前に出しつつ、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

##### ② 左逆手の構え

いったん右逆手に構えてから、左手を引いて杖を両手いっぱいにとり、左足を出すと同時に杖を左後ろ上から回して前に出しつつ、左手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さとし、「やや半身」となって構える。

#### 4 「引落の構え」(右左)

##### ① 右引落の構え

常の構えから、左足を前に出すと同時に杖先に左手をかけ、左手親指の付け根を左乳部に軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし「真半身」となり、右手を順に持ち替え、杖を下から握る。

##### ② 左引落の構え

右本手の構えから、左親指をはずし、左手掌を返しながら杖を後ろ下に引落とし、右手を持ち替えて右乳部に右手親指の付け根を軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし真半身に構える。



2 形五本目「左貫」の理合いについて記せ。

太刀で水月を突いてくるのを、体を退きながら杖で受け流し、突外打の要領で、太刀を打ち、さらに引落打する形である。

3 杖道修練の心構えについて述べよ。

杖道は、精神の修養と心体鍛錬を目的とし、精神を根本とする心の技である。

1 杖道は、一生が修行である。一時的に猛練習しても途中で中止するようでは効果がない。杖道を正しく真剣に学ばなければならない。

2 心身を錬磨して旺盛なる気力を養うことが大切である。

3 杖道の特性を通じて礼節をとるとび信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努めること。

4 師の教えを守り、自ら稽古に励み、更に向上の道を求めなければならない。

5 国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与することである。

四段の部

1 太刀の構え方について記せ。

基本的なものとしては、次のような構えがある。

1 「中段の構え」

右足を前に、左拳はへそ前より約ひと握り前にして、左手親指の付け根の関節をへその高さにする。剣先の延長は、両眼の中央または左目とする。

(一足一刀の間合を前提とする)

2 「諸手左上段の構え」

中段の構えから左足を前に出し、左拳を左額の前方約ひと握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

3 「諸手右上段の構え」

中段の構えから左拳を額の前上約ひと握りのところとし、剣先は45度上方に向け、正中線上とする。

4 「下段の構え」

中段の構えから、そのまま剣先を相手の膝頭より約3〜6センチ下とする。

5 「八相の構え」

中段の構えから左足を出し、太刀を大きく諸手左上段に振りかぶる気持ちで構え、刃先は相手に向ける。

諸手左上段の構えから、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、太刀をと

る位置は鐙を口の高さにし、口から約ひと握り離す。

左拳の位置はほぼ正中線上とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度とする。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

6 「脇構え」

中段から右足を後ろに退きながら、太刀を右拳がおおむね口の高さを通るくらいに大きく右脇にとり、左半身となる。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

剣先は後ろに、刃先は右斜め下に向け、特に刀身が相手から見えないようにする。

左拳は、「へそ」の右斜め下約ひと握りのところにおく。この時、左手首は曲げない。

剣先は下段の構えより少し下げた位置にとる。

2 形八本目「太刀落」の理合いについて記せ。

中段に構えている「打」に対して、体かわして頭部を打ち、ついで繰り付け、後退するところを返し突きし、さらに引落打する形である。

### 3 杖道上達の要点について述べよ。

武道の向上は、一にも二にも数多く練習をすることである。いかに理論だけかわしても、身体の運用が伴わなければ、上達するものではない。武道は、人が十回すれば、自分は百回するという信念のもとに、積極的に稽古に取り組まなければ上達しない。あわせて、良き指導者を師とし、基本を十分に練習し、しっかりした土台をつくり、理論と一つ一つの基本技がともなってはじめて進歩がはやるものである。師や先輩の教えを守り、自ら鋭意の研究と工夫をもって、継続した稽古をすることが上達の秘訣と言えよう。

ことである。

### 2 形十本「正眼」の理合いについて記せ。

「打」が柄に手をかけたところ、機先を制して水月を打ち、退くところの脾腹を突き、さらに水月を打つ形である。

### 3 指導者としての心構えについて述べよ。

指導者は、人の手本と言われるよう平素より自覚を持って努力精進しなければならない。指導者として重要な点を具体的に述べてみよう。

1 指導者は、自身の修行と人間性の向上をはかり、尊敬される人間にならなければならない。

2 権威と自信を持って忍耐強く、公平に和の精神をもって合理的な指導を行う。

3 実態を把握し、興味をもたせるには如何に導くかを念頭におき、魅力ある指導法を研究する。自主性を育て楽しく稽古ができる指導法を研究する。

4 基本訓練をおろそかにせず、技術の向上にしたがって、術理面も指導し、上達の喜びを味あわせるようにする。

5 常に道場の整備、武具の点検、健康管理等の危険防止に留意し、稽古内容にも安全を第一とし、事故のないよう心がける。

## 五段の部

### 1 掌中の働き(手の内)とその効果について記せ。

杖道には、打突と構えの杖の持ち方と力の入れ方が重要である。何れも、もっとも合理的状態において打突技の効果が最高度に発揮されるのである。即ち、両手の持ち方、力の入れ具合、打突時の両手の力関係が充分把握され、体の運用が自然である場合はじめて、打突の冴えがあらわれるのである。特に注意しなければならないことは、手先だけの打突ではなく、全身の力関係を集中して打突する

# 令和5年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	主催	
4	8	土	第1回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	9	日	令和5年度 総会	13:30~ アミノビュー 視聴覚室	〃
	16	日	少年剣道指導者講習会	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	22	土	第78回国体予選	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
	23	日	第48回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
29	祝・土	第1回審査会(剣道 初段以下)	9:00~ ソイジョイ武道館他	〃	
5	6	土	第52回中学校剣道選手権大会	9:00~ ソイジョイ武道館	中体連
	7	日	中央伝達講習会	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	14	日	居合道春季講習会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館	〃
	20	土	第2回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	21	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
6	2	金	第63回徳島県高等学校総合体育大会	9:00~ ソイジョイ武道館	高体連
	3	土	〃	藍住町民体育館	〃
	10	土	第3回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	16~18	金~日	令和5年度四国高等学校選手権大会	9:00~ 藍住町民体育館	高体連
	25	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	9:00~ ソイジョイ武道館他	県剣連
7	15~16	土~日	第77回徳島県中学校総合体育大会	9:00~ ソイジョイ武道館	中体連
	22	土	第4回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	21~23	金~日	剣道連盟土用稽古	19:00~ 中央武道館	〃
	23	日	第71回全日本剣道選手権大会県予選会 第62回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
	28	金	令和5年度 徳島県防犯少年大会	9:00~ ソイジョイ武道館	県警察本部
30	日	第2回徳島県少年剣道選手権大会	9:00~ ソイジョイ武道館	〃	
8	6	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	19	土	第4回少年強化訓練	9:00~ 中央武道館	県剣連
	9	土	第5回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
9	10	日	居合道伝達講習会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館	〃
	17	日	第50回徳島県社会人剣道大会	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
	23	祝土	第28回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00~ 松茂町第二体育館	県高齢者友会
	24	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	9:00~ ソイジョイ武道館他	県剣連
10	14	土	第6回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	15	日	剣道秋季講習会	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	20	金	南部交流稽古会	19:00~	〃
	21~22	土~日	第2回骨太ブロック講習会	9:00~ ソイジョイ武道館	全日本剣道連盟
	28~29	土~日	杖道秋季講習会	9:00~ 松茂町第二体育館	県剣連
11	28	土	第20回徳島県中学校剣道1年生大会	9:00~ ソイジョイ武道館	中体連
	5	日	第53回徳島県少年剣道錬成大会	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	10	金	西部交流稽古会	19:00~	〃
	11	土	第7回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	12	日	第57回高等学校剣道選手権大会	9:00~ ソイジョイ武道館	高体連
			居合道秋季講習会・段級審査会	9:00~ 松茂町第二体育館	県剣連
	18	土	第48回中学校新人剣道大会	9:00~ ソイジョイ武道館	中体連
23	祝・木	眉山杯大学剣道大会	9:00~ 徳島文理大学	大学連	
25	土	第68回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:00~ ソイジョイ武道館	高体連	
26	日	第3回剣道 審査会(二段以上)	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連	
12	2	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00~ 脇町うだつアリーナ	全剣連後援
	3	日	第46回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館	県スポーツ協会
	9	土	第8回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	16~17	土~日	令和5年度眉山ライオンズクラブ少年剣道大会	9:00~ 徳島市立体育館	眉山ライオンズクラブ
	24	日	第72回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会(次鋒) 第16回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会(次鋒)	9:30~ ソイジョイ武道館	県剣連
1	6	土	新年役員会、互礼会	13:30~ 未定	県剣連
	7	日	令和6年 稽古始め	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
	13	土	第9回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	14	日	第72回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第16回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館	〃
	20	土	常任理事会	13:00~ アミノビュー 視聴覚室	〃
	19~21	金~日	剣道寒稽古	19:00~ 中央武道館	〃
	20	土	第34回県中学校剣道強化錬成大会	9:00~ ソイジョイ武道館	中体連
	21	日	長期育成強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
	28	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	9:00~ ソイジョイ武道館他	〃
	3	土	第11回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	県剣連
2	4	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30~ 中央武道館	〃
	11	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号)	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	18	日	県下居合道大会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館	〃
	24~25	土~日	第19回四国中学校新人剣道大会	9:00~ 脇町うだつアリーナ	四国中体連
3	3	日	第43回女子剣道大会	9:30~ 中央武道館	県剣連
	9	土	第12回少年強化訓練	9:00~ ソイジョイ武道館	〃
	10	日	令和5年度 理事会	13:30~ アミノビュー 視聴覚室	〃
	24	日	令和6年度審査員・審判員講習会	9:30~ ソイジョイ武道館	〃

# 令和5年度 全剣連(主催・共催・後援)行事予定

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
5	3	水・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
7	21	金	六・七段審査会	栃木県	〃
11	15	水	称号(教士・錬士)	八王子市	〃
12	9	土	八段審査会	江戸川区	〃
	10	日	六・七段審査会	江戸川区	〃
3	3	日	六・七段審査会	京都市	〃
《全剣連 杖道審査会》					
5	3	水・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
8	6	日	段級審査会	愛媛県	愛媛剣連
	18	金	六・七段審査会	兵庫県	全剣連
11	15	水	称号(教士・錬士)	八王子市	〃
3	8	金	六・七・八段審査会	江戸川区	〃
《全剣連 剣道審査会》					
4	29	土・祝	六段審査会	京都市	全剣連
	30	日	七段審査会	〃	〃
5	1~2	月~火	八段審査会	〃	〃
	6	土	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	13	土	七段審査会	名古屋市	〃
8	14	日	六段審査会	〃	〃
	5	土	七段審査会	新潟県	〃
	6	日	六段審査会	〃	〃
	12~13	土~日	八段審査会	名古屋市	〃
26	土	七段審査会	福岡県	〃	
27	日	六段審査会	〃	〃	
11	11	土	七段審査会	名古屋市	〃
	12	日	六段審査会	〃	〃
	15	水	称号審査(教士・錬士)	八王子市	〃
	16	木	七段審査会	〃	〃
	21~22	火~水	八段審査会	千代田区	〃
2	3	土	七段審査会	福岡市	〃
	4	日	六段審査会	〃	〃
	17	土	七段審査会	長野市	〃
	18	日	六段審査会	〃	〃
《県外行事》					
4	1~2	土~日	第58回中央講習会(剣道)	神戸市	全剣連
	16	日	第21回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	〃
	22	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島市	後援 全剣連
	29	土・祝	第71回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2~5	火~金	全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	14	日	第75回四国四県剣道大会	高知県立武道館	四国剣連
6	5	月	第45回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	9~11	金~日	第61回 中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	11	日	第62回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
24	土	中四国合同稽古会(愛媛県)	松山市	後援 全剣連	
7	1	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山市	後援 全剣連
	1~2	土~日	中央・地区講習会(居合道)	高知県	全剣連
	2	日	剣道講師要員(指導法)ブロック研修会	高松市	〃
	9	日	第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	日本武道館	〃
	22~23	土~日	中央・地区講習会(居合道)	栃木県	〃
22~23	土~日	令和5年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	千代田区	全剣連共催	
8	1~3	火~木	第61回四国中学校総合体育大会	愛媛県立武道館	四国中体連
	3~6	木~日	第70回全国高等学校剣道大会(総合体育大会)	帯広市	全剣連共催
	10	木	第65回全国教職員剣道大会	松江市	〃
	18~20	金~日	第53回全国中学剣道大会(総合体育大会)	愛媛県	〃
19~20	土~日	中央・地区講習会(杖道)	兵庫県	全剣連	
27	日	国民体育大会第44回四国ブロック大会	愛媛県	主管 愛媛県	
			四国教職員剣道大会	愛媛県	四国学剣連
9	2	土	中四国合同稽古会(香川県)	高松市	後援 全剣連
	3	日	第62回全日本女子剣道選手権大会	奈良県	全剣連
	9	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島市	後援 全剣連
	9~10	土~日	剣道講師要員(試合・審判)ブロック研修会	伊予市	全剣連
	17	日	第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連
24	日	第69回全日本東西対抗剣道大会	沖縄県	全剣連	
10	8~10	日~火	国民体育大会剣道大会	鹿児島県	主管 全剣連
	15	日	第50回全日本杖道大会	横浜市	全剣連
	21	土	第58回全日本居合道大会	東京都	〃
28~30	土~月	第35回全国健康福祉祭剣道交流大会	松山市	全剣連後援	
11	3	金祝	第71回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	11~12	土~日	第71回全国青年剣道大会	足立区	全剣連共催
12	2	土	中四国合同稽古会(徳島県)	脇町うだつアリーナ	後援 全剣連
2	3	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山市	後援 全剣連
	3~4	土~日	令和5年度四国高等学校剣道新人大会	西条市	四国高体連
3	9~10	土~日	中央・地区講習会(杖道)	江戸川区	全剣連
	9	土	中四国稽古会(高知県)	高知市	後援 全剣連
	26~28	火~木	第33回全国高等学校剣道選抜大会	愛知県春日井市	全剣連共催
29~31	金~日	第46回全国スポーツ少年団剣道交流大会	前橋市	全剣連共催	

# 令和5年度 審査会実施計画表

## 【 剣道 】

### \* 初段以下

審査日	4月29日(祝・土)	6月25日(日)	9月24日(日)	1月28日(日)	初段以下審査会の申込先	
申込期日	4月15日(土)	6月11日(日)	9月10日(日)	1月14日(日)		
審査会場	中部	ソイゾイ武道館 (鳴門支部担当)	ソイゾイ武道館 (徳島支部担当)	ソイゾイ武道館 (板野東支部担当)	ソイゾイ武道館 (鳴門支部担当)	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106 徳島県剣道連盟 生田 浩章 宛 TEL 088-652-2337
	西部	土成農業者 トレーニングセンター	美郷ふるさと センター体育館	三野体育館	穴吹 スポーツセンター	〒778-5251 三好市池田町白地本名987-1 山田 泰弘 宛 TEL 090-4976-1344
	南部	阿南市武道館	小松島市立 武道館	美波町日和佐 総合体育館	相生体育館	〒775-0203 海部郡海陽町大里字松原35の4 丸岡 偉人 宛 TEL 0884-73-3175

### \* 二段以上

審査日	5月21日(日)	8月6日(日)	11月26日(日)	2月11日(日)	二段以上審査会の申込先
申込期日	5月7日(日)	7月23日(日)	11月12日(日)	1月28日(日)	
審査種目	二～五段	二～五段・称号	二～五段	二～五段・称号	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106
審査会場	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	徳島県剣道連盟 木下 裕康 宛 TEL 088-652-2337
◇ 四・五段講習会		2月4日(日)	9:30～15:00	中央武道館	・携行品 … 剣道具・木刀・筆記用具

- ※注意
- ① 四・五段受審予定者は、「四・五段講習会」または伝達講習会(5月)、剣道秋季講習会(10月)のいずれかを受講すること。受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。
  - ② 全剣連の称号受審者は、伝達講習会(5月)または、剣道秋季講習会(10月)を受講のうえ1年以内に上記称号推薦選考会を受けること。

### \* 審査会日程

審査受付	8:45～9:30
剣道連盟稽古会	8:30～9:25
受審者 稽古	9:25～9:45
開会式	9:50～

- ※ 初段以下審査 学科審査(初段)、木刀による剣道基本技稽古法(3級～1級)同時開始。  
木刀による剣道基本技稽古法 3級…4本まで 2級…6本まで 1級…9本まで  
上記終了後、5級より実技審査を開始する。
- ※ 段審査 学科審査、実技審査、剣道形審査の順で行う。
- ※ 日本剣道形審査 初段…1本目～3本目 二段…1本目～5本目 三段…1本目～7本目  
四段・五段…1本目～7本目、小太刀3本

## 【 居合道 】

審査日	5月14日(日)	9月10日(日)	11月12日(日)	2月18日(日)
申込期日	4月30日(日)	8月27日(日)	10月29日(日)	2月4日(日)
審査種目	級・段	級・段・称号	級・段	級・段・称号
講習会 他	春季講習会	伝達講習会	秋季講習会	居合道県下大会
審査会場	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館
申 込 先				
〒772-0014 鳴門市撫養町弁財天宇派名34-31 居合道部会事務局 満壽 良史 宛 TEL 090-9778-2350				

## 【 杖道 】

審査日	8月6日(日)
申込期日	杖道部会事務局の指定日
審査種目	級～五段以下
審査会場	愛媛県
申 込 先	
〒770-8070 徳島市八万町馬場山43-2 杖道部会事務局 米倉 武志 宛 TEL 088-668-6650	

## 【 審査申込み時の注意 】

- ① 審査申込書の全ての項目を正確に記入すること。(この申込書は全剣連への登録に必要となります)
- ② 審査申込書の「申込責任者」欄は次に記載する責任者の署名・捺印とする。
  - ・ 小・中学生・高校生は、所属する道場・教室・クラブ又は、学校の部活動の責任者。
  - ・ 県内大学剣道部に所属する大学生は、所属する大学剣道部の責任者。県外大学の剣道部に所属する大学生は、出身地域の支部長。
  - ・ 徳島県剣道連盟支部会員は、所属支部の支部長。
- ③ 現級・段位を徳島県以外で取得した場合、申込時に段位証明書又は証書のコピーを添付すること。(申込書に取得した都道府県名を記入すること)
- ④ 審査申込期日は上記一覧表のとおりとし 各申込先へ審査料を添えて申し込むこと。(別紙「審査料・登録料一覧表」参照)
- ⑤ 徳島県剣道連盟の審査会を初めて受審する場合、審査料と合わせて初回手数料(1,000円)を納入すること。
- ⑥ 申込締め切り後においては、審査会欠席時の審査料の返金は行わないものとする。
- ⑦ 申込書を郵送または、事務局郵便受けに直接投函した場合は、申込書が届いているか必ず確認すること。

## 徳島県剣道連盟 審査資格

令和5年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	3級受有者で小学5年生以上を受審資格とする。
1 級	2級受有者で小学6年生以上を受審資格とする。 大学生、一般（大学生相当年齢以上）は1級より受審できる。 居合道・杖道受審者の大学生・一般（大学生相当年齢以上）は、1級を認定とする。
初 段	1級受有者で、13歳以上（審査日基準）を受審資格とする。
二 段	初段受有後、1年以上修業した者。
三 段	二段受有後、2年以上修業した者。
四 段	三段受有後、3年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段受有後、4年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六 段	五段受有後、5年以上修業した者。
七 段	六段受有後、6年以上修業した者。
八 段	七段受有後、10年以上修業し、かつ、満46歳以上である者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

## 審査料・登録料（消費税含）一覧表

令和5年4月1日現在

〈単位＝円〉

	初回手数料	審 査 料 (消費税10%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税10%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	〃	1,500	—	3,500
1 級	〃	2,000	—	3,500
初 段	〃	3,000	3,000	6,950
二 段	〃	4,000	4,000	9,120
三 段	〃	5,000	5,000	12,390
四 段	〃	6,000	6,000	17,820
五 段	〃	8,000	8,000	23,280
六 段	〃	11,000	—	46,000
七 段	〃	15,400	—	57,000
八 段	〃	19,800	—	79,000
錬 士	〃	18,700	—	46,000
教 士	〃	27,500	—	79,000
範 士	〃	—	—	167,000





## 編集後記

今回、従来の『徳島の剣道』から大きくバージョンアップしました。一つは、かねてよりの懸案であった『徳島の剣道史』について、これまでの構想であった一冊の完成版として発刊するのではなく、それぞれの項目で提出された原稿をその年の『徳島の剣道』発刊時期に合わせて、『徳島の剣道』別冊として『徳島の剣道史』を発刊することとした点です。このことで、今後、別冊『徳島の剣道史』がおそらく十数冊継続発行されることになるものと思われまます。

二つ目は居合道・杖道の原稿がこれまで剣道に混じって配置されていたものをそれぞれ一つのセクションを設定し、まとめて掲載したことです。これらのことにより、居合道・杖道にスポットがあたり、誌面がより引き締まった感があります。

また、私事ですが、この春以降は編集作業に専念できる生活環境となりました。次号はもっと早く発刊できる工夫を取り入れて参ります。今後ともよろしくお願ひします。

(木原)

## 『徳島の剣道』第三十九号

### 編集委員会

木原資裕	藤川和秋	三木毅	西谷肇一	米倉滋	福多雅英	白木洋一	平野誠司	玉田晋作	中村総裕	木下裕康	別宮憲治	谷口順二	網師本誠司
------	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

## 『徳島の剣道』第39号

令和5年7月20日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 藤川和秋

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6  
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

